



医療法人社団 清和会

笠岡第一病院年度報

笠岡第一病院

健康管理センター

タカヤ
クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑



2018年度

「戦争のなかった平成の時代に感謝」

理事長
宮島 厚介

平成最後の年度末になりました。平成の時代は幸い、明治・大正・昭和の多くの国民を犠牲にした痛ましい戦争に巻き込まれることはありませんでしたが、未曾有の災害と、安全は神話に過ぎないことを思い知らされる大事故がありました。天災はいずれまた私たちに降りかかります。平和な時代が続くことを願い新たな元年を迎えましょう。そして被災されました方々のためにも減災計画を進めましょう。

橋詰院長が就任してから企画された笠岡第一病院年度報も2005年度を初版に、今回で14冊目となり、皆様のお手元に届きます頃には、新たな元号になっています。小さな病院がこれまで毎年続けて発刊できたことは、皆様のご支援とご協力のたまものと心より感謝いたしております。例年、院長から年度報の原稿締め切りは新年度があげた4月第1週末までと指示があります。素晴らしいことに期日までには担当者からすべての原稿が集まります。その後、約1ヵ月半の5月中旬までには印刷を終え発刊しています。多分、日本の中では一番早い病院年度報の発刊ではないでしょうか。原稿の提出期限を厳守し、編集、詳細に校正を繰り返し短期間に発刊へと準備しています職員の努力に敬服です。1年の総括は、次の年度の方角性を導いています。ご笑読いただきますことに感謝いたします。

2018年度は増改築、システムの大きな更新もなく久しぶりの静かな1年でした。この地域は少子化と高齢化は顕著で、疾病の治療と同時に介護の必要な入院患者さんの急増で、多くの入院担当スタッフが必要になってきています。日本の高齢化を十数年先取りしています。従来の看護基準では対応困難な入院状況に至っています。慢性的なスタッフ不足の医療界において病院維持のため効率化が急務です。政府は「働き方改革」を高々に奨めています。効率化が困難な業種にどのような手段方法があるのか改革モデルを示して頂きたいと思えます。安全な医療を提供するとともに、効率の良い職場環境作りが必要です。当院でも昨年来、電子カルテの更新、透析機材の更新、見守りカメラに連動したナースコールの導入、医療材料の出庫管理の電子化など努めてきましたが、まだまだ効率性の高い仕事はできていないように思われます。無駄な動きを減らし、集約集中の体制構築が課題です。同時に私たち医療者の意識の改革も必要です。日本は世界に類を見ない皆保険制度がありますが、その維持のためにも私たちの仕事のあり方を見直すことも重要です。当院もじっくりと医療と介護と見据えて将来に向けて歩みたいと考えています。新任の先生方により新たな診療科も新設できました。地域医療の支えになりますよう努力して参ります。引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

「平成最後の年度報」

院 長
橋 詰 博 行



年度報発刊を続けて14年目となります。桜の花が満開になる頃に昨年度を振り返りながら筆を執っております。年度終了とともにタイムリーに発刊して発信することが大切と考えています。また、本年度は巻頭言のあとに法人各施設の基本方針を示して、来年度への目標としました。平成最後の年度報になり、この時点で既に新しい元号は「令和」と分かりましたが内容はすべて西暦で書かれています。平成の時代は昭和と比べてその名の通り昭和と比べて平和で、わが国は戦争に直接関わることはなかったけれども一方で災害が多かった時代と言えます。1995年の阪神・淡路大震災に始まり、2011年の東日本大震災とそれに伴う福島第1原発事故、そして2018年度の中国地方を襲った水害などです。「晴れの国」岡山のイメージも変貌し、まだ復興の最中です。

われわれの地域の笠岡も被害を受け、未だ周辺道路も完全開通していません。病院内でも災害などの緊急事態が発生したときに、損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画・BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）が検討されました。一家庭から組織、地域、国家、国際社会へと危機に対する思いは同心円状に広がっています。幕末の吉田松陰が黒船をみて国防意識に目覚めたように、われわれは圧倒的当事者意識を持ってこういった災害に対処せざるを得ません。佐々淳行氏が「仕事の実例危機管理術」の中で「リスク・マネジメント」は損得の範疇の問題であるが、「クライシス・マネジメント」は人間の生死や名誉に関わる問題、組織の存亡に関わる問題として定義しています。前者は経済的な問題として検討されるが、後者は過去のデータが通用しない、先例のないものであり、これに立ち向かうには生身の「人間力」が必要と述べています。

われわれ医療人が安心できる社会保障の大いなる一翼を担っていることを心に留めて置きたいものです。少し大げさになりましたが、将来に発生するリスクにおびえず、また自分で考え、決定し、リスクを取ることもいとわないためにも、この年度報作成を機会に2018年度のまとめとして1年を振り返り、今を生きる糧にしたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

基本理念・基本方針



基本理念

1. 「豊かな健康」それが私たちの願いです。
2. 全人的視野に立ち、質の高い専門医療・看護に取り組んでいきます。
3. 明日を担う子供達の「子育て支援」から充実した「高齢者福祉」まで見つめます。
4. 生活習慣の改善・疾病の予防を提案し健康で明るい家庭作りに役立ちます。
5. 安全な医療を提供します。

2019年度 基本方針

笠岡第一病院

- ① 地域医療の中核を担う病院としての役割を果たします。
- ② 医療から介護・福祉まで切れ目ない連携を強化します。
- ③ 予防、診断、治療、治癒の各領域で患者の将来を見据えます。
- ④ 地域の方々の健やかな成長と加齢を積極的に支援します。
- ⑤ 医療人として職員の能力向上を目指します。

タカヤ クリニック

- ① 安心な透析医療環境を確保し、患者満足度の向上に努めます。
 - ・透析医療の知識と技術の向上に努め、安全で質の高い医療・看護を提供します。
 - ・患者の皆様とご家族の立場に立って行動出来る医療人を目指します。
- ② 働きやすい職場作りを考えていきます。
 - ・業務改善で効率よく働ける環境作りに努めます。
 - ・子育て、介護と向き合い、働きがいのある職場作りに努めます。

健康管理センター

- ① 医療・介護・福祉との連携を深め、地域の方々の健康寿命を延ばします。
- ② 積極的な健康づくりを推進できる適切で安心な憩いの場を提供します。
- ③ 個人のニーズに合った健診を提供し、疾病の早期発見に努め、医療へ繋げていきます。

瀬戸いこい苑

- ① 利用者の個別性と尊厳を重視したケアを行います。
- ② 多職種が協働し、在宅・施設生活が笑顔で豊かに過ごせる環境を作ります。
- ③ 家族の不安軽減に努めながら、早期の在宅復帰を目指します。
- ④ 医療・介護・福祉機関と連携して、自立した在宅生活が継続出来るように支援します。

患者の皆様の権利と責務



権利

患者の皆様は、人格と個人の価値観を尊重され、以下の権利を有します。

- だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 個人としての尊厳を尊重される権利があります。
- 病気、検査、治療、見通し等に付いて、理解しやすい言葉や方法で、納得出来るまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 十分な説明と情報を受けた上で、治療方法等を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 自分の診療に関する記録等の情報開示を求める権利があります。
- 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

責務

患者の皆様には、以下の責務がありますので遵守して下さい。

- 身体的・精神的状態やその変化を、速やかに、正確に伝えて頂く責務があります。
- 医療上の指示に従って頂く責務があります。
- 病院の快適な医療環境の維持に協力頂く責務があります。
- 病院内では、建物内外を問わず、禁酒、禁煙を守って頂く責務があります。

※上記の権利は保障されますが、医の倫理の原則に合致する場合は患者の皆様の心身状態及び法令に基づき、制限や例外的な処置・治療を行う場合があります。

個人情報保護への取り組み



個人情報保護方針

当法人は、常日頃より患者の皆様視点に立ち、質の高い医療の実現とより良い患者サービスの提供を目標として、診療業務を営んでおります。患者の皆様健康状態に応じて迅速に的確な医療を提供させていただくためには、患者の皆様に関する様々な医療情報が必要です。

患者の皆様と確かな関係を築き上げ安心して医療サービスを受けていただきたくために患者さんの個人情報の安全な管理は必須です。当法人では、下記の方針に基づき、医療情報の管理を行い、患者の皆様個人情報保護に厳重な注意を払っております。

①個人情報の収集

当法人は、診療および病院の管理運営に必要な範囲に限り、患者の皆様個人情報を収集いたします。その利用目的については、患者の皆様へ予め明示いたします。また、その他の目的に個人情報を利用する場合は、利用目的を予めお知らせし、ご了解を得た上で実施します。

②個人情報の利用および第三者への提供

当法人は、以下の場合を除き患者の皆様個人情報の利用および第三者への提供を行いません。

- 患者の皆様了解を得た場合
- 個人を識別あるいは特定できない状態に加工して利用する場合
- 法令等により提供を要求された場合

当法人は、個人情報第三者へ提供する場合、その必要性を慎重に吟味し、出来る限り患者の皆様個人情報を保護するように努めます。また、相手方に対し患者の皆様個人情報が保護されるよう申し入れを行います。

③個人情報の適正管理

当法人は、患者の皆様個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん、及び漏洩等を防止し、安全で正確な管理に努めます。

④個人情報の確認・修正（開示等）

当法人は、患者の皆様個人情報について患者の皆様が開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当法人の「診療情報の提供等に関する指針」に従って対応します。また、事実でない等の理由で訂正を求められた場合にも、調査し適切に対応します。

⑤問い合わせの窓口

当法人の個人情報保護方針に関するご質問、お問合せおよび開示等への対応は、医事課でお受けいたします（☎0865-67-0211）。

⑥法令の遵守と個人情報保護の継続的改善

当法人は、個人情報保護に関する法律を遵守し、個人情報保護管理規程を制定するとともに個人情報保護管理のために責任者を置いて患者の皆様個人情報の管理を行います。また、個人情報管理規程は適宜見直し、継続的に改善を図ります。

個人情報収集の目的と利用の範囲

①患者の皆様健康の維持と回復に資するために利用します。

具体的な利用の範囲は次のとおりです。

- ① 診療等患者の皆様への安全な医療サービスを行う場合
- ② 患者の皆様診療に関し、外部に医師等の意見、助言を求める場合
- ③ 他の保健・医療・福祉等の関係機関と連携する場合
- ④ ③の関係機関から照会（患者さんが同意されている場合）に対し回答する場合
- ⑤ 検体検査等を外部へ委託する場合
- ⑥ ご家族へ病状説明を行う場合
- ⑦ 医療向上のために利用する場合
 - 医師、看護師、その他当法人従事者、実習生及び研修生に対する教育や臨床研修のための利用
 - 臨床研究のためのデータ収集
 - 専門医、認定医制度への申請のための利用
 - 学会等の発表（個人を特定できないよう配慮する）
- ⑧ 公益目的のために利用する場合
 - 公益性の高い疫学調査等への協力
 - 医療行政等に関わる統計・調査
 - 保健所等の公的機関に対する保健医療及び公衆衛生上の報告
- ⑨ 事業者から委託を受けた健康診断等の結果を通知する場合

②病院の管理、運営に資するために利用します。

具体的な利用の範囲は次のとおりです。

- ① 医療保険に関する事務取り扱いをする場合
- ② 会計等経理の作業をする場合
- ③ 入退院等の病棟管理を行う場合
- ④ 医療業務の適正化のための外部監査機関の監査を受ける場合
- ⑤ 業務改善等のための基礎資料とする場合
- ⑥ 法令に基づく利用の場合
 - 行政機関による医療監視や医療指導監査への対応
 - 裁判所等の命令による情報提供
 - 感染予防法等法令に基づく情報提供
- ⑦ 医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門団体や保険会社等への相談または届出を行う場合
- ⑧ その他患者の皆様への医療サービスの向上を図る場合

医療法人社団 清和会 笠岡第一病院 年度報 2018年度

笠岡第一病院

健康管理センター

タカヤ クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑

目 次

巻頭言

基本理念・基本方針・権利章典・個人情報保護

第1章 研究・研修実績	1
第2章 診療概要・統計	9
笠岡第一病院	11
1 診療部	11
2 人工透析センター	31
3 医療技術部	34
4 新規導入機材	46
5 看護部	48
6 医事課	56
7 病児保育室～すこやかキッズルーム～	57
【健康管理センター】	58
【タカヤ クリニック】	61
【瀬戸ライフサポートセンター】	61
瀬戸いこい苑	62
在宅療養支援センター	66
【法人事務局】	68
第3章 委員会報告	69
機能推進・医療・看護の質・医療技術・総合栄養支援	78
医療倫理・安全管理・労働安全衛生	94
第4章 院内トピックス	103
予防接種センター・3Dワークステーション更新	105
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術・健康管理センター改修	106
医療業務改革推進チーム・病院機能評価更新受審・2017年度 QC 活動報告	108
ワーク・ライフ・バランス・出前講座・プロジェクト・院内行事	112
業務推進発表大会・大忘年会・若葉会・設備・施設改善	130
資 料	135
組織図・職員数変遷・施設統計・時事問題の集約・福利厚生・病院概要・	
施設基準・施設認定	137
編集後記, 年度報編集委員会メンバー	

第1章 研究・研修実績

業 績 集

(1) 学術論文

- Kato M, Tajima N, Shimizu T, Sugihara M, Furihata K, Harada K, Ishizuka H: Pharmacokinetics and Safety of a Single Oral Dose of Mirogabalin in Japanese Subjects with Varying Degrees of Renal Impairment. J Clin Pharmacol 58(1): P.57-63, 2018
- 原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 松井宏子, 川上敦司, 木曾光則: 透析患者の大動脈弁狭窄症～頻度および関連要因について～. 中国腎不全研究会誌 27: P.193-194, 2018
- 寺田喜平: 麻疹. 小児科診療 81: P.S158-160, 2018
- 寺田喜平: 風疹. 小児科診療 81: P.S161-163, 2018
- 寺田喜平: 風疹・先天性風疹症候群. 小児内科 50: P.S330-331, 2019
- 寺田喜平, 若林尚子, 小野佐保子, 田中悠平, 加藤 敦, 寺西英人, 宮田一平, 荻田聡子, 大石智洋, 大野直幹, 尾内一信: 健康小児にみられた帯状疱疹の特徴—1990年から2000年まで(11年間)と2001年から2017年まで(17年間)との比較—. 小児感染免疫 31: P.3-6, 2019
- 渡邊逸郎, 渡邊日菜, 石田陽子, 渡邊一郎: 原発閉塞隅角症疑いにおける前房深度と水晶体の関係. 臨床眼科 72: P.803-808, 2018

【2017年度追加】

- 名越 充, 廣岡孝彦, 石濱琢央, 橋詰博行: 投球障害に潜在する胸郭出口症候群—潜在度と臨床的特徴—. 肩関節 41(2): P.538-540, 2017

【2016年度追加】

- 名越 充, 廣岡孝彦, 檜谷 興, 石濱琢央, 橋詰博行: 明らかな誘因のない肩関節拘縮(凍結肩)に対する保存的治療—治療成形と成績に影響する因子—. 肩関節 40(3): P.1116-1119, 2016

(2) 著書

- 橋詰博行・門田康孝・原田和博: CKD・透析に併発する運動器疾患～内科・整形外科による多角的アプローチ～アミロイド関節症: 上肢関節 肩関節 透析患者の上肢骨折. 医薬ジャーナル社 P.147-155, 210-219, 2018
- 原田和博: 有害反応のモニタリング. プライマリ・ケア医のための内科治療薬使い分けマニュアル(藤村昭夫編). じほう P.51-59. 2018
- 寺田喜平: よくわかる予防接種のキホン(寺田喜平編著). 中外医学社 P.1-12, 39-43, 111-118, 163-170, 184-195, 292-296, 341-347, 2018

- 寺田喜平: ワクチン—基礎から臨床まで(日本ワクチン学会編). 朝倉書店 P.136-146, 2019
- 寺田喜平: ウイルス検査法 臨床と検査室のための手引き(日本臨床ウイルス学会編). 春恒社 P.33-37, 2019
- 寺田喜平: 最新感染症ガイド R-Book 2018-2021. 日本小児医事出版社 P.498-562, 2019
- 寺田喜平: 今日の治療指針2019. 医学書院 P.189-190, 2019
- 寺田喜平: 看護ケアに活かす感染対策ガイド(監修寺田喜平). 診断と治療社 P.128-130, 135-138, 2019

(3) 学会発表/座長

- 高田逸朗, 菅本一臣, 芝野康司, 橋詰博行, 名越 充: 関節窩軟骨下骨の3次元形態評価. 第45回日本肩関節学会, 2018年10月19日・20日
- 名越 充, 島村安則, 廣岡孝彦, 橋詰博行: 投球障害胸郭出口症候群に対する保存療法の成績. 第45回日本肩関節学会, 2018年10月19日・20日
- 橋詰博行, 小坂義樹, 山崎広一, 竹下 歩: 手指PIP関節症に対する背側進入によるAVANTA人工指関節置換術の手術成績. 第46回日本関節病学会, 2018年11月9日・10日
- 渡辺明良: 橋病変による持続性顔面痛を伴う典型的三叉神経痛の1例. 第46回日本頭痛学会総会, 2018年11月16日・17日
- 原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 松井宏子: 透析患者の皮膚掻痒症の現状と治療状況. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 2018年6月30日
- 原田和博: SGLT2阻害薬の血糖および体重への有効性に及ぼす要因. 日本糖尿病学会中国四国地方会第56回総会, 2018年10月27日
- 原田和博: 高齢者におけるポリファーマシー. 第3回日本臨床薬理学会中国・四国地方会, 2018年12月15日
- 小坂義樹, 西谷恭子, 山崎 恵: 褥瘡に対する陰圧閉鎖療法の経験. 第19回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会, 2019年3月3日
- 笹井信也: シンポジウム 大腸CT検査の普及におけるチーム医療の重要性 放射線科医の立場から. 第2回日本消化管Virtual Reality学会総会・学術集会, 2019年1月19日
- 森田善仁, 田野口瑞季: 血液透析導入期に腰痛の増悪をきたした一例. 日本ペインクリニック学会第52回大会, 2018年7月19日～21日
- 坂本隼一: 外科的再建術を伴う下顎歯肉癌切除後の補綴症例. 平成30年度公益社団法人日本補綴歯科学会 中国・四国支部学術大会, 2018年9月1日・2日

田野口瑞季, 森田善仁, 池田裕貴, 藤井結花: 職種間コミュニケーションの重要性を再認識した一例. 日本ペインクリニック学会第52回大会, 2018年7月21日 リハビリテーション科

川上敦司, 上田 満, 太田祐策, 松浦知紗, 三國三寿恵, 松井宏子, 木曾光則, 原田和博, 宮島厚介: 透析支援システムと全自動透析装置の導入による省力化と経済効果. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 2018年6月29日~7月1日 タカヤ クリニック

川上敦司, 上田 満, 太田祐策, 松浦知紗, 三國三寿恵, 松井宏子, 木曾光則, 原田和博, 宮島厚介: 当院における維持透析患者に対するクエン酸第二鉄水和物の長期使用経験. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 2018年6月29日~7月1日 タカヤ クリニック

金川潤子: 在宅チームケアで目指していること. 第3回岡山県地域包括ケア学会学術大会, 2018年9月30日 居宅介護支援事業所

【2017年度追加】

門田康孝, 橋詰博行: 当院におけるグロムス腫瘍に対する治療経験. 第60回日本手外科学会学術集会, 2017年4月5日~7日

名越 充, 廣岡孝彦, 石濱琢央, 橋詰博行: 反復性肩関節脱臼に対する肩甲下筋腱修復を併用した鏡視下制動術. 第44回日本肩関節学会, 2017年10月6日~8日

(4) 講演会/研究会発表/座長

橋詰博行: 医療機器の内外価格差問題について. 第119回知能化医療システム研究会, 2018年7月8日

橋詰博行: ①知能化と AI ホスピタル②知能化と脳・腸・マイクロバイオータ相関. 第120回知能化医療システム研究会, 2018年10月14日

橋詰博行: ①水と無意識②無意識と脳腸相関③ Society 5.0と無意識. 第21回無意識会, 2018年10月13日

橋詰博行: 座長. 第36回中部日本手外科研究会, 2019年1月26日

阿曾沼裕彦: 座長. 福山井笠地区循環器フォーラム, 2018年5月31日

阿曾沼裕彦: 座長. 岡山西部循環器勉強会, 2018年7月5日

阿曾沼裕彦: 座長. 第86回岡山心血管造影研究会, 2018年7月31日

阿曾沼裕彦: 座長. 循環器連携を考える会, 2018年11月29日

阿曾沼裕彦: 座長. 井笠地区循環器フォーラム, 2018年12月6日

阿曾沼裕彦: 座長. 笠岡地区循環器セミナー, 2019年2月14日

原田和博: 症例から考える薬剤性腎障害. 腎と薬物療法研究会, 2018年5月11日

原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 松井宏子, 中村淳一, 川上敦司, 木曾光則: 当院で経験した血液透析患者の結核2症例: 対応および抗結核薬使用の留意点. 第103回岡山透析懇話会, 2018年6月16日

原田和博: 座長. 明日から使える糖尿病治療戦略の会, 2018年6月27日

原田和博: トホグリフロジンの使用経験と有効例・無効例の比較検討. Diabetes Treatment PRIME, 2018年7月29日

原田和博: 糖尿病治療薬の適正処方 ~ 臨床薬理学的視点より ~. 府中地区地域連携講習会, 2018年9月6日

原田和博: 座長. 糖尿病医療連携フォーラム in 井笠, 2018年9月14日

原田和博: 座長. 井笠・浅口透析連携カンファレンス, 2018年10月18日

原田和博: 症例検討「高血圧の管理に難渋した血液透析患者」. ベッドサイドの臨床薬理学 ~ ワークショップ2018~, 2018年10月28日

原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 川上敦司, 木曾光則: 透析患者の大動脈弁狭窄症 ~ 頻度および関連要因について ~. 第27回中国腎不全研究会, 2018年11月4日

原田和博: 腎不全と透析導入 ~ 当院の現状と対策 ~. 第3回井笠地区CKD診療を学ぶ会, 2018年11月29日

原田和博: CKD-MBD 治療を考える ~ エテルカルセチドへの期待 ~. 透析診療 Update in 倉敷, 2018年12月11日

原田和博: 実症例から治療方針を考える. 西部糖尿病治療 UP DATE, 2018年12月17日

原田和博: 薬物相互作用とポリファーマシー. 第13回析の木会, 2019年2月15日

原田和博: 高齢者の糖尿病治療の実際とポリファーマシー. 糖尿病カレントフォーラム in 倉敷, 2019年3月15日

小坂義樹: 褥瘡の外科的治療(局所陰圧閉鎖療法や手術療法について). 井笠地区連携支援の会, 2018年7月31日

小坂義樹: 両手指の腫瘍. 第25回備後形成外科医会, 2018年11月14日

小坂義樹: 両手の軟部腫瘍. 第67回西中国形成外科研修会, 2019年1月27日

松前 大: 血管内治療時代の下肢閉塞性動脈硬化症と下肢静脈瘤. 血管から健康を考える会, 2018年11月1日

松前 大: 笠岡第一病院で経験した深部静脈血栓症と下肢静脈瘤. 笠岡地区循環器セミナー, 2019年2月13日

笹井信也: 座長「HOW TO START」. 第5回中四国スクリーニングCTC研究会, 2018年4月21日

笹井信也: 審査員. AZE展2018 全国医用画像コンペティション, 2018年6月2日

笹井信也: さあ, 大腸CT検査をはじめよう. 広島県東部放射線医会, 2018年6月14日

笹井信也: 大腸CT検査における大腸拡張法を評価する新たな手法 インタラクティブグラフの提案. 第16回消化管CT技術研究会学術集会. 2018年6月23日

笹井信也: さあ, 大腸CT検査をはじめよう. 第4回岡山

市医師会研修会, 2018年7月20日
 笹井信也: コメンテーター. 第18回 CT テクノロジー福山セミナー, 2018年11月10日
 笹井信也: コメンテーター エキスパートによる実演解説&相談室. 第6回中四国スクリーニング CTC 研究会, 2018年11月23日
 森田善仁: 日常診療における高齢者の慢性痛管理. 玉島医師会学術講演会, 2018年10月23日
 浦川茂美: 笠岡第一病院 当院での地域医療の特徴について. 井笠地区連携支援の会, 2018年6月18日
 浦川茂美: 瞬間死を阻止し得た一例. 岡山救急医療研究会 第20回学術集会, 2018年11月10日
 竹下 歩, 橋詰博行, 山崎広一, 小坂義樹: 母指 IP 関節内遊離体の1例. 第10回岡山手外科研究会, 2019年3月9日
 前田晶子: 当院糖尿病ケアチームにおける歯科の取り組み. 第6回川崎医科大学糖尿病チーム医療の会, 2018年5月12日 歯科
 小橋高郎: 日本診療放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会. 岡山県診療放射線技師会 統一講習会 津山中央病院, 2018年6月23日・24日 放射線科
 小橋高郎: 日本診療放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会. 岡山県診療放射線技師会 統一講習会 岡山大学病院, 2018年8月25日・26日 放射線科
 小橋高郎: 日本診療放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会. 岡山県診療放射線技師会 統一講習会 倉敷中央病院, 2018年10月6日・7日 放射線科
 小橋高郎: 日本診療放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会. 岡山県診療放射線技師会 統一講習会 岡山大学病院, 2019年2月3日・10日 放射線科
 大杉靖子: データを多角的に活かす目標管理. 2018 DiNQL 大会, 2018年11月12日 看護部
 水ノ上かおり: インスリン自己注射, 血糖自己測定の講義演習. おかやま糖尿病サポーター認定研修会 倉敷地区, 2018年6月3日 看護部
 水ノ上かおり: GW「Let's Try! カーボカウント～基礎編～」講義演習. 第6回岡山糖尿病療養指導スキルアップセミナー, 2018年7月7日 看護部
 水ノ上かおり: 教育講演「糖尿病を抱える人を持つ“家族”へのアプローチ」座長. 第15回糖尿病看護研究会 IN 岡山, 2018年8月25日 看護部
 水ノ上かおり: 教育講演「生活の中での低血糖の予防と対策」. 第32回東備糖尿病療養指導セミナー, 2018年9月1日 看護部
 水ノ上かおり: 教育講演1「糖尿病患者さんの足を守るフットケア」. 第19回高知県糖尿病看護「土佐の会」セミナー, 2019年2月24日 看護部
 水ノ上かおり: パネルディスカッション「高齢患者さんの“暮らし”に合った療養支援とは」講演・パネラー. 第1回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー, 2019年3月24日 看護部

山崎 恵: 明日から即実践! 褥瘡ケア～地域でめざそう! 褥瘡ゼロ～. 井笠地区連携支援の会 褥瘡研修会, 2018年7月31日 看護部
 山崎 恵: 明日から即実践! 褥瘡ケア Part 2～地域でめざそう! 褥瘡ゼロ～. 井笠地区連携支援の会 褥瘡研修会, 2018年10月17日 看護部
 山崎 恵: 明日から即実践! 褥瘡ケア Part 3～地域でめざそう! 褥瘡ゼロ～. 井笠地区連携支援の会 褥瘡研修会 笠岡市立市民病院, 2019年1月24日 看護部
 若狭麗子: 手術室の現状と術前訪問が与える心理的不安に対する効果の検証「待機手術患者の心配事アセスメントツール (以下 ESWAT と略す)」を使用して. 第39回岡山県看護協会井笠支部 看護研究発表会, 2019年2月23日 看護部
 太田祐策, 井上 剛, 松浦知紗, 川上敦司, 原田和博, 木曾光則, 宮島厚介: 当院における FNW+ と iPad による回診ツールの使用評価. 第27回中国腎不全研究会学術集会, 2018年11月3日 タカヤ クリニック
 井上 剛, 太田祐策, 松浦知紗, 川上敦司, 原田和博, 木曾光則, 宮島厚介: D-FAS の自動化補助機能についての評価. 第27回中国腎不全研究会学術集会, 2018年11月3日 タカヤ クリニック

(5) 大学講義

橋詰博行: 末梢神経障害. 岡山大学, 2018年6月25日
 橋詰博行: 臨床バイオメカニクス. 東京大学, 2018年8月2日
 原田和博: 臨床薬理学「プライマリケアにおける薬物有害反応」. 大分大学, 2018年10月17日

(6) 主催学会・研究会

大豆由来「エクオール」のお話ー女性の健康サポートー. 笠岡第一病院, 2018年6月8日
 第12回井笠地区画像診断・治療勉強会. 笠岡第一病院, 2018年7月13日
 第14回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka. 笠岡第一病院, 2018年8月4日
 予防講演会. 笠岡第一病院, 2018年11月1日

(7) 資格取得

赤澤龍右: X線 CT 認定技師 放射線科, 2018年4月1日
 藤井結花: 3学会合同呼吸療法認定士 リハビリテーション科, 2019年1月1日

(8) 学外実習受入

岡山大学 (医学部医学科):
 2019年3月25日～29日, 2名 医局

川崎医療福祉大学（医療技術学部 臨床栄養学科）：
2018年8月27日～8月31日，1名 栄養管理科

くらしき作陽大学（食文化学部 栄養学科）：
2018年11月5日～11月16日，2名 栄養管理科

中国学園大学（現代生活学部 人間栄養学科）：
2019年2月18日～3月1日，2名 栄養管理科

川崎医療福祉大学（医療技術学部 リハビリテーション科
作業療法専攻）：
2019年3月4日～3月23日，1名 リハビリテーション科

川崎医療福祉大学（医療技術学部 リハビリテーション科
理学療法専攻）：
2019年3月4日～3月23日，1名 リハビリテーション科

福山医療専門学校（理学療法学科）：
2019年4月9日～6月2日，1名 リハビリテーション科

福山医療専門学校（理学療法学科）：
2019年6月11日～8月4日，1名 リハビリテーション科

倉敷翠松高等学校（看護専攻科）：
2019年8月31日～9月16日，22名 看護部

川崎医療福祉大学（医療福祉経営学科）：
2018年9月25日～10月11日，1名 医事課・法人事務局

川崎医療福祉大学（医療福祉経営学科）：
2018年10月15日～10月31日，1名 医事課・法人事務局

川崎医療短期大学（看護科）：
2018年4月9日～4月20日，2名 訪問看護ステーション

川崎医療短期大学（看護科）：
2018年5月14日～5月25日，2名 訪問看護ステーション

川崎医療短期大学（看護科）：
2018年6月25日～7月6日，2名 訪問看護ステーション

川崎医療短期大学（看護科）：
2018年9月10日～9月25日，2名 訪問看護ステーション

(9) 掲載（新聞など）

病院の実力「関節リウマチ」：読売新聞，2018年5月20日

病院の実力「手外科手術」：読売新聞，2018年6月20日

宮島裕子：朝耳らじお からだにいい話「感染性胃腸炎：治療と予防」. RSK ラジオ，2018年6月29日

職場体験プロジェクト：職場体験「わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊!!」. ビジネス情報，2018年8月10日

宮島裕子：朝耳らじお からだにいい話「こどもの事故防止について」. RSK ラジオ，2018年8月31日

宮島裕子：朝耳らじお からだにいい話「生活リズム：運動と睡眠」. RSK ラジオ，2018年11月30日

寺田喜平：「予防接種センター」開設. ビジネス情報，2018年12月10日

宮島裕子：朝耳らじお からだにいい話「脳の発達・心の発達と運動の関係」. RSK ラジオ，2019年3月29日

(10) 学校医

宮島厚介：笠岡市立笠岡東中学校

宮島裕子：和光保育園

宮島裕子：笠岡市立神内小学校

宮島裕子：笠岡市立神島保育所

宮島裕子：笠岡市立横江幼稚園

阿曾沼裕彦：岡山県立笠岡工業高等学校

渡邊逸郎：笠岡市立富岡幼稚園

渡邊逸郎：笠岡市立大井幼稚園

渡邊逸郎：笠岡市立尾坂幼稚園

渡邊逸郎：笠岡市立横江幼稚園

渡邊逸郎：笠岡市立大井小学校

渡邊逸郎：笠岡市立吉田小学校

渡邊逸郎：笠岡市立新山小学校

渡邊逸郎：笠岡市立笠岡東中学校

渡邊逸郎：笠岡市立新吉中学校

渡邊逸郎：笠岡市立吉田保育所

渡邊逸郎：笠岡市立新山保育所

(11) 産業医

橋詰博行：井原精機 笠岡工場

原田和博：日本ケイテム 笠岡製作所

(12) 院外活動

橋詰博行：潔く，スマートに年を重ねるー抗加齢医学と健康増進ー. ちゅうぎんライフプラン応援セミナー，2018年5月22日

家庭看護力向上活動：こんなときどうする？こどもの事故と応急処置. 吉田保育所，2018年6月20日

宮島裕子：心身共に健やかな成長を願って～生きる力の基礎を育もう～. PTA 人権教育研修会 教育講演会 笠岡市立尾坂幼稚園，2018年7月3日

寺田喜平：子どものことを語る保育者になろう. 平成30年度広島県私立幼稚園教育研修大会，2018年8月1日

食育プロジェクト：“寝ること，遊ぶこと，食べ物の話” エプロンシアター～うんちの話～. 笠岡市立神内小学校，2018年9月27日

宮島裕子：心身共に健やかな成長を願って～生きる力の基礎を育もう～. PTA 教育講演会 浅口市立鴨方東小学校，2018年10月19日

宮島裕子：子どもの成長とメディアについて. 笠岡市立神内小学校学校保健委員会，2018年11月6日

宮島裕子：人権教育講演会「高校生の君たちへ……自立し社会人になる事と子どもを持つことについて考えてみよう」. 岡山県立瀬戸高等学校，2018年11月8日

山崎 恵：おしっこが漏れて困った時は. 岡山県看護協会「地域での健康応援出前講座」里庄町婦人会，2018年12月9日 看護部

林 知子：アレルギーを理解するために. 倉敷市立東陽中学校 学校保健委員会，2018年12月12日

宮島裕子：笠岡市「若い世代の意識啓発事業」自立し社会

人となる事と、子どもを持つことについて考えてみよう。岡山県立笠岡商業高校，2018年12月18日
家庭看護力向上活動：こんなときどうする？こどもの事故と応急処置。笠岡市保育協議会研修会，
2019年2月2日

第2章 診療概要・統計

笠岡第一病院

1 診療部

一般内科

宮島 厚介

専門医の多い内科外来ですが、振り分け外来としての機能、予約外の外来患者に対応するため、内科医で交代して一般外来をもうけています。また、岡山大学、川崎医科大学、倉敷中央病院からの卒後臨床研修医も地域医療習得のため、経験を積んだ医師と共に外来勤務をしています。一般的によく見かける疾患を重篤に捉えたり、また逆に新鮮な医療知識で新たな疾患診断

に当たったりと、興味深い外来診療ができています。最近では、近隣の病院からの紹介なしの転医もあり、初期診療に当たります担当医は緊張した診療が続いています。2019年度は10名を超える多くの卒後臨床研修医、専攻医の受け入れが予定されています。地域医療に関わっていく医師の一助になればと、中小病院ですが研修計画を立てて指導に当たります。

循環器内科

部長 阿曾沼 裕彦

2018年10月心肺運動負荷試験（以下、CPX）を行う装置を購入し、準備期間を経て2019年2月から本格的に心臓リハビリテーションを開始しました。CPXにより患者の運動能力を把握するとともに、適切な運動処方を行い、その効果を判定することが可能となりました。今後もカルディアックフレイルを食い止めるよう努力し、患者の皆様の健康寿命を延ばしていきたいと思います。

また2018年7月に血管外科 松前 大医師が着任し、下肢末梢血管障害に対する血管内治療が飛躍的に増加

してきました。それに伴い冠動脈形成術施行件数も増加してきております。また恒久的ペースメーカー植込み症例やシャント血管形成術症例も増加してきています。

昨年10月から臨床工学技士が血管造影室業務のサポートをしてくれるようになりました。今後も血管造影室だけでなく人材育成に努力し、スタッフと一丸となって、各病院ならびに地域の先生方との連携を深め、高度で先進的な医療を地域の患者に提供して行きたいと思っています。

循環器内科外来／心臓血管外科外来日割表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	浦川 茂美	阿曾沼裕彦	村上 充（不整脈） （第1・3） 浦川 茂美	阿曾沼裕彦 浦川 茂美 （ペースメーカー外来）	浦川 茂美	中村 一文（心不全） 川崎医科大学 心臓血管外科
午後			阿曾沼裕彦			

呼吸器内科

部長 中村 淳一

昨年度と同様に常勤医1人で外来及び入院患者の診療を行っています。

2018年度の入院患者総数は昨年度とほぼ同じ322人（呼吸器疾患は289人）でした。その内、肺炎患者は201人（呼吸器疾患の内の69.6%）と最も多いのも昨年度までと同様でした。その内訳は65歳以上の高齢者がほとんどで、特に近隣の老人施設に入所中の患者が多く含まれ、何回も誤嚥性肺炎を繰り返している例も認められました。それらの症例に対しては抗菌薬の投与だけではなく、嚥下機能の改善、口腔ケアや栄養状態の改善などが必要になり、入院した時点からリハビリの言語聴覚士、歯科医師、栄養管理科と連携を取りながら対応しています。

肺癌など悪性腫瘍の患者は12人でしたが、昨年度と同様、多くは連携医療機関である倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院などからの紹介のターミナルケア目

的の患者でした。手術可能な症例は外科 小谷一敏医師に紹介し、当院で手術を行っています。ただ、手術可能な症例は少ないため、今後、肺癌の早期発見に努めたいと考えています。

その他に気管支喘息への吸入療法や慢性閉塞性肺疾患（COPD）の急性増悪、間質性肺炎による慢性呼吸不全患者に対する酸素療法などの治療も行っています。

専門外来の禁煙外来・睡眠時無呼吸外来は水曜日午後に行っています。新規の禁煙患者は7人と最近では最も少なく、睡眠時無呼吸症候群の検査入院は17人で、CPAPの新規導入患者も10人と減少しています。今後、当院での禁煙治療、睡眠時無呼吸症候群の検査、治療についてのさらに普及を図っていきたくと考えています。

呼吸器内科医1人で対応が困難な場合がありますが、出来る限り地域の医療に貢献したいと考えています。

疾患別入院患者数年次推移

(人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
かぜ症候群（インフルエンザを含む）	5	7	11	6	12	7
肺炎（急性気管支炎を含む）	186	222	235	213	185	201
肺結核・非結核性肺抗酸菌症	8	8	5	3	11	10
肺真菌症	1	0	0	1	1	1
慢性閉塞性肺疾患	7	6	6	4	1	2
気管支喘息	7	7	18	7	9	15
過敏性肺炎・好酸球性肺炎	0	0	0	0	0	1
薬剤性肺炎	0	1	0	0	0	0
間質性肺炎	9	9	3	6	5	4
サルコイドーシス	0	0	0	0	0	1
膠原病肺	1	0	0	0	1	1
肺癌	23	13	12	18	13	12
転移性肺腫瘍	0	2	1	6	0	1
肺良性腫瘍	0	0	0	0	0	0
肺血栓塞栓症	0	0	0	0	0	0
肺動脈性肺高血圧症	0	2	0	0	0	1
胸膜炎	3	2	1	2	4	3
膿胸	0	0	0	2	1	0
胸膜腫瘍	0	1	3	2	1	0
気胸	13	10	9	7	3	6
急性呼吸不全・ARDS	4	1	0	2	0	1
慢性呼吸不全	2	6	5	6	1	2
気管支拡張症	2	0	3	2	2	0
塵肺	1	0	2	3	0	1
過換気症候群	1	0	0	0	0	0
睡眠時無呼吸症候群	16	26	37	33	30	17
その他の呼吸器疾患	1	1	1	0	1	2
呼吸器疾患以外	45	43	42	28	35	33
合計	335	367	394	351	316	322

専門外来

(人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
禁煙外来	19	30	17	16	9	7
睡眠時無呼吸症候群（PSG 検査）	15	26	36	35	31	17
睡眠時無呼吸症候群（CPAP 新規導入）	6	6	11	15	18	10

消化器内科

部長 宮島 宣夫

消化器内科は、宮島宣夫が外来、健診業務と入院を担当しました。診療内容は、頻度の多い胃・十二指腸潰瘍、機能性胃腸症、逆流性食道炎、感染性胃腸炎、大腸ポリープ（粘膜切除術も）、消化器癌や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患を診療しています。主な関連病院は、川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院、福山市民病院などです。

消化器内科が行う検査で最も得意とする検査が内視鏡検査です。川崎医科大学附属病院食道・胃腸内科などから4名の内視鏡医が派遣され、病院にて週3回、健診センターにて週3回の定期検査と緊急検査に対応

しています。

また、当科では、健康管理センターでの健診業務にも力を注いでいます。健診受診者数は3,168名に達し昨年度の約10%増しになっています。健診センターでの内視鏡検査件数は789名と約80例増加しています。また、955名の上部消化管造影検査の撮影とダブルチェックの読影を、デジタル化した造影装置を使用しています。

今後も、患者の皆様のニーズに対処できるよう疾患の早期発見、早期治療に努めてまいります。

外科

部長 小谷 一敏

外科は血管外科と連携して外来・入院・手術等の外科診療をしております。常勤医、麻酔科医、看護スタッフ等の数的な問題もあり、時間外や土日祝日の緊急手術対応は困難な状況のため患者の皆様にはご迷惑をおかけしております。当院で対応可能な疾患については出来る限り対応させていただきますが、対応困難な場合は近隣の病院（福山市民病院・川崎医科大学・倉敷中央病院等）へ紹介させていただいております。

手術症例内訳

(例)

	2017年度	2018年度
鼠径ヘルニア	22	25
虫垂炎	13	8
胃がん	6	4
大腸がん	5	11
胆石・胆嚢炎	10	12
呼吸器（肺がん・膿胸など）	6	9
その他	13	11

血管外科

部長 松前 大

2018年7月に赴任しまして、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術、下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療、末期腎不全に対する内シャント設置術を始めました。井笠地区には血管外科医は不在であったため、赴任早々から比較的多くの症例を経験することができました。良い治療結果を残し、患者さんの満足度を高め、さらに症例数を増やしていきたいと張り切っております。

<下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術>

当院には第2世代のレーザー焼灼装置が導入されました。第1世代に比べ出血、疼痛が圧倒的に少ないという特徴があり、患者満足度の高い治療が可能となっております。井笠地区では唯一当院にのみ設置されております。7月26日に第1例を経験し、3月末日までに計71例の血管内レーザー焼灼術を行いました。治療効果も良好で、口コミで当院を希望される方も増えつつあります。

<下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療>

高度な血管内治療を可能にするのは高精細な血管造影装置と優秀なスタッフが必要ですが、当院にはドイ

ツシーメンス社製の最新型装置が導入されており、さらに阿曾沼医師、浦川医師という循環器内科医の協力もあり、盤石な体制であります。岡山、倉敷、福山などに出向かなくても難度の高い症例に対して血管内治療が可能となっております。7月17日に第1例を経験しましたが、3月末日までに計29例の治療を行い、いずれも良好な結果を得ております。

<内シャント設置術>

当院では慢性透析を行っております。従来は血管外科医不在のため内シャント設置術は他院に紹介せざるを得ませんでした。血管外科医赴任に伴い当院でも内シャント設置術を行うことが可能になりました。8月20日に第1例を行い、16例を経験しました。

当院血管外科の強みは血管内治療であります。血管内治療は低侵襲で高い治療効果があり、高齢者に多い下肢静脈瘤、下肢閉塞性動脈硬化症に適した治療法であります。最新の血管内治療を活かして井笠地区の患者の皆様のお役に立ちたいと心から念じております。

整形外科

部長 小坂 義樹

2018年度は橋詰博行院長および山崎広一医師、竹下歩医師と私の常勤医4名体制で今までの手外科中心だけでなく、外傷を含めた整形外科一般の外来・入院診療および手術を担当させて頂きました。非常勤医師としてリウマチ外科外来に岡山大学整形外科准教授 西田圭一郎医師、骨粗しょう症外来に田中日出樹医師、関節外科外来に川崎医科大学整形外科 教授 難波良文

医師、同 河本豊広医師に専門外来を担って頂きました。また岡山大学病院 整形外科 斎藤太一医師、沖田駿治医師に手術の応援を頂きました。

2018年度は総手術件数1,666件（内、上肢手術1,491件・下肢手術175件）を施行しました。当院では上肢手術を数多く行っており、特に弾発指・手根管症候群に対する低侵襲手術はその大きな割合を占めています。

1) 上肢手術

病名	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
弾発指（腱鞘ガングリオン含む）	655	801	763	789	726	800	850
手根管症候群	278	335	291	206	228	262	295
ケルバン腱鞘炎	50	39	44	39	41	32	63
肘部管症候群	28	26	24	25	20	22	30
骨軟部腫瘍・腫瘍・ガングリオン	34	24	28	37	27	29	26
橈尺骨遠位端骨折	20	20	13	21	15	13	23
OA（指・手・肘；ロッキング・関節内遊離体を含む）	15	14	5	10	13	15	21
母指CM関節症	11	11	13	22	22	19	20
伸筋腱損傷（腱性マレット指・ボタン穴変形含む）	13	14	9	25	12	14	16
RA手・肘・肩関節	2	11	3	1	6	5	16
関節拘縮・フォルクマン拘縮	12	4	13	15	9	9	15
中手・指節骨骨折	21	27	19	22	13	17	14
抜釘	48	28	44	19	26	22	13
TFCC損傷・DRUJ障害・尺骨突き上げ症候群	5	3	2	3	5	11	13
神経損傷・麻痺・カウザルギー・母指対立障害	20	5	10	14	9	10	12
肩インピンジメント症候群・肩腱板損傷・石灰沈着腱板炎	16	30	23	10	5	5	11
屈筋腱損傷・皮下断裂	9	1	7	6	7	12	8
上腕骨遠位端骨折・肘脱臼骨折・上腕骨骨幹部骨折	3	6	7	6	0	3	7
舟状骨骨折・偽関節・壊死（プライザー病）、キーンバック病・月状骨陳旧性脱臼・有鉤骨鉤骨折	5	7	9	3	6	3	6
鎖骨骨折（遠位端骨折を含む）	10	10	5	7	1	3	6
異物、創処置、熱傷	4	2	0	0	0	1	5
化膿性腱鞘炎・化膿性関節炎・腱滑膜炎・骨髄炎、蜂窩織炎	10	13	7	6	10	11	4
上肢絞扼性神経障害（手根管・肘部管を除く）	2	6	2	6	7	8	4
上腕骨外上顆炎（弾発肘を含む）	0	2	2	0	0	3	3
強剛母指	2	7	6	9	9	4	2
デュブイトラン拘縮	9	10	7	6	3	4	2
上腕骨近位端骨折・肩脱臼・肩脱臼骨折、反復性肩関節脱臼・不安定肩、肩鎖関節骨折・肩甲骨烏口突起骨折	5	7	10	4	2	4	2
橈尺骨骨幹部・近位端骨折	4	4	6	3	6	3	2
指靭帯・掌側板損傷・脱臼	6	3	6	8	8	2	1
その他	5	2	2	0	0	2	1
手術件数総計	1,302	1,472	1,380	1,322	1,236	1,348	1,491
症例数	991	1,066	1,160	1,076	1,014	1,113	1,110

す。また、近年は大腿骨近位部骨折、腰椎圧迫骨折例が増加してきています。これらに対しても、最先端の治療方法で対処しています。井笠・備後地区だけでなく、岡山・倉敷地区を中心とした近隣医療圏、また遠方からの紹介を多数頂いております。

高齢社会にあたり、整形外科のニーズは年々高まっており、常勤医の増員が地域医療の一助になればと考えております。これからも運動器疾患の治療に努め、地域を支える病院としての役割を果たしていく所存であります。

2) 下肢手術

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
褥瘡	—	—	—	—	—	—	67
大腿骨転子部骨折（転子下骨折を含む）	17	10	14	23	23	20	27
大腿骨頸部骨折（人工骨頭）	9	11	9	13	17	13	23
足関節果部骨折・脛腓骨遠位端骨折・遠位脛腓靭帯損傷	7	5	9	5	8	12	13
骨・軟部腫瘍、感染、創傷	4	9	14	9	4	8	13
関節リウマチ	0	0	0	7	0	11	10
抜釘	26	9	18	12	4	13	4
大腿骨頸部骨折（骨接合術）	11	4	6	3	5	8	4
アキレス腱断裂	0	0	0	4	2	0	3
膝蓋骨骨折	0	0	0	3	0	0	3
切断	2	3	1	1	2	0	2
THA・TKA	0	0	0	3	1	2	1
足部骨折	2	3	4	1	0	1	1
踵骨骨折	2	3	0	2	2	0	1
膝靭帯損傷、半月損傷、内障、OA、関節内遊離体	5	8	5	3	1	0	1
脛骨骨幹部骨折	1	2	1	3	0	0	1
大腿骨骨幹部骨折	0	0	0	1	0	0	1
大腿骨遠位部骨折	1	1	0	1	0	1	0
脛骨プラトー骨折・膝関節内離裂骨折	2	2	6	0	0	1	0
その他	6	4	4	0	2	1	2
手術件数総計	87	68	81	94	69	89	175

3) 手術件数総数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
上肢	1,302	1,472	1,380	1,322	1,236	1,348	1,491
下肢	95	74	91	94	71	91	175
総数	1,397	1,546	1,471	1,416	1,307	1,439	1,666

脳神経外科

部長 渡辺 明良

2017年度から新しい電子カルテになり、診断された病名の多い順に頻用病名が選択病名として挙げられるようになりました。それによると2018年度の診断病名のうち多い順位に挙げると、片頭痛、アルツハイマー型認知症、良性発作性頭位めまい症、頭部打撲、認知症（初診時に病型が特定出来なかったもの）でした。高齢者の多い笠岡地区で、片頭痛の診断名が最も多かったのには驚きです。

片頭痛の原因と考えられている神経原性炎症の誘発物質 CGRP に対する抗体（注射剤）が開発され、世界中で臨床治験が開始されました。当院においても2017年1月から患者登録が開始され、現在も治験は進

行中です。その中には長期試験に移行された方もおられます。患者の皆様のご協力に感謝しています。

脳ドックは、昨年に比べ、受診者数が減っていますが、笠岡市の健診内容で、脳ドックを含めた3つの検査項目から選択するものがあります。そのため、今回は別の項目を選択されたと考えられます。本年度は、58人（男性34人、女性24人）の方が受けられ、平均年齢は66.1歳（32歳～83歳）でした。MRI 検査結果の報告様式が変更になったため、個々の所見についての集計が出来ませんが、判定別に見ると、A：10（異常なし）、B：33（軽度異常）、C：12（経過観察）、D2：3（要精密検査）という結果でした。

泌尿器科

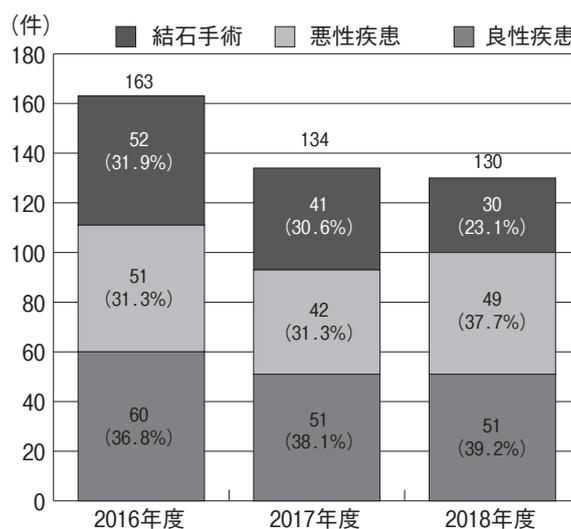
部長 古川 洋二

2018年度は森中医師が転勤となり交替として4月より川崎医科大学泌尿器科学教室より中塚騰太医師が赴任となりました。

2018年度外来患者数は延べ8,104名で入院患者数は延べ201名、平均在院日数11.1日でした。その多くはDPCによる保険請求を行い退院患者の在院期間はⅠ期23件、Ⅱ期110件、Ⅲ期67件となり、多くはⅠ・Ⅱ期で推移しました。疾患別では尿路性器悪性腫瘍、尿路結石、尿路感染症あるいは前立腺肥大症を含む排尿

障害を多く認めました。本年度手術統計は図に示します。件数は130件と昨年同様でした。内訳は尿路結石のTUL（経尿道的結石砕石術）及び膀胱がんのTUR（経尿道的腫瘍切除術）の増加が明らかでしたが、良性疾患の手術は約1/3程度となっております。学会活動は日本泌尿器科学会西日本総会、岡山地方会などに参加し、症例報告を中心に発表をしています。今後は学会活動も充実させていきたいと思っています。

図 泌尿器科手術件数



小児科

部長 寺田 喜平

2018年度は新しく寺田が常勤に、また5月から湯本医師が非常勤から常勤となり、常勤医師3名、非常勤医師9名の体制で診療していました。2019年度の外来スケジュール（5月から）は、表1に記載しています。常勤は昨年同様、非常勤は多少変化がありますが、10名で外来診療を実施する予定です。2019年度は、新しく川崎医科大学より赤池医師が小児神経および発達障害の専門外来を月1回開きます。そのほか、専門外来は、アレルギー、小児循環器、食育・肥満、乳幼児発達、予防接種を行っています。

県西南部地域での入院可能な病院が減少するなか、福山市における小児科拠点病院の変化などから、当院小児科の重要性が増していると考えています。医療圏は他院からの地域別紹介患者（表2）からもわかるよ

うに、浅口市や井原市、里庄町、加えて倉敷市や岡山市、福山市からの退院後の逆紹介などもあります。最近5年間における入院患者数（表3）や予防接種・乳児健診・紹介の件数（表4）は、少子化や流行疾患によって多少の変動がありますが、落ち着いています。また林医師の食物アレルギーの負荷試験（表5）もフル回転しています。

地域の活動としては、講演活動、小児科・食育スタッフ連携でこども健康教室・出前講座などを実施し、看護師、管理栄養士、臨床心理士、臨床検査科、リハビリテーション科などとも連携して活動幅を広げ、地域から信頼され、愛される小児科となれるよう努力したいと考えています。

表1 外来スケジュール（2019年5月～）

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	9時～ 12時	宮島 裕子 林 知子 (10時～アレルギー外来) *小山 展子	寺田 喜平 *湯本 悠子	宮島 裕子 *岡山大学医師 (9時30分～)	*寺田 喜平 宮島 裕子	宮島 裕子 *湯本 悠子 (乳幼児発達)	第1・2・3・4 (*寺田 喜平 (9～10時予防接種)) 第1・3・5 湯本 悠子 第2・4・5 宮島 裕子
午後	2時～ 5時	林 知子 (アレルギー外来) 湯本 悠子 *小山 展子 第2・4 尾内 一信 <川崎医科大学 小児科教授>	宮島 裕子 湯本 悠子 *若林 尚子	*寺田 喜平 (2～4時予防接種専門外来) *小野佐保子 第1・3 水田 俊 (3～5時小児神経) 第2 赤池 洋人 (小児神経・発達) 第4 大野 直幹 (小児循環器)	林 知子 (アレルギー外来) 湯本 悠子 *高橋 研斗	寺田 喜平 *湯本 悠子 (乳幼児発達) *荻田 聡子	

* 予防注射・健診

(常勤) 部長 寺田喜平・宮島裕子・湯本悠子

(非常勤) 赤池洋人・尾内一信・大野直幹・荻田聡子・小野佐保子・小山展子・高橋研斗・林 知子・水田 俊・若林尚子

(五十音順)

表2 地域別紹介患者数(人)

	合計
笠岡市	40
井原市	16
浅口市	28
里庄町	1
倉敷市	19
岡山市	8
県内(上記以外)	2
福山市	3
県外(福山市以外)	5
合計	122

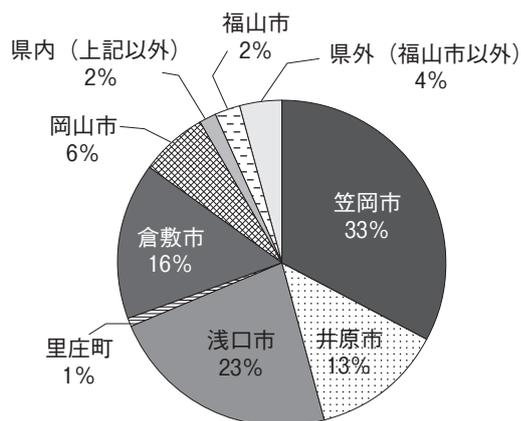


表3 過去5年入院患者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014年度	44	24	25	22	20	24	32	39	63	20	27	17	357
2015年度	38	47	30	41	47	47	31	42	56	43	32	30	484
2016年度	31	37	26	30	37	42	64	52	27	28	24	27	425
2017年度	28	18	13	17	17	28	32	29	18	17	24	28	269
2018年度	34	20	22	39	45	50	45	22	34	37	26	20	394

表4 予防接種・乳児健診・紹介件数の推移(人)

	予防接種	乳児健診	他院より紹介患者数
2014年度	3,917	226	164
2015年度	3,235	188	153
2016年度	2,921	175	160
2017年度	3,073	154	137
2018年度	3,336	194	122

表5 小児食物アレルギー負荷試験 患者数(人)

	小児食物アレルギー負荷試験 患者数
2014年度	22
2015年度	44
2016年度	67
2017年度	99
2018年度	94

皮膚科

水野 佳寿子

引き続き岡山大学皮膚科より派遣された非常勤医師で診療を担当させていただきます。

月・水・金・土曜日の午前に診療を行っています。常勤医師が不在ですので入院加療や手術が必要な患者につきましては、他科や他病院と連携しつつ診療を進めています。

当科の特徴としましては、今や皮膚科診療に欠かせなくなった診断機器であるダーマスコープを更新させていただきました。生検とあわせて診断精度が向上しております。

治療面では大型のナローバンドUVB機器が従来よ

り使用可能で、尋常性白斑や乾癬・紅斑症に積極的に使用しています。また治療抵抗性の疣贅に対しては凍結療法に加えてモノクロール酢酸による化学的焼灼も併用し効果をあげています。

大学からの派遣医師の変更が度重なり皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、大学人事との関係もございますのでしばらくは同様の状況が続くものと思われま。さまざまな制約はございますが、笠岡地区の皮膚科診療に貢献ができるよう努めて参りますので、ささいなことでもご相談いただければ幸いです。

眼 科

医長 渡邊 逸郎

当科では各種レーザー治療、硝子体注射、白内障手術、黄斑前膜手術などに加え、霰粒腫手術などの外来小手術や、眼瞼痙攣や片側顔面痙攣に対してボトックス注射などを行っています。

当科を受診される患者さんの多くは高血圧、糖尿病、透析導入されている方が多く、網膜循環障害の中でも直接視力低下を引き起こす黄斑浮腫という病態を伴っている方がおられます。このような方には、眼底レー

ザー治療やステロイドテノン嚢下注射、硝子体注射を行っています。

主に月、水曜日午後2時～3時と火曜日午後に眼底造影検査やレーザー治療、硝子体注射などを、金曜日午後に白内障手術を中心に行っています。

現状、医師1名、看護師1名、視能訓練士2名ではありますが、スタッフ一同これからも地域医療に貢献していきたいと思ひます。

ペインクリニック内科

部長 森田 善仁

ペインクリニック内科は、痛みを専門的に診断・治療する診療科として2012年11月に開設されました。当院ペインクリニック内科の特色は、インターベンショナル痛み治療と多職種連携による集学的痛み治療とを両立して実践していることにあります。ペインクリニック外来は、2017年3月よりペインクリニックセンターとしてリニューアルし、がんの痛み・緩和ケア外来を併設しました。さらに2018年4月より終末期がん患者さんの自宅療養を支える取り組み（在宅緩和ケア・在宅看取り）を開始しています。今後も井笠地域における痛みの専門診療機関として、「地域で痛みを支える」をモットーに患者さんの生活や心に寄り添う医療を行ってまいります。

診療実績

1) 受診者数

現在、月曜日、水曜日、金曜日の午前・午後、土曜日の午前（第2・第4のみ）で外来診療を行っています。1日当たりの外来患者数は、約20名となっています。2018年度の総外来受診者数は3,307名（前年度3,155名）、初診者総数は178名（前年度266名）、入院患者数は40名（前年度41名）です。

2) 疾患症状別

変形性脊椎症・関節症に伴う頸肩四肢痛、腰下肢痛、膝痛など運動器慢性痛が約半数を占め、次いで帯状疱疹関連痛、がん性痛、その他の神経障害性痛となっています。運動器疾患については整形外科、リハビリテーション科との院内連携を推進しています。また、帯状疱疹関連痛、がん性痛の緩和ケア、内科や透析患者のペインコントロール依頼も増加しています。

3) インターベンショナル痛み治療

今年度のX線透視下神経ブロックは876例（前年度829例）と横ばいで推移しています。腰部神経根ブロック（パルス高周波）、胸部・腰部硬膜外ブロックが多数を占めており、胸部神経根ブロック（高周波熱凝固）、硬膜外カテーテル挿入、硬膜外・クモ膜下ポート植込術、脊髄刺激療法なども行っています。

4) 薬物治療

非ステロイド性抗炎症薬やアセトアミノフェン、神経障害性痛治療薬やオピオイド鎮痛薬などをガイドラインに基づき使用しています。慢性痛に対する強オピオイドの適正使用を遵守することはもちろん

ですが、弱オピオイドや神経障害痛治療薬についても自動車運転等の危険を伴う機械操作時の注意喚起をするなど、きめ細かな服薬指導を心がけています。また、高齢者の慢性痛に対して漢方薬を活用し、ポリファーマシー対策や副作用の軽減に努めています。

5) 集学的痛み治療

痛みは体や心の不調を知らせてくれるバイタルサインです。当科では、なかなか治らない複雑な痛み（慢性痛症候群）に対し集学的痛み治療を行っています。「痛みサポートチーム」の専門スタッフが関わり、痛みを和らげてその人らしい生活を取り戻すために、体と心の両面から支援します。

心理療法（カウンセリング、認知行動療法など）について

今年度はペインクリニックの外来・入院患者に延べ178回のカウンセリングを行いました。慢性痛における心理的アプローチを必要としている患者さんは、長引く痛みで精神的に疲弊していたり、思考や行動の悪い癖が身につけていたりします。傾聴・共感的態度によるカウンセリングや、日記などの記録法を用いた認知行動療法的アプローチを行うことで、精神的ケアや

認知修正を図り、痛みと上手に付き合う生活を一緒に考えています。

ペインクリニックのリハビリテーションについて

今年度のペインリハビリテーションを受けた患者の合計単位数は754単位でした。

ペインリハビリテーションでは、痛みによって制限されている動作や痛みを引き起こしている動作を評価し、より生活にあう動作方法や環境の検討を行っています。また、可能な場合には自主練習をご提案し、身体機能の維持・向上に取り組んでいます。そして、動作面からの在宅生活のサポートを行っています。

6) がんの痛み・緩和ケア外来

がん患者さんの痛みや苦痛を緩和し、在宅療養を支援する専門外来です。外来治療でコントロール困難ながんの痛みに対しては、入院してオピオイドタイトレーション、腹腔神経叢ブロック、高周波熱凝固、硬膜外・クモ膜下ポートなど専門的ペインクリニック治療を行います。また、「住み慣れた我が家で最後まで過ごしたい」という患者さんに対しては、訪問診療による在宅緩和ケアを行い、がん終末期の自宅療養から看取りまで継続してサポートいたします。

麻酔科

2018年度の年間手術症例は1,863例（前年度：1,642例）、そのうち全身麻酔症例は234例（前年度215例）、脊椎麻酔症例94例（前年度66例）、緊急手術症例29例（前年度33例）でした。今年度のトピックとしては、整形外科の常勤医師増員、血管外科の新設により手術件数が増加したことです。また、胸腔鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲外科手術もコンスタントに行われるようになりました。ここ数年は、術式の多様化、手術患者の高齢化から、合併症・病態の複雑な重症例が増加傾向にあります。

そのような手術環境の変化に迅速に対応するため、

部長 森田 善仁

前年度より症例に応じて的確に重症度を判定し、その重症度に見合った周術期管理体制を構築する「手術症例重症度判定基準とその対策」のマニュアル運用、そして、軽症例であっても、全身麻酔は全例、術後回復室で全身状態が安定するまで監視する「術後回復室退室基準」を導入しており、一定の成果をあげていると思います。

今後も手術患者の高齢化・重症化が予測される中で、セーフティネットを構築し、より一層、周術期安全管理に努める所存です。

放射線科

部長 笹井 信也

2018年4月に放射線科常勤医となりました。日本全国で約5,000人の放射線診断専門医がいますが、その配置には偏りがあり画像診断の量と質は不均衡となっています。岡山県南西部医療圏においては倉敷市に多くの診断専門医が集中している一方で、笠岡市には診断専門医が0人の状況でした。CTとMRI等の高度診断機器を安全に、そして適切に運用するために放射線科医が関わることは必然的と考えています。

診療で画像診断の役割は大きくなっています。形態を評価することから機能を評価するための定量化を担うようになっていきます。大腸CT検査やMRIでの全身拡散強調画像といった新しい診断法が開発されています。こういった高度で先進的な画像診断は診療を大

きく前進させることができるので、笠岡第一病院でも行うべきと考えています。この思いで1年間が経過しました。CTとMRIの依頼から検査、そして診断報告までの流れを見直し、確立しました。大腸CT検査は、より簡便な前処置法の開発のために臨床研究を始めています。MRIでの全身拡散強調画像は、撮影と解析までを新たに構築して診療で利用されつつあります。

2019年はこの流れを引き続き行うとともに、シンプル画像診断「手を抜くことなく無駄を省く」を追求していきたいと思っています。また、CTとMRIの共同利用を推進して地域の画像診断の発展に努めていきます。

糖尿病内分泌内科

濱本 純子

毎週火・水・金曜日と第3土曜日に診察をさせていただきます。

糖尿病治療の主体は、食事・運動療法ですが、それらが実行できない場合、内服薬やインスリン等の治療を行っても、良好なコントロールを達成する事は困難です。そのため、外来指導のみで食事療法が改善できず、血糖コントロールが改善しない方に対して糖尿病教育・治療方針の見直しのための入院(約1～2週間)

を行っております。

今後も医師だけでなく看護師、管理栄養士、健康運動指導士、薬剤師といった職種スタッフが一丸となって患者の皆様と一緒に糖尿病治療に取り組んでいきたいと考えております。今後も、血糖コントロールが改善しない症例がありましたらご紹介いただければと思います。

腎臓内科

和田 佳久

診療日時：木曜日 午後2時～5時(受付)
担当医：川崎医科大学(腎臓・高血圧内科学)

末期腎不全による透析患者の世界的な増加から慢性腎臓病の疾患概念が提唱され、腎臓病に対して早期発見と早期介入が課題となっております。現在、血液透析患者数は33万人といわれており、かつては慢性糸球体腎炎からの腎不全へ移行が主な透析に至る原因でした。1988年以降には糖尿病性腎症から腎不全に移行することが腎不全の原因第一位となり、近年では喫煙、高血圧、脂質異常症、加齢、肥満といった動脈硬化因子からなる腎硬化症も原因として増加の一途をたどっ

ています。

当科では腎不全や血尿蛋白尿症候群、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎といった腎疾患だけではなく、高血圧や脂質異常症治療にも介入させて頂いております。腎臓病の成因には動脈硬化といった心血管イベントや糖尿病など他科領域にも密接に関係のある場合が多く、他科や地域医療を担う先生方との連携が重要となってまいります。これからは窓口の広い腎臓内科を目指して診療に取り組んでまいりますので、検尿異常や腎機能障害などお気軽にご相談いただけましたら幸いです。

肝臓内科

医長 森元 裕貴

毎週月・金曜日に、予約外来にて診療を行っております。

当院は、国の肝炎治療特別促進事業における肝炎一次医療機関に指定されております。これを受け、岡山県内在住のウイルス性肝炎患者さんに対し医療費公費負担制度を利用した抗ウイルス治療を行っております。なかでもC型肝炎におきましては、非常に効果が高く副作用の少ない経口治療薬を積極的に導入し、良好な成績を得ております。

また、慢性肝疾患に惹起される肝発癌に対し、血液検査と画像検査を併用した早期発見に取り組んでおります。発癌が認められた場合は、治療実績が豊富な高次医療機関へ紹介を行っております。

原因不詳の肝機能障害に対する診療も行っております。必要に応じて、高次医療機関への肝生検目的の紹介も行いながら、適切な診断に基づく治療方針立案心がけております。

血液内科

大槻 剛巳

毎週、火曜日午前中、血液内科を担当しております大槻剛巳です。今年度で担当を始めまして10年が経過しました。これくらいの時間を経ますと、外来をしている私の性格も出てくるようで、その期間おそらく変化が強くないであろうと思える患者には、次の外来を比較的先に設定し、その分、詳細な変化の追跡が必要な患者には、言葉も尽くして密に受診していただくようになってきました。その匙加減を適切に調整することで、患者の背景にある日常生活の質を護っていきたいという想いです。また、週一度の外来では、周辺の血液内科医常勤病院への紹介あるいは連携の必要性も高く、俊敏な判断での連携を目指しております。しかし、当科で外来診療中の症例が、入院などされる場合には、院内での緊密な連携をお願いする場合があります。適切な協同的な診療に感謝しております。

特に最近では、センター病院での化学療法後を当院で受け持つことや、加えて外来での輸血が頻繁になっている症例も多いです。治療の指示に合わせながら密接に患者自身の生活に対して医療チームとしての想いを注ぐケースが目立つようになりました。また、居住地の近隣の至便な病院でということ引き受けながら、まさしく日々のデータの動きや、患者の症状に合わせて、少しでも質の高い生活に近付けるようにと、専門性と普遍性を取り混ぜた対応を余儀なくされているようなケースもあります。

血液専門外来として、質の高い診療をします。そして、他科の診療を受けていらっしゃる患者についてのご相談にもお応えしていきますので、何卒よろしくお願いいたします。

神経内科

佐藤 恒太

神経内科は2012年10月に新たに開設され、当初は毎月第2土曜日に診療を担当させていただいておりましたが、2014年4月からは診療日が第2・第4土曜日に、2017年4月からは第1～4土曜日に拡大し、現在は岡山医療センターの真邊泰宏医師と佐藤の2名体制で外来診療を行っております。病院の広報や院内からのご紹介により、おかげさまで開設以来外来患者数が急激に伸びてきており、この地域の神経内科診療の需要が非常に高いことを実感しております。外来患者の疾患としては、認知症、パーキンソン病、ALS、末梢神経障害など幅広く診療を行っております。特に最近では大学病院以外の福山～倉敷地域の病院からの紹介も増えており適宜岡山大学病院と連携を取りながら診療を行っております。

限られた時間ではありますが、今後も地域の患者さ

んのお役に立てるよう笠岡の神経内科の中心施設として努力していく所存です。



乳腺甲状腺外科

野村 長久

乳癌は、女性の悪性腫瘍で最も多く、最近の統計では日本において、1年間に約9.5万人発症しております。女性の癌による死因では乳癌は第5位であり、検診で早期発見できれば、決して予後が悪い疾患ではありません。

乳腺疾患は乳癌だけでなく、乳腺症、線維腺腫、乳頭種などの良性疾患や乳腺炎、乳輪下膿瘍などの炎症性疾患などもあります。当科においては、マンモグラフィ、超音波、MRIなど検査機器が充実しており、検診から精密検査まで幅広く診察しております。

当科では、甲状腺疾患も診察しております。甲状腺疾患は、甲状腺癌や良性腫瘍など腫瘍性疾患とバセドウ病、橋本病などの機能性疾患に大別されます。

甲状腺疾患の多くは、専門的な診断・治療が必要で、手術療法、薬物療法、放射線療法など適切に行っております。

手術が必要な場合は、専門機関にご紹介いたしますので、お困りのことがございましたら、遠慮なく受診していただければ幸いです。

形成外科

岡 博昭

形成外科は、2019年4月より再度週3回の非常勤体制で診療を行うことになりました。月、水曜日は岡博昭・牟禮加医師（玉島中央病院 形成外科）が、午後2時から5時の外来診療を、金曜日は午前、午後鈴木良典医師（川崎医科大学附属病院 形成外科講師）が担当することとなりました。3医師ともに形成外科専門医の資格を有しております。形成外科では、皮膚腫瘍、顔面外傷、熱傷、難治性皮膚潰瘍、体表先天異常、癍痕（傷あと）やケロイドといった疾患を主に取

り扱っております。とくに難治性皮膚潰瘍は褥瘡を始めとして、糖尿病性、血管性、薬剤性など多種多様な病態を示しています。入院患者の高齢化が進む中、院内でも褥瘡・創傷回診として毎週月曜日午後2時より診療を行っております。当院には皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）が勤務しており、日々入院患者の褥瘡発生予防に努めております。また管理栄養士による栄養指導も合わせて行っております。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

リウマチ内科

赤木 貴彦

リウマチ内科は川崎医科大学リウマチ・膠原病科学教室より非常勤医師の派遣により診療を行っております。2018年度は前年度に引き続き、週1回、月曜日に赤木が専門外来を行いました。

2018度の診療した患者数は181名（延べ1,413名）でした。疾患の内訳は例年と変わりなく、関節リウマチを最も多く診察しています。

日本全体の高齢化に伴い、関節リウマチ患者の高齢化や高齢発症の関節リウマチが増加してきており、当院においても同様の傾向があります。高齢の方は、糖尿病や慢性腎臓病などの併存疾患や、関節リウマチによる肺病変など同時にもっている事が多いため、関節リウマチの治療方針に悩むことが少なくありません。そのため、個々の病状や生活レベルに合った治療を行うことが求められています。当院でも、併存疾患に対する介入に加えて、個々の状態に合わせて治療を行うように心がけています。

2019年度も赤木が週1回（月曜日から火曜日に変更）担当させていただきます。今後もリウマチ・膠原病診療の

拠点として、質の高い医療を提供できるよう努めて参りますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

表 疾患別内訳（人）

	2016年度	2017年度	2018年度
関節リウマチ	119	132	117
うち生物学的製剤使用	22	38	40
Sjogren 症候群	11	12	6
リウマチ性多発筋痛症	7	7	8
混合性結合組織病	2	2	0
SLE	1	1	1
強皮症	8	7	5
その他	36	47	44
計	184	208	181
延患者数	926	1,153	1,413

歯科では、むし歯、歯周病、ほてつ治療（入れ歯や被せ物の治療）を中心に、口腔粘膜疾患や顎関節症など幅広く治療を行っています。また、病院歯科の特徴を生かし、一般歯科診療所では対応が困難な有病者の歯科治療や、周術期の口腔機能管理、入院患者・関連施設入所者の口腔ケア（お口の衛生管理）や口腔機能管理（入れ歯、噛み合わせの調整による食べる機能の回復など）にも力を入れて取り組んでいます。

院内での取り組みとして、口腔自立度の高い患者を除くすべての入院患者を対象に入院時のお口の状態の簡易スクリーニングを行っています。口腔環境が劣悪な患者や咀嚼機能障害を有する患者を抽出し、早期に歯科が介入することで入院期間中の口腔内に起因する有害事象（誤嚥性肺炎、歯牙の脱落・破折による誤飲など）の予防や、栄養管理の一環としての口腔機能管理、経口摂取開始の支援を行っています。

また、歯科では多職種でのチーム医療連携にも力を入れています。院内NSTや関連施設での摂食カンファレンス、ミールラウンド（食事観察）では歯科の専門知識を生かし多職種連携のもと患者・入所者個々の状態に合わせた口腔管理、栄養管理に取り組んでいます。さらに、糖尿病チーム医療においても歯科の立場から糖尿病療養指導に携わっています。

歯科は今年で開設11年を迎え、これまで当院で積み重ねてきたものを学会や講演会で発表する機会も増えてきました。2018年度は歯科医師が1題、歯科衛生士が1題発表を行いました。引き続き院外での活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

常勤歯科医師1名、非常勤歯科医師1名、歯科衛生士3名の少人数の部署ですが、“お口から体の健康を守る”をモットーに患者の皆様へ質の高い医療を提供できるようスタッフ一同日々邁進していく所存です。

医師臨床研修

副院長 古川 洋二

2018年度は川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院からそれぞれ2名、計4名の研修医を受け入れました。皆さん早朝のカンファレンスから始まり、内科あるいは外科系の診療・手術見学、当直業務あるいは離島を含む院外の往診などまさに地域医療の醍醐味を経験されたと思います。1ヵ月間という短い期間の中、沢山のスケジュールに悪戦苦闘の毎日だったと思います。

専門医制度の見直しから地域医療の重要性が見直されつつあります。この病院で経験した内容が先生方の未来に少しでも役に立てれば幸いです。来年度からは専門医制度の改定もあり初期研修医、後期研修医、専攻医の研修を受け入れる予定となっています。よろしくお願いいたします。

診療情報管理室

科長 原田 真由美

1) 医局秘書

原田 真由美

医局秘書は、医師の診療に関する事務作業負担軽減および病院全体の業務全体最適化を図ることを目的に、協働する医療チームの一員として医師が本来の業務である医療行為に専念できるように医師の指示のもと事務的な業務をサポートしています。

主な業務は、秘書業務として医師スケジュール管理、学会や研究会などのイベント行事の運営支援、カンファレンス準備や資料作成、学会や講演会資料の作成、医局診療委員会や各種会議の資料準備や議事録作成、手術症例・研究業績・臨床研究データなど診療に関するデータの収集やデータ処理、文献検索、蔵書管理、さらに院外や他部署と医師との間を取り持つパイプ役も担っています。また、医師の指示のもと診察室での入力業務の代行や診療業務のサポート、診療情報提供書作成補助、診断書など書類作成補助、退院サマリ作成補助業務などを行っています。

定例会議では、医局秘書が支援を行うことで、これまで気づかなかった、あるいは埋もれていた問題や改善点など医局秘書としての目線での気づきなど活発に意見を出し合い、日々の業務が円滑に効率よく遂行出来るよう議論を重ねています。

来年度も個々の知識の向上と業務拡大、業務の質の向上を目標にマニュアルの整備、勉強会の開催など計画的にスタッフ育成を行い、医師、患者、コメディカル間の架け橋としてますます活動の輪を広げていきたいと思えます。

2) DPC・病歴管理

田中 千穂

DPC・病歴管理室では、国際疾病分類（ICD）による病名のコーディングや、病歴管理、退院患者の入院診療録の量的・質的点検、退院時要約（サマリ）の確認、各同意書の管理、「労働と看護の質向上の為にデータベース事業」のデータ抽出、厚生労働省へのデータ提出などを行っています。また、蓄積したデータを基に、疾病統計や手術統計など様々な統計資料を作成し、全職員が閲覧できるように院内ホームページ上に公表し、臨床・研究・経営等の指標として役立てるよう努めています。さらに院外ホームページを活用し、笠岡第一病院指標として診断群分類別患者数・手術等、当院の特徴や急性期医療の現状を地域の皆様にも公開しています。今後も適切な診療データの統計作成・活用ができるよう医師や看護師との連携を図りながら、日々のコーディングや病歴管理に努めて参ります。

1. 退院患者数比較（表1・2，図1・2）

退院患者数は2,806名、月平均では233.8名と昨年度より9.4%増加しました。科別で比較すると小児科では昨年度比50%の増加がみられました。その要因としては常勤医師の交代及び増員が挙げられます。

2. 平均在院日数比較（表3・4，図3・4）

平均在院日数は14.2日と昨年度と比べて変動はありませんでした。眼科の白内障手術、小児科の食物アレルギー検査目的の入院などが在院日数の短縮化に繋がっています。逆に呼吸器内科は高齢者の肺炎患者が多い為、在院日数が長くなっています。

3. DPC 頻発症例（表5）

2018年度の退院症例をもとに頻発症例の検討を行いました。当院で最も多い症例は「上肢末梢神経麻痺、手根管手術等」で全症例の10%を占めています。また、7月より血管外科医師の着任に伴い、下肢静脈瘤血管内焼灼術、四肢の血管拡張術・血栓除去術等が施行され「静脈・リンパ管疾患、手術あり」が頻発症例に上がりました。頻発症例の上位5症例には入っていませんが、MDC 6 桁では「040080細菌性・その他の肺炎」も181件と多く、人口の高齢化に伴い肺炎関連は例年上位に上がります。

表1 科別退院患者数比較 (人)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
内科	251	211	194	219	212
消化器内科	231	227	174	149	146
循環器内科	378	348	279	267	264
肝臓内科	—	—	44 ^{*1}	30	34
呼吸器内科	363	397	355	294	324
整形外科	765	658	647	743	707
脳神経外科	115	111	95	88	100
泌尿器科	218	250	246	197	219
小児科	359	498	426	265	394
形成外科	93	79	66	2 ^{*2}	—
眼科	144	156	173	189	152
外科	0	0	0	83 ^{*3}	102
ペインクリニック内科	31	24	31	40	40
血管外科	—	—	—	—	112 ^{*4}
合計	2,948	2,959	2,730	2,566	2,806

*12016年4月より常勤

*22017年4月より非常勤

*32017年6月より増員

*42018年7月より常勤

図1 科別退院患者数比較

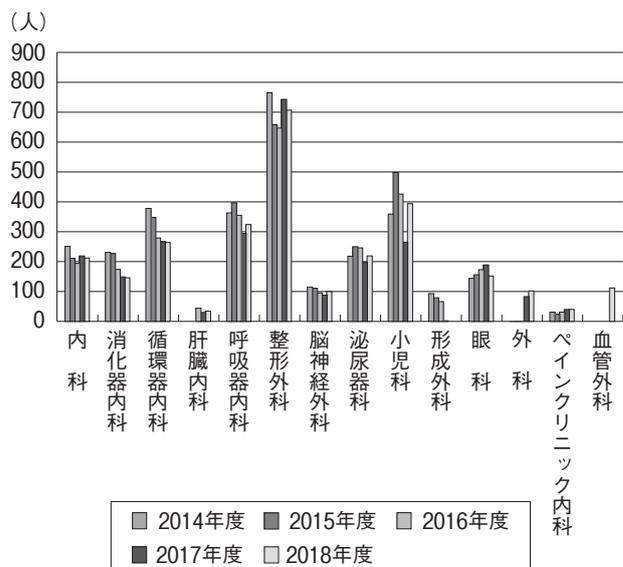


表2 月別退院患者数比較 (人)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
4月	235	261	246	219	237
5月	209	252	213	211	199
6月	255	225	210	194	210
7月	261	233	232	235	230
8月	267	282	237	211	273
9月	220	244	233	216	262
10月	245	250	267	208	245
11月	233	202	238	211	211
12月	309	281	230	222	274
1月	232	250	216	207	207
2月	234	231	193	194	229
3月	248	248	215	238	229
合計	2,948	2,959	2,730	2,566	2,806
平均	245.7	246.6	227.5	213.8	233.8

図2 月別退院患者数比較

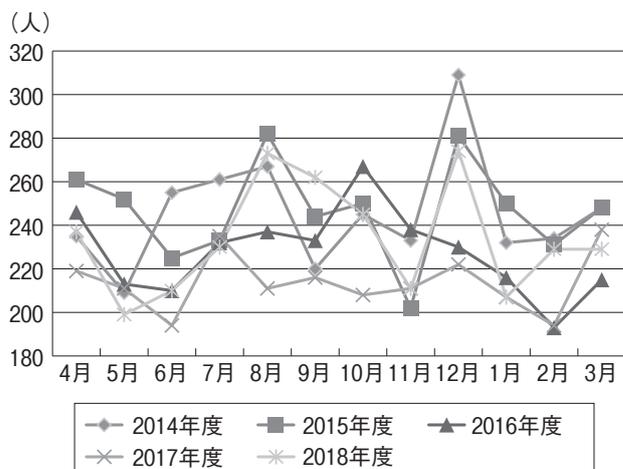


表3 科別平均在院日数比較（日）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
内科	15.5	16.3	17.5	16.1	19.5
消化器内科	15.4	13.1	12.3	17.5	11.5
循環器内科	11.3	14.8	16.3	16.8	14.8
肝臓内科	—	—	18.0 ^{*1}	29.0	21.7
呼吸器内科	20.6	19.3	25.7	23.1	26.5
整形外科	13.5	14.9	15.1	16.1	16.3
脳神経外科	23.2	24.6	29.6	24.1	21.4
泌尿器科	10.0	9.9	11.0	11.8	11.1
小児科	3.3	3.7	3.5	3.3	2.6
形成外科	24.0	26.0	29.9	1.9 ^{*2}	—
眼科	0.6	1.2	1.0	2.2	1.1
外科	2.0	1.0	0	12.5 ^{*3}	13.1
ペインクリニック内科	13.6	17.8	19.6	21.4	22.7
血管外科	—	—	—	—	2.7 ^{*4}
平均	12.8	13.5	14.1	14.1	14.2

*12016年4月より常勤

*22017年4月より非常勤

*32017年6月より増員

*42018年7月より常勤

図3 科別平均在院日数比較

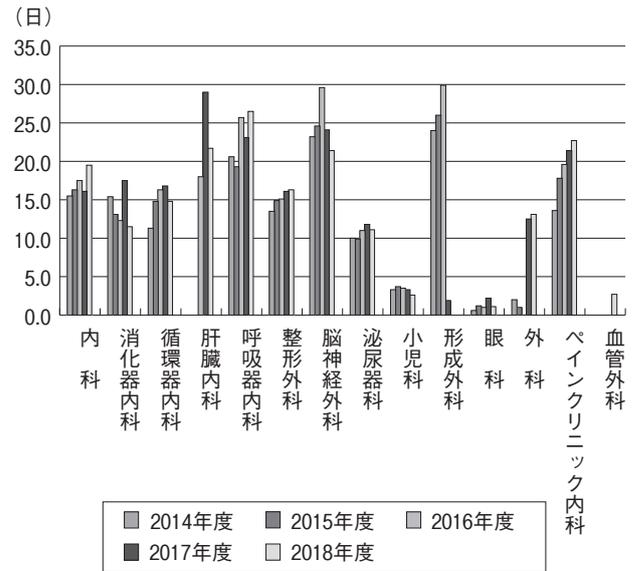


表4 月別平均在院日数比較（日）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
4月	12.8	13.3	13.4	13.4	14.9
5月	14.2	14.4	14.2	12.9	16.2
6月	11.6	15.0	14.3	14.1	13.8
7月	11.9	14.4	13.9	13.8	14.3
8月	11.3	13.0	15.2	14.3	13.1
9月	12.0	12.9	13.8	13.7	12.9
10月	13.0	13.2	12.0	12.8	12.5
11月	13.6	15.0	12.9	13.2	14.7
12月	11.0	11.9	14.2	14.3	13.6
1月	13.8	12.5	13.0	15.8	14.6
2月	14.0	13.8	16.5	16.0	15.2
3月	14.3	12.7	15.8	14.8	14.5
平均	12.8	13.5	14.1	14.1	14.2

図4 月別平均在院日数比較

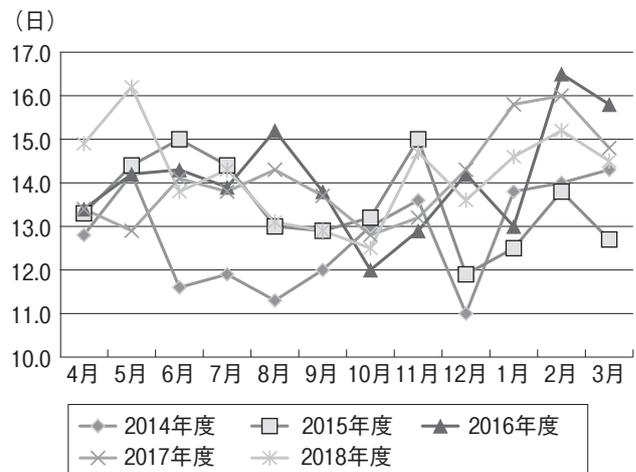


表5 DPC 頻発症例

診断群分類番号	名称	件数	比率	平均在院日数
070160xx01xxxx	上肢末梢神経麻痺，手根管開放手術など	271	10%	1.7
020110xx97xxx0	白内障，水晶体疾患，手術あり	126	4%	1.9
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎，手術なし，処置なし	80	3%	30.4
080270xxxx1xxx	食物アレルギー，小児食物アレルギー負荷検査あり	77	3%	1.1
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患，手術あり	68	2%	2.1

地域医療連携室

看護師 野村 良一
社会福祉士 古中 喜久江

地域医療連携室は室長（看護部長兼務）、看護師、社会福祉士（MSW）、事務員で構成しています。前方支援は看護師1名、後方支援は社会福祉士2名が行い、事務は1名と他部署からの応援体制で業務を行っています。

前方支援

前方支援の紹介件数（表1）は、他施設からの紹介件数が3,069件でした。内訳は、整形外科969件（31.5%）、依頼検査440件（14.1%）、循環器内科250件（8%）、泌尿器科179件（5.8%）でした。

依頼検査件数（表2）は、MRIが253件、CT167件で例年に比べて全体的に減少しています。

平均入院患者数は108.4人、在院日数14.1日、ベッド稼働率73.3%でした（表3）。在院日数は昨年度と変わりませんでしたが入院患者数と稼働率は上昇しました。

年度別転入院相談件数（表4）は196件でした。例年200件を超えていましたが、2018年度は200件に到達しなかった原因の一つに転入院の受け入れ日数（表5）が平均8日以上かかっていることが考えられます。引き続き受け入れ日数の減少に努め、地域の病院として手術後のリハビリ目的、在宅復帰としての支援、がん末期や状態悪化により最期を地元でという希望に沿えるように努めてまいります。

表1 紹介件数（件）

	内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	肝臓内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	神経内科	リウマチ内科	ペインクリニック	透析室	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	泌尿器科	血管外科	心臓血管外科	皮膚科	眼科	乳腺甲状腺外科	歯科	救急科	依頼検査	総計
他施設より	202	250	132	127	50	48	17	26	21	70	28	122	47	969	60	85	179	65	3	52	30	29	17	0	440	3,069
当院より	152	275	63	106	42	13	24	39	46	24	107	202	27	243	54	104	97	15	14	14	75	29	46	3	1,814	

表2 年度別依頼検査件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
MRI	277	210	288	295	253
CT	147	178	193	142	167
上部消化管内視鏡	16	23	18	20	16
骨塩定量	4	4	9	11	4
総数	444	415	508	468	440

表3 2018年度平均入院患者数・在院日数・ベッド稼働率

	2018年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月	3月	平均
平均入院患者数（人）	115.0	100.2	95.1	114.5	114.5	108.1	99.7	107.0	113.0	108.6	118.7	106.9	108.4
在院日数（日）	14.9	16.2	13.8	14.3	13.1	12.9	12.5	14.7	13.6	14.6	15.2	14.5	14.1
稼働率（%）	77.7	67.7	64.3	77.4	77.4	73.1	67.4	72.3	76.4	73.4	80.2	72.3	73.3

表4 年度別転入院相談件数（件）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
転院相談件数	187	187	221	239	196

表5 転入院受け入れ日数（日）

	2017年度	2018年度
当院から紹介した患者（日数）	7.98	6.53
その他の患者（日数）	9.97	9.53
当院とその他の平均日数	8.97	8.03

後方支援

後方支援の相談件数は、3,146件（外来81件，入院3,065件）でした（表6）。例年に比べ相談件数は減少しています。相談員が2名体制になったため、すべてのケースに対応することが困難な状況でした。病棟や外来スタッフで対応可能な場合は介入を行わなかったため、相談件数自体は減少していると考察します。しかし支援が必要な場合には、従来通りの関わりを行いました。退院支援の状況については、例年と同様、半数以上が自宅退院への支援でした。次いで介護保険施設入所、医療機関への転院支援という状況でした（表7）。

医療・福祉・介護の状況に関しては、高齢者の独居世帯や老老世帯の増加、家族機能の弱体化、貧困等の問題があり生活支援がますます必要になってきています。そのため院内では、入院時に病棟看護師が生活の視点でアセスメントを行っています。生活支援が必要な患者の皆様には、看護師から社会福祉士に相談依頼があり、入院早期から社会福祉士が関わりを行うことができています。院内では病棟カンファレンス、リハビリカンファレンス、入退院支援カンファレンスを定期的に行い、多職種で退院後の生活支援について検討を行っています。また、在宅療養への円滑な移行を支援するため、入院早期からケアマネジャーとの連携、退院前合同カンファレンスや自宅訪問を行いシームレスな支援を行っています。年間の合同カンファレンスは104件、自宅訪問は37件、他施設、他機関との面談は506件行うことができました。また、2ヵ月ごとに井笠地区の社会福祉士との情報共有や連携を目的とした、井笠地区医療連携委員会に参加しています。

社会福祉士は現在、2名体制になっています。その

ため入退院支援計画書1の作成が困難であり、入退院支援計画書2の作成を行っています。来年度は増員予定であり、入退院支援計画書の作成や、患者の皆様に対するきめ細かい支援が行えるようにしていきたいと考えます。2018年度は新人職員の退職が続き、日々の業務と並行して入職者の指導を行うことの難しさを痛感した一年でした。相談員の業務は多岐に渡るため、指導がスムーズに行えるようにマニュアルや到達目標を整備し、見直しを行いました。

来年度の目標は以下の2つを掲げました。

1. 関係機関から確実な紹介患者の受け入れと、連携の円滑化を図る。
2. 地域の医療機関、関係機関との連携を強化し、地域のニーズ状況を把握し情報共有に努める。
 - (1) すべてのケースにおいて1週間以内に紹介元へ経過・結果報告が出来るよう依頼をかける。目標100%
 - (2) 面会件数500件、挨拶回り60件。
 - (3) 転入院の受け入れ相談件数を200件以上。
 - (4) 転入院の相談を受けてからの受け入れ日数は、当院から紹介した患者の受け入れ日数を5日以内、他の患者の受け入れ日数は10日以内、両者の平均7.5日以内にする。

今後も病院の理念に基づき地域の医療機関、関係機関と情報共有をしながら業務を遂行していきます。2019年度は社会福祉士の実習受け入れを考えており、指導方法やマニュアルの構築が必要になっています。自分たちの業務を再度見直すことで業務拡大を進めていきます。

表6 外来患者・入院患者の相談支援件数（件）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
外来	314	394	321	239	81
入院	4,375	3,872	4,085	4,083	3,065
合計	4,689	4,266	4,406	4,322	3,146

表7 後方支援：退院先内訳（人）

退院先 \ 年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
在宅	325	324	365	314	313	325
医療機関	94	77	68	73	66	77
福祉施設	52	55	49	35	46	39
介護保険施設	82	71	74	102	116	99
その他	65	71	56	63	96	59
合計	618	598	612	587	637	599

注1) 在宅は、退院後ショートステイ、小規模多機能、宅老所の利用を含む。

注2) 福祉施設は、有料老人ホーム、養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者住宅、障害者支援施設とする。

注3) 介護保険施設は、介護老人福祉施設、介護老人保健施設とする。

注4) その他は、死亡とする。

2 人工透析センター

透析統括部長 原田 和博
科長 藤井美佐子
科長 亀鷹 孝行

I. 概要

当院は笠岡市で唯一の維持透析施設であり、タカヤクリニックとともに笠岡市、井原市をはじめ、周辺地域の血液透析治療に携わっています。1992年の開設以来、年間透析回数は毎年増加していましたが、2018年度は26,980回と前年度27,836回をやや下回りました。

当院の透析導入の原因疾患として、糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症の割合が高く、全国と同じ傾向です(表1, 2)。透析患者の全国平均年齢は68.2歳と高齢化が進み、当院平均年齢は69.9歳と全国平均を上回っています(表3)。透析年数は長期化し(表4, 5)、高齢化によって独居生活や福祉サービスを利用しながらの生活・通院となり様々な調整が必要になっているのが現状です。しかしながら、日本透析医学会で定められている診療・治療ガイドラインは全国値と比べ当院透析データは良好な結果が示されています(表6, 7, 8)。

II. バスキュラーアクセス(シャント)管理

バスキュラーアクセス(シャント)：(以下VA)は大変重要な維持管理の一つであり生命予後にも大きく関わります。特にVA関連トラブルは多く、定期的なVAエコー検査を実施することでVA機能維持や異常の早期発見に努めています(表9)。循環器内科と連携してVA血管造影(DSA)やVA狭窄に対するの経皮的血管形成術(PTA)を行い早急に対応しています。それでも、VA機能不全や突然のVA閉塞によりVA再造設になることもあります。今までVA造設は他医療機関に依頼していましたが、血管外科松前大医師就任により当院でのVA造設が可能になりました。患者の皆さんにとっても負担の軽減に繋がっています。

III. 栄養指導・運動療法

個々の患者さんにとって、よりよい透析治療、日常生活が送れるように医療ソーシャルワーカーや介護支援専門員に相談、調整をはかっています。透析を上手く続けていくためには、運動療法、栄養管理も重要です。運動療法として、理学療法士による体操や下肢エルゴメーターを用いた運動を行っています。また、管理栄養士による栄養状態の改善・維持を目的とした集団栄養指導を定期的に開催しています。

IV. 親睦会

透析患者の親睦会では昨年同様、「第3回 透析に

ついて学ぼう会」を11月11日に開催しました。今回はスタッフから、フットケア・かゆみ・ストレス対処の講演、橋詰博行医師より「透析中にかかりやすい骨と関節の病気」についてわかりやすく講演され、多くの患者および家族の皆様が理解を深める機会になりました。また、患者さんによるウクレレ演奏に合わせ皆で歌を歌い大変好評でした。今後も患者の皆様のご関心のあるテーマやご要望に沿った講演会の開催を考えています。

V. 業務改善効率化、透析通信システム Future Net Web+

昨年度から透析用監視装置を更新し、自動プライミングやオンラインHDF療法(血液透析濾過)に加え、I-HDF療法(間歇補充型血液透析濾過)対応機器を10台増設しました。オンラインHDFの臨床効果として抵抗性貧血、関節痛、掻痒感、イライラ感、不眠などの不定愁訴、透析低血圧など、長期透析患者にとって有用な治療法です。I-HDFは末梢循環障害の軽減、透析後倦怠感の軽減・痙攣軽減、血圧低下防止などに効果があるとされ、今後もこれらの治療法を有効に活用していきたいと思えます。

また、透析通信システムFuture Net Web+は業務効率改善に大きく寄与していますが、さらなる業務効率化、スタッフ業務を軽減できる可能性があり、このシステムの効率活用が今後の課題です。

VI. 最後に

今年度は人工透析センター所属の臨床工学技士の業務を拡充しました。手術室の人員不足により当センター所属の臨床工学技士が心臓カテーテル検査や下肢PTAに就くことになりました。臨床工学技士の活躍が期待されます。

7月の西日本豪雨で倉敷真備地域は甚大な被害を受けました。まび記念病院の透析患者2名を受け入れ、約半年間、当院での透析治療を続けました。当院の患者さんに被災はありませんでしたが、災害に対する認識・備えについて再考する機会となりました。岡山県では透析医部会災害情報ネットワークによる情報の共有が可能となっていますが、物資・人員の確保も問題になることが考えられます。

今後も患者の皆さんに安全な透析治療を提供するとともに、個々に合わせた医療・看護を提供できるように取り組んでいきます。



2018年11月11日 第3回透析について学ぼう会

表1 患者主要原疾患

	2016年 全国値 (%)	2018年 笠岡第一病院 (%)
糖尿病性腎症	38.8	32.6
慢性糸球体腎炎	28.8	22.3
腎硬化症	9.9	17.7
多発性嚢胞腎	3.6	4.6
慢性腎盂腎炎, 間質性腎炎	0.9	0.6
急速進行性糸球体腎炎	0.8	2.3
自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.7	0.6
不明	9.8	14.9

表2 導入患者主要原疾患

	2016年 全国値 (%)	2018年 笠岡第一病院 (%)
糖尿病性腎症	38.8	32.6
慢性糸球体腎炎	28.8	22.3
腎硬化症	9.9	17.7
多発性嚢胞腎	3.6	4.6
慢性腎盂腎炎	0.9	0.6
急速進行性糸球体腎炎	0.8	2.3
自己免疫性疾患に伴う腎炎	0.7	0.6
不明	9.8	14.9

表3 患者平均年齢

	2016年末 全国値 (歳)	2018年末 笠岡第一病院 (歳)
男性	67.3	69.6
女性	69.6	70.2
平均	68.2	69.9

表4 透析期間別患者割合

	5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上
2016年末 全国値 (%)	47.3	24.8	12.7	6.9	3.9	4.3
2018年末 笠岡第一病院 (%)	46.3	25.1	9.7	7.4	6.3	5.1

表5 既往歴・合併症の割合

	2016年 全国値 (%)	2018年 笠岡第一病院 (%)
虚血性心疾患の既往あり患者割合	10.4	25.0
脳出血の既往あり患者割合	6.7	11.5
脳梗塞の既往あり患者割合	18.8	19.6
四肢切断あり患者割合	4.0	8.1
大腿骨頸部骨折の既往あり患者割合	5.2	4.7

表6 2016年版 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン 透析会誌49(2) : 89-158, 2016

		2016年末 全国値 (%)	2018年末 笠岡第一病院 (%)
HD 患者透析前ヘモグロビン濃度	10~12g/dL の患者の割合	63.4	76.1

表7 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン 透析会誌45(4) : 301-356, 2012

		2016年末 全国値 (%)	2018年末 笠岡第一病院 (%)
透析前リン濃度	3.5~6.0 mg/dL の患者の割合	66.4	73.7
透析前補正カルシウム濃度	8.4~10.0 mg/dL の患者の割合	79.4	88.6
intact PTH	60~240 pg/mL の患者の割合	59.8	73.1
リン, 補正カルシウム濃度達成	上記リン, カルシウム濃度いずれも達成した割合	53.8	66.9
リン, 補正カルシウム濃度, PTH 達成	上記リン, カルシウム, PTH すべて達成した割合	33.1 (2012年末)	50.3

表8 慢維持血液透析ガイドライン 透析会誌46(7) : 587-632, 2013

		2016年末 全国値 (%)	2018年末 笠岡第一病院 (%)
single pool Kt/V (Kt/Vsp)	1.2以上の患者の割合	86.7	96.4
透析時間	4時間以上の患者の割合	85.4	95.5
最大透析間隔日の体重増加	6%未満の患者の割合	84.1	91.1
平均除水速度	15 mL/kg/時以下の患者の割合	調査なし	90.2

表9 2018年度シャントエコー・シャントPTA件数

シャントエコー	
79件	
シャントPTA	
AVF	41件
AVG	2件

3 医療技術部

薬剤管理科

科長 垣木 由子

2018年度の薬剤管理科は、薬剤師の入職があり、現在は薬剤師7名（常勤5名、非常勤2名）、アシスタント1名の合計8名の人員になりました。年齢層も若手、中堅、ベテランと構成も良く、それぞれが実力を発揮して上手く連携を取りながら日々業務を行っています。

業務時間は平日午前8時30分～午後6時30分、土、日、祝日午前8時30分～午後5時30分をローテーションで勤務し、業務内容は今までと同様に入院調剤・服薬指導、無菌調剤・抗癌剤混注業務、DI業務、医薬品管理業務、外来業務、治験業務、TDM業務等を行っています（表）。それに加え、3月からは病棟薬剤業務実施加算を申請し、薬剤師の病棟常駐化を本格的に開始しました。また今年度は、薬学部5年生の長期実務実習の受け入れを8月～10月、11月～1月の各11週間、各1名ずつ行いました。

2018年度は部署目標を【部署のボトムアップをする】とし、最大目標にしていた病棟薬剤師の常駐化を達成

することが出来ました。薬剤師の存在感は十分アピール出来たと思います。

2019年度の部署目標は【服薬指導と退院時指導を合わせて月300件以上を目指す】としました。この目標に取り組むためには、業務全体の効率化・見直しと部署内のコミュニケーションの充実が不可欠であると考えています。具体的には、簡易懸濁法を含む調剤業務の簡素化、患者指導箋の作成や指導方法の確立、薬剤リスク評価の標準化などが挙げられます。部署内のコミュニケーションに関しては、部署の朝礼時間に薬剤情報カンファレンスを設け、各病棟担当者より気になる患者を提示してもらい、皆で検討し情報共有を図っています。

薬剤師の病棟常駐化を始めたことで、他職種からの期待がますます大きくなったことは十分感じています。その期待に応えるため、皆で助け合い一つにまっとうって頑張りたいと思います。

表 2018年度業務報告

	外来 処方箋数 (枚)	院外 処方箋数 (枚)	入院					無菌製剤混注		介護老人 保健施設 処方箋数 (枚)
			処方箋数 (枚)	注射箋数 (枚)	服薬 指導件数 (件)	退院時服薬 指導件数 (件)	医薬品鑑別 報告件数 (件)	IVH (件)	抗癌剤 (件)	
4月	121	8,080	2,109	2,361	197	10	133	106	8	101
5月	114	7,824	1,967	1,833	174	19	117	95	20	91
6月	130	8,219	1,912	2,047	197	27	132	40	18	93
7月	151	8,110	2,343	2,491	243	29	154	42	15	98
8月	175	8,496	2,542	2,318	237	47	155	40	10	150
9月	142	7,684	1,984	2,182	213	31	136	27	7	96
10月	136	9,055	2,062	2,368	256	32	167	15	20	111
11月	127	8,034	2,158	2,180	222	47	143	8	11	93
12月	125	8,397	2,249	2,258	249	59	148	29	12	100
1月	178	8,612	2,337	2,262	239	35	170	1	8	129
2月	163	8,017	2,162	2,221	230	51	119	8	5	165
3月	117	8,272	2,100	2,393	280	54	132	29	15	90

図1 服薬指導件数・退院時指導件数推移

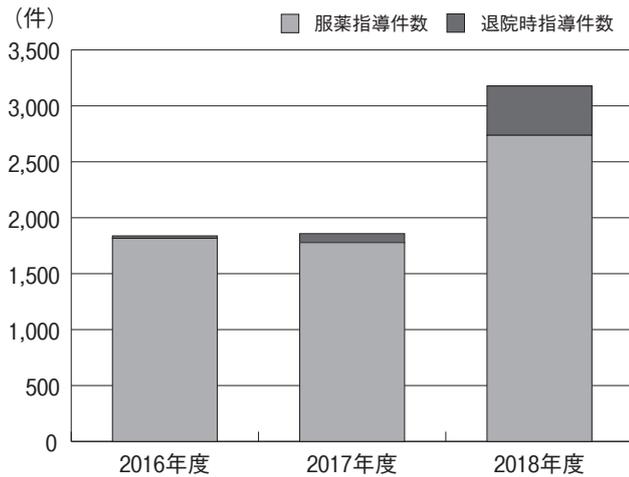


図2 無菌調剤混注業務件数推移

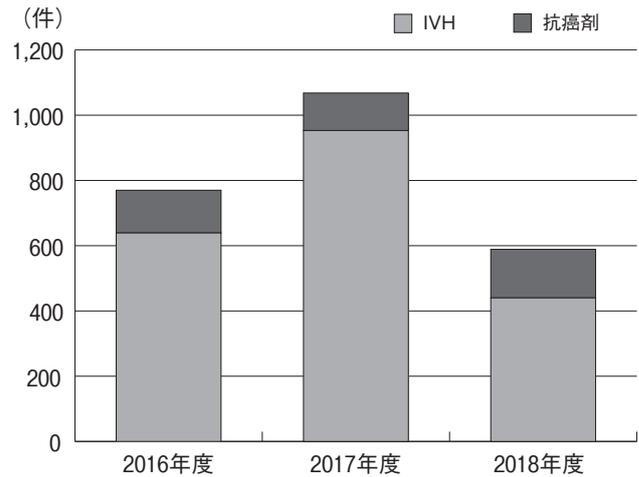
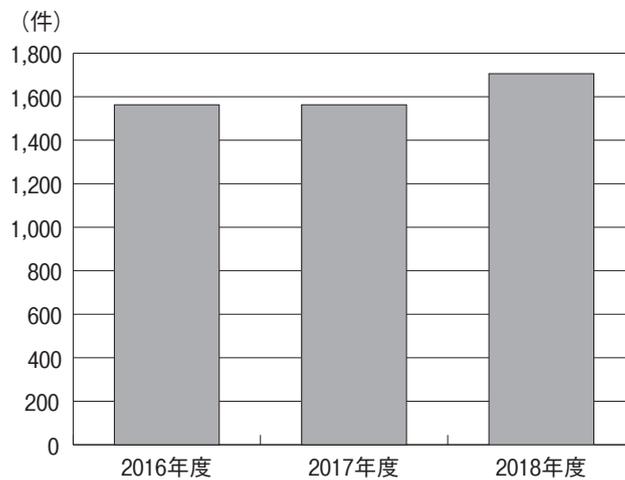


図3 医薬品識別報告件数推移



2018年度の服薬指導と退院時指導の合計件数は前年度の約1.7倍、特に退院時指導の件数は約5.5倍と増加しました(図1)。要因は薬剤師の増員ですが、退院時指導件数の増加は複数回関わった患者が増えたことを表しており、このことは単に数字上の増加だけではなく、内容も充実した業務を果たせたと考えています。

無菌調剤混注業務件数は前年度と比較し、IVHは約半分の件数になりましたが、抗癌剤は約1.2倍に増加しました(図2)。高齢化が進み、経口摂取が困難になる場合が増えることも考えられるのですが、NSTの活躍でなるべく経口摂取を推奨する治療方針が要因の一つではないかと考えています。また抗癌剤の混注業務は、外科の常勤医師が来られたことで、これからも徐々に増加していくと考えられます。今後は医師や他職種、委員会と連携して業務を進めていきたいと思っています。

医薬品識別報告件数は増加傾向がみられます(図

3)。2017年に持参薬鑑別プログラムが導入されたことで医師や看護師等へスムーズな情報提供が可能となり、薬剤師業務では処方監査や初回面談、服薬指導等に活用しています。持参薬の確認は、病棟薬剤業務実施加算の算定に必要とされる業務の一つですので、より重要視していきたいと考えています。これからはこの情報をもとに、薬剤師から医師へ処方提案を積極的に行っていききたいと思います。

勉強会

医局との合同勉強会は、昨年度に引き続き月曜日の午後6時からとその他随時で開催しています。またコメディカルを含めたWebカンファレンスも随時行っています。2018年度は約40回行いました。また、各自で時間を調整し、岡山県病院薬剤師会主催の勉強会や各種講演会、学会等に出来る限り参加し、知識を深めています。

栄養管理科

科長 高田 尚子

2018年度の栄養管理科は、病院 管理栄養士5名、瀬戸いこい苑 管理栄養士1名、給食センター 管理栄養士1名、調理師13名、調理員1名、調理師パート2名、調理員パート3名の構成となっています。

2018年度は調理師の入退職者が多く、指導に時間を要しましたが、新たな発見も多く、業務を見直すきっかけになりました。今後も、業務の効率化を常に考えながら、より働きやすい職場となるよう、栄養士、調理師間のコミュニケーションを密にし、取り組んでいきます。

・栄養管理

入院患者の皆様に対しては、栄養指導、栄養管理計画に加えてNST委員会、褥瘡対策委員会、糖尿病サポートチームによる医師を中心とした専門職で構成するチームによって評価を行い、適切なアセスメントを行っています。

昼食時には、食事内容や食事療法の説明を行っています。食事の様子を観察し、適切な食形態の調整を行っています。ご本人の摂食嚥下、病状に合った食事の提供と栄養や病状の改善の一手となり得るよう取り組んでまいります。

食欲不振の方へ提供しているなごみ食は、患者の皆様のご意見などを取り入れ見直しを行っています。甘い味に偏らず、塩分のあるものを取り入れ、食べやすいメニューに変更しています。

・栄養指導

栄養指導では、継続的な方はもちろん、医師、外来スタッフが、受けたことのない方や長期間受けたことのない方に対してお勧めすることにより、初めて受ける方が増加しています。

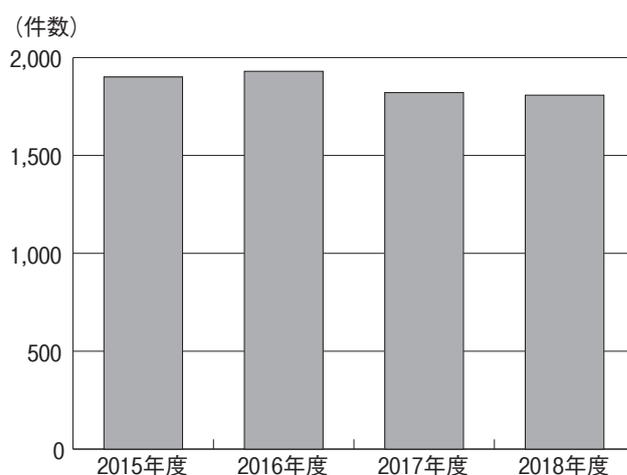
人工透析センターの担当栄養士の交代に伴い、新たなメンバーが集団指導を行い、患者の食生活の実態把握のため、アンケートを実施し、今後の指導に役立てるよう取り組んでいます。

2018年度は栄養指導業務を主とする栄養士が9月に退職した為、栄養指導の件数は減りましたが、今後も医師、看護師と連携を取り、患者の皆様が安心して過ごせるように、より良い教育を行っています。

また、糖尿病の教育入院では、食事療法の大切さについて理解していただくよう努めています。

栄養指導件数（算定分）を図に示します。

図 年度別栄養指導件数（算定分）の推移



・食事の提供

笠岡第一病院では、食材を地産地消にこだわるとともに出来る限り旬の食材を使用するよう心掛けています。また、入院患者の皆様喜んで頂ける食事を提供できるよう日々、献立内容を評価し、改善を行っています。病態や嗜好による食事に対する個別対応も行っていきます。

2016年10月より笠岡第一病院、瀬戸いこい苑、瀬戸内荘3施設の食事の提供を開始しました。1日の延べ食数は、約800食です。

・業務改善

管理栄養士と調理師で「軟菜食」「職員食」「新人教育」をテーマにチームを作り、取り組んでいます。

- ・調理師の休憩開始時間を見直すことで、慢性的に休憩が取れない状況が改善されました。
- ・スタッフへ「分かりにくいこと」「改善したいこと」等のアンケートを行い、入職者が働きやすい職場となるよう、提案を行い改善に繋げています。
- ・新人を対象とした連絡ノートの活用を開始しました。
- ・コンベクションオーブンを使用する際、温度設定がわかりやすいように、食材別に一覧表を作成し作業の効率化を図りました。

加熱調理した食品を急速冷却する機械、ブラストチラーや食品を真空の状態でも保存できる真空包装機を利用し、翌日のゆで野菜については前日に調理を行っています。また、カット野菜やチルド野菜を利用し、仕込み時間や調理時間の短縮に繋げています。今後も、安全で質の高い食事の提供に努めていきます。

臨床検査科

科長 高松 邦樹

2018年度のスタッフは4月に2名・6月に1名が新たに加わり10名（パート2名）体制で業務を行いました。新スタッフのトレーニングを早期に行い、早出・オンコール体制の充実を図りました。8月の病院機能評価更新受審に向け各種書類の準備ならびに整理整頓・環境の美化にも努め、S評価は得られませんでした。検査関連項目全てに於いてA評価の“適切に行われている”を取得できました。また、検体検査の品質・精度管理の向上にむけた測定標準作業書の作成も行ってあります。生理機能検査では循環器領域の超音波検査をはじめ育成ローテーションにより技術の習得に努めました。昨年同様に業務改善を行い臨床へ迅速で質の高い報告へ繋げたいと思います。

1. 検体検査

院内検査件数は生化学的検査をはじめ増加しました。外注検査件数では外科系医師の増員により病理組織検査が増加しました。

院内新規項目として心筋トロポニンI、TP抗原定量および水痘帯状疱疹ウイルス抗原を追加しました。測定機器については(1→3)-β-D-グルカン測定装置 ES Analyzer (写真1)を新規導入し検査当日報告が可能になりました。更新機器として全自動化学発光免疫測定装置 Alinity が導入され測定精度の向上ならびに稼働中の試薬交換が可能になるなど利便性が良くなりました。また、血小板凝集能測定装置 HEMA TRACER ZEN (写真2)に更新され測定方法が全血法に変わり測定手技の煩雑さが軽減されました。

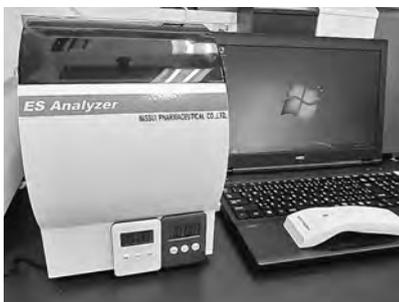
2. 生理機能検査

業務内容および心電図・心エコーなど各検査項目の件数は昨年とほぼ同様に推移していましたが、血管エコー検査については血管外科 松前医師が着任し大幅に増加しました。皮膚灌流圧測定装置 (写真3)が更新されトラブルも無くなりスムーズな運用が可能になりました。

表 院内使用自動分析装置

生化学的査	キャノン TBA-c16000 2台
血液学的検査	Abbott CELL-DYN サファイア
	Sysmex CS2100i
免疫学的検査	Abbott ARCHITECT i-2000SR
	全自動化学発光免疫測定装置Alinity
	β-D-グルカン測定装置ES Analyzer
凝固検査	Sysmex CS2100i
糖質関連検査	アークレア-ADAMS HYBRID AH8280 2台
血小板凝集能検査	HEMA TRACER ZEN
尿検査	栄研 US-2200 2台
輸血検査	カインス DGTherm DGSpin
血液ガス検査	シーメンス RAPIDPoint500 2台
救急外来	フクダ電子 Microsemi LC-687CRP
	富士フイルム 富士ドライケム NX500

(1→3)-β-D-グルカン測定装置
ES Analyzer (写真1)



血小板凝集能測定装置
HEMA TRACER ZEN (写真2)

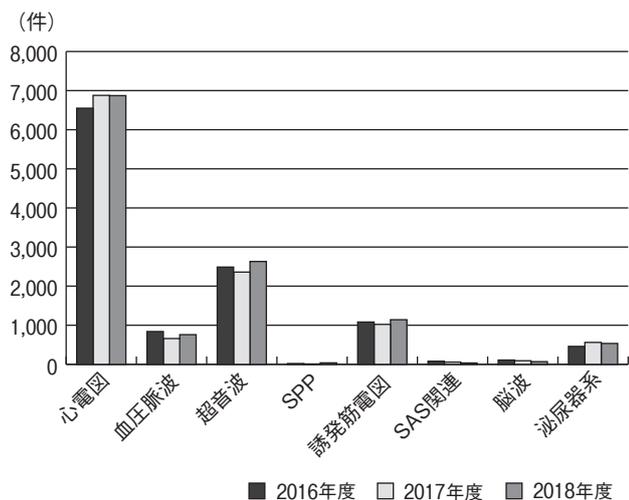


皮膚灌流圧測定装置
Nahri MV monitor SRPP (写真3)



図表1 生理機能検査件数推移

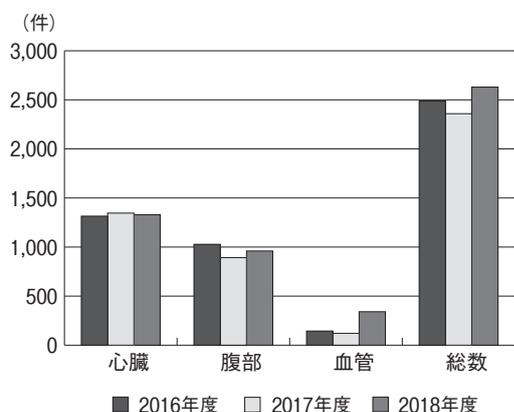
(件)



	2016年度	2017年度	2018年度
心電図	6,550	6,878	6,872
血圧脈波	839	660	759
超音波	2,487	2,359	2,630
SPP	21	10	38
誘発筋電図	1,082	1,022	1,141
SAS関連	77	57	35
脳波	110	92	68
泌尿器系	459	561	534

図表2 超音波検査件数内訳

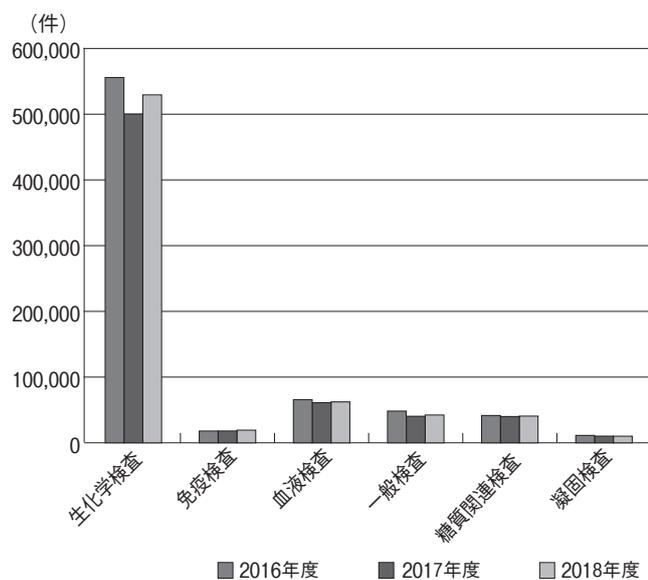
(件)



	2016年度	2017年度	2018年度
心臓	1,315	1,346	1,329
腹部	1,028	892	960
血管	144	121	341
総数	2,487	2,359	2,630

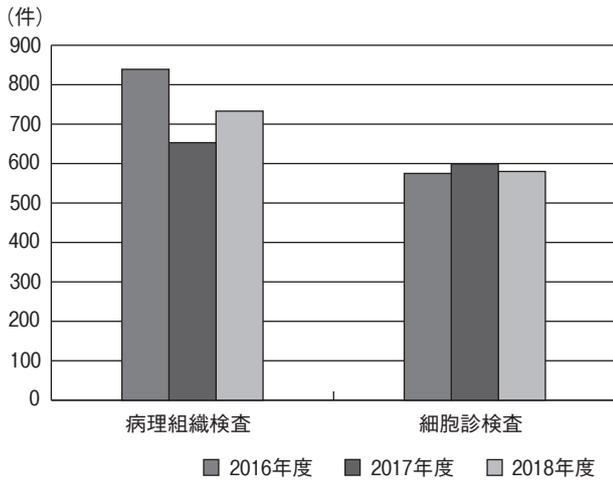
図表3 院内検査項目総数

(件)



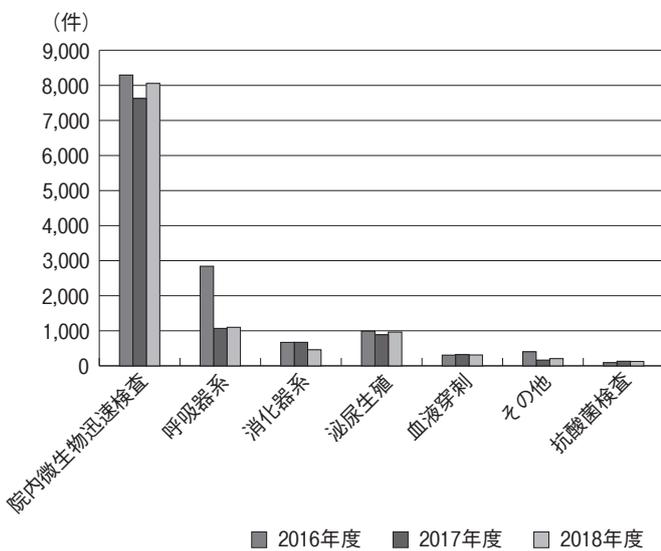
	2016年度	2017年度	2018年度
生化学検査	555,828	500,218	529,458
免疫検査	17,996	18,056	19,339
血液検査	65,773	61,071	62,262
一般検査	48,308	40,453	42,316
糖質関連検査	41,605	40,061	40,693
凝固検査	11,331	10,224	10,136

図表4 病理, 細胞診件数



	2016年度	2017年度	2018年度
病理組織検査	839	653	733
細胞診検査	575	599	580

図表5 院内微生物迅速総数と細菌培養件数



	2016年度	2017年度	2018年度
院内微生物迅速検査	8,296	7,625	8,057
呼吸器系	2,842	1,069	1,100
消化器系	670	672	458
泌尿生殖	987	886	964
血液穿刺	307	319	311
その他	400	165	206
抗酸菌検査	89	132	125

【はじめに】

2018年度は4月に笹井信也医師が常勤の放射線科専門医として赴任、放射線科部長として就任いたしました。笹井医師は以前より遠隔画像診断で連携していた岡山画像診断センターの副院長として活躍していましたが、本年度より当院の画像診断部門を統括することとなりました。

笹井医師の赴任と同時に画像診断部門の見直しが行われ、検査オーダーの簡略化や撮影方法の統一、新たな画像処理方法といった動きがみられました。また手探り状態で行っていた検査手技を的確な指示のもとで、最適な方法・無駄のない検査進行を行うことが可能になりました。

検査に対する所見入力レスポンスも向上し、検査終了後即座に対応可能な状況で、画像診断をもとにした治療への素早い移行に貢献できていると考えています。関連施設からの紹介患者さんも当日のうちに所見返信され、より緊密な医療連携が構築されています。さらに放射線科専門医の常勤態勢により画像診断管理加算2の取得が可能になりました。条件として挙げられている上記の診断レスポンスもほぼ100パーセント近くで推移し、病院経営の面からも貢献できています。

笹井医師が力をいれている大腸CT (CT-Colonography) は本年度は120件を超えました。健康教室をとおして地域住民への説明会を行ったり、技術的な勉強会の開催や出席で検査数の増加と質の向上を図っています。

画像処理の分野も進歩が進んでおり、笹井医師の指導のもと、画像処理装置 ZIO Station 2 も最新のバージョンに更新でき、様々なソフトを活用し新たな処理に挑戦しています。

2018年10月にはマンモグラフィ検診施設認定を更新することができ、2名の認定女性技師の役割が今後も重要になってきます。

上記のとおり変革の多い年となりました。インフラ整備が整いつつあり、今後に生かされるような業務を目指しています。

以下、2018年度画像診断センターにおける活動内容の概要について報告をいたします。

【本年度検査実績】

2018年度の各部門の総検査数、ならびに前年度比を表と図1、2に示します。

表に示すごとく、多くの分野で検査数の増加がみられます。外来部門の増設に伴い検査の幅が増えたことも要因と考えられ、血管外科の開設により下肢血管の造影CTや下肢静脈MRVの件数が増加しています。下肢MRV撮影は経験の少なかった分野ではありますが、様々な撮影方法を試行錯誤し、治療・手術等に役立つ画像を提供できるように励んでいます。

CT・MRI部門は特に大幅に検査数が増加しています。上記のとおり新しい科の開設や大腸CTの増加が要因と考えられています。大腸CTでは前処置（前投薬・検査食）を最新の薬剤等に変更し、検査説明等を診療放射線技師が行うことでより丁寧で安心して検査を受けていただく体制が整いました。患者の皆様にも受けやすい検査として理解していただくため、院内・院外での啓発を続け、増えつつある大腸癌の対策として発展が望まれます。

また放射線専門医が常駐することで造影CT・MRIの割合が増加しました。造影オーダーを簡潔にし、主治医の立ち会いの必要性が無くなったことで検査を行いやすくなったことが反映されていると考えられます。また急変時にも適切な対応ができており、検査の安全性も担保できています。

MRIでは無駄な撮影を省き、検査時間の短縮を図りつつ検査の質と効率をあげることが課題となりました。撮影内容を見直し、3次元撮影法を活用することが提案されています。また以前からの懸念であった拡散強調画像 (DWI) を全身で撮影するBody Diffusionの画質の向上を図っています。核医学施設のない当院において、病巣の有無や広がりを画像化し、定量的に経過観察を行うことを目標に新たなソフトを導入して新たな撮影方法としての啓発を行っています。

血管外科の開設により、CTやMRIを使用した血管撮影の増加に伴い下肢の血管内治療も増加しています。本年度は30件を数え、今後も治療の増加が期待されます。

本年度も1名の部署員がX線CT認定技師の資格を取得しました。またマンモグラフィ検診認定施設の更新も行い、各部門がそれぞれ責任をもって活動している状況です。この動きが他の人に影響し、さまざまな部門で広まってゆくことを期待しています。

【おわりに】

2018年度は放射線科専門医を迎え、多くの動きが見られた年でした。

現在も画像情報システムの構築がすすんでおり、診察の現場での3次元画像構築も可能となりました。新しい発想に基づきさまざまな提案がなされる中で院内が活性化し、関連病院との密な連携が構築されるように頑張っています。

2019年度は被ばく管理の義務化が検討されています。現在行っている管理をさらに飛躍させ、柔軟に対応できるように情報収集に励みます。

このような来年度に向けた大きな流れに対応できるように、各自が自覚をもって精進する必要性を強く感じています。

表 各検査前年度比（件）

	2017年度	2018年度
一般撮影系	25,471	26,552
C T 検査	4,144	4,796
M R I 検査	2,188	2,557
乳腺撮影	808	782
造影検査	1,877	2,196
骨密度測定	454	485
血管撮影	128	151

図1 一般撮影系検査数推移

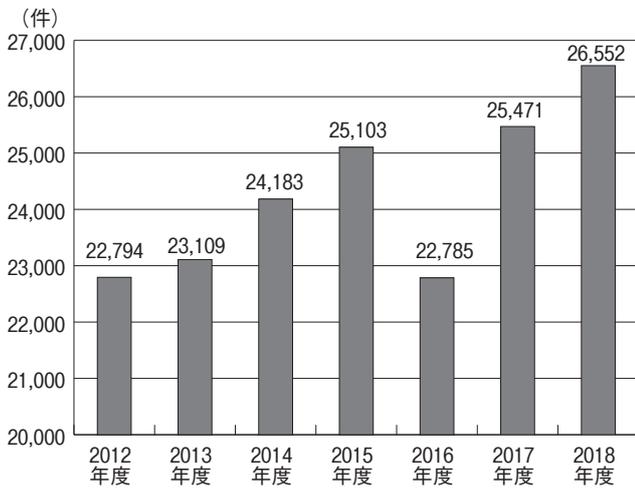
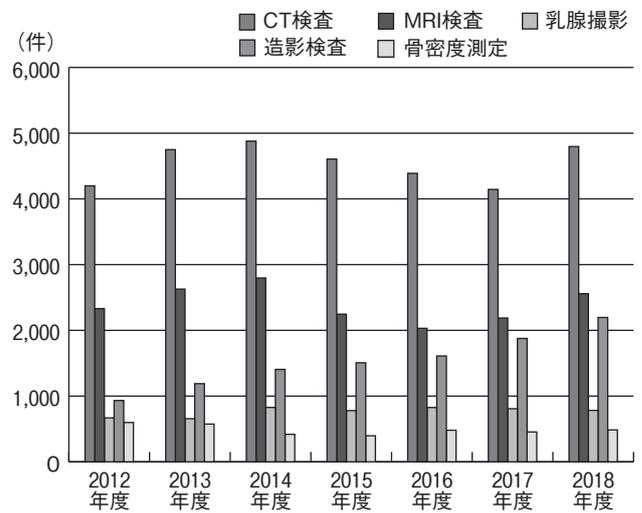


図2 各検査数推移



リハビリテーションセンター

【はじめに】

2018年度は新卒の理学療法士、作業療法士の男性スタッフ2名を迎えてのスタートとなりました。今までは圧倒的に女性スタッフのほうが多い部署でしたが、ここ最近では男性スタッフの入職率が増え、今年度は男女比が10:9と初めて男性の割合が上回る職場となりました。

今年度を振り返ると年度の途中で2名の退職があり、4名の産休・育休の長期休暇者が出るなど人員面においては非常に厳しい状況でした。なかなか現状の体制を維持することが難しく体制の見直しを余儀なくされました。より効率的に業務を行えるように改善を行ってきましたが、結果としては各スタッフに大きな負担のし掛かる事になってしまいました。しかしながら、厳しいときこそ人は成長できます。新人スタッフの急成長により、なんとかこの窮地を乗り切ることが出来ました。このような状況だった為に年度初めに考えていた事が実行に移せないままに終わってしまった部分も多くありますが、来年度は4名の理学療法士（新卒2名女性、既卒者2名女性）の入職が決まっています。そして長期休暇者も帰ってきます。もう一度初心に戻り業務内容をしっかりと見直し、業務の幅を広げて地域の方々に必要とされ、信頼されるリハビリテーション科を目指して行きたいと考えています。来年度もスタッフ一同、力を合わせて頑張っていきます。

【トピックス①】 担当 茅本 洋平

今年度は心臓リハビリテーションを行う上で必須とされる呼気ガス分析装置（ミナト医科学社製）を導入いたしました。これに伴い今までは当院で実施できなかった心肺運動負荷試験（以下、CPX）という検査が行えるようになりました。

CPXを行うことで運動耐容能および生命予後の指標とされる最高酸素摂取量が測定でき、検査結果より対象者ごとに至適運動強度が設定可能となりました。

リハビリテーション科 科長 高橋 正弘

またリハビリテーションや在宅での自主練習期間中に実施した運動療法の効果について、フォローアップCPXを行うことでしっかりと客観的に判断することが可能となりました。その検査結果を踏まえ、より質の高い運動療法の提供に向けて、リハビリスタッフだけでなく循環器内科医も交え皆で考え、定期的に運動内容を見直す取り組みを行っています。

CPXが本格的に実施可能となり3ヵ月弱が経過しました。ここまで延べ11件と実績的にはまだまだ乏しい状態です。今後はプロトコルを作成し、より定期的にフォローアップができるよう環境整備を行っていきたいと考えております。また機械操作が複雑なため、勉強会（座学、実技）を開催し一人でも多くのスタッフがCPXを行うことができるよう取り組んでまいります。

【トピックス②】 担当 河田 拓真

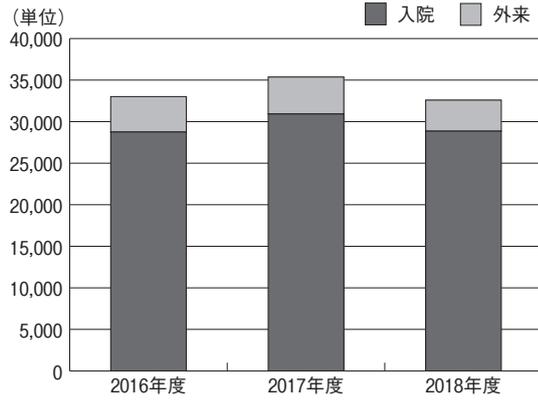
今年度は手外科患者を対象にした術前カンファレンスを新たに開始しました。整形外科医師とリハビリスタッフとの治療方針の確認・議論を目的としており、受傷機転やレントゲン所見から術式やリハビリテーションプログラムの検討を行っています。具体例としては、腱損傷を呈した患者への早期運動療法の可否や、骨折手術時の固定方法の確認などを行い、運動時期や安静度の検討を行っています。

さらに、不定期ではありますが整形外科医師から整形疾患に対する講義を開催していただいております。基礎知識の向上を図っております。

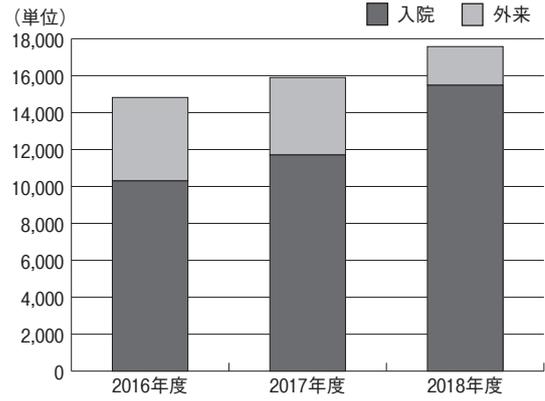
術前カンファレンス開始後から、医師とリハビリテーションスタッフの共通認識を確立することで、よりスムーズな術後リハビリテーションの移行と効果的なリハビリテーションが可能となりました。

今後も整形外科医師と積極的な意見交換を図り、将来的には文献抄読会など、さらに議論の発展が行えるような環境を作っていきたいと考えております。

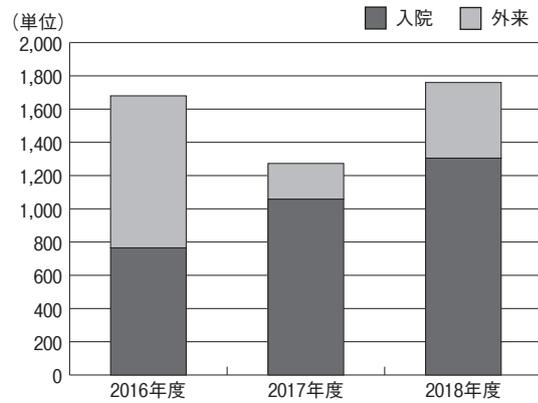
理学療法実施単位数



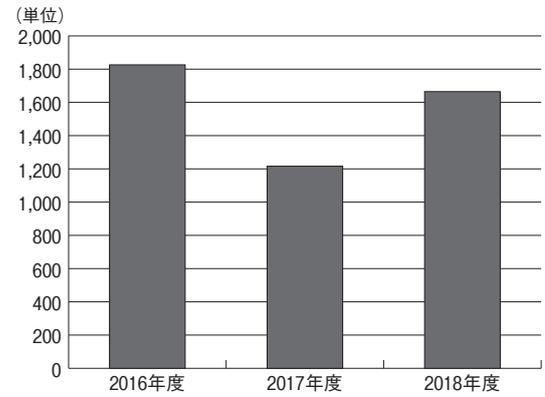
作業療法実施単位数



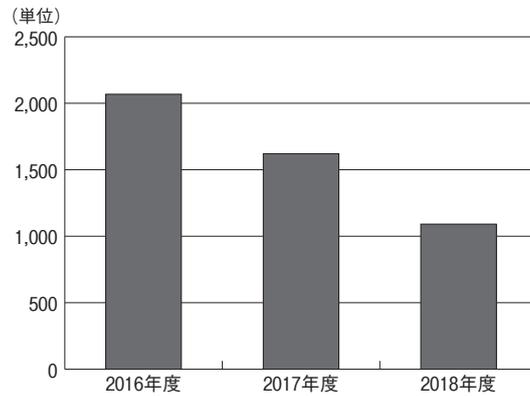
言語療法実施単位数



摂食機能療法実施単位数



訪問リハビリ実施単位数



笠岡手外科・上肢外科センター

センター長 橋詰 博行

手外科・上肢外科センターは海が見える玄関の西側まで病院外来を拡張し、2017年3月より名実ともにスタートしています。今後とも専門性を生かして治療を続けてまいります。

手外科・上肢外科手術例は過去5年間で2014年度1,380例(1,160人)、2015年度1,322例(1,076人)、2016年度1,236例(1,014人)、2017年度1,348例(1,113人)、2018年度1,491例(1,110人)でした。年度内で1,500例という手術目標にはわずかに達しませんでした。過

去最多の手術数でした。

2018年度手外科・上肢外科関連の学術業績は全国学会発表4、地方会・講演発表9でした。上肢外科サマーセミナー in Kasaokaは第14回目となりました(表)。特別講演に香川大学整形外科・リハビリテーション科講師 加地良雄先生と、近畿大学医学部整形外科教授 柿木良介先生をお招きし、活発な討論が行われました。全出席者数は56人でした。

表 第14回 上肢外科サマーセミナー in Kasaoka (2018年8月4日)

I	はじめに 午後1時30分～1時40分 笠岡第一病院 院長 橋詰 博行
II	基調講演 午後1時40分～2時40分 座長 島村 安則 先生 AO法の基礎と手外科への応用 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科運動器外傷学講座 教授 野田 知之 先生
III	一般演題・ワンポイントレッシン 午後2時40分～4時40分 座長 小西池 泰三 先生 (1) 整形外科医(特に手外科医)が知っておくべき保険について 笠岡第一病院 整形外科 小坂 義樹 (2) 関節窩軟骨下骨の3次元形態評価 川崎医科大学 脊椎・災害整形外科 高田 逸朗 先生 (3) 修復不能な肩甲下筋腱断裂に対する小胸筋移行術(山門法)の治療経験 岡山赤十字病院 整形外科 佐野 博和 先生 (4) アスリートに生じた肘関節脱臼骨折・舟状骨骨折・豆状骨脱臼骨折同時受傷の1例 岡山済生会総合病院 整形外科 森谷 史朗 先生 (5) RAに対する人工手関節の2例 岡山大学病院 整形外科 沖田 駿治 先生
IV	特別講演 (1) 午後5時～6時 座長 今谷 潤也 先生 新鮮肘関節靭帯損傷の治療を再考する 香川大学整形外科・リハビリテーション科 講師 加地 良雄 先生 (2) 午後6時～7時 座長 西田 圭一郎 先生 腕神経叢手術のピットフォール 近畿大学医学部整形外科 教授 柿木 良介 先生
V	終わりに 笠岡第一病院 院長 橋詰 博行

内視鏡センター

消化器内科診療部長 宮島 宣夫

【笠岡第一病院内視鏡センター設立】

2008年4月に内視鏡室から内視鏡センターと改名し、充実した医療を提供しております。当内視鏡センターでは安全かつ苦痛の少ない内視鏡検査を効率よく実現できるように努めております。通常、当院では鎮静を行わず検査を行っていますが、鎮静の必要性がある場合は鎮静下にて検査を行っており、その際は自動監視装置を設置し、血圧、脈拍、血中酸素飽和度など、患者のモニタリングを行い、安全で楽な内視鏡検査の提供を心掛けています。上部消化管内視鏡検査の施行中は患者用モニターを通じて、自身の胃の中を見ることが可能です。上部消化管内視鏡検査では食道、胃、十二指腸疾患に対する内視鏡診断、内視鏡的胃瘻造設術など行っています。栄養サポートチーム（NST）の活動とともに胃瘻造設に付随する内視鏡検査も増加しつつあります。泌尿器科領域では膀胱鏡検査も実施しております。

【内視鏡センターの特徴】

当内視鏡センターは消化管内視鏡検査用検査室と泌尿器科用内視鏡検査室の2室を併設しております。

消化器科の内視鏡検査システムは上部消化管内視鏡スコープ5本（経口内視鏡2本、経鼻内視鏡3本）、下部消化管内視鏡のスコープの2本（すべて可変式スコープ）を使用し、2018年度、光源波長を変えられる最新型のオリンパス社製 EVIS-LUSERA-ELITE 内視鏡装置を導入し、早期癌の発見に寄与しています。

消化器内視鏡検査件数（図1）、治療件数の年度別推移（図2）は以下の通りです。健康管理センターの健診部門の受診者が増加しており、精密検査の必要者が増えており、EMRの手術待ちが延長されています。

内視鏡検査の安全性を高める上で、内視鏡の洗浄・消毒について重点を置き、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器内視鏡技師会の内視鏡の洗浄・消毒に関するガイドラインを参考にしてマニュアルを作成しました。ジョンソン&ジョンソン社製の内視鏡洗浄装置を2台導入し、現在消化器内視鏡技師が洗浄・消毒を行っております。

図1 消化器内視鏡検査件数推移

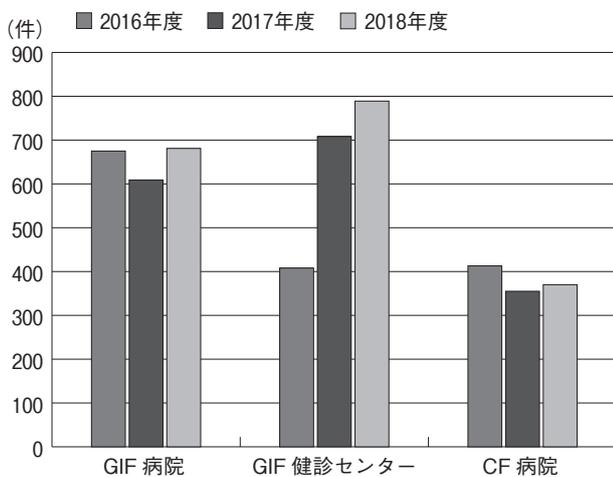
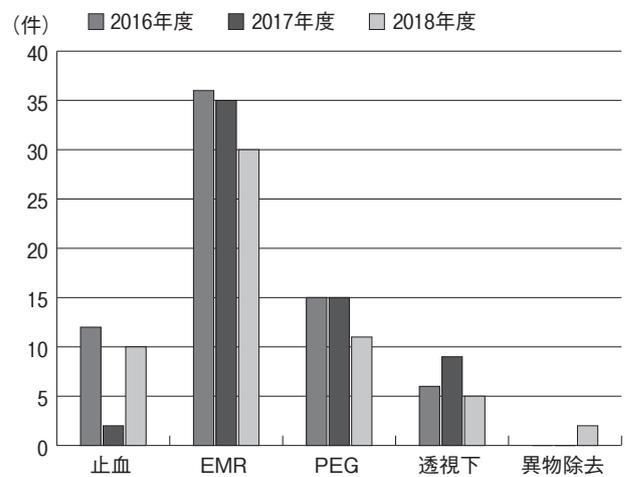


図2 消化器内視鏡治療件数推移



4 新規導入機材

友國 雅也・浅尾 昌彦

当院では“医療の質の向上”“医療安全”“患者さんの診療環境の改善”を目的として施設、機材の新設・更新をしています。2018年度は下表の機材の新設・更新を行いました。

購入日	品名	数量	メーカー名	業者名	配置部署
2018年 5月30日	マルチ周波数体組成計 MC-780A	1	タニタ	共和医理器	健康増進クラブ ONE
6月12日	ウィズエア― DVT 本体 38014-001	6	原田産業	カワニシ	手術室
6月27日	CALNEO Smart 16525337	2	富士フイルム	富士フイルムメディカル	放射線科
7月17日	ELITE 光学視管 WA2T412A	1	オリンバスメディカルシステムズ	西日本メディカルリンク	手術室 (泌尿器科)
7月23日	下肢静脈瘤血管内 レーザー EL1470	1	インテグラル	西日本メディカルリンク	手術室 (外科)
	TLA ポンプ TLA-P	1			
7月27日	汎用分光光度計分析装置 ES アナライザー 59570	1	日水製薬	エバルス	臨床検査科
7月30日	心電・呼吸送信機 LX-8100	1	フクダ電子	フクダ電子	5階病棟
7月31日	電動診察台 EX-CS3	3	タカラベルモント	西日本メディカルリンク	臨床検査科
9月7日	内視鏡洗浄消毒装置 OER-4	2	オリンバスメディカルシステムズ	共和医理器	内視鏡センター
		1			健康管理センター (内視鏡室)
9月20日	ヘマトレーサー ZEN S12HTZ1001	1	エルエムエス	エバルス	臨床検査科
9月26日	リカベント トータルサイクル BT-6572	1	酒井医療	五洋医療器	瀬戸いこい苑 (通所リハビリテーション)
	ドクターメドマー DM-6000	1	メド―産業	五洋医療器	瀬戸いこい苑 (通所リハビリテーション)
9月27日	オキシバルR OLV-4201	2	日本光電	日本光電	3階病棟
10月10日	BIS コンプリートモニタリング システム A-3100C	1	日本光電	日本光電	手術室 (麻酔)
	バイタルセンサS TM-2590N	1	エーアンドデー	日本光電	瀬戸いこい苑 (入所)
10月15日	心電・呼吸送信機 LX-8100	2	フクダ電子	フクダ電子	5階病棟
10月17日	全自動血圧計 TM2657P-JC	1	エーアンドデー	五洋医療器	外来
10月29日	LED 透過型顕微鏡 (一眼レフカメラシステム) CI-L	1	ニコン	エバルス	臨床検査科
		1			臨床検査科
10月30日	エアロモニター AE-310SRC	1	ミナト医科	五洋医療器	リハビリテーションセンター
11月13日	電動ギブスカッター OSCIMED2000 396-002-01	2	村中医療器	カワニシ	外来 (整形外科)
12月10日	消化管内視鏡システム EVIS LUSERA ELITE	1	オリンバスメディカルシステムズ	共和医理器	内視鏡センター
12月19日	マイコ洗浄消毒器 022040	1	小川医理器	西日本メディカルリンク	4階病棟
		1			5階病棟
12月26日	超音波診断装置 Xario100G	1	キャノンメディカルシステムズ	キャノンメディカルシステムズ	タカヤ クリニック
	超音波診断装置 Xario200G	1			ME センター
2019年 1月11日	ナハリレーザー血流計 MV100SRPP11	1	エムアイディ	共和医理器	臨床検査科
1月21日	OS クレーブ75	1	大平製作所	共和医理器	歯科
1月22日	VA ハンド器械インプラント	1	シンセス	カワニシ	手術室 (整形外科)
1月29日	デフィブリレータ TEC-5601	1	日本光電	日本光電	5階病棟
	デフィブリレータ TEC-5631	1			外来 (救急室)
		1			手術室
		1			血管造影室
3月6日	シャワー入浴装置「美浴」NS5000	1	エア・ウォーター	五洋医療器	看護管理室 (特浴室)
		1			瀬戸いこい苑 (入所)
3月19日	大型吸引器 TAF-S2 型 TAFS2	1	新鋭工業	西日本メディカルリンク	健康管理センター (内視鏡室)

購入日	品名	数量	メーカー名	業者名	配置部署
3月28日	エレメント+レッグエクステンション	1	テクノジム	共和医理器	健康増進クラブ ONE
	エレメント+レッグプレス	1			
	エレメント+チェストプレス	1			
	セレクション PRO ラットマシン	1			
	セレクション PRO トータルアブドミナル	1			
	セレクション PRO アッパーバック	1			
	エキサイト リクライン1000	1			
	Kinesis One	1			
3月29日	ネクサスRセット840タイプ CR-660	3	ケーブ	共和医理器	看護管理室

下肢静脈瘤血管内レーザー TLA ポンプ

血管外科が開設され、下肢の静脈瘤の手術をするために新規に購入しました。静脈弁不全を伴った伏在静脈内にレーザー光を照射し、収縮・閉塞させて静脈逆流を止めることを目的としたこれまで以上に低侵襲治療をサポートします。

下肢静脈瘤手術の標準的麻酔に使用する機器です。血管内焼却術では疼痛抑制、皮膚、周囲組織の熱傷予防に加え、治療静脈径を減少させることができるため、効率的な治療が行えます。

シャワー入浴装置「美浴」

ミストシャワーにより、お湯に包まれるような柔らかな感触を楽しめ、5分間ほどの入浴時間で身体全体を温め、全身洗浄もすっきり行えます。心臓や身体への負担が極めて少なく、疲れずに入浴できます。浴室内に湯気や熱気がこもらず、入浴者が溺れる心配もなく、介助者の身体的・心理的負担が軽減できます。

CALNEO Smart

デジタルX線画像診断パネル。撮影画像内のノイズを自動抽出、分離することで画像を最適な状態に表現する画像処理技術を用いて低線量かつ高画質な画像を実現しました。1枚のパネルでの画像の保存ができ、電子カルテへの送信も迅速に行えます。

消化管内視鏡システム EVIS LUSERA ELITE

オリンパス社の内視鏡システム最上位機種。従来のハイビジョン画像を大幅に上回る高精細画像を実現し、2段階フォーカス切替え機能が搭載されています。がん等の微細病変の早期発見に貢献する狭帯域光観察も進化し、観察性能が向上しています。

内視鏡洗浄消毒装置 OER-4

従来、内視鏡の洗浄消毒にはホルマリンを使用していましたが、スタッフへの曝露問題を解決すべく、過酢酸にて洗浄消毒できる装置へ更新しました。わずか18分で2本のスコープを同時に洗浄・消毒できます。過酢酸消毒液は短時間で高水準消毒が可能で、排液の環境中への影響も少ないとされています。

デフィブリレータ TEC-5631

救急室、手術室、血管造影室の除細動器を更新しました。心電図だけでなく、SPO2、ETCO2などのモニター機能も充実しています。3ステップ操作で使用するスタッフの使いやすさを追求しています。セルフテスト機能もあり、日常点検と合わせてより安心、安全な状態で待機できます。

2018年度看護部の方針・目標

看護部長 森岡 薫

1. 適正な看護職員配置より

(1) 離職率の低下，定着率の上昇

看護職の離職は、昨年度と比較すると半減しています。退職要因を分析すると「体力不足・体調不良」が30%と多く、年長者の退職が目立ちました。続いて「介護」「転居」がいずれも20%です。「煩雑な現場」や「人間関係」はありませんでしたが、一人短期間で退職した仲間がいました。現状に油断せず、更なる減少を目指していきます。

また今年度も看護職の病院見学が非常に多かった年でした。再就職の候補には挙がる病院と感じます。ならば、なおさら魅力ある職場を目指し、離職率の低下にむけ努力したいと思います。見学の結果、面接から採用となり仲間となった看護職も多く、安定した定着を守りたいと思います。

(2) 各部署間の連携強化

(3) 一般病棟の夜勤体制の見直し

一般病棟の夜勤体制を限られた人員の中で検討しています。医師の増員に伴い手術件数は増えており、手術日のみならず準夜3人体制の日を増やしました。そうすることで日勤体制に少なからず支障が生じますが、各部署協力しあい乗り切っています。今後も引き続き、看護師3人夜勤に向け人員確保のみならず、夜勤の業務改善も続けていきたいと考えています。切れ目のない連携と応援体制、情報共有を目的に強固な体制を構築したいと思います。

2. 医療安全風土の醸成より

(4) 医療安全体制における報告・検討を現場に活かす。

医療安全に対する部署目標は多く、其々の現場で委員を中心に活動をしています。現場でのアクシデントはリアルタイムで報告があり、素早く検討を始める風土を感じます。毎朝の看護部ミーティングではその情報を共有し、意識を高め現場に啓蒙していききました。

さらに看護部の「医療安全カンファレンス」は、医療安全管理者が中心となり積極的に検討する場となっています。今年度は医局を巻き込み、フローチャートや手技を統一することができました。部署を超えた手技の統一や、共通認識の場としても有意義な機会となっています。

上席者や委員の思いだけでは風土は変わるはずもなく、現場の看護師一人ひとりのリスク感性が、さらに高まるように看護部全体で活動していきます。

3. 業務の効率化より

(5) 適正な時間管理（DiNQLの活用）

「DiNQL事業」に参加して3年目となりました。これは、日本看護協会主催の「労働と看護の質向上のためのデータベース事業」です。データを客観的に分析しながら、論理的な思考で業務の効率化や改善目標に活かせると考えています。2018年度の全国参加病院は570病院、参加病棟5,098病棟でした。

看護部の「DiNQL検討会」では、自部署の目標、根拠、テーマ等、データを用いて様々な視点で意見交換をしています。コツコツと、他部署に助けをいただきながら集めたデータです。業務の効率化に向けて、話題になることや活用することが増えてきました。

そして院内の「業務推進発表大会」では、稲村美穂師長と「DiNQLから見えてくるもの」を発表することができました。看護部のみならず他部署の職員に活動内容や、看護部の指標データに基づいた目標管理を知ってもらう、絶好の機会となりました。その勢いで日本看護協会主催の「DiNQL大会」に参加し、大杉靖子師長が「データを多角的に活かす目標管理」を発表しています。全国規模で発表することで、当院における取り組みの自信に繋がっています。

今後も看護研究や業務改善、業務の効率化を目指すとき、気軽にこのデータを活用し、根拠に基づいた業務改善の視野が広がるに違いありません。

(6) コスト意識の定着

「物品管理委員会」を中心に地道な活動を続けていますが、まだまだ課題は多くどこか委員会任せ、困ったら中央材料室という気風を感じます。「8S活動」で積極的に取り組んだ頼もしい部署もありますが、「自分たちの物品は自分たちで管理する」、このコスト意識の啓蒙は続けていきたいと思っています。

4. 教育体制の整備より

(7) ラダー評価と目標管理との連動

2018年度は、新たな教育体制を始動しました。従来の目標管理に看護部独自のラダー評価、当院の人事考課も連動し、人材育成の充実を目指しています。1年間の最終評価があちこちで行われていますので、教育体制の成果も期待するところです。2年目に向け長期的な啓蒙は必要ですが、これからも一人ひとりのキャリアアップを大切に、

成長しあえる組織でありたいと思います。

(8) 現任教育の見直し

看護部教育委員会が中心となり、現任教育を見直しました。「看護職員一般研修」「看護部管理者研修」と、2本立てで研修を開催しています。本来外部講師にお願いすることが多かったのですが、今年度は看護師長達に任せました。それぞれの立場から日々の行動を振り返る有意義な研修となり、参加者に好評でした。

(9) 看護計画の活用

看護計画は記録委員の活躍で、評価や修正が積極的に行われています。現場では「NANDA-I」を活用しながら個別性を重視し、患者参画型の看護計画を励行しました。看護過程を展開する中で、それがモチベーションの向上に繋がっていると実

感しています。今後もこの姿勢を続けていきたいと思っています。

看護部の方針 2019年度 上記 1～4

看護部の目標

1. より(1) 離職率の低下、定着率の上昇
 - (2) 各部署間の連携強化
 - (3) 一般病棟の夜勤体制の見直し
2. より(4) 医療安全体制における報告・検討を現場に活かす
3. より(5) 「ベッドサイド看護」の啓蒙と定着
 - (6) 動線を考えた業務の工夫
 - (7) コスト意識の定着
4. より(8) 新人教育新体制の定着
 - (9) 中途採用者研修体制の構築

看護記録検討委員会

委員長 大杉 靖子

看護記録検討委員会の目的は、看護実践における看護記録の質の向上を図ることです。外来、病棟、手術室、人工透析センターの看護師11名で構成し、各部署間の情報を得ながら団結力のある委員会を目指しています。

2018年度の活動内容

1. 研修会の開催

- ・一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の院内研修
- ・院外看護必要度ステップアップ研修 8名参加
- ・看護記録の必要性、記録の注意点についての院内研修（新卒看護師、中途採用看護師）
- ・NANDA-I 看護診断基礎編の院内研修（新卒1年目～3年目看護師、中途採用看護師）

2. 看護記録の質向上について

- ・患者参画型看護計画の実施
- ・看護記録の質的監査方法の見直し
- ・一般病棟の重症度、医療・看護必要度の質的監査
- ・転棟サマリーの中止

今年度は、転棟サマリーの中止に向け検討しました。退院支援カンファレンスの記録へ移行し、必要となる情報の共有や記録の時間短縮ができ好評です。また看護診断、看護計画立案や評価の監査方法について見直し、業務改善に繋がっています。

看護必要度の研修会テーマは、「診療報酬改定に伴う必要度の変化とC項目の評価の注意点」でした。研修後には、正しく評価出来ているか互いに確認し合う様子があり、嬉しく感じています。その一方、患者参画型看護計画の実施件数は少なく残念でした。2019年度は、各病棟が目標値を設定し達成できるよう努めたいと考えています。

来年度の研修会も、引き続き看護必要度や看護過程を開催する予定です。中途入職の看護師へは、看護記録のあり方や記載時の注意点についてその都度研修会を行うよう計画しています。

今後も、看護記録を通じて看護実践の内容を共有することにより、継続性と一貫性のある記録の質向上に努めていきます。

看護業務検討委員会

委員長 柏原 寛子

看護業務検討委員会は看護業務の見直しと改善を図り、業務を基準化することを目的としています。各部署から10名のメンバーで構成し、委員会は月1回開催しています。

2018年度は看護業務基準や看護・検査手順のマニュアルの見直しと、新しい検査や処置の手順をマニュアル化し追記しました。整備した基準・手順は日常の看護業務に気軽に活用できるように、各部署、取り組みを工夫しました。手順を統一し、安全に業務が遂行されること、そして看護の質の向上を常に意識して取り組んでいきました。

また身体抑制の目的や方法について、パンフレットを作成しています。やむを得ず身体抑制が必要な患者の皆様やご家族へ、写真や文章でわかりやすく伝える

工夫を行いました。そして身体抑制は経過表の入力方法を統一し、各病棟の委員会メンバーを中心に身体抑制解除に向けた取り組みを継続しています。看護記録の監査を行い、記録の充実と解除にむけて「身体抑制解除カンファレンス」の活発な開催を呼びかけました。委員会で情報を共有し、他部署と身体抑制解除に向けての取り組みを話し合うことで、各病棟の成果を共有することが出来ました。身体抑制解除に向けた活動は看護部が中心ですが、今後も他職種と協働し病院全体で「抑制ゼロ」を目標に活動していきたいと思えます。

2019年度は看護業務基準・手順が現場で気軽に活用できることを目指し、看護の質向上に貢献したいと考えています。

看護部教育委員会

委員長 水ノ上 かおり

1. 現任教育

【看護職員一般研修】

日時：2018年11月17日（土）、24日（土）
午後1時30分～3時30分

場所：5階多目的ホール

講師：中尾留美、稲村美穂

テーマ：よりよいチームワークを発揮するために

参加者：看護職員 155名

【看護部管理者研修】

日時：2019年1月17日（木）午後6時～7時

場所：5階多目的ホール

講師：大杉靖子

テーマ：看護管理者に必要な心構えと考え方

参加者：看護部リーダー職以上 30名

看護部教育委員会は、1. 現任教育、2. 新人教育、3. 看護研究を柱に看護職員への生涯教育を行い、看護の質向上を目指しています。今年度は看護師長と研修内容を話し合い、院内講師による研修を行いました。

一般研修では「よりよいチームワークを発揮するために」というタイトルで、改めて「リーダーシップ」と「メンバーシップ」について皆で考えました。「チームワークを発揮するためには良好なコミュニケーションが大切である。」「各自が自分の役割を果たすことが重要。」など、それぞれの立場から日々の行動を振り返ることができました。

管理者研修では「看護管理とは何か」「実践する上での心構え」等の講義がありました。終了後のレポートでは今後の取り組みについて具体的に示すことができたと共に、スタッフとのコミュニケーションの重要性を改めて考えたという感想が多かったです。どちら

も院内講師で開催したことで、より身近なこととして考えることができました。

2. 新人教育

2018年度は3名の新卒看護師が入職しました。各部署のプリセプター・教育担当者を中心に新人教育に取り組み、全員が1年間の研修を無事に終えることができました。

当院の研修プログラムは1年間を通して看護技術、シミュレーション研修、プリセプティの会等を行います。薬剤、放射線、検査については各部署を回り直接各技師から学ぶことができます。また、憧れる先輩に1日ついて学ぶ「金魚のフン作戦」と、新たに逆にそっとプリセプターが新卒看護師を見守る「金魚のシッポ作戦」を取り入れ、実際の行動を振り返る方法も行っています。今後も新卒看護師がのびのびと学べる環境作りを行っていききたいと思えます。

3. 2年目研修

2017年度に「2年目研修プログラム」を導入し2年が経ちました。

看護師として1年経過し課題を持って看護をする中で、2年目研修では主に救急対応やドクターコールについて学び、年度末には事例発表会を開催しました。3名の2年目看護師は、それぞれが受け持った患者から1名選び、看護実践をまとめ発表することができました。そして、3年目にむけての課題を明確にし、新たな目標を持って挑むことができそうです。今後は各部署全体で見守っていきます。

4. 看護研究

【院内看護研究発表会】

第20回院内看護研究発表会

日 時：2018年6月27日（水）午後6時～7時

場 所：5階多目的ホール

《演題》

1. 透析センターにおけるフットチェックシート使用後の課題 人工透析センター：亀鷹 孝行
2. B病棟における看護師の術前後オリエンテーションの実態調査 5階病棟：三好 恵子
3. 手術室の現状と術前訪問が与える心理的不安に対する効果の検証 「待機手術患者の心配事アセスメントツール（以下ESWATと略す）」を使用して 手術室：若狭 麗子

当院では毎年看護研究発表会を開催しています。今回人工透析センターでは足病変予防を目的としたフットチェックへの取り組みを、5階病棟と手術室では手術時のオリエンテーションについて発表しました。どれも日々の看護の質向上を目指した視点だったと思います。また、手術室の演題は2019年2月24日に開催された「岡山県看護協会井笠支部 看護研究発表会」でも発表しました。今年度は研究指導者が不在の中、教育委員が相談を受けながら進めていきましたが、無事発表会を迎えることができました。

今後も臨床に活かせる看護研究を継続していきたいと考えています。

外 来

外来の診療科は、救急部門・血管カテーテル部門・内視鏡センター・内科系16科・外科系15科・小児科です。2018年度は、4月に小児科寺田喜平医師が着任し、6月より予防接種センターを新設しています。それに伴い随時予防接種や、感染症対策の講演会を開催することができました。海外渡航ワクチン・带状疱疹ワクチンなどの対応も可能です。5月整形外科医小坂義樹医師、6月は松前大医師が着任し血管外科を新設しています。シャント作成、静脈瘤の手術等の対応も可能となりました。また小児科湯本悠子医師が常勤医となり、乳児発達診療や児童虐待、小児救急対応やこども健康教室等積極的な取り組みを行っています。2018年度の外来受診患者数は105,240名（対前年+11.4%）、救急搬送件数は890件（対前年+18.4%）でした。本年度は猛暑が厳しく、8月には救急搬送件数108件と過去最多の受け入れをしました。また、化学療法においては、医療の進歩に伴い副作用の少ない製品が増えてきた影響もあり、外来化学療法患者が増えています。高齢化進行に伴い自宅や施設での看取り患者も増えています。小児科では近年増加傾向にある虐待について知識を深め、院内連携に向けて活動を開始しました。

2018年度外来1階のスタッフ構成は、看護師（常勤12名・非常勤12名）・医師事務作業補助者（常勤5名）・診療アシスタント（常勤4名・非常勤3名）、小児科外来のスタッフ構成は、看護師（常勤5名・非常勤1名）、診療アシスタント（病児保育士3名・医師事務作業補助者2名）でスタートしました。1階・2階エリア（手術室を含む）を統合し1年半ですが、外科系医師が増員した事は救急搬送件数増加、手術件数・緊急対応件数の増加につながりました。一方看護職員は減員し、対応に苦慮しました。特に手術室では、手術経験のある外来スタッフを週1日応援に当て対応しています。外来にとって手術室は関心の薄い他部署

看護師長 中尾 留美

でしたが、お互いに情報を共有し対応、協力、連携の必要性を学んだ1年だったと感じています。

<外来看護師> 以下の目標に取り組みました。

1. マンパワー不足を補う為に、個々の看護力の向上を目指す。

行動目標：1) 挿管介助が自信を持ってできるようになる。

2) トリアージマニュアルに基づき統一したレベル対応ができる。

救急の対応を担う外来においては個々の看護力、技術力を向上していくことが必須となりますが、外来スタッフの半数が非常勤であり勤務時間内での技術経験ができないのが現状です。技術目標に挿管介助をあげ、デモンストレーション式で体験学習し習得に努めました。トリアージにおいては勉強会を開催し、基準の理解度を深めました。

2. 患者への継続した看護提供の充実を図る。

行動目標：病棟との連携の為に記録の充実を図る。

継続した看護提供の充実を図るため、外来と病棟間での記録の充実が大切と考えます。外来スタッフは記録に関して苦手意識が強かった為、実際の記録について、病棟師長に勉強会を依頼しました。評価は良好でしたが実践はまだまだ不十分な現状もあります。今後も継続看護を目指し、連携に繋がる記録の充実に向け訓練を続けていく必要を感じています。

笠岡市は高齢化社会に突入しています。国の目指す地域包括ケアシステムの構築にむけ、住まい・医療・介護・予防・生活支援と5つの要素が互いに連携をとり強化していく必要性を感じます。外来医療では社会の変化に幅広く柔軟な対応できる看護師の育成に努め、これからは患者の皆様の安心・満足に繋がる医療

が提供できるよう邁進致します。

＜診療アシスタント・セクレタリー＞

外来の診療アシスタント・セクレタリーは、12名でスタートしましたが、異動・退職で2名の減員となりました。マンパワー不足で、小児科と人工透析センターからセクレタリーの派遣を受けるなど、他部署と協力体制をとりながらの1年間でした。

一人ひとりの負担は増大しましたが、常に前向きな

姿勢で業務に取り組み、医師との信頼関係を築くと共に、患者本位の対応を心がけました。2ヵ月毎に行う会議では、問題点を検討し改善策を模索しながら、医師の負担軽減に努めています。

2月に1名増員となり、4月に新しい仲間2名を迎えます。今後は新人教育に力を注ぎ、医師と患者の皆様のパイプ役として、各々が求められる役割を十分に発揮し、業務の質の向上に努めます。

外来検査・治療件数

	外来患者数		救急搬送件数	整形外科	形成外科	カテーテル検査室	眼科	内視鏡					ペインクリニック内科		
	透析・歯科・リハビリを除く	小児科						上部	下部	膀胱	EMR	PEG	透視	診察室	点滴
2016年度	77,616	22,763	818	595	96	124	20	675	413	335	36	15	464	866	89
2017年度	94,473	19,149	752	605	91	113	8	609	355	377	35	10	827	401	31
2018年度	105,240	18,734	890	644	97	131	20	681	372	345	30	11	832	424	39

＜手術室・中央材料室＞

2018年度、手術室・中央材料室は看護師5名、臨床工学技士3名、アシスタント3名でスタートしましたが、結婚、妊娠とおめでたい出来事が続き、看護師・臨床工学技士1名ずつの欠員となりました。喜ばしい理由での欠員という事もあり、スタッフ一同カバー出来るように個々のレベルアップを行いながら、チーム力を高めた年となりました。一方、人員と反比例するように増加した手術件数には、他部署からの協力体制により安全に対応することができ、組織としてチーム力の高さを感じる1年でもありました。

2018年度部署目標

I チーム力を高め安全な看護を実践する

- ① 月2回術後の事例検討をおこなう。
後期はスタッフの欠員・手術件数の増加により、定期的にカンファレンスを開くことが出来ず、重要な事例のみ短時間で検討・対策を行って来ました。

リーダー 高地 美津江

- ② 月1回勉強会を開催する。
今年度は開催することが出来ませんでした。次年度は具体的に月別担当を決めるなど、課題として努力していきます。

II 業務の円滑化を図る

- ① マニュアルの見直し。
担当を決め、すべてのマニュアルの見直しを行うことができました。実務に応用出来るように、適宜修正をかけながら活用しています。
- ② 物品管理システムに対する問い合わせを調査し、フィードバックすることで問い合わせ件数が減少できる。
物品管理委員会を通し調査内容の集計と改善策を啓蒙することで、問い合わせ件数を減少する事ができました。しかし、まだ現場には物品に関して意識の低いスタッフもいるため、引き続きの啓蒙が必要だと感じています。

3 階病棟

科長 柏原 寛子

3階病棟は小児科病床を有する急性期一般病棟で、夜間の緊急入院の受け入れを担っています。看護師17名、病棟アシスタント4名、病棟クラーク1名で構成し昼夜を問わない入院はみんなで協力して対応し、チームワークの良さを発揮しています。

2018年度は稼働率69.4%、在院日数7.5日でした。重点目標は「常に患者にとってどうかを考え、寄り添った看護を提供する」。部署目標は以下の二つです。

1. 看護記録の充実をはかり個別性のある看護実践を行う。

① 入院当日中に患者の個別性を把握し看護計画・看護実践の入力を確実にを行う。

② ベッドサイドで患者の状態を把握し看護必要度入力を行う。

日中の緊急入院はもとより夜間入院は緊急で新患が多い為、入院当日に可能な限り患者・家族と積極的に関わり情報を得ることに努めました。得た情報は看護記録や看護情報に記載し、誰が見てもわかる記録を心がけています。カンファレンスでその情報を共有することで、先を見据えた看護につなげていくことを目指しました。

2. 1年後に自分が成長した、と声に出して言うことができる。

① 小児科教育プログラムの確立と実践。

3階病棟は他病棟にはない小児科病床を有しており、他科であっても15歳未満の入院は全て受け入れています。しかし、ここ数年小児科看護の経験の長い看護師の退職や異動に伴い、経験2年未満の看護師が半数以上を占めています。成人看護と違った専門性、特殊性のある小児科看護の人材育成が、大きな課題となりました。そこで小児科看護の教育プログラム作成に着手し、段階的にスキルアップをはかっていくことにしました。教育プログラムは作成途中ですが、日々の

OJTで小児科看護師の育成に努めました。2019年度は教育プログラムを実践することで経験に関わらず、育ち合いスキルアップができる体制を作っていきたいと考えています。

② 月1回の部署勉強会を継続し、学びを看護実践に活かすことができる。

部署勉強会を毎月継続して行うことができました。小児科看護の質向上を目的に、小児科に関するテーマを多く取り上げ計画的に実施しています。特に食物アレルギーのアナフィラキシーに対する緊急時の対応では、シミュレーション形式で医師と一緒にを行い、より実践に活かせる勉強会となりました。

③ 時間管理を行い、時間外勤務を前年度より50%削減する。

DiNQLデータを活用し分析を行いました。時間外勤務一人あたりの平均時間は、2017年度3.5時間、2018年度は5.5時間と大幅の増加となりました。これは看護師個人の振り返りにも表れており、そのアンケートから「実践出来なかった」が19名中11名と、半数以上をしめる結果となりました。理由としては緊急入院対応、人員、個人的な時間管理と様々な内容がありました。反面、「実践できた」看護師は、タイムスケジュールを立て、一日の看護計画通りに実践した等、時間管理を意識し業務に取り組んでいることがわかりました。今後は個人の効率的・効果的な取り組みを部署内で共有する場を増やしていくことや、円滑な入院の受け入れに対し業務改善を行う必要があると感じました。

看護師は24時間患者のそばにいて、患者の皆様の言葉を代弁する役割を持っています。「患者の皆様にとってどうか」を考えながら医師をはじめ多職種と連携をはかり、お一人おひとりに寄り添ったベッドサイド看護を目指していきたいと考えています。

4 階病棟

看護師長 大杉 靖子

4 階病棟は、看護師22名（糖尿病看護認定看護師1名、皮膚・排泄ケア認定看護師1名、非常勤2名含む）、病棟アシスタント6名、病棟クラーク2名の計30名で構成しています。孫の誕生を心待ちにしているスタッフから、育児最中のパパ・ママさんまで年齢層も幅広く活気に溢れ、笑顔がたえない病棟です。2019年2月は、延べ入院患者による病床稼働率が92.0%と過去最高となりました。在宅介護者の事情、日常生活動作の維持や改善を目的とした短期入院や即日緊急入院の増加もあり、入院形態の変化がみられた一年でした。

今年度の部署目標は、看護部の目標にある「医療安全体制における報告検討を現場に活かす」と「各部署間の連携強化」に着眼し活動しました。

1. 患者の状態に合わせた環境調節を実践し、転倒転落の危険予測について自己の意識を高める。

転倒転落防止パンフレットや対策用具の説明書を作成しました。一般病棟へも普及され、3病棟統一した内容で患者の皆様や家族の方へ指導しています。リスクアセスメントのチャート作成やKYT学習会を行い、危険予知の能力向上に取り組みました。カンファレンスはベッドサイドで患者さんへ参加をお願いし、移乗動作を確認しながら開催しています。スタッフから環境調整表の作成と病室に掲示する提案があり、今ほどの職種でもその場で情報の共有ができ効果的です。指標は、DiNQL データを活用しました。昨年度の転倒転落年間発生率は2.2%のため、今年度は目標を0.7%に設定しました。発生率の結果は0.9%でしたが、他のデータを見るとレベル3以上の負傷はなく、10月と2月は0件でした。カンファレンス件数は昨年度より2.6倍増え、身体抑制患者割合は一般病棟と比

較しても良い結果が得られています。認知症患者が増加する一方、データの結果から常に患者の皆様の安全を考慮し日常生活動作の拡大に向け努力の成果が現れています。

2. 退院後の生活環境を整え、患者が安心して退院できるように支援する。

今年度も退院支援について活動しました。社会福祉士による学習会は、知識が深まり好評でした。事例検討会は、他職種を交え退院後の生活状況を知る機会となり自分達の看護を振り返る場になっています。今年度も医師を含めた退院ケアカンファレンスを試み、指標はDiNQL データを活用しました。目標は毎月2件とあげましたが、年間21件しか開催できず残念な結果です。しかし、退院支援チェックリストの分析では、8割のスタッフが退院支援の必要性について理解出来たとあり、意識の変化を感じます。

2019年度の部署目標は、下記2点を掲げました。

1. 安全な入院生活を送れるように療養環境を整え、安心して退院できるように支援する。

2. 患者の療養環境と職場環境の2S（整理、整頓）+3定（定品、定量、定位置）活動を実践する。

2019年度も、「ベッドサイドから始める看護実践」を重点目標にしました。

これからも働きやすい環境作りと、患者の皆様やご家族の思いに耳を傾けベッドサイドでの看護が展開できるように努めます。入院から退院後を見据え、地域の人々が安心して生活の場へ戻れる、質の高い看護が提供できる病棟を目指していきます。

5 階病棟

看護師長 稲村 美穂

5階病棟は看護師24名（非常勤2名含む）、看護アシスタント5名、病棟クラーク2名で構成しています。一般病棟として手術を受ける患者の皆様や、急性期の皆様を中心に看護しています。

2018年度の病床稼働率は73.7%、在院日数は14.4日、毎月約90件の予約入院・緊急入院を受け入れています。手術前後の看護はもちろん、退院に向けた支援、終末期を迎えた患者の皆様やご家族への支援と幅広く看護を展開しました。今年度は血管外科の看護も加わり、常に新たな分野の学習をしながら看護を実践しています。

今年度は、2つの目標を掲げ取り組みました。

1. 内服薬に関するアクシデントを前年度より30%減らす。

- (1) 内服薬取り扱いの手順を遵守。
- (2) 指差し・声出し確認の実行。
- (3) 情報は明確に伝え、受け手の理解を確認する。
受け手は意思表示を明確にする。

2017年度のアクシデント件数は41件で前年度より60%増えた結果となり、なかでも誤薬に関するアクシデントが6割を占めていました。内服薬取り扱いのルール遵守やコミュニケーションエラーを防ぐため対策を強化した結果、2018年度は誤薬に関するアクシデントは10件減少しました。しかし、全体のアクシデント件数は42件と前年度の件数を上回る結果となり、内訳では誤薬が一番多く35%を占めています。チューブ管理や給食関連などアクシデントの内容は多岐に渡りますが、入院患者の高齢化や認知症の増加により看護師による内服薬管理が欠かせません。複雑化する内服管理であっても、確認さえすればリスクやミスは減らせます。各個人が責任を持ちルールに則った確認作業を徹底し、安全に与薬できるように今後も確認を励行することが大切です。また看護師だけではなく、医師・薬剤師とも協働し安全に内服できるように、患者を支える医療チーム全体で連携を図ることが重要と考えます。来年度もチーム力の向上とともに、アクシデント減少を目指し努力していきたいと思っています。

2. 気づき力を高め、患者の立場に立った看護を実践する。

- (1) ベッドサイドで洞察力を身につけ、患者・家族の変化に気づく。

- (2) 「なぜ？どうして？」を放置せず、自ら問題解決に向けて動く。

(3) 8S活動の実行（整理・整頓・清潔・清掃・躰・節約・尊厳・スマイル）

患者の立場に立った看護を実践するには、多くの情報の中から患者の変化に気づき、問題を的確に捉えることが最初の一步となります。「なぜ？どうして？」という疑問を持つことや、患者に関心を持つ姿勢であることが、看護実践能力の向上につながります。患者に合った看護を提供するために看護過程があり、意図的に関わるために展開していくものですが、現状では忙しい業務に流されてしまい、患者のための看護過程というには十分ではありません。「考える個別的な看護」の実践に向け、まずはベッドサイドで患者のことを考え、コミュニケーション能力とアセスメント能力を高めることが必要です。そして患者にとってより良い看護を提供するために、看護過程を展開することを来年度の目標として活動したいと思います。

2019年度の目標は、次の2つを掲げました。

1. 内服薬に関するアクシデントを30%以内に減らす。

- (1) 配薬時は指差し・声出し確認を実行する。
- (2) 臨時処方薬の配薬後のダブルチェックを実施する。
- (3) 情報は明確に伝え、受け手は復唱し意思表示を明確にする。

2. ベッドサイド看護を実践し、看護の質を高める。

- (1) 週一回看護過程の見直しを行い、患者に合った看護を実践する。
- (2) 「なぜ？どうして？」を放置せず、報告・連絡・相談を徹底する。
- (3) 毎月部署内で勉強会を開催し、学習を深める。

昨年度、プロ野球では広島東洋カープがリーグ3連覇を果たし、球団初の偉業を成し遂げました。弱小であったチームが一つの目標に一丸となって進むことで、素晴らしい成績を残すことができる、それを証明してくれました。私たちも目標に向かって一つになり、患者のことを一番に考える姿勢で取り組んでいきます。そして、患者の皆様にとって安心で安全な看護を提供いたします。

6 医 事 課

副課長 今本 奈美江

医事課は、外来医事17名（内非常勤1名含む）、病棟クラーク5名です。診療報酬請求事務、コーディネート業務、受付や電話対応を中心にその他一般的な事務処理（自賠責や労災請求・介護保険請求等）など多岐にわたって行っています。

2018年度は点数改正からの幕開けとなり、個々のスキルアップを目標に掲げました。2018年2月より導入したグループウェア（情報共有のためのシステムソフト）を活用し、厚生労働省より出される疑義解釈等いち早く部署内に情報公開しました。個々の知識の習得と共に患者さんへのわかりやすい説明、漏れのない請求ができるよう全員が努力しています。

4月からは未収金対策の一環として、夜間預かり金制度を再検討しました。預かり金の金額の見直し、スムーズな運用を図るため守衛用のわかりやすいマニュアル作成、患者さんへの連絡方法に電話のみではなく郵送を取り入れました。さらに今一度、未収金に対する医事課職員の意識改革を行いました。粘り強い交渉の結果、夜間に発生する未収金は、前年度比85%減、前々年度比89%減という実績を上げることができました。来年度は「夜間未収金ゼロ！」を目標に取り組みたいと思います。

また個々のスキルアップの一環として診療科別の担当者を決め、院内ホームページに公開しました（図）。

医師や看護師等、現場スタッフからの問い合わせ先が明確にできていなかったため責任者に集中し、回答に時間を要してしまう状況を打破したいという思いもありました。経験年数が浅いスタッフも多く、すぐに状況の改善には至らないかもしれませんが、1人1人が得意分野を持つことによりモチベーションアップにもつなげていきたいと考えています。

最後に、今年度は院内QC活動として行った「リコールハガキを!!送って喜ぶ♪患者と病院」で第1位、「無駄なし!紙なし!グループウェアで医事課の大改革!!」で入賞をいただきました。第1位の取り組みに関しては、p.110に掲載していますので、ご一読ください。入賞をいただいた「グループウェア」を使ったスケジュール管理は導入からちょうど1年が経過し、情報の一括管理が定着したため、スタッフ全員が統一した対応ができるようになりました。このように医事課としての業務改善を評価していただき、部署内に置いてある2つの楯が誇りとなって輝いています。

これに満足することなく、経験年数を問わず、多くのスタッフからの意見・提案が出る部署を目指し、チーム力を高めて参ります。



図 医事課職員担当表

		外来					入院		
診療科別	診療科	内科 循環器内科 呼吸器内科	消化器内科 肝臓内科 糖尿病	整形外科 外科 脳外科	泌尿器科 眼科 ペイン 血管外科	小児科 皮膚科 歯科	3階病棟 小児科 整形外科	4階病棟	5階病棟 外科系
	担当者	青木 高細 (山下)	永原 河野 (三宅)	三宅 井上 森川	山下 中藤 米山	今本 奥野 廣江	竹本 田中 斎藤	山田 安倉 田中 斎藤	赤木 佐藤 田中 斎藤
	連絡先	2000 6104 (山下)	全員 2000	全員 2000	6104 (山下) 2000	6103 (今本) 2200	6370 (竹本) 6601 (田中) 2022 (斎藤)	6470 (山田・安倉) 6601 (田中) 2022 (斎藤)	6570 (赤木) 2590 (佐藤) 6601 (田中) 2022 (斎藤)

		介護保険	透析	労災	自賠	治験	往診	生活保護	結核健診
業務別	担当者	細川 河野	山下 高細	奥野 青木	三宅 (森川)	井上 永原	永原	廣江	永原
	連絡先	全員 2000	6104 (山下) 2000	2200 (奥野) 2000 (青木)	全員 2000	全員 2000	2000	2201	2000

7 病児保育室～すこやかキッズルーム～

村田 佳子・今本奈美江・中山 佳奈・横原 春香

笠岡市の保育事業として2007年に開設された病児保育～すこやかキッズルーム～も11年目を迎え、事故なく利用者の皆様からも多くの感謝の言葉を頂きながら運営しています。病児保育は、病気または病気回復期のため集団生活が困難で保護者が仕事または病気、その他の諸事情により家庭で看護できない保育児、児童をお預かりし保育する施設です。現在、生後6ヵ月～小学3年生までの子どもさんを対象に小児科宮島医師、保育士3名、小児科看護師をはじめ、薬剤管理科、栄養管理科、医事課などがたずさわっています。

2017年度から笠岡市だけでなく岡山県内を対象とした保育事業となり、幅広い対応ができるようになりました。日々の事故防止・感染症対策業務に加えて、食物アレルギーなど基礎疾患をもつ患児の利用も多くなり、保育士もアナフィラキシーやエピペン対応など繰り返し検討を重ねています。小児の発達・保育に関しても病院内外での勉強会に参加し、保育環境の整備改善に努めてきました。2018年度は402名を受け入れ、小児科だけでなく他部署の協力により、安全な運営が

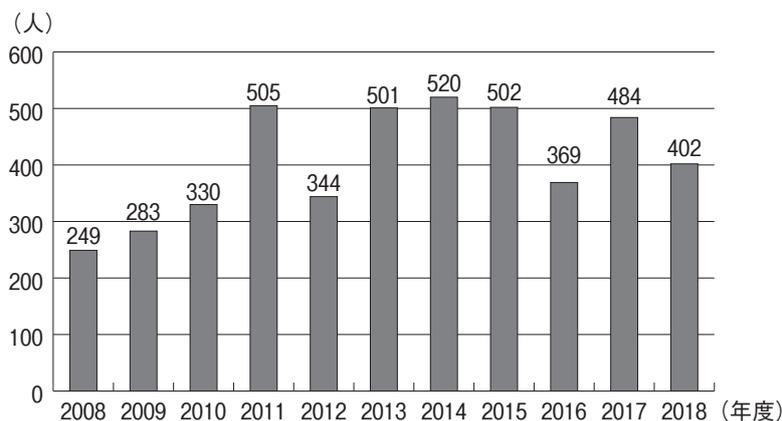
できますことに日々感謝しております。

小児科入院中の子ども達のQOLの向上を目的とした〔心のおやつ：病棟保育〕も4年目を迎えました。入院という非日常的な生活は患児・保護者の心身に大きなストレス環境となります。少しでもリラックスできる空間が作られるよう保育士が病室へ訪問し遊びの時間・空間を提供しています。年齢・病状に応じた遊びを検討し、酸素マスクを装着した患児でも無理なく遊びができるよう配慮しています。昔ながらの折り紙や絵本も好まれますが、カードゲームやボードゲームもとても人気です。保護者からは「笑顔が増えた」「もっと遊びたいという意欲がでてきた」「退屈な入院生活を楽しく過ごすことができ、子どもも保護者も嬉しかった」など嬉しい声も聞かれました。

これからも益々、保育のニーズが高まってくることが予想されます。働くお父さん、お母さん達のためスタッフ一同、安心して預けて頂けるよう頑張っています。



病児保育利用者数



【健康管理センター】

【健診センター】

副科長 田口 浩子

健診センターでは、人間ドックや各種健診、また特定保健指導を実施しています。

特定保健指導では、保健師がプランを立て、管理栄養士による栄養指導や健康運動指導士による運動の支援を受けられます。2018年度の特定保健指導の依頼は、動機付け支援の方が1名、積極的支援の方が1名の計2名あり、現在支援継続中です。管理栄養士や健康増進クラブONEと連携をとり、利用者の方に専門的な指導の提供が行えるようより一層努めていきたいと考えています。

2018年度より健診専任医師が着任し、より安定した診療を提供することが出来るようになりました。

2018年度、3,168名の方に当健診センターを利用して頂きました。特に10月の受診者数が増えています(図1)、これは笠岡市の特定健康診査・癌検診利用者の増加によるものです。

受診者の年齢層を見てみると、70歳代の利用者の増加が見られます(図2)。高齢者の方にも安心して健康診断を受けて頂けるよう今後も留意してまいります。

気持ちよく健診を受けて頂き、健診をきっかけに自身の健康について考える機会となるように、今後もスタッフ一同取り組んでいきたいと思ひます。

図1 月別受診者数

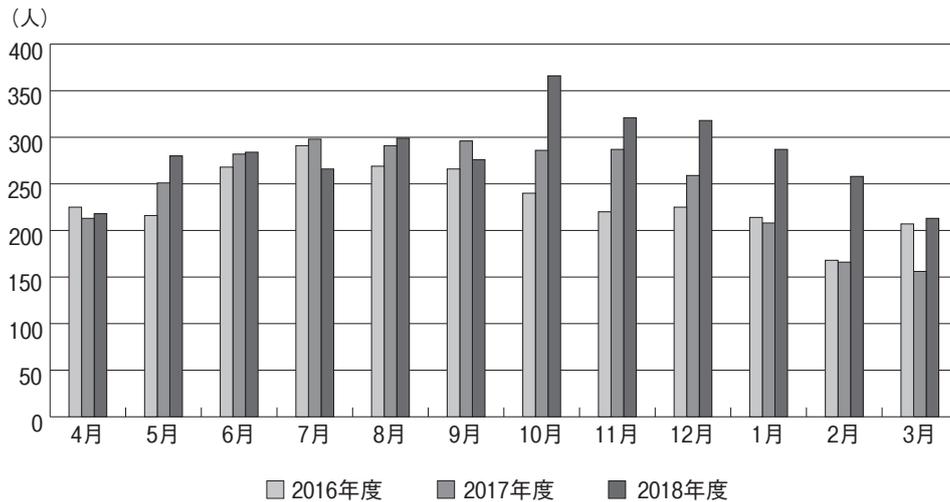
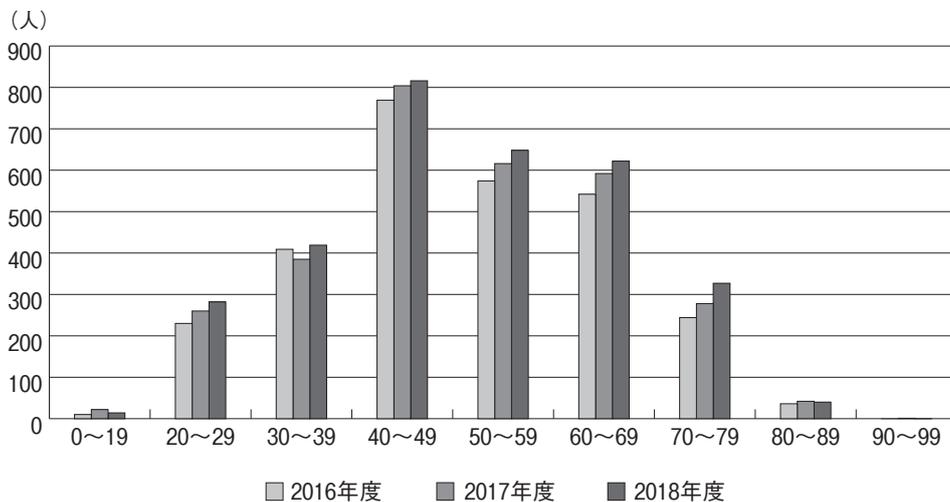


図2 年齢別受診者数



【健康増進クラブ ONE】

科長 石部 豪

厚生労働大臣認定 運動型健康増進施設として、疾患をお持ちの患者の皆様をはじめ、多くの皆様が各目的・目標に合わせて運動を実践されています。2018年度の利用者数は延べ32,631名（新規入会者：139名）となりました。笠岡第一病院の各科からの紹介で始められる方も多く、小児科からの紹介で運動を始める中学生以下の会員から、運動機能が低下し、お一人での運動が実践しづらい高リスクの方々に対して運動を個別指導させて頂く会員の皆様などそれぞれ個々に合わ

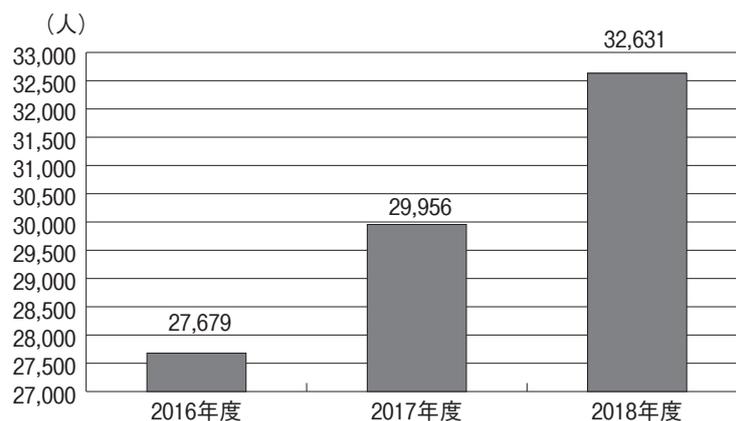
せたメニューを提供しています。また、人間ドック・健診受診者への体力測定や地域に出向いて健康教室、瀬戸いこい苑での運動指導なども行っています。

2019年度に向け、健康管理センターの改修工事もあり（p.107参照）、施設、器具ともに充実しスタッフのさらなるレベルアップを目指していきます。超高齢社会の中で、近隣をはじめとした地域の皆様の健康寿命の延伸や、健康長寿社会を推奨していける施設として日々邁進していきます。

◇利用者統計◇

(人)	2018 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019 1月	2月	3月	平均
利用者数	2,630	2,576	2,564	2,382	2,423	2,393	2,829	2,646	2,332	2,406	2,537	2,403	2,510
一般会員	1,031	972	920	867	845	841	1,008	957	842	872	968	882	917
70歳以上会員	1,102	1,121	1,120	1,025	1,095	1,092	1,270	1,179	1,028	1,085	1,115	1,095	1,111
中学生以下会員	30	24	42	24	34	40	27	10	21	15	13	25	25
振動トレーニング マシン利用者	321	325	314	309	302	291	348	332	302	274	289	253	305
リラクゼーション カプセル利用者	26	15	17	16	19	15	27	29	20	18	18	14	20
個別指導利用者	120	119	151	141	128	112	149	138	119	142	133	134	132
1 day会員	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1
1日利用者平均	110	107	99	95	93	104	109	110	97	105	110	100	103

延べ利用者数推移



◆ミニ講話◆

整形外科医 橋詰院長と健康運動指導士 石部によるミニ講話を2018年度も開催しました。

スマートエイジング 第4期「のぼそう！健康寿命 潔く、スマートに年を重ねる」と題して幅広いテーマ

で行いました。参加者45名（延べ157名）は身体と運動の効用、健康増進について邁進する気持ちを持てる会となりました。最終回では、今年度もヘルスアドバイザー ラッセル・デーモン氏の特別講演を頂きました。

整形外科医・健康運動指導士によるミニ講話

のぼそう！健康寿命

潔く、スマートに年を重ねる

8/23(木)
追加

場 所:健康増進センター 3階 健康増進クラブ ONE
講 師:院長(整形外科) 橋詰 博行
健康運動指導士 石部 豪

日 時	テーマ
5月 31日(木)	(1) 身体と運動の効用
6月 14日(木)	(2) 精神と運動の効用
6月 28日(木)	(3) スピリットとエクササイズ
7月 12日(木) 11:30~	(4) 社会資源活用とファイナンス
7月 26日(木) 12:15	(5) スマートエイジングと人間関係
8月 9日(木)	(6) 総合的健康と生活支援
8月 23日(木)	(7) 外国人講師とのつどい

Smart & Healthy Aging
を目指しましょう♪

医療法人社団清和会
笠岡第一病院 健康増進センター 3階
健康増進クラブ ONE
〒714-0093 笠岡市二番町 2-9
TEL (0865) 62-6511

マグドナルド

至 福山 国道2号線 至 岡山

丸亀製麺 | かつば 寿司 | 笠岡第一病院 健康増進センター

【タカヤ クリニック】

所長 木曾 光則

2011年10月3日に開設以後多くの病院、クリニックより紹介をいただき、2018年度患者数は、70名前後で推移しました。高齢の方が多く、種々の合併症も認められるようになり、手術、集中治療等での入院も増えました。自家用車での通院困難となられた患者さんも多く、タクシー相乗りや介護タクシーを利用した送迎通院を行っております。

現在、45床で午前中透析と月・水・金曜日のみ午後透析を行っております。透析装置の更新を進めFuture Net Web+の導入も終わり、今後もさらに充実した透析を進めてきたいと考えております。

なお、川崎医科大学腎臓内科より第1土曜日に板野精之医師を、第2・4土曜日には藤本壮八医師を、またさらに近藤恵医師、和田佳久医師も月1回ずつ派遣

して頂き、最新の治療と、患者さんの指導を行って頂いております。ブラッドアクセスに対しては、16列CTでのシャント造影や、シャントエコー検査でシャント狭窄を早期に診断し、笠岡第一病院 循環器内科阿曾沼裕彦医師、浦川茂美医師によるPTA（経皮的血管拡張術）治療を行っております。

シャントトラブルに対しては、笠岡第一病院 血管外科 松前 大医師、重井医学研究所附属病院、川崎医科大学、倉敷中央病院、福山循環器病院等の御協力を頂き、透析治療の維持が来ております

笠岡第一病院人工透析センター、内科 原田和博医師、医事課、栄養管理科、法人事務局、他の方々の全面的なご協力をいただき、大きな事故も無く年度を終わる事が出来ました。

【瀬戸ライフサポートセンター】

副センター長 森永 敏行

【瀬戸ライフサポートセンターの役割】

① 医療と介護の連携

利用者を中心に、医療面の知識や治療と、介護面の知識や対応力、個性尊重の考え方、その人を全人的にみるアセスメント力などを組み合わせ、医療と介護が互いに補い合い、その方に最も適切な支援を重層的に提供。

② 個々のニーズに適合したサービスの選択と提供

症状や身体状態、その方の個性、生き方にあわせて、適切な選択ができるよう多様なサービスの提供。

③ 地域との協働により、地域の福祉を支える

センターとして地域に出ていく機会がまだ少ないため地域ニーズを把握し、行政機関とも連携しながら深く広く地域と結びつくことを目指す。

瀬戸ライフサポートセンターには、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、通所リハビリテーション、デイサービスセンター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所とさまざまな介護・医療サービスが集約されています。サービス機能の分化に伴い、センター内でも切れ目のない連携の構築が求められています。センター外では効率良い連携が行えるように、日頃から高頻度の情報交換やサービス公開など顔の見える連携にも取り組んでおります。

瀬戸いこい苑、瀬戸内荘ともに介護保険上の施設がありますが、法人も違い、担っている役割や組織形態も違う為、互いに事業所間の相互理解を深めていくことから始めとして、毎月第2火曜日に「瀬戸ライフサポートセンター運営委員会」を開催しております。この会議を通じて、それぞれの理念を理解共有し、方向性を統一することにより学び合うこともできております。またセンター内各事業所の特性を充分活かすことで、個々に最も適したサービス提供を促進し、利用者の満足度の向上を目指していきたいと考えております。

2019年度の課題としては、センター内の事業所間交流として、共同研修会を定期的で開催し、職員のモチベーションアップと活性化を図って参ります。さらに地域包括ケアを目指した環境整備としては、旧瀬戸内荘跡地へサービス付き高齢者向け住宅の開設を計画しております。

これからも地域の信頼感を向上させ、有用な社会資源として地域還元でき、地域を支えるセンターを目指して切れ目のないサービス提供を進めて参ります。

入所介護科

副施設長 矢木 晋
看護師長 神原 玲子

瀬戸ライフサポートセンターは切れ目のないサービス提供の場として、医療・介護・福祉の連携強化に努めています。その中で介護老人保健施設瀬戸いこい苑は笠岡第一病院、特別養護老人ホーム瀬戸内荘と共に地域の包括ケアシステムの中心的役割を担っています。3月の診療報酬改定により、瀬戸いこい苑の役割が「在宅復帰」「在宅療養支援」であることがより明確となりました。瀬戸いこい苑でも在宅復帰率・ベッド稼働率の維持強化と、病院との連携体制、医療の提供をはじめ、更に排泄支援、栄養改善の推進等の課題も出ています。

リハビリを中心とした在宅復帰支援としての役割はもちろん、主介護者の入院などで介護が行えない場合、緊急対応の役割を積極的に行いました。今年度は西日本豪雨災害があり、避難生活を余儀なくされた2名を緊急で受け入れるなど、利用者やご家族のニーズに柔軟に対応するように、随時受け入れを行いました。今年度の平均介護度は3.6であり、在宅復帰率は51.5%（昨年度35.7%）、ベッド稼働率は96%（昨年度93.9%）でした。

4月より呼吸器専門医が副施設長に就任したことで、利用者の感染症疾患に重点を置き体調管理を行いました。感染症治療には適切な抗菌薬投与に努めた結果、関連病院への入院は17名と減少し、重症感染症例（誤嚥性肺炎）は2症例のみでした。瀬戸いこい苑での所定疾患算定数は前年度比-10%減を示し、在宅復帰施設の役割を少しでも果たすことが出来たと思います。

スタッフは医師3名、看護師9名、介護福祉士21名、社会福祉士1名、理学療法士2名、言語聴覚士1名、管理栄養士1名、薬剤師1名、介護支援専門員1名、支援相談員1名、事務員1名の多職種で構成しています。2018年度は看護師2名、定年退職を含め介護士3名の退職と、育児休業後の介護士2名（パート1名）が復帰しましたが、切迫した業務が表面化し改善を余儀なくされました。次年度からCSセット（ケアサポートセット）を導入し、業務の効率化を図ることで、利用者に関わる時間を増やせると期待しています。また、利用者の話し相手、レクリエーションのお手伝い、清掃等の軽作業に笠岡市の介護ボランティアの方を受け入れました。

[2018年度の目標]

- ① 利用者の個別性を重視し尊厳を尊重したケアを行う。

利用者一人ひとりの立場に立った対応を心がけ、個別性の重視とご家族の意向を踏まえ、多職種でカンファレンスを定期的に開催しています。情報を共有し、個々の状態に応じたケアプランを実践しました。日常生活を楽しく笑顔で過ごして頂けるように、四季折々の行事を積極的に開催しています。また終末を施設で過ごしたいと希望する利用者や家族の想いを尊重し、看取りケアも行っています。今年度は16名をお見送りしました。亡くなられた後も「デスカンファレンス」を通じ、ケアを振り返ることで今後のケアの向上に努めています。今年度は我々の想いと延命を希望する家族の想いの相違から、対応が難しい事例もあり、家族の想いに寄り添う難しさを学びました。

- ② 利用者の機能向上を目指し、有限能力の活用をサポートする。

昨年より継続したミールラウンドに加えて、自立した排泄を目標に排泄支援のプロジェクトを立ち上げました。バルンカテーテル留置者やオムツ排泄者を対象に、8月から身体機能に応じた援助を開始しています。その結果オムツからポータブルトイレ、ポータブルトイレから一般トイレへと軽介助になる方、2名がバルンカテーテル抜去、オムツから布パンツに移行し排泄動作が一人で可能になるなど、対象者の約80%が改善出来ました。

- ③ 在宅復帰支援型老健の維持

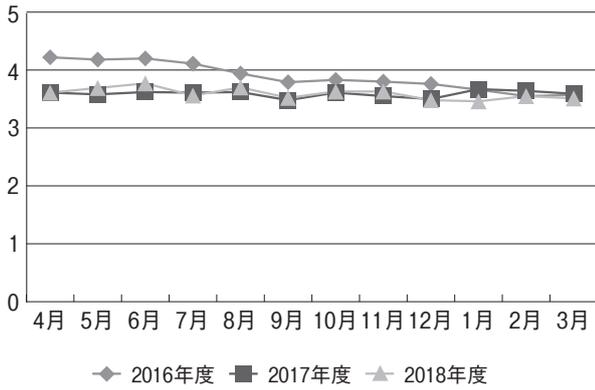
活動・参加意欲を高めるリハビリを提供し、入所前の自宅訪問・入所後カンファレンス・退所前の自宅訪問を行い不安軽減に努めました。在宅復帰の障害となる問題に対しては、施設や社会資源を活用し支援を行っています。今後も更に在宅復帰・在宅療養支援機能を高める必要があると思います。

2019年度の目標は下記の3点です。

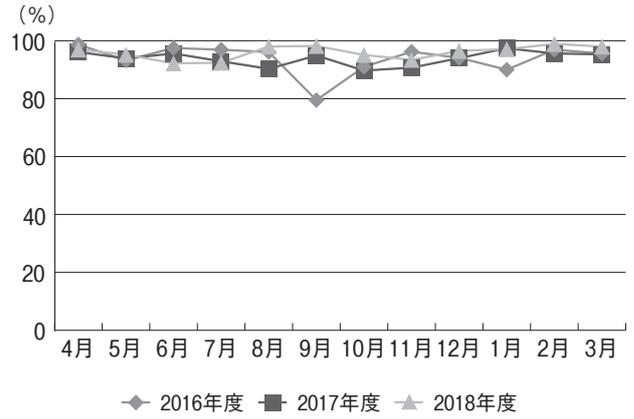
- ① 個別性を重視し尊厳を尊重したケアを行う。
- ② 他職種が協働して施設生活が笑顔で豊かに過ごせる環境を作る。
- ③ 家族の不安軽減に努めながら、早期の在宅復帰を目指す。

今後も各職種の専門性を高め、利用者や家族が安心して在宅生活を送れるように、関連機関と連携しスタッフ一同で支援していきたいと思っています。

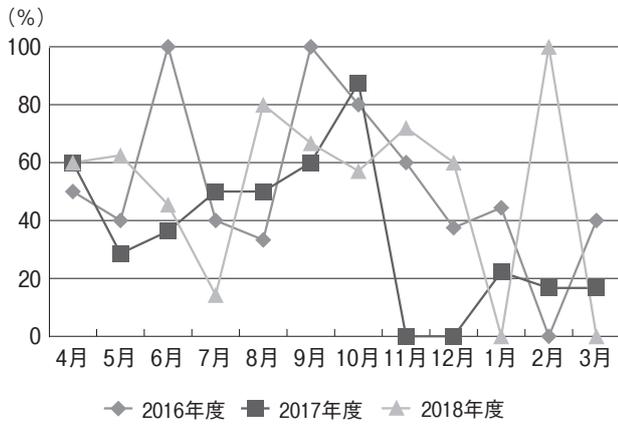
平均要介護度



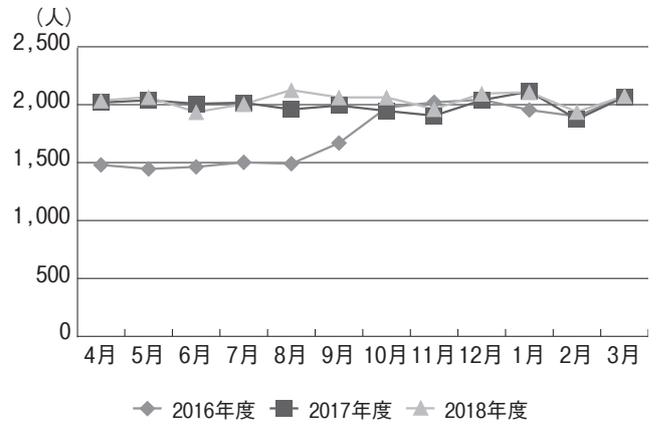
稼働率



在宅復帰率



入所者延べ総数



通所リハビリテーション

副科長 青木 周子

通所リハビリテーションは、海の見える景色の良い場所でサービスを提供させて頂いています。

利用者の皆様は要支援の方が12名、要介護の方が62名、平均介護度は2.3となります。1日の平均利用者数は25.4人です。

通所リハビリは介護保険のサービスですが医療系のサービスに分類され、医師の指示のもと在宅における自立支援を目的に、病状安定期においてリハビリを中心とした日帰りサービスを行っています。利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、利用者の心身の機能回復を図っています。利用者一人ひとりのその人らしい生活はどのようなもので、どのような生活を望んでいるか、自宅訪問し住環境や家族の中での役割などを知る事が大切です。どうしたらその方の望む生活を実現できるのか等、多職種で検討し生活の中で支障をきたす部分の原因を特定した上で活動と参加に焦点を当てた個別プランを立案計画し、多職種でアプローチしています。

私達はケアマネジャーとの連携を図り、利用者の思いを受け止めながら支援します。また、ご家族と協力して支援していく事が利用者や家族の満足度を高め、利用者の意欲も向上していきますので送迎時等で家族との関わりも大切にしています。その人らしさを大事にした丁寧なサービスを提供する事により地域の方々からも信頼され、将来にわたって“選ばれる通所リハビリテーション”を目指し日々努力しています。

通所リハビリテーションの2018年度の目標は、①他部署・家族との連携と予防的医療・介護により長期に在宅生活が続けられるように援助する。②利用者とその家族に信頼され、利用者の望む暮らしを明確にした自立支援プランに沿った運営をする、でした。現在独居高齢者、高齢者夫婦2人で生活されている利用者が増加しており、家族、ケアマネジャーとの連携が重要となってきています。住み慣れた場所での生活を継続する為、送迎時に生活環境の変化や、取り巻いている状態の報告を密に行っています。

2015年介護保険改定にて導入された「心身機能」「活動」「参加」の要素にバランスよく働きかける効果的なリハビリテーションの提供を推進する為、ケアマネジャーや他のサービス事業者を交えた情報共有の仕組みを充実する会議が評価されています。作業療法士を中心としたリハビリテーション会議を開催することで、利用者の気持ちが聞き出せ、その利用者の望む

生活が明らかになり生活目標も明確になる会議を開催することが出来ています。スタッフと利用者が同じ目的を持ち、リハビリを行っていく事により利用者や家族のみならず私達スタッフも充実感を得ることができています。

また、2015年8月より短時間デイケアを導入し、徐々に利用者数も増加し12名になりました。これにより、利用延べ総数が増加しています。短時間デイケア利用の多くの方は自宅で役割があり、食事、入浴の心配が無く、自分の思うように過ごせる方が多いです。「リハビリだけで十分、後は自宅でゆっくりしたい。」と言われる方が主に利用されています。短時間デイケアは午前、午後（午前9時50分から12時20分、午後1時30分から4時）の2パターン、2時間30分のサービス提供時間でリハビリを中心に実施しています。時間を多様化する事で、利用者の希望や目的に近づき満足して頂いていると感じています。

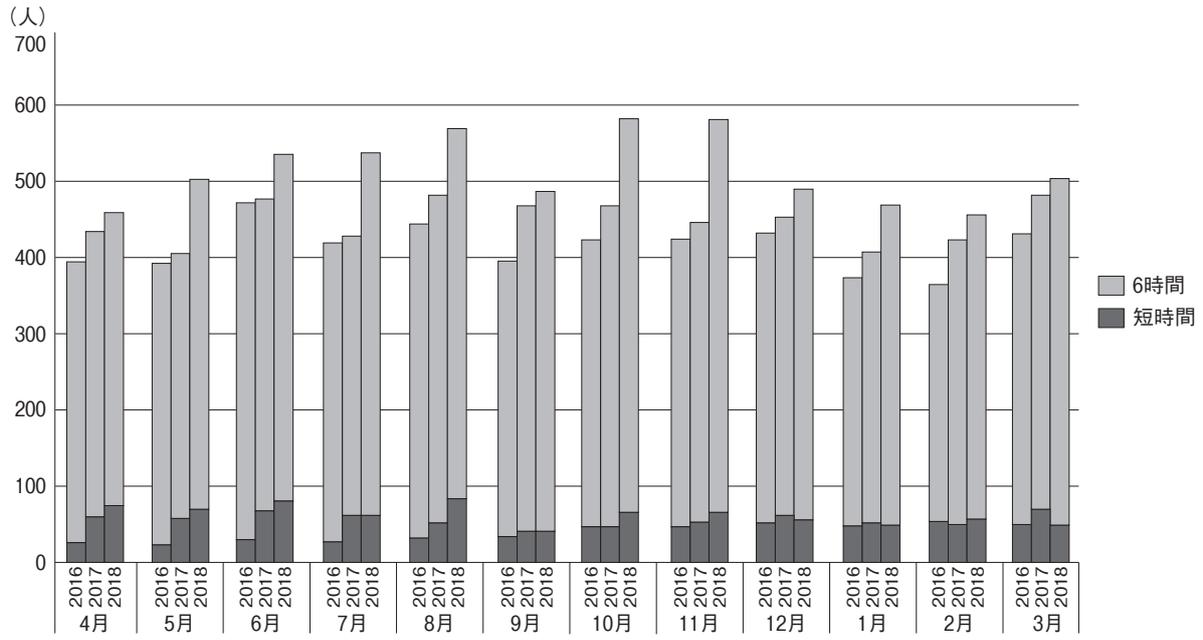
短時間デイケアの利用者の中で言語聴覚士によるリハビリを希望される方が増えています。訓練内容は言葉のリハビリ、発声訓練、嚥下訓練、記憶の訓練などを行っています。利用日には1対1のリハビリ以外に、持ち帰った課題を提出します。そしてまた、新しい課題を持ち帰り、その課題を自宅で一生懸命に取り組み、利用時に持って来られています。自宅でもリハビリに取り組み、少しずつ回復されていく様子が分かる私たちの励みになります。

短時間利用は時間を有効に使える、自分の役割の維持や社会参加に繋げる事ができる環境であると思います。今後も社会参加に繋がられる事業所になるよう、取り組んで行きます。

最後に、当事業所では通所リハビリテーションの利用を開始する前には必ず、利用する目的・目標を明確にしてから利用してもらうようにしています。そうすることで、日常生活等での問題点、やりたい事、やらなければならない事が明確になり、それが的確に出来るよう、リハビリ実施計画書を作成し、その計画書に沿って他職種に関わることが出来ます。趣味や生きがい、社会参加が出来るように、満足感や充実感を得て、利用者が健康でいられるような支援が出来る事業所になるように努めていきます。

利用者を中心とし、医師、セラピスト等、他職種と連携してその利用者の望む暮らしに近づける事が出来る質の高い事業所にしたいと思います。

利用実績



在宅療養支援センター

居宅介護支援事業所

副科長 金川 潤子

当居宅介護支援事業所の2018年度の職員構成は、看護師1名、社会福祉士3名、介護福祉士2名の計6名で前年度と変わりありません。うち主任介護支援専門員は2018年度に1名が取得し、計4名となっています。また、特定事業所加算Ⅱの算定は継続して行っており、2016年度から特定事業所加算の算定要件となっている介護支援専門員の実務研修見学実習を1名受け入れました。

利用者数については病院併設の居宅介護支援事業所ということもあり、病院への入退院が多く、また、ターミナルのケースも増えており短期間で終了となるケースが増えています。毎月新規利用者の受け入れを10件前後行い、業務が煩雑になっていますが「利用者数増加」という目標の達成は難しい状況です。支援が必要な状態になっても生活環境を整え住み慣れた自宅・地域で生活したいという思いや、状態が落ち着いている時に少しの期間でも自宅で過ごしたいという思いに寄り添う支援ができるよう引き続き努めたいと思います。

2018年度には介護保険制度改正・介護報酬改定がありました。このたびの介護報酬改定では、医療と介護の連携の強化が大きな柱となっています。

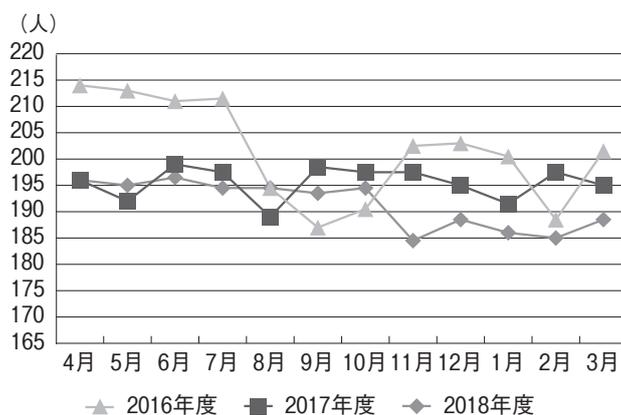
入院時における医療機関との連携促進として、当居宅介護支援事業所でも、速やかに医療機関との連携を図ることができるよう利用者・ご家族の方へ、担当ケ

アマネジャーからの「5つのお願い」について文書を作成しお渡ししています。利用者の方に切れ目のないケアサービスを提供し、安心した療養生活を送っていただくために、入院された場合には担当ケアマネジャーにお知らせいただくこと、医療機関にも担当ケアマネジャーがいることをお知らせいただくこと、また、退院の目処がみえてきた場合はケアマネジャーにお知らせいただくことなどをお願いしており、退院後の支援について医療機関と連携して調整を行っています。

また、平時からの医療機関との連携として、医療サービスを利用する場合、主治医に意見を求めることに加え、医師に対しケアプランを交付することが義務づけられました。また、訪問介護事業所等から伝達された利用者の口腔に関する問題や服薬状況など、利用者の状態等について主治の医師、歯科医師、薬剤師に必要な情報伝達を行うことが義務づけられ、医療機関との更なる連携強化に努めているところです。

2018年度より特定事業所加算の算定要件に他法人と共同の事例検討などの研修会を行うことが加わり、笠岡・里庄の居宅介護支援事業所5事業所で4回開催しました。来年度は特定事業所加算を算定していない居宅介護支援事業所との研修も予定しています。引き続き職員同士での研鑽を図るとともに、他事業所と横のつながりを更に強め、互いに研鑽し合えるよう努めたいと思います。

利用者数



訪問看護ステーション

副科長 三原由記子

2018年度はメンバーの入れ替えもなく、昨年同様3.5名体制の稼働でした。

在宅の要はやはり連携であり、今年度の部署目標も①自己研鑽を図り、知識を高めることで質の高い看護を提供する。②他サービスと情報を共有し連携を図る。としました。

訪問看護のラダー制度が始まり、その研修を受講することを目標に掲げておりましたが、それは達成出来ませんでした。院内外の研修には積極的に参加し、自己研鑽に努めました。

今年度は外泊時の訪問看護に力を注ぎました。試験外泊中に訪問を行うことで入院先の病棟と問題を共有し、解決方法を見出すことで連携が図れたと思います。

引き続き質の向上や他サービスとの連携に努めていきたいと思っています。

今年度印象に残ったことと言えば、災害の少ない岡山県で未曾有の豪雨災害が起きたことです。ここ笠岡でも大変な被害がありました。当ステーションの利用

者も被災されました。天災はいつ起きるかわからない、改めて自然の恐ろしさを実感しました。自然の前には無力かもしれませんが「備えあれば憂いなし」で、少しでも対策を整えていく必要があると思いました。

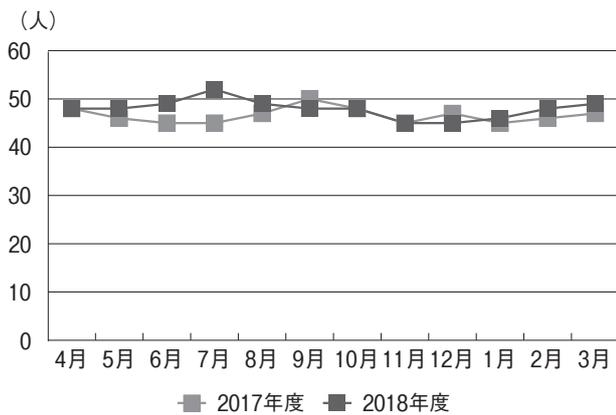
今年度は実地指導があり、良い評価を頂きました。無駄な時間を省き、利用者のアセスメントに時間をかけるようアドバイスも頂きました。それを参考に調整していきたいと思っています。

利用状況としましては、時代の流れでしょうかここ近年では短期の利用者が多くなりました。利用者数としては昨年と同様といったところです。

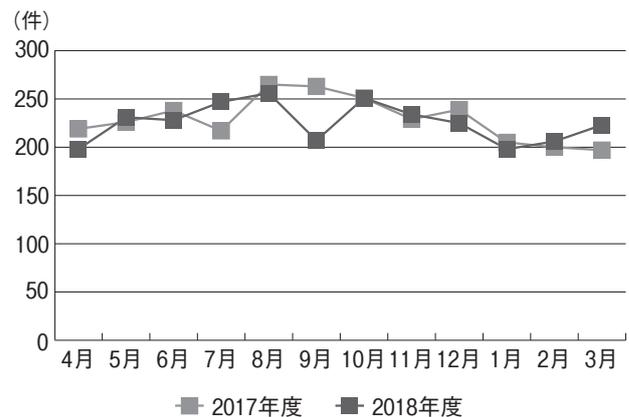
以前のように、疾患を持ちながら何年も家で過ごすことが難しくなっているのかもしれませんが、しかし、住み慣れた家で過ごしたいと思われている利用者がいる限り、1日でも長く在宅生活が続くようサポートしていきたいと思っています。

元号も新しくなります。新たな気持ちで進化した訪問看護になるよう頑張ります。

利用者数（医療・介護合計）



延べ訪問回数



【法人事務局】

法人事務局長 能登 壮夫

法人事務局の業務を大別すれば以下の通りです。

- ① 経営管理業務
- ② 人事・労務業務
- ③ 総務関係業務
- ④ システム関係業務
- ⑤ その他業務

医療法人社団清和会の医療・介護現場でなされる業務以外のはほぼ全ての業務に係わっています。

【2018年度目標】

1. 新勤務システム，新給与システムの安定的な運用及び新人事システムのスムーズな移行
2. 人事制度の改正及びその運用
3. 安定した経営

1. 新勤務システムは2017年10月の電子カルテリプレーにに伴い導入，新給与システムは少し遅れた2018年1月より導入致しました。新システムでもあり移行後暫くは取扱に関する問い合わせ等ありましたが1年間で職員も慣れ順調に稼動しています。(医)清和会も職員数が400名近くになり，ペーパーベースでの管理等は煩雑かつ非効率でもあり，IT対応により効率化と経費節減が図れるものです。今後も順次ペーパーレス化を進める予定です。
2. 2018年4月より，人事制度を一部改正しました。現在の人事制度は2013年に導入，1年間の試行期間を経て2014年から正式に運用となっております。導入後5年目に入り，職種も職員数も増加したことに加え，在職中の職員には「働きがいある職場」，採用面では「魅力ある職場」作りを進めるため等級制度に職能制度を組込んだ制度と致しました。
3. 安定した経営
安定した経営には人材の確保が第一です。2018年は常勤医師が5名増員となりました。近時，地方病

院では医師・職員不足が深刻であり当病院も同様でありましたが，そういった意味で大きな喜びです。また他職員の採用面でいえば，5月より新卒者の採用面接を増加し2019年度には新卒内定者20名が決まっています。今後も各種チャンネル及び大学等との関係を強化し人材確保に努めて行きます。

2018年は診療報酬，介護報酬の改定がありました。近時は改定の都度，法人経営面から視れば厳しいものになって来ていますが良質な医療・介護を行っていく上では安定した経営は欠かせません。また医療・介護経営には人件費，設備機器費等の固定費が多額に必要です。そういった状況の中，2018年度はかねてからの懸案事項であった病床稼働率が，前年比6.3%増加，前々年比2.7%増加となりました。また一日平均の外来患者数も前年比4.8%の増加となりました。2019年度は消費税増税もほぼ確実視されており一層の経営効率と経費面での管理が必要になるものです。

4. 健康管理センターの改修

2018年12月より健康管理センターの改修に着手し，2019年3月22日に完成しました。改修内容は健康増進クラブ ONE を3階より1階に移設し面積を拡大致しました。この改修に合わせ，新機種も含め8台の運動機器を購入，更新しました。また健診センターについては，今まで1階にあった内視鏡検査室・準備室を2階に移設しました。これにより健診者と職員の動線が大幅に改善されます。

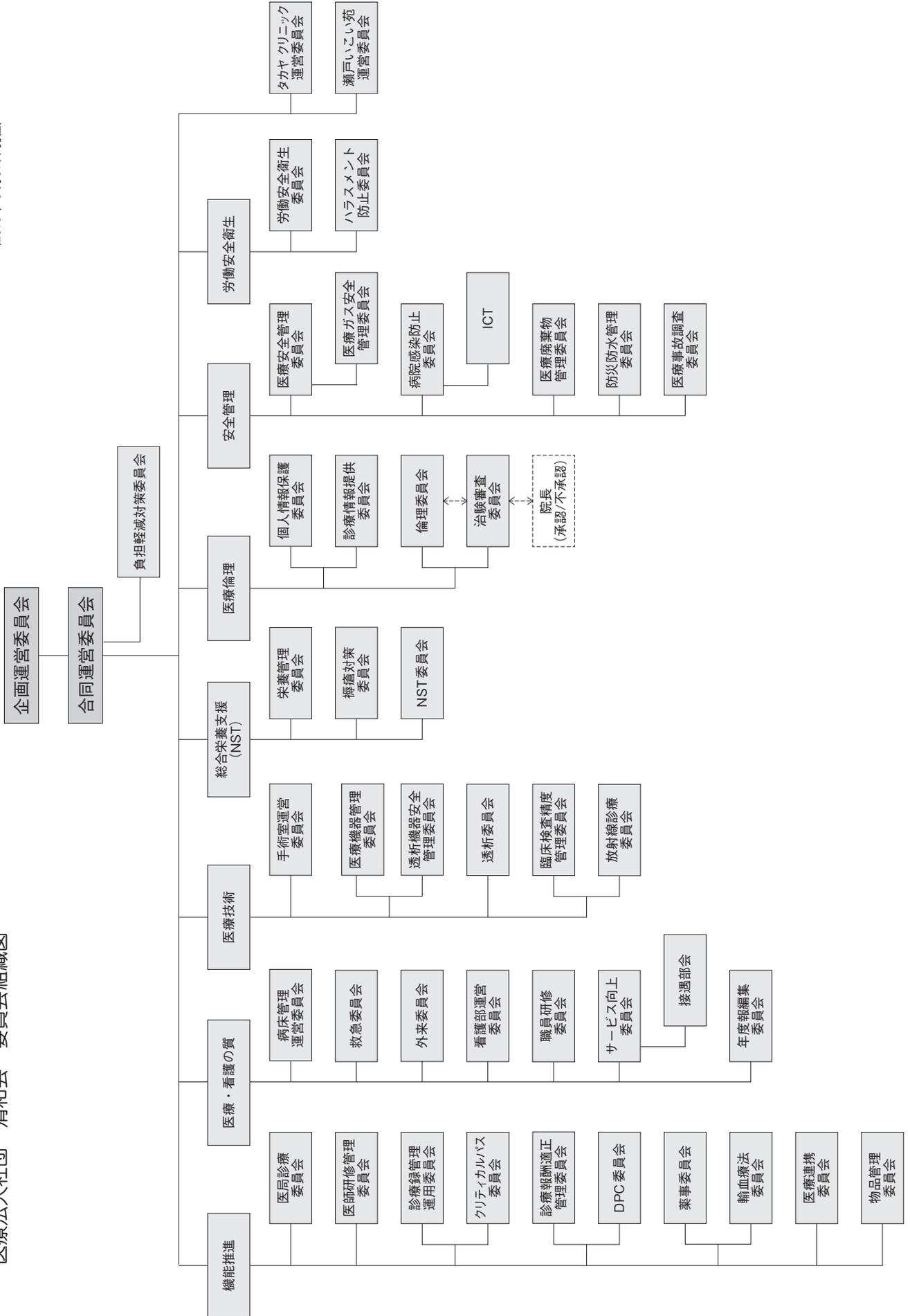
【2019年度目標】

1. 適正人員の確保及び配置
2. 長期事業計画の策定
3. IT等の利用による効率化
4. 人事労務システムの整備運用の推進

第3章 委員会報告

(2019年3月31日現在)

医療法人社団 清和会 委員会組織図



4月

1. 理事長より

①医師の勤務に関して

医師の勤務時間については週40時間が確保できていれば状況により対応していく。

②地域医療連携室について

森岡看護部長に地域医療連携室 室長として兼務をしてもらうことになった。

現在、社会福祉士2名で業務を行っているが、前年度に2名退職あり。6月より1名採用予定。

③健康増進クラブ ONE の拡張について

健康増進クラブ ONE の利用者も多いため、旧附属診療所の1階の利用を検討している。

④介護リフトの設置について

現在、老健で介護リフトを導入しているが、腰痛予防や安全対策になっているため、病院での利用を検討してほしい。

⑤附属診療所の名称変更について

4月1日より「笠岡第一病院健康管理センター」と名称変更。

【2018年4月17日 中国四国厚生局より今まで通り保険医療機関として登録が出来るため、保険請求可能と連絡あり】

2. 5月からの診療体制について

【2018年5月より】

小児科 湯本悠子医師が非常勤から常勤に。

整形外科 小坂義樹医師着任。

形成外科・褥瘡の専門医、小児整形外科医でもある。

【2018年7月より】

血管外科 松前 大医師着任。外科は矢掛町国民健康保険病院との連携を開始した。今後は地域の外科系との連携をしていく。外科系医師の増員に伴い、手術室3部屋の充実を図りたい。

3. 人事制度・給与の改定について

2018年4月支給分より

①役職手当、等級手当

役職の中の副科長、リーダーをAとBに分ける。等級手当を新設し、中堅A・B、ベテランに支給。0.3%の給与費の増。若い職員の養成の意味も含めて手当を支給する。

②資格手当

職員の個人のスキルアップ、キャリアの助成をしてきたが、今後は施設基準等、業務で必要なもののみ資格手当を支給する。今後は資格に合格した場合はお祝い金（一時金）を支給する。

③人事考課手当

人事考課を5年前から導入しているが、部署によって職員数が異なり、考課者の負荷が違うためその労を労い手当を支給する。

4. 法人事務局より

①永年勤続表彰について（5月10日）

②2018年度プロジェクト活動について
全てのプロジェクトを可決した。

③職員の推移について

病棟アシスタント、診療アシスタントが減っている。

5. 法人の状況について

6. その他

小児科 寺田喜平医師が「予防接種センター」の立ち上げを希望している。特別な場所は不要だが、職員の教育が必要となる。小児だけでなく、大人も対応する。寺田医師は感染症の専門家でもあるので、病院感染防止委員会に加わってもらうことを検討する。

5月

1. 地域連携の会について

職員と地域の医療機関との連携の会を福山市内の医療機関（大田記念病院、日本鋼管福山病院、福山市民病院、福山医療センター）で行っている。

2. 子育て支援について

病児保育について

笠岡市（笠岡市は岡山県内の広域と国）から補助金をもらって病児保育をおこなっている。2017年度は407名が補助金対象となり、補助金を受けた。子育て支援手当（年間約4百万円）：地域の保育園で育てるという意味もある。

家族手当：現在、第3子までの制限がある。これを取ってはどうか？

家族手当も子育て支援ではあるが、子育てをしていない人からすると、公平ではない。

3. ホームページの医師紹介について

病院のホームページの医師紹介に顔写真、名前、経歴が掲載されている。個人情報観点から顔写真を廃止する。ホームページのみ掲載をせず、広報誌等の紙媒体のものは今まで通り掲載する。ホームページ自体のリニューアルも進めている。現場の声が反映できるようなホームページにしたい。また、現在のホームページはスマートフォン対応が出来ていないが、リニューアル後は自動的に対応する予定。

4. 未収報告

督促、訪問も行っている。未収を回収することより、発生させない努力が大事。

5. 法人の状況について

2016年度の病床稼働率は70.6%であったが、2017年度は67.0%であった。3.6ポイント減少。

6. その他

◆社会医療法人について

白石島の診療所の支援を以前から頼まれていた。県議会議員、市議会議員の尽力もあり、白石島の診療所が「へき地診療所」として認可された。笠岡市からもその旨の連絡があり、今年度は岡山赤十字病院が医師派遣を行うことが決まっている。社会医療法人に認可されるためにはまずは県の認可が必要となる。へき地支援病院の要件は、厚生労働省は年間53日以上（週1日以上）のへき地診療所への医師派遣であるが、岡山県は常勤医師の3%以上の派遣となる。

◆4月からの人事制度・給与制度見直し

4月27日に見直し後の給与で支給を行った。年間15,060千円の人件費増、人件費率も0.3%増加する。

◆業務推進発表大会の開催日変更

7月7日から7月21日に変更。

6月

1. 地域の医師との懇親会について

新しい医師の着任が続いている。笠岡医師会の先生方も興味を持っていただいているようだ。

2. 朝礼のあり方について

発表者は良い話をしてくれるが、聞く人が少ない。もっと多くの人に聞いてもらいたい。今回、動画配信を試みた。数ヶ月やってみる。前の形態が良ければ、戻すこともある。多くが同時に動画をみると、容量も重く、あちこちで音が聞こえるので、できるだけまとまって聞いてもらう。

4月1日 新入職員の辞令交付、5月12日 永年勤続表彰、9月1日 昇進者の辞令交付、1月新春の挨拶等は今まで通り、食堂に集まるようにしたい。

3. 職員の子育て支援について

運動会等で職員が手薄になる際は、子育て支援に力を入れている病院であり、職員が手薄になっている旨を外来に掲示してはどうか。年に数回、運動会、入学式、卒業式などイベントの時に特に外来スタッフが手薄になる。子育て支援は病院の都合であり、その負担を患者さんにもしていただく事を大々的に掲げるのは疑問がある。職員が手薄になっても、そこは企業努力で患者さんに迷惑をかけないことも必要ではないか。職員の中には子供がいない人もいる。その人の立場もあり、子育て世代だけが優遇されるのはどうか。

4. 法人の状況について

透析の診療収入が減となっている。原因は診療報酬改訂に伴うものと患者数の減員によるもの。

5. その他

無事に2017年度の決算ができ、社員総会も終了した。2016年9月に医療法が改正され、特定医療法人は、理事は良いが評議員の中に職員は入っていないという要件ができた。評議員が理事会の監査をする役割を持つ。

7月

1. 今回の災害について

【職員の被害状況（自宅）】

- ・床上浸水 2名（倉敷市真備町、笠岡市甲の）
- ・床下浸水 3名（福山市千田町、福山市神辺、福山市山手）

矢掛町、三原市で断水 職員6名

実家（倉敷市真備町）が床上浸水 2名

病院の直接的被害は無かった。自宅・実家を含め、断水等何らかの被害があった職員は28名。床上浸水の2名には見舞金を病院から送る。今回の災害に関して、厚生労働省からは保険証が無くても受診が出来るようにとの通達があった。

2. 社会医療法人について

この度はへき地医療で検討しているが、救急医療で検討したこともある。救急医療で認可を受けるために必要な実績は夜間・休日の救急車の受入件数が750件以上。当院は日中を含めても750件程度のため、厳しい。病院のレベルを保持する事も必要であろう。社会医療法人になった病院に話を聞いたところ、ステータスが上がり、職員採用が楽になったと言われていた。公益性の高い医療機関を職場として求める人も少なくない。踏み切るのは慎重にしないといけない。

3. 法人の状況について

4. その他

病院協会 総会報告（能登）

5月の終わりに病院協会の総会があり、参加した。

8月

1. 臨床工学科について

倉敷成人病センターの広報誌に「臨床工学科」の紹介が掲載されていた。倉敷成人病センター臨床工学技士16名で、臨床工学科が確立されている。当院では、人工透析センター15名、手術室3名、タカヤクリニック4名、合計22名の臨床工学技士がいるが組織や立場が確立されていない。臨床工学技士のグループを作りたい。組織図上、どこにするか、責任者はどうするかの問題がある。来月再協議とする。

2. テニスコートの設置と利用について

旧瀬戸内荘の屋上にテニスコートがあるが、使われていない。そこを清和会で借りて、職員の福利

厚生の場合として提供したい。人工芝と砂を入れて、300万程度になる見込み。

3. 基本理念、基本方針の検討

基本理念は2010年8月より、基本方針は2014年12月に一部修正をし、現状となっている。特に問題はなく、このまま使用する。今後は毎年2月の企画運営委員会で議題に上げ、定期的に見直しを行いたい。

4. 委員会組織図の追加

- ・医療事故調査委員会 2015年10月発足
 - ・ハラスメント防止委員会 2016年4月発足
 - ・物品管理委員会 2018年1月発足
- 委員会として発足をしていたが、委員会組織図に追記されていなかったため、今回追記する。

5. 看護提供体制について

看護部の離職率がここ数年10%を超えている（全国平均では11%）。原因の一つが、2014年11月より地域包括ケア病棟が開設され、一般病棟が2病棟に減ったことで、一般病棟が煩雑となったためと思われる。当院では固定チームナーシングを2012年2月より導入しているが、メリット・デメリットがある。できるだけベッドサイドで看護を行うように、記録もベッドサイドで行うようにしている。2019年2月には新体制に向けての報告をする予定。

6. 瀬戸いこい苑CSセット導入について

病院にCSセット（ケアセット）が既に入っているが、老健にも導入を検討している。近隣の施設では金光病院の施設やきのこエスポアール病院の老健が導入している。近隣の施設に見学に行き、再度部署でも協議を行うこと。

7. 法人の状況について

7月の病床稼働率77.4%。8月も75%ぐらいになる見込み。

8. その他

◆義援金について

この度の豪雨災害を受けて、医療法人社団清和会より、

岡山県病院協会 10万円

岡山県医師会 10万円 →

岡山県内の被災した医療機関（10カ所？）

日本赤十字社 30万円

笠岡市 50万円

合計 100万円 義援金を行った。

今回の義援金については、法人及び職員全員の気持ちを含めてという趣旨で行った。法人としては個別の義援金の取りまとめは予定していない。

◆辞令交付式について

9月1日付で昇進を予定しており、辞令交付式を行う。

9月

1. 健康管理センター改築の件

附属診療所の一般診療を2017年3月末で閉鎖し、1年半が経過した。現在は健康管理センターとして、健診と健康増進クラブONEのみの運営となっているが、ONEの利用者が増え、手狭となっている。2019年4月を完成目標にパネルを取る工事を藤木工務店に依頼予定。改築後は大腸CT検査や、アンチエイジングも行う予定。3階のハーモニーホールはそのまま集団指導に使う。

2. 診療アシスタント（外来）・病棟アシスタント（入院）増員の件

医師や看護師といった国家資格の職種の人数は減っていないが、免許を必要としない職種が不足している。ハローワークの募集の仕方も検討する。

3. 9月1日付け昇進者の報告

例年よりは若手の昇進が多い。

病院が必要と認めたもの以外の資格手当は廃止としたが、それ以上の支給となっている。

4. 専門医研修施設について

「外科」「小児科」の専門医研修施設の認定も取れるのではないかと。取れるものは取っていきたい。「形成外科」も小坂医師が形成外科の専門医を持っており、再度取得できるのではないかと。放射線科は、医師2名以上の体制でないと難しく、取れそうになかった。専門医や専攻医に研修施設として来てもらえるような施設にしていく。

5. 病院機能評価の受審について

すでに関係部署・委員会で改善計画がなされているものもある。病院機能評価機能の結果を待たず、合同運営委員会でも報告し、問題点を各委員会・部署へ投げかけをする。

6. 法人の状況について

常勤医の増員に伴い、人件費が上がっている。

4月の診療報酬改訂に伴い、透析が減収となっている

10月

1. 地域枠卒業医師 勤務候補病院決定について

岡山県の医師養成確保奨学資金の貸付を受けた地域枠卒業医師で2019年4月より地域勤務を開始する医師の勤務候補病院として決定した。候補病院は当院を含めて9病院で、医師は6名。

既に、県北の5医療機関では昨年度、今年度と勤務開始となっているので、参考にできる。

各医師のニーズを聞き、色々なパターンに対応できる様、モチベーションが保てる様な勤務をしてもらう。

2. 倉敷中央病院 内科 専攻医の派遣について

倉敷中央病院から内科専攻医のカリキュラムで2名の医師派遣が決定した（各3ヵ月）。

3. 法人の状況について

7. 8月と病床稼働率が高く、それに伴い入院の診療収入も高かった。
医師の増員に伴い、人件費も増えている。

4. その他

◆看護体制の変更について

スタッフからもっと患者に寄り添いたいという声があり、ベッドサイド看護の充実を検討している。「セル看護提供方式」として来年年明けからの始動を予定。ナースステーションに出来るだけ帰らなくて良いように、無駄な動線を省く。教育体制をしっかりしないと、個人の力量の差が顕著に現れるのではないか。ナースステーションでの耳学問も必要では。患者が困ることが無いようにすること。また、医師の意見も聞いた看護体制にしていく。

◆手術室の改築について

旧瀬戸内荘の施設を借りて、手術室に改築することを検討している。手術室を移設し、手術室の跡には中材を含む物品の管理を集約させ、リフトで動かす。

11月

1. 瀬戸いこい苑 副施設長の件

従前より瀬戸いこい苑の施設長・管理者は宮島理事長であるが、副施設長を矢木医師にお願いして、人事を含めた管理をお願いする。

2. 個人情報保護の強化について（アンケートより）

6月に行った個人情報保護の勉強会で職員から取ったアンケートの結果報告。
アンケートの結果から個人情報保護に本気で取り組んでいるとは言い難く、取り組むタイミングが来ている。当院は電子カルテがインターネットの回線と繋がっていないため、インターネットを介して情報が流出することは考えにくい。一番、流出が考えられるのはUSB経由での情報持ち出し。使用できるUSBを制限し、万が一USBを紛失してもデータが他者には読み取れない暗号化できるUSBのみ使用と可能とする。

3. DPCなど情報の見える化について

情報の見える化を検討している。職員にも情報が見えるようにして、当院の立ち位置を示せるようにしたい。

4. 年表記を西暦に統一することについて

平成も31年で終わるが、元号が変わることに伴い、和暦から西暦に統一してはどうか。
行政の書類は和暦で行う。例えば、死亡診断書等も和暦記載。和暦の方が分かり易い。現状通りで良いのではないか。

5. 見守りカメラについて

ナースコールの更新に約90百万円かかった。10百万円追加すると、ナースコールのデータがナース

ステーションだけでなく、タブレットに伝送できるようにになる。看護師の動線軽減に有効、認知症患者の対応などにも有効か。

6. 院内勉強会について

院内勉強会が多い。必須のものもあれば、自由参加もある。できるだけ勉強会の開催時期が重ならないように、年初に職員研修委員会で計画を立てているが、計画通りいかず、勉強会の開催が重なることがある。

7. 委員会見直し

委員会の見直しを行った。新しい医師も着任しているの、委員長・副委員長の変更もあり。
瀬戸ライフサポートセンター内の、特養と老健の連携をもっと行ってほしい。

8. セル看護提供方式導入案

看護師1人あたり、5階であれば5～6名の患者を受け持っている。

2012年に「固定チームナーシング」を導入し6年が経過した。認知症患者が車椅子で詰所の中に座っている光景を多々見る。様々な観点から「セル看護提供方式」の導入を検討している。できるだけナースステーションに戻らなくて良い看護体制。患者に寄り添う看護にするためには発想の転換が必要。

患者に向き合うことは非常に大切な事ではあるが、患者の情報や看護の知識を共有ができるように、検証しながら、模索していくこと。安全な医療を提供すること。

9. 法人の状況について

「患者数等推移状況」の中に健康増進クラブONEの一日平均利用者数を追加。健診センターの利用者数も一日平均に変更した。

12月

1. 年次有給休暇の時季指定義務について

2019年4月より、有給休暇が10日以上付与される職員は、付与日から1年間の間に5日以上有給休暇を取ることが義務化される。常勤職員の場合、有給休暇は入職から半年後に10日付与となるため、その時点から1年間で5日以上。現在、様々な時期に職員が入職となっているため、管理がしにくい。そのため、有給休暇付与日を4月1日に揃え、年度内に5日取ってもらってはどうか。

2. 大型連休について

2019年のみ、天皇陛下の退位・即位に伴い、4月30日～5月2日も祝日となることが決定した。
10連休と超大型連休になるため、各医療機関でも通常業務をするところもあると聞いている。10連休にすると、前後の日に患者が集中することが予測される。笠岡市民病院は2日間は通常業務を予定している。

5月2日は当番医が当たっているため、4月30日

は通常通り、5月2日は当番医業務とする。

3. 新年のスケジュール

①新年の朝礼について

1月4日8時30分～理事長・院長の年始の挨拶を行う。現在、朝礼は動画配信となっているが、新年の朝礼は行う。

②紙面挨拶について

副理事長・副院長2名・透析センター統括・タカヤクリニック所長・法人事務局長・看護部長7名は例年通り、紙面挨拶とする。

4. 負担軽減検討委員会より

病院勤務医の負担軽減及び処遇の改善に関する取組事項の公開について

5. 見守りカメラの現状対象者について

見守りカメラを各階に付けるとしたら、どの程度の患者がいるのかの調査をおこなった。5階 3.8台、4階 4.5台、5階 3.4台と各階とも入院患者の約1割が対象となった。見守りカメラを設置することで、看護師の負担軽減と、患者の安全確保のため、多数利用すれば良いのではないか。投資が必要ではあるが、効率化と負担軽減になるのではないか。

6. 法人の状況について

【患者数の推移について】

2007年と2017年を比較し、患者数がどの様に推移しているかを調査した。年齢階級別で見たところ、実患者数では45歳以上は増加傾向であったが、44歳以下の年齢は減少していた。特に65歳以上の高齢者の増加が著しい。実患者数は当院の6割の患者が笠岡市の住民であることから、笠岡市の人口減少に伴う要因もあると思われる。延患者数も同様の傾向ではあるが、0～4歳と65～74歳では1人当たりの平均来院回数が減っており、長期投与の影響と思われる。

【10～11月の報告】

11月病床稼働率72.3%。

7. その他

◆賞与支給について

12月14日に冬期賞与支給

◆手術室について

外科系医師の増員に伴い、手術件数が増えているが、手術室のスタッフが看護師2名 産休、臨床工学技士1名 退職に伴い、人員が少なくなり、スタッフが疲弊している。

1月

1. 年次有給休暇の時季指定義務について

2019年4月より年5日の有休取得が義務化される。職員各々、入社日が異なり、それに伴い有休の付与日が異なる。1年目の入社6ヵ月経過後は従来通りとし、2年目の付与日を4月1日で揃える。

2. 内定者について

【4月1日以降採用内定者（1月8日現在）】

看護師 5名、診療アシスタント 2名、社会福祉士 1名、医療事務 2名、臨床検査技師 1名、臨床工学技士 3名、理学療法士 2名、管理栄養士 2名、調理師 1名

合計19名（既卒 3名、新卒 16名）

新人研修会について

案：3月26日・27日、4月3日・6日

3. その他

◆健康管理センターの改築について

改築費用が35～40百万かかる見込み。機材の更新も同時に検討する。4月より稼働予定であるが、そのタイミングで会費の値上げも予定している。改築後はフレイルやアンチエイジングにも取り組む予定。

2月

1. 基本理念・基本方針

病院機能評価で「基本理念・基本方針」を毎年変更する必要は無いが、検討の場を設ける必要があるため、毎年2月の企画運営委員会で検討することとしている。「基本理念」はよほどの事が無い限り、変更しない。「基本方針」は毎年、討議し、次年度の年度目標を盛り込んでどうか。来月の会議に、病院・老健・健康管理センター・タカヤクリニックから基本方針を持ち寄り、再検討を行う。

2. 患者指導の強化について

栄養指導・運動指導を定期的に出来る仕組み作りをしたい。病院として患者指導ができる病院にしたい。栄養士・保健師の、予約をしなくても当日すぐに指導ができる常設コーナーがあれば良い。

3. 笠岡市立市民病院 MRI の件

笠岡市立市民病院のMRIが故障したが、新規購入はしないため、緊急時は対応してほしいとの依頼があった。他の開業医と同様に依頼MRIとして受ける。

4. おかやま山陽高校へ運動器具引き渡しについて

この度の健康増進クラブ ONE の改築に伴い、運動器具を一部更新することにした。その中に購入から30年近くなる運動器具があり、廃棄を考えていたところ、おかやま山陽高校で引き取り、修理もメンテナンスも行ってくれることになった。

5. 瀬戸いこい苑 CS セット採用に関する報告

8月にも検討したが、①感染リスクを下げる ②コスト削減 ③業務の効率化を目的に導入をしたい。タオル、おしぼり等日用品をメインに190円/日。今まで、タオルは施設負担であったが、今後は利用者負担になる。4月1日より開始する。

6. 職員研修委員会より

「禁煙」「虐待防止」の研修会の主催が決まっていない。「禁煙」は禁煙外来でやってもらう。「虐待防止」は委員会を新たに作っても良いのではないか。3月に再検討する。

7. 健康増進クラブ ONE 料金改定について

健康増進クラブ ONE の利用料を改定する。新しいトレーニングマシンはカーザー社製のトレーニング器具7台を予定している。

8. 院内ビルメンテナンス外部委託の件

院内のビルメンテナンスの外部委託を検討している。今後、看護師で無くても良い部分はアシスタントや外部委託にするなどを検討していきたい。

9. 法人の状況について

1月病床稼働率 73.4%，一日平均 109名。

3月

1. 基本方針の見直しについて

各施設の2019年度の基本方針を決定した。

2. 職員研修委員会検討事項

- 1) 「虐待防止」研修会の主催者の検討
研修会は開催する。どこが主催するかに関しては、職員研修委員会で決める。
- 2) 職員の負担軽減のため、2つの研修会をまとめて実施<開催時間：1時間～1時間30分>。色々な問題はあると思うが、2019年度はまとめて実施する。

3. 仕事の効率性について

これで当たり前だと思っている事をもう一度見直す、検討しなおす時期が来ているのではないか。例えば、ベッドのシーツ交換だけの人とか、仕事の複雑性をシンプルにしていく。もっと一人ひとりの専門性を持たせた方が良いのではないか。

4. 外来相談、指導窓口の統合について

5. 職員健診での大腸 CT 利用について

職員健診で発見し、職員から癌患者を出さないためにも、希望者がいれば実施を行いたい。

6. 4月採用について

- ・辞令交付式について 4月1日8時30分～
- ・採用内定者について
4月1日付採用 24名 内19名が新卒
4月1日時点の職員数は408名となる見込み。

7. 優良従業員表彰について

- ◆笠岡市 商工観光課（4月）
- ◆笠岡市 健康推進課（5月）
- ◆笠岡市 長寿支援課（11月）
- ◆岡山県病院協会（10月）

8. 就業規則の変更について

この度の4月からの有給休暇5日時季指定義務に伴い、就業規則を一部変更する。社会保険労務士と相談後、各種手続きを行う。

9. 2019年度 業務推進発表大会の開催について

例年通り、7月の第1土曜日 2019年7月6日に行う。

合同運営委員会

委員長 橋詰 博行

本委員会は各科（課）科長・副科長等部署の代表者、各種委員会委員長で構成され、毎月第3水曜日午後6時から開催しております。①企画運営委員会の決議事項の伝達、②企画運営委員会への提議、③各種委員会の審議事項及び決議事項の伝達、④各部署間の連携調整、⑤各部署職員からの意見の集約、⑥病院への要望の調整、⑦法人からの事務的な連絡事項の伝達、の7項目を議題の中心としています。

委員会からの議題としてそれぞれ毎月の状況が報告

されています。その他各部署および各種プロジェクトの連絡がありました。

合同運営委員会の下、すべての委員会は①機能推進、②医療・看護の質、③医療技術、④総合栄養支援、⑤医療倫理、⑥安全管理、⑦労働安全衛生、その他の7グループに分けられています（p.71参照）。

今後とも決定事項の伝達と周知徹底にとどまらず、さらに各部署や委員会からの要望を討議できる場所として運営したいと考えています。

機能推進

医局診療委員会

医局長 渡辺 明良

医療レベルの向上と患者の皆様への医療サービスの改善を目的として開かれる医師を中心とした委員会です。常勤医全員ならびに法人事務局長、看護部長、診療情報管理室、地域医療連携室のスタッフ等により、必要な問題を審議しています。毎週第4水曜日の午前7時30分から、軽食と飲み物を摂りながらの会議ですが、毎回1時間を超える討議が熱心に行われています。

2018年度は、新たに血管外科、放射線科の常勤医師が着任し、医療の質が一段と向上しました。特に、放

射線科医が常勤医として着任したことは、医局の医師にとっても大きな助けとなっています。これまでは、岡山画像診断センター（その中には、笹井医師もいたのですが）に所見付けを依頼していたため、画像診断が1日遅れとなることもありました。しかし現在では、毎朝のカンファレンスや月曜日の術前症例検討会、金曜日の症例検討会、第1と第3水曜日の朝に行われている死亡症例検討会等で、笹井医師とともに活発な討議が行われるようになりました。

医師研修管理委員会

委員長 橋詰 博行

当院では新専門医制度に対応することと、従来の研修医の受け入れを一本化する目的のために2016年度より本委員会を立ち上げております。

当院における教育・研修認定状況は日本整形外科学会専門医研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本手外科学会専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本臨床薬理学会専門医研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、臨床研修病院指定施設となって

おります。2018年度は川崎医科大学2名、倉敷中央病院2名の研修医の方々に1ヵ月研修していただきました。また倉敷中央病院から1名3ヵ月間の総合診療科（小児科研修）の研修を受けて頂きました。

各科における新専門医プログラムについては表のごとく各科で専門研修プログラム作成にかかわっていただいています。本格的な新専門制度のスタートに向けて今後とも準備を計ってゆきたいと思っております。

表 各科新専門医プログラム研修担当医

基幹研修施設 基本領域	岡山大学	川崎医科大学	倉敷中央病院	担当医	指導医
内科	岡山大学病院内科専門医研修プログラム		倉敷中央病院内科専門医研修プログラム	原田 和博	原田 和博
小児科	岡山大学病院小児科専攻医プログラム	川崎医科大学附属病院小児科専門研修プログラム		寺田 喜平 湯本 悠子	寺田 喜平 湯本 悠子
整形外科	岡山大学整形外科専門研修プログラム			橋詰 博行	橋詰 博行 小坂 義樹
泌尿器科		川崎医科大学附属病院泌尿器科専門研修プログラム		古川 洋二	古川 洋二
眼科		川崎医科大学附属病院眼科専門研修プログラム Ver.1		渡邊 逸郎	渡邊 逸郎
救急科	岡山大学病院救急科専門研修プログラム		倉敷中央病院救急科専門医研修プログラム	阿曾沼裕彦	阿曾沼裕彦
リハビリテーション科	岡山大学病院リハビリテーション科専門研修プログラム			橋詰 博行	橋詰 博行

基幹研修施設 基本領域	岡山大学	川崎医科大学	倉敷中央病院	担当医	指導医
総合診療科	岡山大学病院総合診療 専門医研修プログラム	川崎医科大学附属病院 総合診療専門研修 プログラム	倉敷中央病院備中総合 診療専門研修プログラム	橋詰 博行	橋詰 博行 中村 淳一 森元 裕貴

診療録管理運用委員会

委員長 阿曾沼 裕彦

2018年度は2017年に導入した電子カルテシステム（リプレース）の運用の調整や取り決めの作成を主な活動にしてきました。分散していた情報を集約したり、ルールを明確化させることで情報共有をスムーズに行えるように調整してまいりました。2018年度は病院機能評価更新受審にてシステム運用上の課題等もご指導

いただき、それに対応できるように協議をしております。

また、診療情報管理士による定期的な診療録の監査報告を行い、適切な診療録の管理・運用が行えるよう、診療録の質の向上に努めております。

クリティカルパス委員会

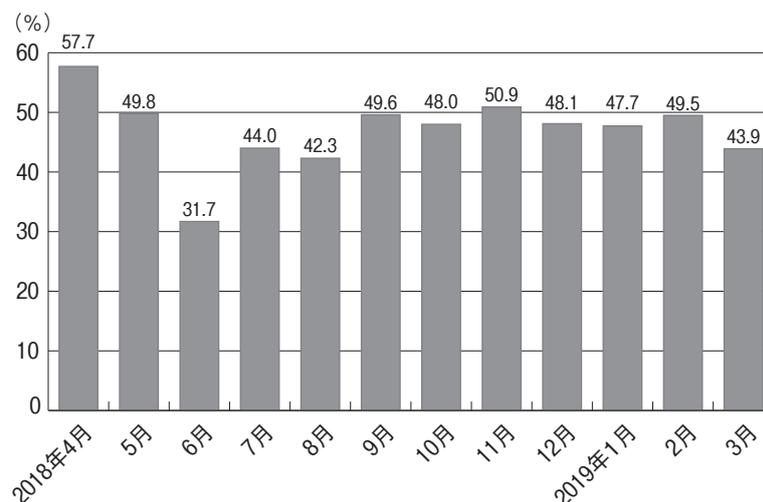
委員長 阿曾沼 裕彦

2018年度の年度初めは電子カルテ導入後のパスマスタ側の不具合や入院患者数の減少などの影響から、一時的にクリティカルパスの適応率の低下が見られましたが、年度後半では安定して50%前後の適用率を維持することができました。現在、使用可能なクリティカルパスの総数は143種(内科系49種, 外科系94種)と徐々に増えています。病院機能評価の更新受審でもクリテ

ィカルパス適応率が50%以上であることは高く評価して頂きました。今年度はパス大会を開催することは出来ませんでした。来年度に向けてパス大会の開催の準備も行っています。

今後も医療の質向上と標準化、患者の皆様への快適な入院生活を送る為のサポートができるよう委員で協力していきたいと思っております。

クリティカルパス適用率 (2018年度)



診療報酬適正管理委員会

委員長 古川 洋二

本委員会は医師・医事課・臨床検査技師・診療放射線技師・看護師・リハビリ等の多職種で構成され毎月第4月曜日に開催しています。

タカヤクリニックと病院での情報を共有するため、テレビ会議システムを使用し、医事課の委員を中心に査定内容を協議しています。再審査請求を行う事もあり、協議の結果必要であれば医師による症状詳記をし、再請求も行っています。

右記の表に、2017年と2018年のレセプト総枚数と1年の査定率の平均を示します。レセプト総数は昨年と変わりありません。査定率は、社保はやや上昇傾向で

すが詳細は不明です。今後も“査定率ゼロ”を目指して的確な保険請求業務を行っていきたいと思います。

1年間のレセプト総枚数と平均査定率

		2017年	2018年
社 保	レセプト総枚数	33,114	32,523
	査定率	0.37	0.52
国 保	レセプト総枚数	44,981	44,900
	査定率	0.25	0.24

DPC 委員会

委員長 古川 洋二

当委員会はDPC対象病院の要件である「適切なコーディングに関する委員会の設置」に基づき、奇数月の第4月曜日に開催しております。構成メンバーは医師、薬剤師、医事課、診療情報管理士とし、審議に必要な場合はそれぞれ部署の責任者を交え、活発な討議を行っています。また、月毎の症例検討では、DPC/PDPS傷病名コーディングテキストを用いて適切な診断群分類決定し、公正な請求に努めています。

2018年度は診療報酬改定があり、DPC対象病院では、DPC/PDPSによる包括評価を優先し、当院では年間に約600の該当症例があった短期滞手術等基本料等3は算定不可となった為、入院料減収の一因となりました。

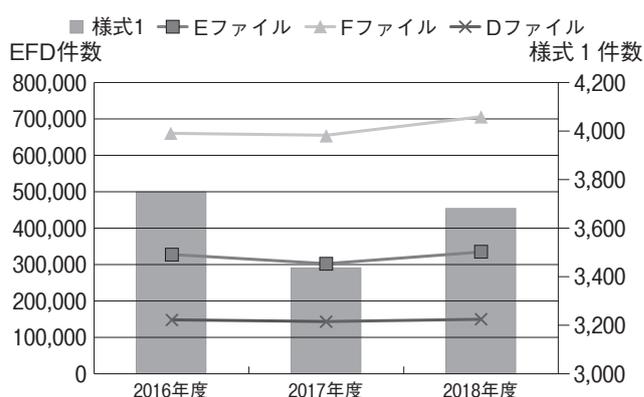
機能評価係数Ⅰでは、新設された提出データ評価加算、後発医薬品使用体制加算、病棟業務薬剤師の体制が整い病棟薬剤業務実施加算など新たに係数として算定しました。機能評価係数Ⅱでは、地域包括ケア病棟への転棟などベッドコントロールセンターとの連携が十分図れたことにより、全国平均より0.01763高い係数を得ることができました。総合的に医療機関別係数は昨年度比+0.0439となり、例年とほぼ同等の係数となりました。

今後もDPCデータより得られた情報を各部署にフィードバックし、医療の質の向上、標準化に努めていきたいと思います。

厚生労働省提出データ件数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
様式1	3,749	3,436	3,681
Eファイル	327,741	302,429	334,449
Fファイル	660,433	655,166	706,144
Dファイル	148,251	143,533	149,648

厚生労働省提出データ件数の推移



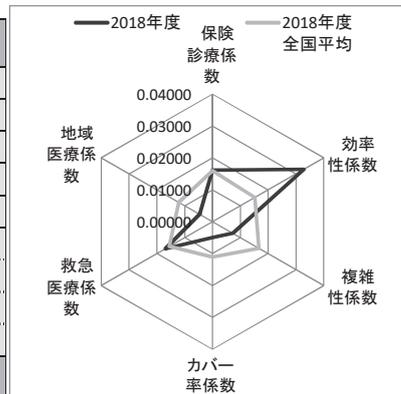
2018年度医療機関別係数について

	2017年度	2018年度
医療機関群	Ⅲ群	DPC 標準病院群
上記の基礎係数	1.0296	1.0314
暫定調整係数	0.0165	0.0000
機能評価係数Ⅰ	0.0744	0.1134
機能評価係数Ⅱ	0.0633	0.0829
合計	1.1838	1.2277

機能評価係数Ⅱに関して

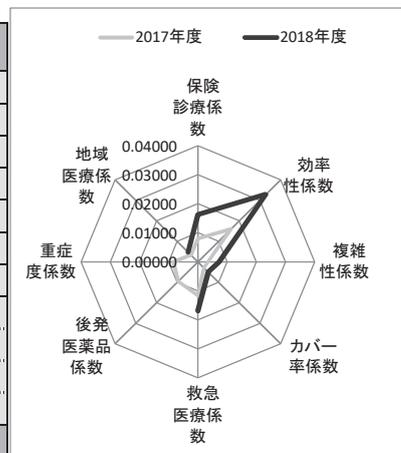
2018年度全国平均比較

項目	2018年度	2018年度 全国平均	全国平均 との差
保険診療係数	0.01617	0.01599	0.00018
効率性係数	0.03282	0.01519	0.01763
複雑性係数	0.00729	0.01670	-0.00941
カバー率係数	0.00498	0.01105	-0.00607
救急医療係数	0.01693	0.01553	0.00140
地域医療係数	0.00468	0.01214	-0.00746
①体制評価係数	0.00250	0.00615	-0.00365
②定量評価係数(小児)	0.00156	0.00283	-0.00127
③定量評価係数(小児以外)	0.00062	0.00316	-0.00254
合計	0.0829	通知より 0.0862	-0.0033



2017・2018年度比較

項目	2017年度	2018年度	昨年度 との差
保険診療係数	0.00806	0.01617	0.00811
効率性係数	0.01602	0.03282	0.01680
複雑性係数	0.00337	0.00729	0.00392
カバー率係数	0.00296	0.00498	0.00202
救急医療係数	0.01166	0.01693	0.00527
後発医薬品係数	0.00949		-0.00949
重症度係数	0.00840		-0.00840
地域医療係数	0.00332	0.00468	0.00136
①体制評価係数	0.00203	0.00250	0.00047
②定量評価係数(小児)	0.00093	0.00156	0.00063
③定量評価係数(小児以外)	0.00035	0.00062	0.00027
合計	0.0633	0.0829	0.0196



薬事委員会

委員長 原田 和博

薬事委員会は、2ヵ月に1回開催し、医師2名、薬剤師、臨床検査技師、外来・各病棟看護師で、新規採用医薬品や採用中止薬情報、医薬品の安全情報や問題点等を話し合っています。

また、生物由来製剤の院内使用状況の検討と適正使用の啓蒙も行っています。2018年度も適応に関する問題点、使用による副作用は認められませんでした。

厚生労働省や各製薬会社等からの情報は薬事委員を通じて各部署に伝達し、また各部署からの医薬品に関

する問題点等の情報もこの委員会に集結します。

全職員対象の医薬品に関連した勉強会の開催は必須で、2018年度は、10月24日と11月9日の2日間「高齢入院患者の不眠・せん妄にどのようにアプローチするか？—具体的な薬物療法やケアを含めて—」の演題で開催しました。著名な講師で充実した内容であり、分かりやすく大変好評でした。

2018年度の新規採用医薬品数は約45品目で、数は昨年より増加しましたが、同時に昨年度の目標の一つに

挙げていた後発品への切り替え検討・変更を積極的に行いました。

来年度は、今までと同様に採用医薬品の見直しと整理、積極的に後発品への変更を進めていくことと、医

薬品適正使用推進のため、特に院内で発生した副作用情報について、積極的に集約・発信することに力を入れていきたいと思っております。

輸血療法委員会

本委員会は医師、看護師、臨床検査技師を中心に2ヵ月に1回、第2金曜日に薬事委員会と合同で開催しており、輸血の現状報告を中心に議論しています。2018年度の輸血使用数は、照射赤血球液513単位、新鮮凍結血漿18単位、照射濃厚血小板110単位で、輸血に関連する副作用の報告はありませんでした。病院機

委員長 原田 和博

能評価の受審に伴い、システムの見直しや改善を図りました。また、受審後に指摘のあった点についても改善を行っています。その他、職員を対象とした輸血療法の安全管理について、副作用や輸血過誤を含めた勉強会を行いました。

医療連携委員会

年1回の本委員会は医療・介護・福祉のシームレスな連携について一年の計画を立てる上で重要な位置を占めています。

2016年6月から2018年3月まで、退院支援加算Iを算定しました。算定要件には、連携する医療機関等(20ヵ所以上)の職員と定期的な面会を年3回以上実施することや、介護支援専門員との連携実績が問われまし

委員長 橋詰 博行

た。これらは、現在に至る医療・介護・福祉間の顔の見える連携となり良好な関係作りに繋がっています。

2017年度からは倉敷中央病院との心不全・心筋梗塞地域連携パスを開始し、「地域連携診療計画加算」の届出をしています。地域連携パスの検討も本委員会で行っております。

物品管理委員会

2017年1月に設立されました物品管理委員会も活動から1年余りが経過しました。昨年度の目標でした全体研修会も無事開催を終え、職員も物品管理システムによる運用に慣れてきたものと思っております。

当委員会は医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、中央材料室スタッフ、手術室スタッフ、瀬戸いこい苑スタッフ、医事課・法人事務局の事務員で構成され、委員は19名を数えます。適切で効率的な物品の使用と在庫管理、物品管理業務の負担軽減を目的とする当委員会では月に1回、部署の垣根を越えての問題提起と議論が活発に行われています。

一例として、各部署単位が独自に採用していた各種医療用テープを用途毎に統一し、不要な在庫も持たないという取組みが委員の提起から始まりました。この他使用期限(滅菌期限等)が迫った物品が期限切れを

委員長 能登 壮夫

起こさぬよう、委員会開催時に期限が迫った物品を持ち寄って各部署間で融通し合い、期限切れの前に使用を促すなどの対策も同様に提起され、着実に成果を上げています。

一方で、1年間で委員会メンバーによる取扱いのフィードバック等も行っていますが、一部職員には浸透しきれていないこと等による問合せ件数の多発及び、物品マスタに関連したシステム上のトラブルが発生しており、この改善を当面の課題と捉えています。目下物品マスタの整備と、同じ用途で使用する物品の重複採用を整理・統一する作業に邁進しております。またマスタ作成作業の簡略化のため、新たなシステムの導入も検討されています。まだまだ課題となる点も多いですが、着実に課題を解決しながら、より効率的な物品管理を目指して活動して参ります。

医療・看護の質

病床管理運営委員会

委員長 阿曾沼 裕彦

病床管理運営委員会は、病棟・病床の円滑かつ機能的な運営を図るため、様々な問題を取り上げ、解決すべく毎月審議を重ねています。

月毎の入院患者数や稼働率などのデータをもとに行う患者の動向調査も重要な活動のひとつです。前年・前々年データとの比較や、診療科ごとの患者数の増減など、あらゆる方向から分析を行っています。その結果2018年度は、月平均入院患者数3,313.9人、一日平均患者数108.4人、平均稼働率73.2%といずれの項目においても昨年を上回る結果となりました。その要因として次の2点が挙げられます。

① 退院時間を午前10時に設定

病棟スタッフの意識改革から周知徹底を行い、患者さん向けに「お願い」の用紙も入院案内に入れ込みました。これにより予定退院者のほとんどの方が午前10時までに退院され、同日午後からの入

院や転棟が可能になりました。より効率のよいベッドコントロールに繋がったと思います。

② レスパイト入院を開始

ソーシャルワーカーを中心に受け入れのための規約を作成し、居宅介護支援事業所へのお知らせも行いました。入院中から退院後の在宅医療を支えるため、関連部署と情報共有を密にし連携を強化してきました。当初は地域包括ケア病棟の稼働率アップに向けた取り組みでしたが、患者さんからの要望も増加し、現在は順調に運用されています。地域の中で患者さんのニーズにあった医療の提供こそ、当委員会の果たすべき役割だと思います。

今後、井笠地域ではさらに高齢化が加速していきます。入院患者の認知症対策など検討課題は数多くありますが、来年度も質の高い医療・看護が提供できるよう活動していきたいと思っています。

救急委員会

委員長 阿曾沼 裕彦

救急受け入れ要請件数は年々増加傾向にあり、昨年は1,200件を超えました。しかし人的要因ならびに空床状況により受け入れは890件にとどまっています。今後も救急受け入れ要請件数は増加すると思われますが、どれだけ受け入れることが可能か委員会としても検討をしていきたいと思っています。

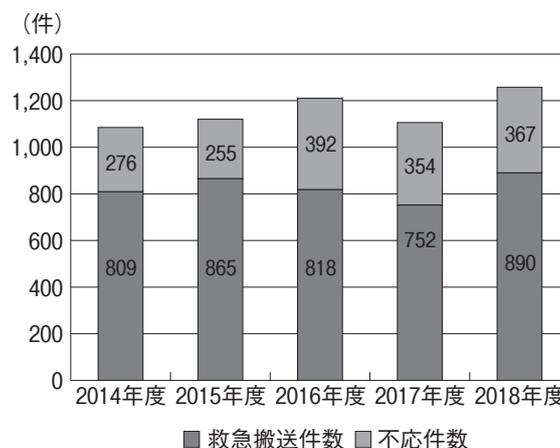
2018年度、救急室の除細動器が日本光電社製に更新されました。体外ペースティング機能をはじめ、多機能な

除細動器です。また2019年度にはビデオ喉頭鏡（マックグラス）の購入を検討しています。これはモニター画面により喉頭部および気管入口の視野を確保することができ、確実な気道確保を行える喉頭鏡です。

救急医療も日々変化しており、柔軟に対応できるようにマニュアルを作成する予定です。

今後も二次救急指定病院としての務めを果たすべく、委員会活動を行っていきます。

年度別救急搬送件数と不応件数の推移



外来委員会

委員長 中尾 留美

外来委員会は、医局、看護部、薬剤管理科、栄養管理科、臨床検査科、リハビリテーションセンター、画像診断センター、法人事務局、地域医療連携室、人工透析センター、医事課で構成され、奇数月の第2水曜日に開催しています。各職種間で連携を図り、外来部門全般における患者サービスの向上を目指し、病院全体の患者サービスにつなげる働き掛けを行っています。

2017年4月、附属診療所が一般診療を終了し、診療が病院に一元化したことで来院患者も増え、新任医師の着任により新たに診療科も増えました。そのため2018年度、委員会は以下の内容について取り組みました。

患者来院数の増加により、1階総合受付の対応患者が増え、受付、再来機は混雑する状況が発生しました。この原因として再来機の処理能力の問題が浮上しました。そこで各再来機の利用件数、データ利用件数と処理状況を把握しました。そのデータを元に処理能

力の高い再来機を2階から1階へ入れ替えを行ったところ、患者受付対応がスムーズになり各再来機を平均的に使用することが可能となりました。

また、病院内の患者案内の充実に向けた働きかけとして、以前取り組んだ案内板の使用や床ピタシートの貼付がありますが、これらにより案内は便利になりました。しかし床ピタシートを貼付していない内視鏡センターは迷う方が多い現状が浮き彫りとなりました。そこで色別天井ライトを設置いたしました。画像診断センター・青、生理機能検査センター・ピンク、内視鏡センター・緑を設置したところ、案内しやすくなり問い合わせも減りました。

外来委員会では、ちょっとした気づきや患者の皆様のご意見を真摯にうけ止め、問題解決に取り組んでいます。まだまだ改善すべき課題もあります。今後も患者の皆様にとって心地よい診療サービスが提供できるよう邁進したいと思います。

看護部運営委員会

委員長 森岡 薫

看護部運営委員会は、看護部の方針に基づき活動しました。

現状の問題点を把握しながら、問題解決の協議や日々の看護を振り返る委員会です。問題提議や提案を、各部署の責任者達で前向きに考える場でもあります。

2018年度は「病院機能評価受審」で始まりました。経験者を指導係にして、次世代の中間管理職を中心に取り組みました。各職種、各部署と連携しながら委員会で協議を重ねました。結果的には厳しい評価もありましたが、取り組んだ過程が看護部の財産となっています。今回の指摘や評価を励みに、看護の質の向上に努めていきたいと思っています。

また部署目標に対する進捗状況は責任者から報告が

あり、それぞれが責任を持って成果を出しています。情報共有しながらその都度検討や協力体制を話し合う、看護部の取り組みにはこの委員会が大きな役割を發揮しています。突発的な人員不足に対しては委員会で検討し、応援体制で乗り越えました。そして日々の応援は、各部署の責任者が互いに声を掛け合い、素早い行動で支え合っています。この限られた人員の中での応援体制は、看護部の自慢するところですよ。

次年度もこの委員会を中心に、協議をしながら一つずつ解決していきます。看護部の推進力である委員会として、報告・伝達の委員会ではなく検討を重ねる有意義な委員会を目指します。

職員研修委員会

委員長 森岡 薫

職員研修委員会の目的は以下の2点です。

1. 職員の研修計画を立案・推進し、職員の質の向上や一人ひとりの向学心を養い学習環境を整える。
毎年のことですが、計画以上に多岐に亘る研修や勉強会を開催しています。冬季の繁忙期には研修を控えるよう工夫していますが、そのしわ寄せで3月は研修が日々重なった現状でした。これは長年の課題ですが前向きに検討し、2019年度は新たな研修体制を構築しています。医療人として受ける研修に優劣はなく、どの研修も貴重な機会です。時間や回数、アンケートを工夫して、参加しやすい体制を整えました。
研修計画を進める中で新たな課題も出てくると思いますが、職員の学ぶことへの意識向上と学習

する風土を作るために、今後も有意義な研修体制を推進していきたいと思っています。

2. 所有する図書管理を行い、職員の向学心を養い学習環境を整える。

24時間使用できる図書室は、職員の自己研鑽に欠かせない場所となっています。職員の更衣室に近く、利便性もよい静かな環境です。新規購入図書69冊、年間購読雑誌は1種増え、51冊となりました。購読雑誌は内容を毎年見直し、各部署の研鑽に役立つ雑誌を目指しています。

ひき続きともに育つ風土を守りながら、職員の質の向上を目指したいと思います。

サービス向上委員会

委員長 宮島 裕子

1. 広報誌『瀬戸の風』

広報誌「瀬戸の風」は2003年より①地域・患者の皆様方へ「豊かな健康」の理念に基づいた疾病予防・治療の情報提供 ②当院の方向性や院内での出来事、業務状況・実績の報告 ③医療機関との連携の強化 ④職員間のコミュニケーション、自己啓発の4点を主旨に「ためになる・わかりやすい・読みやすい」広報誌を目指し毎回すべてを手作りで発行（発行部数：3,000部）しています。発行当初は年4回（8ページ）発行していましたが、当清和会のたゆまぬ歩みや医療現場の日進月歩の変革の状況などを盛り込むには紙面量および編集に要する時間など制約が多く、2017年より年3回（12ページ）の広報誌に刷新し内容の充実を図り、デザインも一新しました。発行25ヵ月前に様々な視点から意見を出し合い掲載項目を決定する編集会議を行い、取材班、校正班、編集班の3グループに分かれ作業を開始します。企画から、原稿依頼・取材、レイアウト、原稿チェック・校正と、内容や文字の大きさ、配色など毎回細かく検討し期限内完成を目指しています。読んで下さる対象が患者・家族の皆様、地域の方々、医療介護関係の皆様と広範囲であり、テーマの絞り込み、即応性など配慮検討を重ねてもなかなか満足できる仕上がりにはなりません、引き続き共に育ち共に愛される広報誌を発行できるよう努めて参ります。

2. 健やかライフメンバーズ 健康教室・意見交流会開催

健やかライフメンバーズの活動テーマは、①ひとりひとりに合った豊かな健康を医療者と共につくり上げる、自分の健康は自分で守る、②病気の知識を学びその予防をする、③医療機関との望ましい関係作りです。メンバーの皆様が自ら行動し、その知識や情報を生かした地域活動、また当院へのご要望やご意見などもお教えいただくなど、地域の皆様が生き生きと健康で健やかに過ごすことができるよう共に学び、共に考え、共に歩むことを目的に健康教室や意見交流会の開催、また健康情報や健康レシピなどのお役立ち情報の配信などの活動を行っています。

今年度は、下記10回の健康教室を開催し延べ949名の参加があり、新たに健やかライフメンバーズに加入された方は22名で登録者も182名となりました。また、第10回目となる意見交流会を7月11日に開催し53名と大変多くの参加がありました。理事長より新任医師の紹介、ナースコール「見守りシステム」など新しく導入した設備の紹介を行った後、メンバーの皆様からご要望やご期待など貴重なお話を多数お伺いすることができました。今後も予防医学・健康に関する知識を広めるため健康教室の開催、健康に暮らす知識や工夫を地域の皆様とともに考え、健康で生き生きと生活できるよう地域医療をともに守り育てていきたいと願っています。

◆健やかライフ メンバーズ 健康教室 開催実績

No	開催日	テーマ	講師	参加人数
98	2018年4月14日	みつめよう！自身の体力	健康運動指導士 石部 豪	67
		やってみよう！簡単体操	健康運動指導士 内田郁弥	
99	2018年5月12日	こんなに変わった！慢性痛対策	ペインクリニック内科 森田善仁	86
		みんなで語ろう！痛みへのケア	臨床心理士 田野口瑞季	
100	2018年6月13日	痛いのは嫌じゃ！ — 帯状疱疹を予防・軽症化する方法 —	小児科 寺田喜平	113
101	2018年7月11日	まるわかり床ずれ予防とスキンケア	看護師 山崎 恵	99
		毎日の食事で床ずれ予防	管理栄養士 面地みどり	
		知って安心♪介護保険	医療ソーシャルワーカー 古中喜久江	
102	2018年8月29日	上手に年を重ねるために	脳神経外科 渡辺明良	110
103	2018年9月19日 【こども健康教室 こどもの事故と応 急処置】	近年の事故の現状と誤飲・窒息などについて	小児科 湯本悠子	58
		当院アンケート調査の結果より	小児科看護師	
		子どもの応急処置の実践	小児科看護師	
104	2018年10月24日	転倒予防教室～自分の歩行能力を知ろう～	理学療法士 高橋正弘	79
105	2018年11月10日	糖尿病の最近の治療について	内科 原田和博	116
		体験コーナー		
106	2019年2月13日	大腸CT検査 大腸がんを楽にみつけることができます。	放射線科 笹井信也	99
107	2019年3月16日	骨折してからでは遅い「転倒予防」	整形外科 小坂義樹	122



健康教室



こども健康教室



意見交流会

3. 「第10回 患者の皆様の声」アンケート実施

定期的に行っている「患者の皆様の声」アンケートを3月に外来患者および健康管理センター利用者を対象に行いました。このアンケートは患者の皆様意見を参考に当院の評価、満足度を把握し、問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的に行っています。職員の対応、医師からの説明、診療内容、待ち時間、設備・環境面など幅広い内容で率直な意見の収集に努め、外来患者 809名、健康管理センター利用者 142名（健診 38名・健康増進クラブONE 104名）より

回答が得られました。アンケート結果より、より高い水準の医療や治療環境を皆様から求められていることをひしひしと感じ、職員一同身の引き締まる思いです。貴重な意見を参考に改善点、問題点の解決を各部署で検討し、改善できることはすぐに対応しました。頂戴した言葉を励みとさせて頂き、よりご満足頂ける病院を目指してさらに努力して参りたいと思います。尚、集計結果は広報誌「瀬戸の風 2019年5月号」に掲載すると共に小冊子の閲覧をします。

4. 病院の日・看護の日

ふれあい看護体験

2018年5月12日(土)ふれあい看護体験を行い、近隣の高校生10名が参加しました。最初に学生同士で聴診、血圧測定、心電図モニター、包帯法、衛生的な手洗いなどを体験しました。その後、病棟や介護老人保健施設で看護援助(洗髪、足浴、車椅子介助、ベッドメーカー)を看護師と一緒にいたり、リハビリテーションセンターでリハビリ見学を行いました。体験

後の意見交換では「病院の仕事は体だけでなく、会話を通して信頼関係が大切なんだと思った。」「洗髪は病気のケアとはまた違って、気持ち良かったと言ってもらえて嬉しかったし、やって良かったと思った。」「看護のことを少しでも学べて良かった。」等感想を伝え合いました。毎年、看護師や介護士を目指す学生が多く参加しているので、将来の職業選択に役立てていただけると嬉しく思います。携わる看護師も初心を思い出し共に学び合う機会であると感じています。



5. げんき通信・健康レシピ作成

患者向けのパンフレットを随時作成・提供しています。病気の解説、疾病予防のアドバイスや日常生活での注意点、また病気に上手に付き合っていくための工夫や、当院に導入した新しい治療法や医療機器など、疾病や健康増進についてのお役立ち情報を掲載した「げんき通信」および、管理栄養士による健康アップに役立つ食事や特に注目して欲しい栄養素や素材などをテーマにした季節に合ったレシピ「健康レシピ・健康まめ知識」です。今年度もげんき通信4種類、健康レシピ2種類を追加し、げんき通信45種類、健康レシピ・健康まめ知識42種類となりました。特に人気なのが健やかライフメンバーズ健康教室の配布資料で、外来の待ち時間に読まれたり持ち帰るなど多くの方が興味深く手に取られています。今後も外来部門と協力し種類・内容の充実を図り、患者のニーズに合ったパンフレットの提供に努めて参ります。

と思っている事でも、患者の皆様にとっては、当たり前では無い事が多くある事、またプラスワンの言葉やアクション言葉の使用の提案をし、「すぐ実践できる」「マナーやルールについて、基礎に帰ることができた」との感想がありました。

今年度は「接遇(身だしなみ)ラウンド」を7月と11月に行い、各部署を接遇部員が訪問しました。訪問の結果は院内ホームページでフィードバックし、各職員に自己を振り返る機会としました。接遇という観点から、患者の皆様にご満足いただけるサービスとは何かを念頭に置き、今後も活動を行っていきたく思っています。

6. 接遇研修：接遇部会

「見直そう 職員同士の接遇を！ 思いやりの気持ちを大切に…… 気持ち良く助け合い協力できる環境づくり」

職員同士の接遇や思いやりの気持ちは職員が働きやすい職場環境を育み、患者の皆様への良い接遇に繋がると考え、職員同士の接遇を目標に掲げ、活動を行いました。

5月30日(水)に接遇研修会を行い、189名の職員の参加がありました。私たち職員が当たり前

ラウンド部署		ラウンド日		年	月	日
※項目ごとの該当箇所「A、B、C」を記載			安心・安全感 不安・不快感		A: 全体的に良い B: ますます C: 全体的に悪い	
第一印象 (第一印象)	表情	笑顔で感じ良い				
	挨拶	自分から、相手をしっかり見て、ハッキリと				
	言葉遣い	その場に合った言葉遣いで感じ良い。×ちゃん、呼び捨て、きつい言い方				
身だしなみ	髪	清潔感があり、落ち着いた色 髪は清潔にし、各部署に適した髪型であり、派手な髪型はしていない 肩より長い髪は1つに束ねる。派手な髪型はしていない。				
	顔	適度な化粧 化粧は、清楚で感じよく、自然に。 男性は、無精ひげは伸びていない。				
	手	清潔である 爪は伸びておらず、マニキュアはしていない 手にメモ書きなどしていない				
	服装	清潔に保たれたユニフォーム 制服の汚れ、ほこり、ボタンのゆるみがない 名札を胸ポケットに正しく付け、ポケットに物を詰めこんでいない アクセサリーを付けない(ネックレス・ブレスレット・イヤリング・ピアスなど)				
	足元	清潔に保たれたシューズ シューズは各部署に適したものであり、清潔で機能的である。 (※ 各部署の身だしなみマニュアル参照) 乱れたはき方(踏み潰すなど)は× スリッパ、靴下の汚れは×				
【全体的な印象等のコメント】						
ラウンド担当者						

医療技術

手術室運営委員会

委員長 古川 洋二

当委員会は、より安全な手術の提供と効率的な手術室運用を目的とし、各科及び各部署との連携体制、周術期管理の見直しや討議・検討を行い、決定する機関であり、隔月の第一月曜日に外科系医師及び外来・病棟看護師を含む20名で開催しています。

2018年度は血管外科医の着任もあり、症例件数が大幅に増加しましたが、臨時委員会を開催し、強固な協

力体制をつくることで安全に手術を行うことが出来ました。

また、週4日は非常勤麻酔科医が担当ですが、重症症例に関しては常勤麻酔科医と連携をとり、術後管理にも力を入れてきました。

今後も手術内容、症例に順応した安全な手術運営を行っていきます。

2018年度	泌尿器科	外科	血管外科	整形外科	眼科	循環器内科	リハビリテーション	形成外科	計	形成外科(外来)	整形外科(外来)	皮膚科(外来)	総計	ヘインクリニック(ブロック)	血管造影室
4月	10	6	0	98	16	0	0	0	130	4	0	0	134	86	10
5月	9	0	0	92	13	0	1	0	115	4	2	1	122	89	5
6月	8	8	0	104	24	0	0	0	144	6	2	0	152	77	4
7月	13	7	2	122	13	0	0	1	158	5	3	0	166	106	13
8月	15	8	9	96	12	1	0	0	141	10	7	0	158	67	11
9月	9	9	12	83	18	3	0	0	134	7	3	1	145	64	12
10月	10	7	14	117	12	0	1	0	161	7	6	1	175	69	15
11月	16	10	12	117	14	1	0	0	170	7	1	1	179	72	9
12月	8	5	10	98	12	0	0	0	133	9	6	1	149	55	10
1月	9	7	13	96	13	1	0	0	139	11	0	0	150	62	9
2月	10	7	12	95	12	2	0	0	138	8	7	1	154	59	17
3月	11	6	9	116	11	2	0	0	155	13	11	0	179	70	18
計	128	80	93	1,234	170	10	2	1	1,718	91	48	6	1,863	876	133

医療機器管理委員会

委員長 中村 淳一

医療機器管理責任者を中心に、年4回の会議を開催しています。医療機器の新規購入及び更新時の適性評価と、院内医療機器の点検整備の評価を行っています。

厚生労働省からの通達で、人工呼吸器や除細動器が当院における管理の必要な医療機器とされています。各部署へ配置して、常に使用可能な状態を維持するように定期的に点検しています。また人工呼吸器に関しては年に1度、病棟担当者向けに講習を実施しています。

昨年よりMEセンターが設置され、所属する臨床

工学技士による生命維持管理装置の保守管理をしています。使用頻度の高い輸液ポンプなどはいつでも使えるように各部署へ定数配置して定期的に点検しています。

また、毎日病棟を訪問して、医療機器の異常がないか確認しています。

医療機器を直接扱う医師、看護師ら病院スタッフはもちろん、エンドユーザーである患者の皆様が安心してできるように整備をしていきます。

(記載 浅尾昌彦)

透析機器安全管理委員会

委員長 原田 和博

本委員会は人工透析業務における透析設備・透析機器に関連した安全管理、及び品質管理を目的とし、医療機器管理委員会の傘下に設置されています。水処理装置や透析機器の定期的な点検・メンテナンスを人工透析センター所属の臨床工学技士が実施し、安全な透析治療が行えるよう努めています。

2007年に現在の人工透析センターに移転してから透析関連機器の稼働年数も長くなり、昨年度から徐々に関連機器の更新を行っています。今年度はまず、緊急透析や重症感染症に対応するための透析予備室に、透析用監視装置2台をタカヤクリニックから移設しました。また、オンラインHDF療法（血液透析濾過）対応機器15台増設、I-HDF療法（間歇補充型血液透

析濾過）対応機器を10台増設、透析用水作成装置を更新しました。オンラインHDF療法・I-HDF療法では透析用純水の維持は必須となっており、定期的な水質検査、カットフィルターの交換を実施しています。水質検査は透析液エンドトキシン濃度や生菌数は異常値なく経過しています。これは臨床工学技士が、機器の性能に過信することなく日々懸命に管理した結果であると感じています。

患者さんに安全な透析治療を提供するとともに、患者さんに応じた機器選択、適正な使用が治療に生かされるよう、スタッフが連携をとりながら取り組んでいきたいと思ひます。

透析委員会

委員長 原田 和博

医師、看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、管理栄養士、診療放射線技師、法人事務局、医事課、タカヤクリニックと合同で2ヵ月に1回、委員会を開催しています。透析患者の皆様安心して治療を受けていただく為に、チーム医療を円滑に行い、サービス向上を目的として審議を行っています。

2018年度の主な審議内容

【行事の企画開催】

- ① 11月11日 第3回透析について学ぼう会
昨年に引き続き3回目の開催となりました。今回は看護師2名、臨床心理士、院長より講演をしていただきました。患者さんによるウクレレ演奏などもあり、患者および家族の皆様とスタッフの交流を深める場となりました。患者および家族の皆様98名、スタッフ29名が参加しました。
- ② 2月12日・13日に管理栄養士による透析座談会を開催しました。
食生活に関するアンケートを行いました。
- ③ 理学療法士による腰痛・肩こり体操を実施しました（週2回）。

【ブラッドアクセス管理について】

- ① シヤント血管の評価・協議を行い、人工透析センターのベッドサイドで臨床工学技士がエコーを使用し、シヤントトラブルの早期発見につとめ、迅速に対応しました。シヤントエコー件数は79件でした。
- ② 日帰りシヤントPTA（経皮的血管形成術）に対応しました。シヤントPTA件数は43件でした。

【装置メンテナンス管理について】

- | | |
|---------------|----------------------------|
| ① 4月24日 | 透析用監視装置2台造設 |
| ② 5月10日 | 多用途透析用監視装置11台
定期オーバーホール |
| ③ 6月28日 | オンラインHDF療法対応
機器15台増設 |
| ④ 12月20日 | Future Net Web+更新 |
| ⑤ 2月16日、2月17日 | 水処理装置更新 |
| ⑥ 2月23日、2月24日 | 血流計モニタ10台取り付け、
透析配管更新 |

【その他】

西日本豪雨災害にて被災したまび記念病院の透析患者2名を受け入れました。

臨床検査精度管理委員会

委員会 渡辺 明良

この委員会では、コントロール血清、血球、溶液を用いて内部精度管理を毎日行い、チェックすることで精度の維持と機器の管理を行っています。また試薬メーカー主催の精度管理、岡山県クロスチェック研究会、岡山県臨床検査技師会、および日本医師会の外部精度管理に参加し、外部の新しい情報を取り入れながら精度の向上および測定方法の標準化を目指しています。

外部精度管理の点数評価では、岡山県医師会・臨床検査技師会精度管理の正解率が100.0点（昨年100.0点）、日本医師会精度管理が99.5点（昨年97.3点）と昨年と比べよい結果となりました。今後も機器のメンテナンス、また内部精度管理、外部精度管理の充実を図り迅速で正確な検査結果を送信できる用努めて行きたいと思いをします。

放射線診療委員会

委員長 笹井 信也

2019年に行うべきことは、放射線被ばく線量管理システムの構築です。医療被ばくの現状を把握し、システムとともに運用のあり方を検討していきます。放射線被ばくを目に見える形にして示すことで、われわれの被ばくに対する意識を高めていくきっかけにしたいと思いをします。職業被ばくについても十分な検討を行っていき、病院内での研修も予定しています。

迅速な情報伝達をもうひとつの課題にします。「重要な放射線画像での所見を速やかに依頼した臨床医チームに届ける」ための仕組み作りです。放射線画像で得られる重要な所見は臨床医チームに速やかに伝えられるべきです。放射線チームとしての在り方を探り、臨床医チームと円滑な情報伝達を行うための協議をしていきます。

総合栄養支援 (NST)

栄養管理委員会

委員長 宮島 裕子

栄養管理委員会は、偶数月の第3水曜日に開催し、構成メンバーは、医師、管理栄養士、調理師、病棟看護師、外来看護師、保健師、臨床検査技師、医事課職員です。会議の場で各部署の業務の状況と問題点を振り返り合わせ、安全で質の高い病院給食業務の構築、各疾患に対する栄養管理、指導はもとより、患者及びご家族の皆様、当院職員、地域の皆様の食育に対しての啓蒙を目指しています。

・病院給食

病棟との連携を密に取り、情報を共有し、個々の病態に応じた食事内容の迅速な対応を行っています。咀嚼嚥下の問題、食物アレルギーなどは、入院当日に管理栄養士がベッドサイドで聞き取り調査を行い献立や調理方法の対応をしています。又、実施業務のなかで食事変更、配茶、箸スプーン、配膳業務など病棟と十分に相談の上で変更改善を計りました。

2018年度よりQC活動として、多職種のメンバーで「食事量アップ↑でADLとQOLアップ↑」に取り組んでいます。今年度は①摂食嚥下について共通した知識を得るため、外部講師を招いて講演会を企画し、周辺施設からも参加をいただきました。②入院時に食形態の調整が必要かを確認するチャートを作成し、診察室に配布しました。

今後の活動目標として、食事が進む環境の調整、食事摂取量や食の好みなど多職種で共有できるよう、一目で把握できる記録方法の検討、嚥下状態・摂食意欲を把握し、職種間で相談できる体制を整えていきます。



・栄養指導

2018年度栄養指導件数は1,271件です。

年度別栄養指導件数を図1、疾患別栄養指導件数を図2に示します。指導の質の向上を目指して事前に医師、看護師などから個々の病態、家庭環境、生活習慣の問題点などの情報収集をして実態に添った効果的な指

図1 栄養指導件数の推移

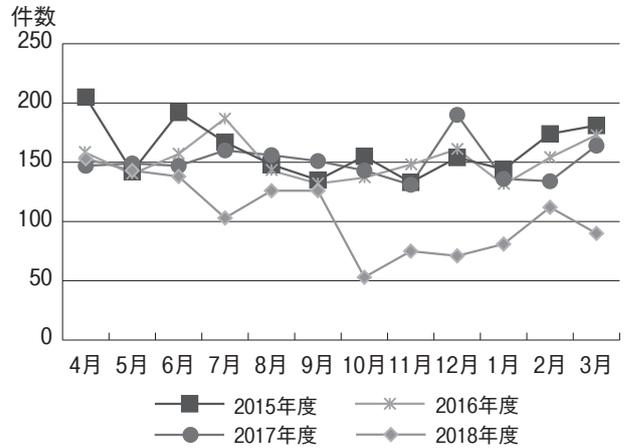


図2 疾患別栄養指導件数 (非算定を含む)

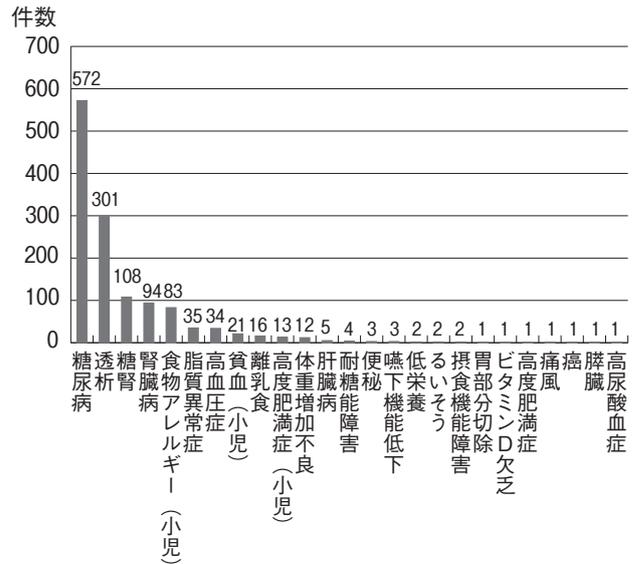
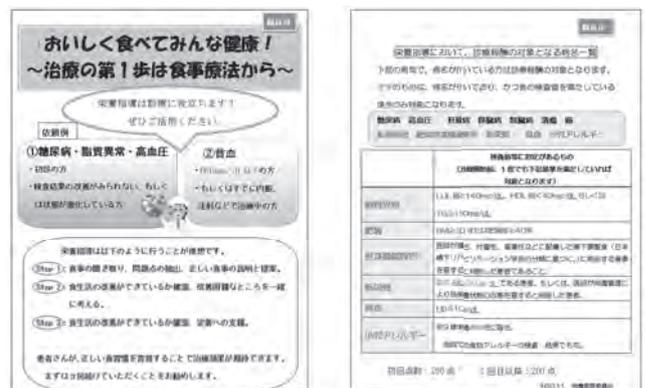


図3 パンフレット



導を目指しています。指導媒体は、最新情報を活かして管理栄養士が食事調査の分析、献立内容など作成し、指導を受ける側が理解しやすいものに工夫しています。栄養指導の件数増加に向けて、パンフレット(図3)を作成しました。今後の課題としては、指導の充実と食生活改善の持続を測るため、指導後に医師、担当看護師などの連携構築の再検討があります。

・感染防止・事故防止

手指の洗浄を始めとし、厨房内の衛生管理の徹底を行っています。地域、季節の感染症情報に常に注意を払い、安全で安心できる病院食の供給を目指しています。

栄養管理科で発生したアクシデント及びインシデントの集計結果とその内容を報告検討し、改善を図っています。9月より食事箋の入力締め切り時間を徹底することで、配膳直前のアクシデントが起きないように、関係部署の業務が煩雑にならないよう改善しました。

褥瘡対策委員会

当委員会は毎月、褥瘡有病率や褥瘡推定発生率、体圧分散寝具の使用状況、院内褥瘡発生患者の分析を行っています。また、毎週褥瘡・創傷回診を行い患者さんの状態、褥瘡・創傷部の処置内容、栄養の評価・検討を行い褥瘡対策に取り組んでいます。

過去5年間の1)寝たきり患者率、2)褥瘡有病率、3)褥瘡院内発生率、4)褥瘡新規発生率を図に示します。超高齢化を迎える社会において、高齢化率の上昇や地域包括ケアシステム構築が課題となっていますが、当院の入院患者も高齢化がより顕著になりつつあり、寝たきり患者率は2015年度以降70%を超えています。さらに、栄養状態低下や皮膚の脆弱性、関節拘縮等の褥瘡発生リスクを持った患者が多くを占めています。2018年度の褥瘡院内発生率(時点)の年間平均は病院では0.5%と前年より増加し、褥瘡新規発生率(時点)は0.4%と前年より下回っています。今後も患者個々に合わせた褥瘡予防ケアを実践、継続できるよう取り組みたいと思っています。

2018年度は以下のごとく、勉強会、研修会、学会発表を行いました。2019年度は、学会発表等行う予定です。褥瘡予防、褥瘡発生後の栄養管理を学び理解を深めたいと思います。また、新たな取り組みとして「スキンケア(皮膚裂傷)の予防とケア」と題し勉強会を予定しています。褥瘡予防の意識が地域の皆様にも広まるよう活動していきたいと思っています。

また、締め切り時間を過ぎた場合の軽食の内容を見直しました。

食中毒に関して、外来・入院患者の皆様、ご家族の皆様にごんき通信「食中毒～加熱・冷却を過信せず～」合わせて入院患者の皆様には「食中毒の予防に関するお願い」を配布し、食中毒予防の啓発を行いました。

・その他

・栄養管理委員会での決定事項やその他の業務上の取り決めを、院内ホームページに最新情報を提供し各部署で確認をお願いしています。

今後も栄養管理委員会からより良い栄養管理が行えるよう検討を重ねたいと思います。

・福利厚生「健康増進の一品」として、食堂を利用する職員全員に日替わりでスープやサラダを提供しています。栄養士と調理師で検討しながら新しいレシピを取り入れて好評を得ています。

委員長 小坂 義樹

【2018年度の主な活動】

- ・全職員対象の勉強会「褥瘡予防における栄養管理」
参加者：96名
倉敷老健 看護部長 小山恵美子氏
倉敷平成病院 管理栄養士 小野詠子氏
- ・井笠地区連携支援の会 褥瘡予防研修会
参加者：77名
「褥瘡の外科的治療 局所陰圧閉鎖療法や手術療法について」小坂義樹
「褥瘡ケアの基本」山崎 恵
- ・健康教室「今日から即実践！家庭でできる床ずれ予防」
参加者：99名
看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー
内容：家庭でできるスキンケアや食事の工夫、介護保険の利用など
- ・第19回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会 発表
「褥瘡に対する陰圧閉鎖療法の経験」小坂義樹、山崎 恵

【2019年度の勉強会の予定】

- ・「スキンケア(皮膚裂傷)の予防とケア」
内容：スキンケアの正しい見分け方と予防・ケア方法について

図1 寝たきり患者率（時点）

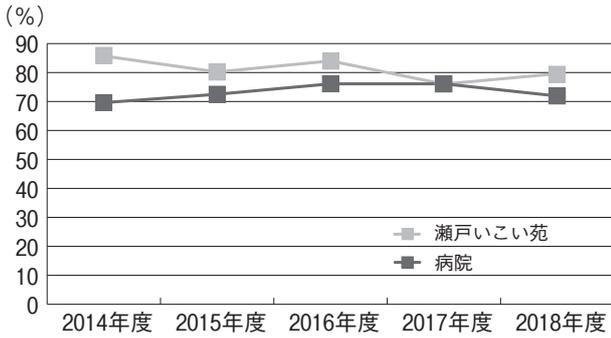


図2 褥瘡有病率（時点）

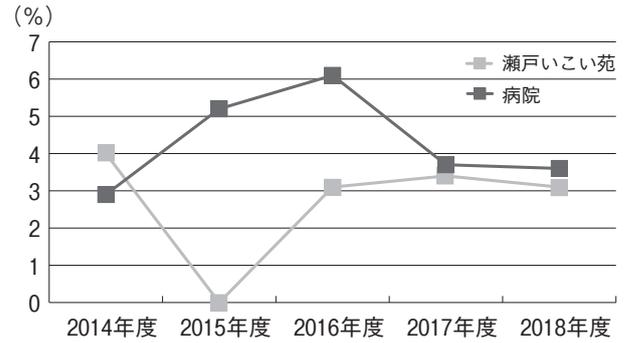


図3 褥瘡院内発生率（時点）

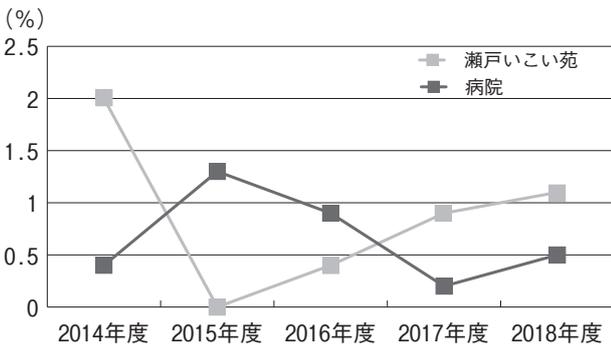
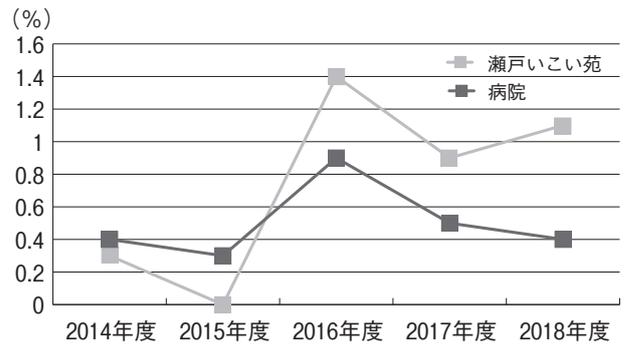


図4 褥瘡新規発生率（時点）



NST 委員会

NST（Nutrition Support Team）委員会は、2005年に発足した委員会です。構成メンバーは、医師、歯科医師、管理栄養士、各病棟看護師、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士です。

現在入院患者の皆様を対象に、看護師が身長、体重、体重減少率の測定と、主観的包括的評価（SGA）を行い、管理栄養士が栄養管理計画書を作成しています。

それにしたがってA（軽度）、B（中等度）、C（高度）の栄養障害に分類し、B、C判定の方がNST介入となります。また、主治医、褥瘡回診よりNST委員会への助言を求められる場合もあります。また栄養管理の必要な褥瘡患者さんをリストアップし個々の栄養状態にあった栄養剤、投与法を言語聴覚士、管理栄養士を中心に検討しています。

委員長 宮島 宣夫

月2回のミーティングを行い、またミーティング後病棟回診も行い、不定期ですが栄養関連業者による説明会を開催し知識を高めています。また2018年度より週2回病棟でB、Cランクに当たらない方で摂食障害のある方に昼食時病棟でNSTミールラウンドを開き相談指導をしています。

検討には当院に導入されているNST専用のコンピュータシステムを使用し、簡単に個人ごとの各種栄養の必要量、摂取量、不足量が自動的に算出され非常に効率的に利用されています。

今後も症例を重ねその経験を生かし、スタッフ全員でNST活動を高めて患者の皆様へ貢献したいと思っています。

個人情報保護委員会

委員長 橋詰 博行

患者・来院者・職員の個人情報保護のため、取扱い状況の見直し、ルール策定、また勉強会や強化月間活動を通じて注意喚起の徹底に努めています。

2018年度は、以下の活動を行いました。

【主な活動内容】

- 1) 研究、学会等外部での発表用資料作成のための持ち出しに対する適正運用管理の許可実績（4件）
- 2) 個人情報を含む書類の適切な廃棄処理：年9回(合計8,920kg)
- 3) 個人情報保護強化月間の実施（6月）
 - ・統一強化テーマ「離席時 PC ログオフの完全徹底化」

2018年6月開催の全体研修会に合わせ強化月間活動を実施しました。PC ログオフの習慣化、ノートPCの場合は画面を伏せておくなどの励行によりPCからの情報漏洩防止を図ることで職員全体の個人情報保護の意識づけを強化しました。
- 4) 全体研修会の実施
 - ・開催日：2018年6月7日（木）、6月22日（金）、6月25日（月）計3回実施

- ・参加人数：268名（参加率73%）
- ・講師：株式会社サンネット 情報セキュリティ研究所所長 小田部 昭氏
- ・テーマ：「個人情報保護と情報セキュリティ研修」
- ・＜内容＞
 - ①個人情報保護法の「個人情報」とは何か？
 - ②個人情報はなぜ保護する必要があるのか？「保護する」とはどのようなことか？
 - ③個人情報漏洩の「実態」とその「賠償額」
 - ④改正個人情報保護法（2018年5月30日施行）のポイント

【個人情報保護に対する今後の対策と方向性】

- 1) 職員に対する教育、研修の継続的实施により職員全員に個人情報保護の意識改革を浸透させる。
 - 2) 個人情報保護の厳重な対応、取扱いを着実に実施すべく、現場に即した取扱ルールを見直しながら策定する。
- 以上より個人情報漏洩を目的に、暗号化可能なUSBメモリー導入を検討しています。

診療情報提供委員会

委員長 橋詰 博行

個人情報保護法の発令以降、診療情報の提供は重要な事項となってきております。個々の事例にスムーズに対応すべく、「笠岡第一病院における診療情報の提供等に関する指針」を設けております。それに基づき、診療情報の開示を希望される方々に情報提供を行っています。われわれは患者の皆様のご大切な財産（データ）をお預かりしているとの基本概念で臨んでいます。

過去の依頼すべてが診療情報の写しの交付希望でした。年度別提供先一覧を表に示します。2010年度よりはプライバシー保護の観点より申し出理由は聞いておりません。2018年度の提供先は図2に示すように保険会社が34件（58%）と最も多くなっています。

個人情報保護と自己情報を管理する権利を重視し、患者および家族の皆様等の求めに応じて、今後とも診療情報を提供します。当院での診療内容を十分理解さ

れ、協働して疾病を克服するための、より良い信頼関係を構築していきたいと思っております。

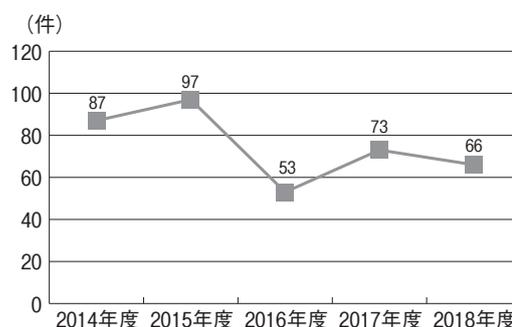


図1 診療情報開示の推移

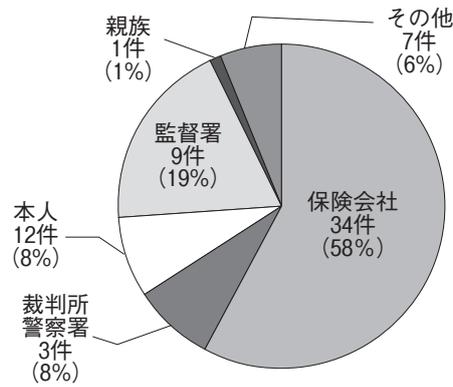


図2 2018年度 提供先内訳

表 年度別提供先一覧

(件)

	保険会社	裁判所・警察署	本人	監督署	親族	その他
2014年度	38	7	18	8	8	8
2015年度	43	10	23	14	5	2
2016年度	25	1	12	7	3	5
2017年度	42	6	6	14	1	4
2018年度	34	3	12	9	1	7

倫理委員会

委員長 渡辺 明良

2018年度は、合計14件のプロジェクトが審査されました。過去5年間の承認件数を(図)に示し、その内容を(表)にまとめました。

本年度で特徴的なのは、ワクチン外来を行っている寺田喜平医師から、海外渡航のための未承認ワクチンを含むワクチン接種に関する申請が目立った点です(受付番号：5・7・14)。また、看護師やコ・メディカルからの申請も多かった点は、医療の質を向上させようとする病院スタッフの意欲の表れと考えられま

した。

本委員会の役割は、被験者の福利に対する配慮を科学的及び社会的利益よりも優先させるとする「ヘルシンキ宣言」に基づき、ヒトを対象とする医学研究などを審査し、倫理上の配慮を行うことです。それらの点を鑑みて審査が行われるわけですが、患者の個人情報の管理に関しても、利益相反に関しても問題となるものはありませんでした。

図 審査件数推移

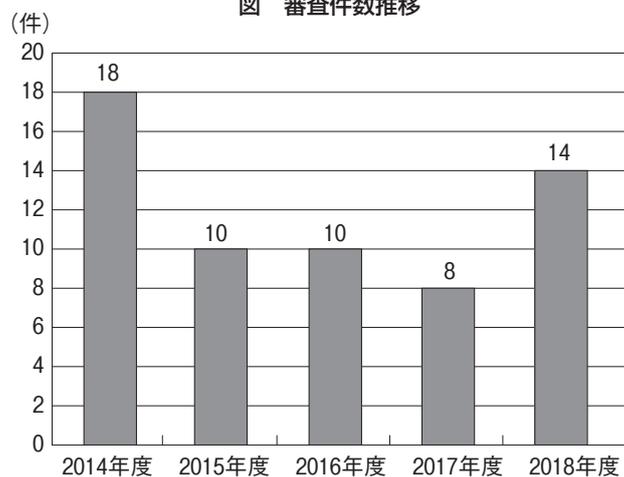


表 2018年度 倫理審査結果一覧

受付番号	課 題 名	申 請 者		判定	
1	当院における維持透析患者に対するクエン酸第二鉄水和物の長期使用試験	タカヤ クリニック	川上 敦司	承認	第93回
2	職種間コミュニケーションの重要性を再認識した一例	リハビリテーション科	田野口瑞季	承認	第94回
3	(仮) 井笠地区における皮膚・排泄ケア認定看護師の活動	4 階病棟	山崎 恵	承認	第95回
4	(仮) 当院透析室におけるフットケアの取り組み	4 階病棟	山崎 恵	承認	第95回
5	未承認薬剤 腸チフス, コレラ, HA&HB 混合, 狂犬病, NMR ワクチン	小児科	寺田 喜平	承認	第95回
6	肩関節夜間痛患者に対する超音波診断装置を用いた軟部組織の血流評価の有用性	リハビリテーション科	中道 博	承認	第96回
7	帯状疱疹予防のための水痘ワクチン接種	小児科	寺田 喜平	承認	第97回
8	退院支援を見据えた内服自己管理へのアプローチ — 内服自己管理に向けたフローチャートを使用して —	4 階病棟	石丸 伸江	承認	第98回
9	腱鞘ガングリオンに対する手術法の検討	整形外科	竹下 歩	承認	第99回
10	「手術 PIP 関節症に対する背側進入による AVANTA 人工関節置換術の手術成績」の調査	整形外科	橋詰 博行	承認	第100回
11	在宅療養生活継続のためのサービス間の連携が図れている要因 ~ A 氏の在宅療養生活を振り返って ~	訪問看護ステーション	三原由記子	承認	第101回
12	転倒転落アセスメントスコアを活用した看護師の意識・認識の変化 — 入院中の経過に沿ったアセスメント評価を行って —	3 階病棟	西山奈美子 松枝 由美 寺谷 法恵	承認	第102回
13	ポリエチレングリコール製剤と硫酸バリウム製剤を使う大腸 CT 検査の前処置法の確立	放射線科	笹井 信也	承認	第103回
14	新しい A 型肝炎ワクチン	小児科	寺田 喜平	承認	第104回

治験審査委員会

委員長 渡辺 明良

この委員会は、医師、薬剤管理科、看護部、臨床検査科、法人事務局の他、医療関係者ではない院外委員で構成されています。

2017年度の7月を最後に、当院での治験審査委員会

は開催されていません。製薬会社が、治験の審査委託を中央に集中させる傾向になっているためと思われます。再度、当院に治験審査の依頼が来たときには招集されることとなります。

安全管理

医療安全管理委員会（DVT 対策委員会を含む）

委員長 渡辺 明良

毎月第1木曜日に、専属スタッフにより、当月の議案の作製や中期的な活動の検討などが行われています。2019年度からは、薬剤師、事務職員も加わるようになってきました。そして毎月第3金曜日には、委員全員による医療安全管理委員会が開催されて、院内全体での医療安全に対する認識の共有化が図られています。特にアクシデント報告に関しては、各部署であらかじめ要因分析と対策が検討され、委員会の場で討議されています。さらに、医療安全の視点に立って院内各部署の医療安全ラウンドが毎月行われ、この委員会

の場でその結果が報告され、問題点に関してどのように対応策が取られたかが報告されています。

また、毎年2回の合同研修会が開催されています。1回目の研修会は「医療安全の動向と最近の動き・多職種連携」について報告が行われ、2回目は「危険予知トレーニング（KYT）でリスク感性を深めよう」をテーマに開催されました。

この1年間の医療安全委員会活動内容を表にまとめました。

表 2018年度 医療安全管理委員会活動内容

項目	内容	備考
医療安全管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデント事例に関する報告と検討 ・各種医療安全活動の協議・運営 ・院外研修会の案内、受講後の情報共有 	第3金曜日 午後1時～
看護部医療安全カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部関連の月毎のインシデント・アクシデント事例について、医療安全委員間で協議・情報交換を行う。 	第2水曜日 午後1時～
医療安全部門会議	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の報告事例に関する報告と検討 ・委員会運営に関する協議 	第1木曜日 午後1時～
医療安全ラウンドカンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全委員3名で各部署をラウンドし、現場の状況を視察したり、スタッフにインタビューして状況を把握する。 ・設備の不備に関する気づきをまとめ改善を図る。 ・ラウンド後にメンバーでカンファレンスを行い、結果を現場にフィードバックし、療養環境の改善に役立てる。 	第2金曜日 午後2時～ 第4木曜日 午後2時～
医療安全強化月間	2018年8月 ～復唱確認をしよう！～	部署ごとに目標を決め、個別評価を部署で集計
院内合同研修会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の動向と最近の動き・多職種連携 参加率 79.3% 2. 危険予知トレーニング（KYT）でリスク感性を深めよう 参加率 72.2% 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5月17・24・25日（2回） 2. 11月7・16・22日
その他学習会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入職員のための医療安全研修 2. 新人看護師研修① 3. 新人看護師研修② 4. 新人看護師研修③ 5. 病棟アシスタント会での医療安全研修 6. 研修医対象医療安全研修 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3月30日 34名 2. 4月8日 4名 3. 5月23日 4名 4. 12月18日 3名 5. 1月17日 20名 6. 2月6日 1名
各種委員会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・他の委員会・他職種で連携を図り、医療安全の向上を目指す。 ・医療安全に関する情報を全体に発信、提言する。画像診断報告書の見落とし予防について 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護業務検討委員会 ・医局診療委員会 ・診療録管理運用委員会
医療安全ニュース等の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・院内事例、院外事例（日本医療機能評価機構等）を関連部署に発信し、情報の共有化を図る。 ・日本医療機能評価機構・医療安全情報、医療事故の再発防止に向けた提言を院内ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・医局、看護部、人工透析センター、臨床検査科、手術室、薬局、放射線科等
転倒・転落防止の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の集計と考察 ・病棟への状況報告、フィードバック 	看護部医療安全カンファレンスで検討

項 目	内 容	備 考
医療安全管理指針・医療事故防止対策マニュアル他	<ul style="list-style-type: none"> ・2年毎に改定 ・業務改善に必要な手順書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故発生時の行動指針の見直し
医療事故調査委員会の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故の把握・分析・対策の検討 ・医療事故調査センター等への報告 ・調査中の事例の情報提供の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・胃管挿入・経管栄養の手順の改定
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全委員のリスク感性の向上のため、研修会への参加を奨励する。 ・監査の対応 ・適宜インシデント・アクシデントの事例分析・協議・フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加委員：2名 ・8月21・22日 病院機能評価受審 ・11月21日 備中保健所監査

医療ガス安全管理委員会

委員長 橋詰 博行

年に1回の医療ガス安全管理委員会は医師、薬剤師、看護師、事務、医療ガス供給業者で構成され、前年の総括と今年の方針を話し合います。

2018年度は患者の皆様の安全や医療の質に直接関わる医療ガスの供給設備はより厳格に管理すべき、という方針に基づき、これまで受けていた専門業者による点検を年に1回から年4回に増やしました。点検回数を増やしたことにより、設備の稼動状況や劣化具合も具さに把握することができるようになりました。来年

度はこの情報を元に保守管理体制の高度化を目指しています。

医療ガス供給設備は患者の皆様の生命と直結している設備です。その管理を怠れば、時として患者の皆様の生命を脅かし、建物にも深刻なダメージを与えることがあります。当委員会は今後も医療ガスの保守管理を継続して行い、職員に正しい医療ガスの知識を啓蒙するべく活動していきたいと考えています。

病院感染防止委員会（ICTを含む）

委員長 橋詰 博行
副委員長 中村 淳一

委員会の定期的な活動として全国規模サーベイランスであるJANISを活用しながら、当院での薬剤耐性菌の分離菌の動向のチェック、届け出が必要な抗菌薬の使用状況のチェック、毎週のICTによるラウンドの実施と報告を行っています。また、院内でノロウイルス、結核などの感染症患者の発生やインフルエンザ患者のアウトブレイク時の対応などを随時行いました。

院内の職員を対象にした勉強会は「発疹性感染症について」と「インフルエンザ・麻疹・風疹について」をテーマに2回ずつ実施しました。

また、日本国内において麻疹、風疹患者の増加に対応するため、当院の予防接種センターの寺田喜平医師の助言と協力のもと、それぞれの抗体価陰性の職員に対してワクチン接種を行いました。

院外での研修は川崎医科大学附属病院での感染防止対策に関する連携医療機関カンファレンスにICTのメンバーの内の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4～5名が年4回参加し、新しい知識を得て、日々の感染防止対策に活かすようにしています。

表1 委員会活動

項 目	内 容	備 考
病院感染防止委員会	ICT 報告 菌の動向・サーベイランス報告 抗菌薬使用状況	毎月第1水曜日 午後1時～
ICT 委員会	毎週1回 ICT メンバーによるラウンド 月1回ミーティング	毎週火曜日 午前10時30分～ 毎月第1水曜日 午後1時30分～

表2 院内研修会

日 時	内 容	講 師	参加者
10月16日 10月31日	発疹性感染症について	小児科・予防接種センター医師 寺田喜平	159名 131名
2月19日 2月27日	インフルエンザ・麻疹・風疹について	呼吸器内科医師 中村淳一	113名 75名

医療廃棄物処理委員会

委員長 橋詰 博行

医療廃棄物処理委員会は医師、看護師、臨床検査技師、瀬戸いこい苑スタッフ、法人事務局スタッフ、清和地所スタッフを構成委員として3ヵ月に1回開催しております。主な活動はマニュアル、指針に基づいた適切な廃棄物処理が行われているかを監査し、必要に応じて指導を行うことと、廃棄物処理量の監査を行い、大幅な増減がある場合はその原因を調査することです。

2018年度は全ての廃棄物においてその処理量に大幅な増減はなく、処理方法は適切で事故の報告もありませんでしたが、2019年3月に、今まで廃棄物処理をお願いし、長く付き合いのあった回収業者が突然廃業をし、後任の業者を選定するのに四苦八苦しました。た

だ、長く同じ業者で回収をお願いしていた中で、なれ合いになっていた部分を引き締め直すことができたのは怪我の功名であったと考えております。

医療関係機関は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、生じた廃棄物を適正に処理することと同時に廃棄物の減量に努めることが定められております。2018年度は廃棄物の減量を目標としましたが、残念ながら微増という結果に終わってしまいました。来年度は廃棄物の減量に対して具体的な施策がとれるよう、この委員会が中心的な役割を担えるよう努めを果たしたいと考えております。

防災防水管理委員会

委員長 畑中 真一

防災防水管理委員会の主な活動内容は、毎年度2回（法定義務）の防災訓練の企画及び実施、毎月院内2部署を点検する防災啓発活動としての「防災ラウンド」の実施、有事の際の連絡網の整備、台風や豪雨、積雪時に患者や職員の安全を守るための環境整備活動など、「自分たちの病院・施設は自分たちで守る」という意識の下、幅広く活動しています。

況、住民の避難や防災意識、平常時の準備対策心構え、災害情報の収集方法、病院としてのBCP（Business Continuity Plan）の重要性などについて映像、画像を交えながらの講義で、参加者の危機管理及び防災意識向上に大いに役立ちました。：2019年3月14日・19日（参加者合計：166人）

【2018年度主な活動】

1. 避難訓練の実施
 - ①健康管理センターでの避難・通報訓練：2018年5月2日
 - ②2018年7月の豪雨災害を受けて、高潮時の風雨災害を想定した総合避難訓練の実施：2018年11月15日
 - ③瀬戸ライフサポートセンターでの瀬戸いこい苑と瀬戸内荘による合同避難訓練の実施。1階洗濯・乾燥室からの夜間出火想定。：2019年3月29日
2. 院内勉強会の実施

2018年度は「平成30年西日本豪雨から学ぶ」をテーマに、笠岡市役所 危機管理部 酒井大喜主事を講師として勉強会を開催しました。内容は2018年7月の豪雨による笠岡市内の被害状

【2019年度の目標】

1. BCPの策定（部署毎）

震災など緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するための総合計画を作成する（遂行指揮命令系統の確立、必要な人材・資源の配分を準備し、タイムラインに乗せて確実に遂行できる計画とする）。
2. 施設内における非常時の安全確保

院内連絡体制、院内設備の点検改善、防災用品の整備、職員啓発等の活動により非常時の安全確保に努める。

病院や介護老人保健施設は大規模な災害時には近隣地域に居住の方々の暮らしを守る最後の砦にもなります。当委員をはじめ、職員全員にその意識を常に啓発できるよう委員会として活動していきます。

医療事故調査委員会

委員長 渡辺 明良

2015年10月から施行された医療事故調査制度に対応して、当院においても医療事故調査委員会が設置されました。これは、必要に応じて院長が招集する委員会です。

日本医療安全調査機構に調査を依頼する目的は、「診療行為に関連した死亡について、死因を究明し再発を防止する」ためです。それで、調査の対象となりうる死亡例があったか否かを明らかにするため、毎月第1と第3水曜日の朝の医局カンファランスで死亡症例検討会が開かれています。死因は入院時の診断に一致していたか、予期せぬ死だったか、十分な検査がなされ

死亡直近の病態が把握されていたか、医療行為が死亡に関係していなかったか、家族への病状説明は十分であったかなどの点について、主治医ではない担当医師が、検討会までに診療録の記載の分析を行い、検討が必要な症例について医師全員で討議しています。

こうした検討会に諮られる前に、緊急で対応しなければならぬ異状死もあります。その場合は、直ちに地元の警察や保健所に報告しなければなりません。残念ながら、2018年度はそうした1例を経験し、医療事故調査委員会が招集され、速やかに対応がなされてゆきました。

労働安全衛生

労働安全衛生委員会

委員長 能登 壮夫

労働安全衛生委員会は労働安全衛生法により、職員の労働の安全及び健康の確保を図り推進することを目的に組織された委員会です。

委員会は毎月第1金曜日の午後1時から委員長を法人事務局長とし衛生管理者、職員代表者、産業医、リスキマネージャーを委員として開催しています。毎月各委員より部署からの安全衛生に関する調査報告事項を議題として、問題点や今後の方針を話し合い決議しています。

2018年度は7月に禁煙と受動喫煙防止に向けて、禁

煙啓蒙研修「これならできる禁煙」を実施し啓発を行いました。

また従業員50人以上の事業場に義務化されている「労働者のストレスチェック」の実施を当職員健診においても、2016年度から毎年、健診と同日に実施しています。なお、2018年度実績は以下のとおりです。

今後も職員の安全、衛生に十分配慮し、より働きやすい職場となるよう当委員会で引き続き審議してまいります。

2018年度ストレスチェック実績

対象者数：360名

受検者数：348名

(受検者率 96.7%)

ハラスメント防止委員会

委員長 橋詰 博行

2016年度よりハラスメント防止委員会を立ち上げました。日本専門医機構による新専門医制度の発足に当たり、内科学会が定める専門研修での「連携施設」の認定基準に専攻医の環境として「ハラスメント委員会が整備されていること」とあるためです。

構成委員は院長・副院長・看護部長・法人事務局長・相談員などで、ハラスメント関連の事柄の発生時に迅速な対応を取ることが目的としています。2018年度も実質的な活動はありませんでしたが、今後、名実ともに活動を始めてゆく所存です。

タカヤ クリニック運営委員会

委員長 木曾 光則

タカヤ クリニック運営委員会はタカヤ クリニックの運営が円滑かつ的確に行われるための施策について笠岡第一病院 人工透析センター、薬剤管理科、臨床検査科、画像診断センター、医事課、栄養管理科、法人事務局等と審議する事を目的とし、患者の皆様、職

員間、病院間との連携が円滑に運営される為に開催されています。

WEB会議システムなどを使用しての、病院の各部署との連携を行い、問題なく血液透析治療を継続できました。

瀬戸いこい苑運営委員会

委員長 宮島 厚介
副委員長 神原 玲子
副委員長 鍋谷 一樹

瀬戸いこい苑運営委員会は多職種で構成しています。在宅復帰を目的とした入所部門と、在宅支援の居宅部門が医療・介護・福祉機関と連携して、利用者の皆様が望む生活をどのように支援しているかを検討し、各部署の運営現状を報告し、情報を共有し理解を深めています。

メンバーは副施設長，瀬戸いこい苑入所看護師・介

護士・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・栄養管理科などの代表者で、毎月第3水曜日の午後3時から開催しています。

医療法人社団清和会の介護部門としての一面だけではなく、瀬戸ライフサポートセンターの一翼を担う部門と役割を認識し、2025年問題を見据え地域に根ざした施設の役割を果たしたいと思います。

第4章 院内トピックス

1 予防接種センター

センター長 寺田 喜平

2018年6月19日に新しく予防接種センターをオープンしました。小児に対する予防接種に加えて、新しく加わった内容は、50歳以上を対象とした帯状疱疹の軽症化・予防の外来（水痘・帯状疱疹ウイルスに対する特異細胞性免疫の有無の検討を含めた）と海外渡航ワクチンの外来です。これらは、毎週火曜日午後実施しています。わが国で非承認の渡航ワクチンを海外から個人輸入して接種し、とくに個人輸入の渡航ワクチンを接種するのは県内初の施設となり、加えて接種スケジュールの作成、接種後は接種証明書の発行も行っています。これまで県外まで行っていた不便さを解消できたと自負しています。

開設にあたり準備として、院内の職員に向けて、4月11日に「子どもの予防接種の現状と動向」、5月2日に「麻疹対策の必要性－今回の沖縄で麻疹83名発症から見えること－」、5月16日に「水痘ワクチンの帯状疱疹に対する有用性」、7月4日に「海外渡航ワクチンについて－県内初の未承認渡航ワクチンの接種－」、と予防接種センターの構想を話しました。そのほか、実際に担当する外来スタッフに対して6月22日に「ワクチン事故防止について」の勉強会も行いました。さらに一般向け啓発活動として、6月13日に健やかライフメンバーズ健康教室「痛いのは嫌じゃ！－帯状疱疹を予防・軽症化する方法－」を行い、帯状疱疹が予防できることをお話ししました。

初年度（2018年6月から2019年3月まで10ヵ月間）の実績は、帯状疱疹予防ワクチン外来の受診者数は35名（うち水痘抗原皮内反応10名、帯状疱疹予防ワクチン接種29名）でした。海外渡航ワクチン外来における受診者数は、41名（のべ接種本数213本）でした。接種した輸入ワクチンの種類は、表に示すように、接種本数の多い順に、狂犬病、腸チフス、混合A型&B型肝炎、コレラ経口が多く、MMRやA型肝炎もありました。そのほか、日本製ワクチンでは日本脳炎、A型肝炎、破傷風も比較的多く接種しています。接種目的は、現在のところ東南アジア、アフリカ、中南米、世界一周旅行などの観光・旅行が多いのですが、次第に仕事やボランティアなどでの海外渡航が増加しており、今後も増加していくと予想しています。

問題点は、海外旅行（特に東南アジアなど）でワクチンによる予防すべき病気のあることをご存じない方がいることです。海外の論文で、日本人は渡航ワクチンを接種して行くように警告されている状況です。また海外出張が急に決まるために、接種期間が短いことが多いので、早くご相談いただくようお願いしたいと思っています。我が国では高齢化に伴い、帯状疱疹は毎年2%ずつ増加し、帯状疱疹後神経痛で悩む方が増加しています。帯状疱疹もワクチンで軽症化・予防ができることをご存じない方が多くおられます。帯状疱疹後神経痛のことをもっと知っていただき、高齢者の生活QOLを少しでも上げる努力が必要です。これらのため、私たちには積極的な啓発活動が必要と考えています。

センター長 寺田 喜平

予防接種センター受診者（延べ人数）

各種予防接種	
【輸入】狂犬病（Verorab）	39
【輸入】腸チフス（Typhim Vi）	32
【輸入】HA + HB ワクチン（Twinrix Adult）	30
【輸入】コレラ経口ワクチン（Dukoral Oral）	26
【輸入】MMR ワクチン（Priorix）	7
【輸入】A型肝炎（Havrix）	3
髄膜炎菌ワクチン（メナクトラ）	2
MR（麻疹＋風疹 混合）	1
風疹	2
四種混合	1
三種混合	2
日本脳炎	17
おたふくかぜ	1
A型肝炎	17
B型肝炎	2
破傷風	17
インフルエンザ	12
その他	2
合計	213

2 3Dワークステーション更新

放射線科 笹井 信也

3Dワークステーションの更新を行いました。ハードウェアのパワー不足と解析ソフトウェアの新規導入が目的でした。CTやMRIの画像はそのままでも診断できますが、装置の進歩により、より多くの情報を持つようになっていきます。例えば、CTで得られる画像間隔は1mm以下となり3次元的に等方性に近いデータとなります。こうなると2Dから3Dの診断ができるようになり、診断が飛躍的に向上します。しかし、大量の画像が発生することになり、このデータを効率的に解析するための3Dワークステーションが必要になります。

今回の更新で、どの電子カルテ端末上からも3Dワークステーションの基本的機能が使用できるようになりました。より細かい情報を簡単に得ることができ、緻密な診断が可能です。新しい解析ソフトウェアでは、肺、心臓、血管、大腸専用の解析とともに新し

い画像認識技術による臓器抽出、スーパーコンピューティングテクノロジーに基づく動態解析が行えます。3Dワークステーションの可能性は無限で、診療とテクノロジーを結びつけ、さらなる有用な画像診断が生まれます。3Dワークステーションを活用した画像診断を推進していきます。

MRIの全身拡散強調画像用の解析ソフトウェアを導入しました。MRIの全身拡散強調画像は注目されている撮像技術ですが、定量解析を行えるこのソフトウェアで有用性が一気に高まります。悪性腫瘍の拡がりを質もあわせた量として目にみえる形で示すことができます。全体とともに個々の病変の定量評価ができるので、悪性腫瘍の診療には欠かせない画像診断法になっています。また、精度の高い評価を繰り返し行うことができることは、悪性腫瘍の経過をみるための重要な利点となっています。

3 下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術

血管外科 松前 大

下肢静脈瘤は比較的多い疾患であります。立位歩行を行う人類には必発の疾患ともいえます。高齢者も多数の方が下肢静脈瘤に罹患しておられ、下肢のだるさ、うっ滞性皮膚炎、醜形に悩んでおられます。しかし、高齢というだけで様子を見なさい、治療をしても仕方が無い、近くに専門の医師がいないなどで放置されておられる方が多い現状です。しかし、下肢静脈瘤は高齢の方ほど治療効果が大きく、下肢がきれいになり、だるさがとれて、膝の痛みも軽くなった、腰痛も軽くなったということがよくあります。お年寄りの方に恩恵の多い治療法ですので、高齢の方にも積極的に行っていきたいと考えております。

従来の治療は腰痛麻酔でストリッピング手術というやや侵襲の大きい手術でしたが、この十年くらいで、治療法は大きく変わり局所麻酔による血管内レーザー焼灼術が主流となっております。とくにレーザー装置が第2世代になってからは術後の疼痛、出血が圧倒的に少なくなり、さらに低侵襲の治療が可能となりました。

当院にも第2世代のレーザー照射装置が導入されており、最新の低侵襲治療が行える体制が整っております。井笠地区の方も倉敷、岡山、福山に向向かなくてもレーザー焼灼術が受けられるようになりました。

4 健康管理センター 改修

宮島 厚介

2018年度より、皆様にご支援頂いていました附属診療所を健康管理センターとして県に申請し施設名が変更となりました。センターは健診部門と厚生労働省認定の健康増進クラブ ONE で構成しています。施設開設から28年が経過し、最近では健康の自己管理の認識から、多くの方々が利用されています。手狭になってき

たことと、新規運動器具の導入の必要性があり、以前の診療施設を改築し、2019年3月から使用しています。人生100年時代を迎え、虚弱（フレイル）予防、アンチエイジングへの取り組みを予定しています。専門医の指導を受けながら、加齢に対し正面から向き合い、健康寿命の延長に取り組んでいきます。

健康増進クラブ ONE 石部 豪

旧笠岡第一病院附属診療所が健康管理センターへと改修されました。

この改修により、1階健康増進クラブ ONE、2階健診センター、3階多目的ホールと、各階がそれぞれ確立した健康管理センターとなりました。

歴史をさかのぼると1989年12月、附属診療所が増改築され、3階清和ハーモニーホール、2階健康管理センターが開設されました。ピアノコンサートや発表会、勉強会や様々な研修の場として清和ハーモニーホールは地域に開かれたホールとして利用され、現在でも行われている健やかライフメンバーズへと続く、健康教室なども開催されていました。健康管理センターは、当初、リハビリテーションのみの業務でしたが、1990年1月、健康管理・疾病予防のため、人間ドック・健康診断の実施を行う健診部門と運動施設として清和アスレチッククラブが開設されました。医療機関併設の施設として大変珍しいかたちの施設が誕生しました。1996年には、清和アスレチッククラブが厚生労働大臣認定健康増進施設の認定を受け、より安心・安全な運動施設となりました。2006年4月、名称を清和アスレチッククラブから健康増進クラブ ONE（ワン）と変更し、健康の保持・増進のための指導、主に運動指導を核とした会員制の運動施設となりました。2008年4月、健診部門を健診センターとして2階部分を改修し、特定健診・特定保健指導を開始しました。2012年4月、健康増進クラブ ONE の運動フロアが3階に移転し運動器具の充実がされました。また、清和ハーモニーホールは教室スタジオスペースに改修されました。

今までの歴史を辿ってきましたが、従来より利用者の皆様の健康づくりの一助となるよう施設づくりをし、地域貢献、地域にひらかれた施設を目指して参りました。

から約590㎡へと大きくなり、シャワー室やレストルームなどを完備した施設となりました。トレーニング機器は一新されメディカルフィットネス分野においても信頼性の高いハイグレードなものが導入されました。また、内視鏡検査室が1階から2階健診センター内へと改修され、受診者がスムーズに移動できるようになり利便性が向上しました。落ち着いた雰囲気の中のでゆったりと健診を受診して頂き、自身の健康について考えるきっかけとなるよう対応して参ります。

健康の自己管理意識の高まりもあり、健診センターの受診者数、健康増進クラブ ONE の利用者数ともに増加してきました。今後、健康寿命の延伸に対する働きは大きくなると見込まれることに対して、確実に対応できる施設となっています。

超高齢社会の我が国において高齢化先進地域にある施設として、健康寿命の延伸とともにスマート・エイジング（加齢に賢く対応する）やサクセスフル・エイジング（幸福な老い）を推奨・推進していけるよう職員一人一人が意識を高く持ち、励んでいきます。



2階 健診センター



3階 教室スタジオスペース



2階 内視鏡検査室



1階 健康増進クラブONE 運動室



新しいトレーニング機器

5 医療業務改革推進チーム

橋詰 博行・丸岡 資子

2018年1月より、①地域の医療機関・施設との連携
②入院患者数の維持 ③外来予約期間の短縮の3つを
目的に、橋詰院長、看護部長を始め、病棟、外来、地
域医療連携室、医事課、医事課クラーク、法人事務局
のメンバーで始動しました。

まずは、入院患者数120名を維持することをビジョ
ンに掲げ、そのボトルネックになっていることは何か
を検証するため、院内各部署の現状を把握することか
らはじめました。2018年12月にはこのチーム内で「退
院後訪問指導料」の提案があり、2019年3月より4階

病棟の看護師が退院後訪問に行き、算定を開始しまし
た。

ビジョンである入院患者数は2017年度一日平均100
名でしたが、2018年度109名と大幅に増となりました。
これは医師の増員や、気候の変化に伴う自然増と考え、
チームの活動と直接的な因果関係は無いと考えていま
す。

まだチームの活動として目立った動きは出来ていま
せんが、今後は各メンバーのリーダーシップや能力開
花も視野に入れた活動を行って行きたいと思います。

2018年4月	地域医療連携室の現状と今後の役割	地域医療連携室
5月	地域包括ケア病棟について	4階病棟
6月	リハビリテーションについて	リハビリテーション科

7月	放射線科について	放射線科
8月	笠岡第一病院整形外科の改新	整形外科
9月	外来・救急について	外来
10月	笠岡第一病院における後方支援	地域医療連携室
11月	手術室について	手術室
12月	施設基準からみた算定できそうでできていない点数	医事課
2019年1月	俯瞰的な位置から見た当院について	4階病棟
2月	病棟薬剤業務実施加算について	薬剤管理科
3月	居宅介護支援事業所の現状と病院との連携について	居宅介護支援事業所

6 病院機能評価更新受審

法人事務局 友國 雅也・小林 史昌

2018年8月21・22日、病院機能評価更新審査（一般病院1 3rdG Ver2.0）を受審しました。

病院機能評価とは、（公財）日本医療機能評価機構が第三者的な立場で行う、病院の質改善活動推進を目的とした審査です。質の高い医療の提供を実現できているか評価するもので、認定継続のために5年に1度の更新審査を受ける必要があります。2003年に初回の認定を受けて以来、今回で4度目の受審となりました。

質の高い医療を効率的に提供することは病院の大切な使命ですが、そのためには病院自身の努力が最も重要です。その努力が十分であるかを測定する手段として、この病院機能評価を受審する意義があります。今回の更新審査では、当院が日々行っている改善活動の取組みが、外部の公正な視点から見てどの程度有効であるかを見定めて頂く好機と捉え、橋詰院長を筆頭に約8ヵ月の準備を経て臨みました。日常業務に加えての準備でありましたが、課題に取り組む意欲を職員に広く促進するという意味でも、受審には大きな意義があったものと思います。

この受審準備にあたり、橋詰院長を委員長とした各部署代表から成る準備委員会を立ち上げました。また前回受審時にも用いた、院内ホームページと連動する情報共有システムも活用し、各委員に割り振られた審査項目、進捗状況、課題と改善の取組み内容、その活動履歴が誰でも確認できる体制を築きました。その他、初の取組みとして、院長を仮想サーベイヤー（評価者）として審査の予行演習を行うなど、対策を徹底しました。

結果として認定は更新され、概ね良好な評価を頂くことができました。当院の立地やサービス面は前回同様が高く評価され、認定看護師による地域への出前講座などでは新たに最高評価のS評価を頂くことができ

ました。一方で改善の余地が必要と指摘される場面もあり、中には目から鱗が落ちるような、様々な病院を見てきたサーベイヤー（評価者）ならではの指摘もありました。当院も今回で4度目の受審ということもあり、サーベイヤーも基礎はしっかりできている上で、PDCAサイクルに則った改善活動がどう行われているかに重点を置いて評価されていたように思います。

今回の病院機能評価では数々の課題も明らかになりましたが、同時に当院が今後目指すべき姿が明確になりました。今後はこの課題に対して真摯に取り組み、より地域に愛され信頼される病院づくりを職員一体となって進め、革新を続けていきたいと考えています。



7 2017年度QC活動報告

橋詰 博行

QC (Quality Control) 活動は製造業を中心に多くの企業が行ってきた改善活動で、医療の現場においても医療の質向上・医療安全・サービス改善の観点から改善活動を2014年度より継続しています。自己・相互啓発により医療・看護・介護・福祉職の専門家として成長し続けることが、医療の質・医療安全・サービス・病院運営の改善につながります。

2017年度のQC活動に対する表彰式は2018年7月1日の業務推進発表大会に合わせて行われ、

第1位「リコールはがきを!!送って喜ぶ♪患者と病院 (医事課)」

入賞「無駄なし!紙なし!グループウェアで医事課の大改革! (医事課)」, 「お気に入り登録によるペーパーレス化の実現に (タカヤ クリニック)」, 「-らくらく血液回路内排液-して省力化と経費削減に貢献。(タカヤ クリニック)」
でした。

2018年度もたくさんのQC活動の提案を頂きました (表1~3)。2019年度もぜひ応募のほどよろしくお願いいたします。



表1【CS部門】

	部署	テーマ
2018年5月10日	訪問看護ステーション	【継続】笑顔と満足お届けします!
5月24日	外来 (小児科)	家庭看護力を上げる試み ~ 緊急時の対応を知り, 子どもを事故から守ろう ~
6月11日	栄養管理科	【継続】食量アップ↑で, ADLとQOLもアップ↑
6月22日	栄養管理科	全員参加で美味しい食事の提供を!

表2【ES部門】 なし

表3【業務改善・効率化部門】

	部署	テーマ
2018年5月7日	外来	スムーズな電話対応を目指して ~ 電話対応マニュアル活用への取り組み ~
5月25日	人工透析センター	お薬手帳で業務改善
7月10日	居宅介護支援事業所	ワードパレット活用について
11月5日	タカヤ クリニック	非常時に役立つノートパソコン

QC活動優秀賞を受賞して

医事課 今本 奈美江

各部署から提案される多くのQC活動の中から、2018年度は医事課として取り組んだ「リコールはがきを!!送って喜ぶ♪患者と病院」が優秀賞を受賞することができましたので、取り組みについて報告させていただきます。

① 取り組みの契機

小児科・歯科受付で勤務にあたる中、歯科の予約患者が来院されないケースがあり気になり始めたのが2014年のことです。その中でも特に「定期検診」の予約患者の未来院が目立っていました。なぜ、そのようなことが起こっているのか分析したところ、①当院の

患者は高齢の方が多い、②定期検診は外来受診後、3～6ヵ月後の予約を入れて帰られるため予約日を忘れてしまう、といったことが主に考えられました。他に、検診予定時期に予約を入れようと一旦保留とし、緊急性がないのでそのままになってしまっている、といったケースもありました。これは、患者が受診のきっかけを知らぬ間に失ってしまっている、と思い、2015年度よりリコールハガキを送付するQC活動を開始しました。

② 取組みの内容

まず、受診予定の1週間前に患者の手元にハガキが届くよう、予約一覧を分析しました。すると、月に約30～40枚程度の手紙を送付する必要性がありました。ハガキ代がかかってしまうのではないかとさらに分析を進めたところ、予定患者が来院されなかったことによる診療報酬の未収入が月に5万円程度あることや、ハガキを出すことにより、事前に予約の変更やキャンセルの連絡をいただければ、他の来院患者の受入れにもつながることがわかりました。

次に、リコールハガキの内容について検討しました。受診予定日をお知らせするだけでは、他の歯科医院でも取り組んでいるところがあります。他とは違う当院独自の内容、そして患者に見ていただいて当院に来院していただける内容を考えた結果、病院からのお知らせも盛り込むことにしました。活動的に取り組んでいる健康教室、予防接種のお知らせ、レストラン海萌のオープン等、毎月載せる内容は変更していき、定期的

にハガキが届いてもいつも違うお知らせやデザインで目を引く工夫をしました（図1）。

③ 取組みの結果と考察

2015年度から取組みを開始し、定期検診の予約患者が未来院になってしまうという現象は1年以上通じて全くない状態が続きました。事前に予約変更やキャンセルの連絡をいただくことで予約枠も有効に活用でき、嬉しいことにご家族の予約をいただくケースも幾度となく発生しました。これは、患者のみならずご家族の方も歯科疾患の早期発見・早期治療につながったと言えます。また来院された際に、「忘れていたから助かった。」や「ハガキを見て健康教室に参加してみた。」「レストランができたことを知らなかった。」など、今までになかったコミュニケーションが取れるようになりました。

診療報酬という観点で、2014年度～2017年度まで定期患者数・レセプト点数の推移を分析したところ、上昇傾向にあることがわかり（図2）、これは徐々に患者の定着がはかれている結果だと思えます。

④ 今後の課題

今回の取組み事例を参考に、歯科外来のみならず他の診療科に活用できないか、お知らせの媒体をハガキのみならずメールに展開する等の視野を広げていき、患者にとって疾患の早期発見・早期治療ができる病院に今まで以上になっていけるよう、医事課として尽力していきたいと思えます。

図1 リコールハガキ



定期検診のお知らせ

その後、お変わりありませんか？
歯の定期検診の時期がまいりました。
ご予約いただいのは
月 日() 時 分 です。
ご都合のわるい場合はお電話にて変更をお申し付け
ください。
当日は「診察券」「保険証」をお持ちのうえご来院
ください。お待ちしております。

地中海料理 みなも 海萌 5/16(月)開店!

ご来店
お待ちしております

定期検診のお知らせ

その後、お変わりありませんか？
歯の定期検診の時期がまいりました。
ご予約いただいのは
月 日() 時 分 です。
ご都合のわるい場合はお電話にて変更を
お申し付けください。
当日は「診察券」「保険証」をお持ちのうえ
ご来院ください。お待ちしております。

新やライフメンバーズ
健康教室 参加無料！予約不要！

楽しく健康に
年を重ねるために

動きやすい服装で
おこしください

日時：4月22日(土)
午後1時30分～2時30分
場所：笠岡第一病院附属診療所 3階
健康増進クラブONE

図2 定期検診来院患者数・レセプト点数の推移



8 ワーク・ライフ・バランス

副理事長・小児科 宮島 裕子

子育て支援

当院職員391人(21歳～68歳)のうち女性が301人(77%)でその内15歳以下の子どもを育てている職員が141人(36%)在籍し、その子ども達の総数は263人に上ります。この263人の子ども達が心身ともに健やかに成長するように責任を持って支援をすることは企業としての良心・義務と考えます。子育てはまず親育ちから始まります。若い両親が子どもを育てながら働く状況は相当厳しい現状です。女性の多い医療現場では子育て支援は、必須事項であり、当院では物心共に実情に即した質の高い支援を目指しています。

まず、当院では年間120日の年休を設け、下記の時間的、経済的支援を実施すると共に、一人ひとりがそれぞれ親育ち・子育てに前向きに取り組み、それを楽しめるようソフト面での包括的支援(子どもの職場体験、病児保育、個々の子育て相談)にも力を注いでいます。当院では出産時の退職はなく、育児休暇後の復職率も100%です。「お互いさま」の精神でライフサイクルに応じて、順次お互いに仕事をカバーしあう風土を目指したワーク・ライフ・バランスを構築していきたいと考えます。

(1) 勤務に関して

- ・育児休暇：2018年度 取得者 17名（100%）
- ・育児休暇復帰時：勤務部署・形態の考慮（外来勤務，パートへの変更など）
- ・復帰後の時間短縮（育児介護休業規定 第13条）
- ・復帰後の勤務内容考慮（一定期間の夜勤の免除，減免など）

(2) 休日希望の優先：リフレッシュ休暇(年間7日間)

- ・学校，幼稚園，保育園行事に休日や有給休暇を優先的に当てています。

(3) 保育料の援助：予防接種料金の援助

- ・5歳以下の子供を持つ女子職員と父子家庭男子職員に保育料の半額（月額20,000円を限度：パートは半額）を援助しています。2005年3月までは院内保育でしたが，若い父母が地域での交流や保育園活動を通じて，親として社会人としての視野や経験を積む機会を得る目的で子ども達を地域の保育所で親子が育ちあう保育料援助に変更しました。

- ・予防接種料金は，0歳～18歳まで半額を補助しています。

※「思いやり措置」として，予防接種を土曜日午後，日曜日，祝日などの休日に受けられるように特別予約枠を設け，接種しやすいように配慮しました。

(4) 病児保育室～すこやかキッズルーム～

※詳細は病児保育（p.57）参照

(5) 家族手当

- ・15歳以下の扶養家族において一人月額6,000円の子育て支援を実施しています。

(6) 職場体験

- ・第13回わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊！！
- ※詳細は職場体験プロジェクト（p.122）参照

(7) 地域への活動

- ・こども健康教室『こどもの事故と応急処置～こんなときどうする？～』（2018年9月19日開催）

(8) 地域への講演（派遣一覧）

テーマ	期 日	派遣先	講 師
出前講座	2018年6月20日	吉田保育所	小児科 家庭看護力向上活動
心身共に健やかな成長を願って ～生きる力の基礎を育もう～	2018年7月3日	PTA 人権教育研修会 教育講演会 笠岡市立尾坂幼稚園	宮島 裕子
子どものことを語れる保育者になろう	2018年8月1日	平成30年度広島県私立幼稚園 教育研修大会	寺田 喜平
出前講座	2018年9月27日	笠岡市立神内小学校	食育プロジェクト
心身共に健やかな成長を願って ～生きる力の基礎を育もう～	2018年10月19日	PTA 教育講演会 浅口市立鴨方東小学校	宮島 裕子
子どもの成長とメディアについて	2018年11月6日	笠岡市立神内小学校 学校保健委員会	宮島 裕子
人権教育講演会 「高校生の君たちへ…自立し社会人になる事 と子どもを持つことについて考えてみよう」	2018年11月8日	岡山県立瀬戸高等学校	宮島 裕子
アレルギーを理解するために	2018年12月12日	倉敷市立東陽中学校 学校保健委員会	林 知子
笠岡市「若い世代の意識啓発事業」 自立し社会人となる事と，子どもを持つこと について考えてみよう	2018年12月18日	岡山県立笠岡商業高校	宮島 裕子
出前講座	2019年2月2日	笠岡市保育協議会	小児科 家庭看護力向上活動

介護支援

少子高齢化が進行し、高齢化比率が30%を超える当地域では職員の親世代の介護の問題が緊迫してきています。女性の多い職場で、まだまだ親の介護は女性の役割と考える風潮が根底にあり（仕事に於いては男女平等と言われながら）、夫を含めた家族全員で考え取り組み、社会資源の充実も図るなど意識改革が望まれます。当法人では疾病・認知予防に努め、親の疾病、介護、看取りの時期に時間短縮や介護休暇の実践に力を入れています。子育て支援は時間的にも計画が立て

やすい状況がありますが、介護支援は起点も終着点も未定で多くの解決すべき問題を抱えています。その一つとして家庭のみで生活が困難になってきたご両親への対応（住居、日中の居場所など）など職員からの声を聞いて早急に取り組みたいと考えています。

- ・介護相談、意識の醸成
- ・医療・介護情報及び施設の支援
- ・介護休暇
- ・時間短縮（育児・介護休業規程 第14条）

9 出前講座

「こんなときどうする？こどもの事故と応急処置」

小児科 家庭看護力向上活動

◆2019年2月2日 笠岡市保育協議会研修会

(54名参加)

- 1部 こどもの事故の現状と対策
- 2部 心肺蘇生法の実践
- 3部 緊急時の対応～こんな時、どうする？～
- 4部 もしもの時に備えて 岡山県小児救急体制

(小児科医師 湯本悠子, 看護師 赤木寛美・渡邊瑞穂)

当日は笠岡市内の各保育所より54名の保育士の皆様に参加いただきました。笠岡消防署より2名の救急救命士の方々にご協力いただき、より救急の現場に即した実践ができました。

日頃から保育に携わる参加者の方々は、「発達によって起こりやすい事故の内容について勉強になりました」「久しぶりに実践して、度々練習が必要であると感じました」「乳児と幼児での救命処置の違いについて勉強になりました」などの声をいただき、皆さん積極的に参加していただきました。今後もこの活動を通して、子ども達の健やかな成長発達に少しでも貢献できればと考えています。

◆2018年6月20日 吉田保育所 (38名参加)

- 1部 こどもの事故の現状
～こんな物、こんな所が危ないよ～
- 2部 窒息の対応・こどもの一次救命処置
～実際にやってみましょう！～
- 3部 緊急時の対応～こんなときどうする？～

(小児科医師 湯本悠子, 看護師 渡邊瑞穂)

1部では、湯本悠子医師より、こどもの事故の現状、こどもの発達と起こりやすい事故とその対策についてお話ししました。具体的な事故の内容など、事例を挙げながら紹介し、事故予防対策として、保護者の皆様に気をつけていただきたいことや、対応策について説明しました。

2部では、誤飲窒息の対応として、異物除去の方法とこどもの一次救命処置について、乳児と幼児のトレーニング用の人形を用いて実践しました。

保護者の皆様からは、「具体的な話を聞くことで、命に関わることだと再認識できた」「人形を用いて実践し、わかりやすく経験できてよかった」などの声をいただきました。





“寝ること，遊ぶこと，食べ物のお話” エプロンシアター～うんちの話～

食育プロジェクト

食育プロジェクトでは，子ども達が小児期から食育を通じて自身の健康を守り育てる意識を育むことを目的として，2007年より手作りのエプロンシアターなどを近隣の幼稚園，小学校で行っています。今年度は2018年9月27日に笠岡市立神内小学校で小学1年生と神島保育園年長5歳児組の子ども達に①エプロンシアター「うんちのおはなし」と「クイズ」食べ物の話（小児科看護師：赤木寛美・保育士：中山佳奈），②栄養の話，おやつの話（管理栄養士：今井智子）③元気に

遊び，おいしく食べて，よく眠る（小児科医師 宮島裕子）をはじめ歌やクイズ，質問タイムの楽しい90分をもちました。

子ども達からは「バランス良く食べて早寝早起きするように頑張ります」「すごく大切なことを教えてくれてありがとう」などの言葉がありました。この活動を通して，子ども達の健やかな成長発達に少しでも貢献できればと考えています。



岡山県看護協会 地域での健康応援出前講座「おしっこが漏れて困った時は」

皮膚・排泄ケア認定看護師 山崎 恵

2018年12月9日、里庄町婦人会主催による地域での健康応援出前講座を行いました。

この「地域での健康応援出前講座」は、地域の方々が自分らしく健やかに生きていくための健康づくりを支援することを目的に岡山県看護協会が会員（看護師・助産師）を派遣して実施しているものです。

今回初めて出前講座を行いました。皆様興味を持って熱心に聴講していました。

【内容】

1. 排尿のしくみ
 2. 尿失禁の種類と原因、治療等について（骨盤底筋体操を実施）
 3. 尿失禁用パッド、軽尿失禁用下着の紹介
 4. 当院の排尿ケアチームの紹介
- 通常の講座では婦人会の方が30名程度参加すると聞

いていましたが、一般の方も含めて50名が参加し、尿漏れで困っている方が多いことを痛感しました。講座では畳に仰向けになって、皆様と一緒に笑いながら楽しく「骨盤底筋体操」を実施しました。すぐに効果が現われるものではないので、毎日継続することが大切だとお話すると「がんばって続けます」と言われる方もいました。排尿のことはとてもデリケートな問題で、なかなか相談や受診がしにくいと思いますが、今回参加して「自分だけではない」と安心した方もいたようです。

この講座をきっかけに、地域の方々が看護に親しみを感じ、健康増進の一助になればと思います。今後も専門性を活かし、地域に出向く活動に取り組みたいです。

10 プロジェクト

痛みプロジェクト

ペインクリニック内科 森田 善仁

【ご報告】

当院では、2013年3月より慢性痛に対するチーム医療（痛みサポートチーム）を実践し、2014年1月より慢性痛プロジェクトを発足しました。これまでの活動では、慢性痛を抱えた人やそのご家族が痛みと向き合い上手につき合っていただけるような支援（痛み教室、健康教室など）、病院スタッフに対する啓蒙活動（5番目のバイタルサイン、院内勉強会など）、地域に対する啓蒙活動（出張講座、教育講演など）、学術活動（学会参加・発表・論文作成）を行ってきました。病院スタッフの皆さまには多大なご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

このたび一定の役割は果たしたとして、痛みプロジェクトは2018年度をもって区切りとさせていただきます。痛みは体や心の不調を教えてくれる大切なサインです。痛みに耳を傾ける姿勢がますます広がっていくことを願っています。

2018年度の活動内容

【健康教室】2018年5月12日

今回のテーマは「痛みについて知ろう、語ろう！～

ペインクリニック」です。

第一部：こんなに変わった！慢性痛対策

演者：森田善仁

日本の慢性痛医療は、最近の10年間で大きく変化しています。はじめに慢性痛対策の変遷について話し、施す医療（投薬、ブロック注射、マッサージなどの施術）からの転換、患者のセルフマネジメントを支える医療（患者教育、運動療法、認知行動療法などの活用）について理解を深めていただきました。

第二部：みんなで語ろう！痛みのケア

演者：田野口瑞季

慢性疼痛の事例を提示し、どんな要因が痛みを悪化させているのか、どんなケアを行うとよいか、ということグループディスカッション形式で参加者の皆さん自身に考えていただきました。どのグループも、第一部の内容を踏まえて積極的に意見を出していただき、最後には全体で意見共有を行うことで、普段から皆さんが実践している、身近な痛みケアの方法を知ることが出来たと思います。

絵本プロジェクト～絵本のある子育てを～

村田 佳子・西 千晶・赤木 寛美・横原 春香

絵本プロジェクトを開始して13年目を迎えました。近年メディア化が進み、幼少期よりメディアと接する時間が増えています。

小児科では親子の関わりの時間を大切にしてもらいたいと願い、子どもたちがどんな絵本に興味を持っているのか、また絵本に関する保護者の思いを知るためにアンケートを実施しました。

その結果、子どもが気に入った絵本を自宅で購入する傾向が高いことや、子どもたちに人気のある絵本が分かりました。また、家庭で絵本とどのように関わり、保護者がどのような思いを持たれているか知ることが出来ました。実際に保護者が感じた絵本の読み聞かせの良さを外来受診される保護者の皆様にお伝えし、より多くの家庭で絵本と関わる時間を持って頂く目的で、アンケート結果を待合に掲示し配布用のパンフレットを作成・配置しました。また子どもとメディアとの関わりの実態や保護者の悩みに対して小児科医からのアドバイスや対応方法も配布用パンフレットに掲載しました。来院される保護者の方に興味を示して頂き、パンフレットを手にする姿が多く見受けられました。

今年度はアンケートで人気のあった絵本や高学年向けの書籍を新たに購入し、毎月季節に合わせたおすすめ絵本と併せて小児科待合で紹介しています。

職員対象の絵本の貸し出し事業も、月4回に増やし第2・4の火・木曜日に設定しました。回数を増やしたことにより、利用しやすくなったとの声も聞かれ、新たに利用してくれる職員も増えました。新規購入した絵本をまず職員に紹介させて頂き、少しでも利用しやすい環境を整えているので、多くの職員の方々に利用して頂けたらと思います。

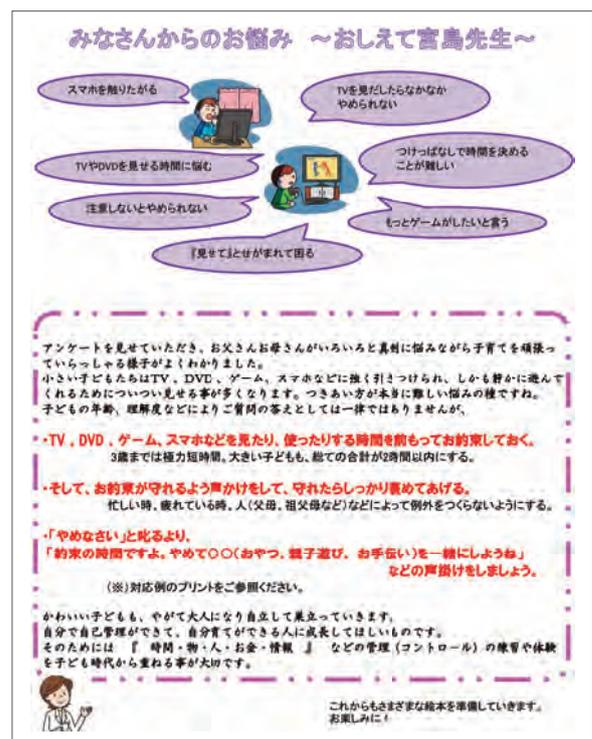
恒例のクリスマス読み聞かせの実施を、今年度も行いました。子どもだけでなく、保護者の方々にも楽しんで頂きました。

点滴中の患児や待合での個別の読み聞かせも子どもたちの気持ちを和らげる時間になっています。

今後も引き続き、絵本の楽しさを伝えていけるような活動を行っていきます。



新規購入絵本



パンフレット

ケアマネサロンプロジェクト

金川 潤子・新居 美早

ケアマネサロンプロジェクトは、2017年度より瀬戸ライフサポートセンターの知名度を高め地域に根差した施設にすることを目標に院内のプロジェクトとして活動しました。

ケアマネサロン（通称：瀬戸カフェ）では、研修会と地域のケアマネジャー同士の情報交換会の場を持ち、互いに研鑽し合い、横のつながりを強化し気軽に相談できる関係性を構築することも目的に活動しました。

2018年度は特定事業所加算算定事業所の共同の研修会も実施したため、事例検討会を含め3回の開催となりました。講義では高齢者に多い疾患について学びを深め、講義後の情報交換会ではケアマネジャー同士、日頃の業務で気にかかっていることなど気軽に話し合う場を持つことができました。

2017年度・2018年度と院内のプロジェクト活動として取り組み、瀬戸ライフサポートセンターとケアマネサロンの存在を地域のケアマネジャーに知っていただくことができましたと思います。

2018年度の介護報酬改定により、特定事業所加算の算定要件として、「他の法人が運営する指定居宅介護

支援事業者と共同で事例検討会、研修会等を実施している」ことが加わりました。2018年度は他法人との研修を4回実施しました。

2019年度からは院内のプロジェクト活動から他法人と共同して行う研修会への移行を行い、引き続き笠岡・里庄の居宅介護支援事業所と横のつながりを更に深め、互いに研鑽を図り、地域で質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めたいと思います。

【活動報告】

- 第1回：2018年6月12日(火) 参加者20名
講師 笠岡第一病院
理事長 宮島厚介医師
講義内容 「腎臓病と人工透析について学ぼう！」
- 第2回：2018年7月13日(金) 参加者23名
内容 「事例検討会」
- 第3回：2018年12月6日(木) 参加者19名
講師 健康増進クラブONE
石部 豪健康運動指導士
講義内容 高齢化社会で生き生きと生活するために！



高齢者対策プロジェクト～その人らしく、その時を生きるために～

重政 暁宏

高齢者対策プロジェクトは、発足14年目を迎えました。メンバーは病棟看護師8名、リハビリスタッフ3名、管理栄養士1名、病棟アシスタント1名の計13名です。リハビリ体操やお菓子作りなど、職種の得意分野を活かし協力しています。

プロジェクト活動の目的は、高齢者の情緒の安定と気分転換の場を提供し、離床時間を増やすことです。業務が多忙のなか時間は限られていますが、2018年度は地域包括ケア病棟を主体に活動を行い、14回の開催で106名の参加がありました。患者の皆様より「久しぶりに習字が出来て本当にうれしい」「今日は来て良



かった」と聞くことができ、普段以上の笑顔が私たちの励みになっています。

当院へ入院される患者の皆様は、高齢の方が年々増えています。井笠地区の高齢化率も35%を超え、今後とも増加が予測されます。これからも高齢者の情緒安定

と気分転換の場として、プロジェクト活動の必要性を感じています。

来年度は少しずつ活動回数を増やし、多くの患者に癒しのひとときを提供できるように活動していきたいと思います。

宮島 裕子

る体験はスタッフ側にも多くの気づきや学びがありました。活動内容を紹介させていただきます。

第1回集まれ元気キッズ：「80kcalを学ぼう！」

2019年1月19日(土) 午後2時～4時15分
健康増進クラブ ONE：参加：児童11名、保護者11名、食育スタッフ7名、合計29名。

最初に**身長、腹囲、体組成測定**、医師から、**噛むことの大切さのお話**を親子で学びました。初めは、緊張気味だった子ども達も、健康運動指導士の元気な大きい声とともにストレッチが始まると、笑い声も聞こえるほど和やかな空気に包まれました。次に、栄養士から**おやつのカロリー調べ**。置かれたおやつカードの中から好きなおやつを3枚選び、合計カロリーを計算します（1日200kcalの目標を、500～600kcalと大きく上回りました。）。次に、おやつに適した食材の紹介の後、自分でおやつグラム計測体験をしました（ポテトチップ、チョコチップクッキー、ポッキー、カルピスジュースをそれぞれ80kcalになるよう計量器で計算、その少なさにみんな驚きました。）。

食育プロジェクト

子どもの心身ともに健やかな成長の包括的支援を目標に医療の現場から地域の皆様に食育の意義とその重要性の啓蒙や、関連疾患(小児肥満・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・鉄欠乏性貧血・心と体の成長「生活リズム；食べる・遊ぶ・眠る」など)を共に学ぶことを目的として、2006年に食育プロジェクトが発足し13年目を迎えます。メンバーは小児科医師、管理栄養士、小児科看護師、健康運動指導士、病児保育士、診療アシスタントと多職種で構成し、小児の成長発育全般に対応しています。

①今年の新たな取り組みは『集まれ元気キッズ』の発足です。健康増進クラブ ONE ハーモニーホールにて看護師、保育士、管理栄養士、健康運動指導士、医師らが定期的に肥満の子どもの親子・家族と共にミニ勉強会、親子運動、家族同士の交流会など、土曜日の午後に院外活動を始めました。日常の診療の場をはなれて子どもや保護者の方々と共に、ゆっくりとわかりやすい講義や運動・食事指導、カロリー測定体験など、すべて手作りの活動で準備は相当大変でしたが、好評で効果、説得力抜群でした。親子の生の姿に接す



初対面の児童も、健康運動指導士の上手な指導で集団遊び・親子遊びで**楽しく体を動かし**、じゃんけん陣地取りゲームなど元気に走り回っていました。保護者は、別室で**座談会**を行いました。それぞれの家庭での子育て・食事の悩みや工夫を話し合い、栄養士からの

手作りおやつ(納豆せんべい)を和気藹々試食しました。「知らない人が多く緊張した。」「楽しく運動できた。」などの声が聞かれ、第1回集まれ元気キッズは大盛況で終わることができました。



第2回集まれ元気キッズ：「五大栄養素を学ぼう！」

2019年2月16日(土) 午後2時30分～4時15分
健康増進クラブ ONE ハーモニーホール：参加：
児童8名，保護者6名，食育スタッフ5名，合計19名。

発表の時間。第1回目の最後に「これから頑張ること」のお約束を各自決めました。保護者と相談して決めたお約束が守れたか？どんなことを頑張ったのか、それぞれ発表してもらいました。「10回以上かんだ」などと元気に発表し，全員が，金色か銀色のシールを貼ってもらい満足していました。初めて参加の子どもは1名で，ほぼ緊張感無く始まりました。

次は，管理栄養士からの「**五大栄養素を学ぼう!!**」が始まります。みんな，真剣な表情で2人の管理栄養士の話を聞いていました。そして食べ物カードを使って，**赤：お肉，牛乳**など，**黄色：米，パン**など，**緑：野菜などの食物繊維**，クイズでの三色のコーンを狙って走ります。段々とコーンの数が減らされ，走る距離

も長くなります。スタッフも一緒に参加して汗を流しました。その後，健康運動指導士へバトンタッチ。

健康運動指導士の時間が始まります。**新聞紙を使ったじゃんけん競争**。2人組になり，じゃんけんに負けた方は新聞を半分にしたんでいき，小さくなった新聞紙でバランス感覚の保持強化運動です。続いて，二人組で床に敷かれた新聞紙の上でジャンプし，その新聞紙を引っ張り移動運動や，新聞紙の上にアメンボ状態の姿勢になり，床を移動する運動，新聞紙1枚を腹部に当て，新聞紙が落ちないように，素早く走る運動などを行いました。床一面に，マットを敷き詰め，子ども対大人で**じゃんけん陣地取り**や，**ボールを使って鬼ごっこ**など「わー」「きゃー」と賑やかに子どもたちだけでなく，保護者，スタッフ共々一生懸命参加し楽しい運動の時間を過ごしました。運動の後は，マットの上で**ストレッチ**を行い心身共にリラックスできたことでしょう。当日は**≪90分で2,000歩分の運動になりました!≫**



第3回集まれ元気キッズ：「運動の大切さを学ぼう！」

2019年3月16日(土) 午後2時30分～4時15分
健康増進クラブ ONE ハーモニーホール：参加：
児童9名，保護者5名，食育スタッフ6名，合計20名

身長，腹囲，体組成測定後に発表の時間。「1ヵ月間のがんばりチェック」お約束の○の数で，金・銀・

銅のシールを貼って，みんなの頑張りを発表し合いました。そして宮島医師より「**運動の大切さを学ぼう!**」のお話。みんなバランスボールの上で集中力を高めながら，講義を受けました。話の間，ずっと足が床につくことなく，バランスを保っていた児童も，落ちそうになりながら話を聞いている児童もいましたが，みんな集中している時間でした。骨を作るのは25歳まで。それまでにしっかり骨貯金をしましょうね!!その後**健**

健康運動指導士へバトンタッチです。体力って何？体の力。筋力、持久力、抵抗力などの話を聞いた後で、2人組になり、**バランスチェック**。両目を閉じ、その場で両手を振って足踏みします。児童たちは、左右にぶれる事なく、その場で変わらないか、少しズレるのみ。両手を広げ、片足立ちを30秒間保持することで筋力、バランス感覚の確認。筋力を落とさないように日頃からの体力作りが必要だと感じました。児童は健康運動指導士と一緒に楽しく体を動かしている間、**保護者は別室で座談会**を行いました。保護者より、「子どもがカロリー表示を見るようになった」「兄弟で歩数計を着用し、競うようになった」「ONEで運動習慣がつき、近所の人にすっきりしたねと言われ、本人がうれしい気持ちになっている」「土日しか関わることが

ないけど、歩くなど一緒に活動するようになった」など、親子それぞれの意識の変化を感じることができました。日頃家事育児に時間を費やし、運動する時間を設けることは難しいと思いますが、いくつになっても体を使って運動することが必要であると認識させられた3回目の親子活動でした。何度か顔を合わせている保護者同士であり、話は膨らみ、それぞれの意見を話され、心のホットタイムになりました。

わいわいとホールを走り回った後は、**親子でストレッチ**の時間です。親子で向き合い、柔軟体操を行ったり、マッサージをし合ったり普段できないスキンシップの暖かい時間でした。当日は**≪90分で1,800歩分の運動になりました！≫**



②こども健康教室の開催

毎年夏に開催する『こども健康教室』も10回目を迎え、地域の子どもと保護者、養護教諭、保育士、保健師など多数の参加があります。今回はQC活動；家庭看護力向上活動と合同で『小児の救急対応の講義、実施体験』をしました。託児スペースでお子様をお預かりし、多くの保護者の方に安心して健康教室に参加いただくことができました。

③小児科診療現場における生活指導（栄養指導、運動指導、メディア問題、生活改善など）

肥満、アレルギー、脂質代謝異常、鉄欠乏性貧血など疾病を主に食育全般に関して医師、看護師、管理栄養士、保健師、健康運動指導士などでチームを作り疾病予防、治療の指導をしています。又、健康管理センター健康増進クラブONEで肥満傾向の運動の苦手な小児を対象に毎週火・木・土曜日の午後にグループ遊びで体を動かし運動が好きになる機会を設けています。

④食育に関して今年はこども向けに「どうして太っているとよくないの？」の小冊子を作成しました。

又、院内掲示、パンフレット配布など行い保護者（親）への教育・啓蒙、食物アレルギー・小児の栄養に関する



る書物の貸し出し及び教育指導をしています。

⑤院外活動：地域への食育活動

保育所、幼稚園、小学校の園児・児童に出前講座（エプロンシアター「ウンチの話」、栄養のお話、メディアとのつきあい方のお話）や、保護者に教育講演なども行っています。小児期早期からの食育を通じて、保護者と子どもたちが、「自分の体に興味をもち、自分の健康を自分自身で守ってゆける人」に成長するサポートを目標に、地域への活動も今後続けて行きたいと考えています。※詳細は出前講座（p.115）参照

第13回 「わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊!!」

2018年7月26日(木) 午前8時30分～午後6時00分

参加者：医療法人社団清和会職員の小学1年生～中学3年生の子ども達 56名

実行委員：職場体験プロジェクト24名、ボランティア参加：職員1名、わくわく卒業生3名

当院の「子ども参観日」の活動では、職員の子も達が自分の意志で参加を決め手紙で申し込みます。活動を通じて子どもの自主性や問題解決、社会性や仕事への気付きの力を引き出せるように体験学習の場に工夫をこらしています。ここ数年は高学年の参加者が増え、子ども達が「わくわく」での1年ぶりの友人との再会や、病院ならではの体験・学習を心待ちにし、自分の将来を見据え参加していることを肌で実感しています。13年間続けてきた今、当初からは想像できない期待以上の成果が得られ、院内職員も子ども達の成長を見ることが年々楽しみの一つとなっています。

13回目となる今年、小学1・2年生は聴診器を作り自分や友達の心臓の音を聞き、心臓を身近に感じました。3・4年生は感染症をテーマに感染予防や食中毒の学習、手洗いチェッカー実習で手洗いの重要性を学びました。高学年(小学5年～中学生)はACLS講習で心肺蘇生やAED使用方法を学び、救命の現場での早期判断の大切さについて真剣に考える場となりました。閉会式ではお父さんお母さんに感謝の気持ちを手紙に書いて渡し、「幸せなら肩たたこう♪」の歌詞に合わせて肩をたたき「いつもお仕事お疲れ様です。ありがとう!」と元気いっぱいメッセージを伝え感動の締めくくりとなりました。(スケジュール表を参照下さい)

【参加した子ども達からの手紙】

- 病院の仕事がとても大変そうだと思います。私も人を助けたいです。
- お父さんは家に居るときと違って病院ではとてもきはきしていました。いつもとは別人のようにかっこよかったです。
- 病院の職員の皆さんは患者さんとのコミュニケーションや笑顔を大切に頑張っているなあと思いました。
- 将来のために、もっといろんな専門職の話を知りたいです。

【保護者(職員)の感想】

- 子育ての中心は両親だと思いますが、家族以外の大人との関わりを持つことで新たな視野をもつことができると感じました。学校では学べないこと、体験できないことをさせてもらって感謝しています。夏休みの

体験として、学校の宿題の日記等を書くことができ、他の子ができない体験ができありがたいです。

- 家庭での親の姿とは違う職場での働く姿を見ることで、世の中の広さや奥深さを感じてもらえたら良いと思います。
- 医療に関わらず、自分の目標とする職業につき、人として尊敬される人になっていければと思います。いつも周りの人のことを気づかえる人になってほしいと話しています。

【今年のトピックス】

I 『病院のお仕事』『瀬戸いこい苑のお仕事』『診療放射線技師』『リハビリテーション』のお話

今年は講師を変え、病院のお仕事・瀬戸いこい苑のお仕事に加え、専門職である診療放射線技師とリハビリテーションのお仕事を追加しました。

子どもの視点で低学年でも分かる内容、そして患者の皆様のために行っているという点をきちんと伝えられる内容にしました。子ども達は退屈せずメモを取りながら話を聞いていたため、冊子「病院のお仕事」から出題される〇×クイズの正解率は高く、冊子を読むだけでなく、各専門職スタッフから子どもに向けて直接話をする事で子どもの理解や吸収がより良くなる事を実感しました。

II ACLS 講習

今年のACLS講習は、小児科湯本悠子医師、外来看護師、救急救命士の協力により、以前とは違った体験を提供できました。緊急時は大人だけでなく子ども



集合写真

でも救急処置が必要なことを目で見て知ってもらうため、今回大人用と共に小児用の人形も借り、実際の救命現場に近い形で救命の早期判断の大切さを伝えました。

後日、参加された救急救命士から「AEDの使い方など救命の話を保護者や保育士でなく、子どもに直接語りかけるのは初めての体験でした。多くの気付きと学びがあり、今後の活動に役立てたいです。」と感想をいただきました。



ACLS講習 (小学5年生~中学生)



専門職のお話 (小学3年生~中学生)



Aグループ 子ども達からお礼のお手紙

【当日のスケジュール】

	8:30	9:00	9:30	11:00	12:00	13:00	14:30	15:30	16:00	17:00	17:30	18:00
Aグループ 小学1~2年生 (16名)	院長Dr 裕子Dr お話	開会式	グループ フォー エン	スタンブラリー	高齡吞れあい (歌遊び)	食事 先輩へ質問 タイム	「心臓の話」 工作「聴診器作り」	おやつ作り	おやつ 名刺 交換	〇× クイズ	父母へ お手紙 歌の練習	閉会式
	多目的 ホール	5階 小会議		いこい室	5階ラウンジ	5階 小会議室	食堂	5階 ラウンジ	5階 小会議室			
Bグループ 小学3~4年生 (17名)	院長Dr 裕子Dr お話	開会式	グループ フォー エン	「病院のお仕事」 の お話	病院・施設見学 親の現場訪問	食事 準備 先輩へ質問 タイム	「感染症」 の お話	体験「感染症予防」	おやつ 名刺 交換	〇× クイズ 片付け	父母へ お手紙 歌の練習	閉会式
	多目的 ホール					5階ラウンジ	多目的 ホール	5階ラウンジ	5階 ラウンジ	多目的 ホール		
Cグループ 小学5年生 ~中学生 (23名)	院長Dr 裕子Dr お話	開会式	グループ フォー エン	「病院のお仕事」 の お話	病院・施設見学 親の現場訪問	食事 準備 先輩へ質問 タイム	医療技術体験	ACLS講習	おやつ 名刺 交換	〇× クイズ 片付け	父母へ お手紙 歌の練習	閉会式
	多目的 ホール					5階ラウンジ	多目的 ホール	多目的 ホール	5階 ラウンジ	多目的 ホール		5年表彰

糖尿病サポートチーム

糖尿病看護認定看護師 水ノ上 かおり

【構成メンバー】

内科：原田和博医師，糖尿病内分泌内科：濱本純子医師

糖尿病看護認定看護師：水ノ上かおり

日本糖尿病療養指導士（CDEJ）：篝 美晴，吉田君子（看護師），松田 桂（理学療法士）

おかやま糖尿病サポーター：田口浩子（保健師），藤井結花（理学療法士）

その他：大島 渉（薬剤師），松枝由美（看護師），定平純佳（臨床検査技師），石田陽子（視能訓練士），石部 豪（健康運動指導士），前田晶子（歯科衛生士），田野口瑞季（臨床心理士），矢吹有梨（管理栄養士）

【活動内容】

- ・糖尿病教育入院や外来糖尿病患者の支援
- ・2ヵ月毎の定期カンファレンス
- ・糖尿病看護勉強会の開催
- ・糖尿病教室，世界糖尿病デーイベントの企画・開催『世界糖尿病デーイベント』

…健やかライフ メンバーズ健康教室にて

2018年11月10日(土) 午後1時30分～2時45分

第1部：講演「糖尿病 予防も治療も先手必勝！」
内科医師：原田和博

第2部：体験コーナー

糖尿病に関する展示・血糖簡易測定・体組成測定・フットケア・口内細菌チェック

ク・食品サンプル配布・薬の相談・災害時リュックの展示等

今年度はメンバーの退職や育児休暇などもあり，新しいメンバーを4名迎えました。

糖尿病プロジェクトは2013年から今の体制となりましたが，活動内容が定着したこともあり，この度「糖尿病サポートチーム」と名称を変更し気持ちを新たに活動しました。2ヵ月毎のカンファレンスも継続しており，ミニ勉強会や事例紹介，情報交換を行いスキルアップに努めています。

糖尿病教室も例年同様，年8回開催していますが新しいメンバーも講師として頑張っています。前に出て講師をすることは準備も含めて大変なことです，終了後の自己評価では「もっとこうすれば良かった」と参加者の反応を受け考えることが多く，大変頼もしく思っています。

そして，今年度は7月に開催された「業務推進発表大会」で当院の糖尿病治療の現状，メンバー紹介や活動内容など糖尿病サポートチームの活動を発表しました。院内の皆さんにチーム活動を知っていただく良い機会であったと思います。今後もメンバー皆が輝いて活動できるよう新しいことにチャレンジし，支援していきたいと考えています。



薬の相談



食事相談



フットケア

11 院内行事

4月1日～30日

医師臨床研修・初期研修

福満 隼人医師（川崎医科大学附属病院）

4月2日

新入職員入社（28名）

医師5名・臨床検査技師2名・薬剤師3名・看護師9名・病棟アシスタント1名・視能訓練士1名・臨床工学技士3名・理学療法士1名・作業療法士1名・管理栄養士1名・調理師1名



4月4日・7日

新人研修会

（中途採用含む
35名参加）



4月11日

院内研修（予防接種センター）

「子どもの予防接種の現状と動向」

小児科・予防接種センター 寺田 喜平医師
（職員38名参加）

4月14日

健やかライフ メンバース 健康教室

『毎日の生活に運動を！目指せ。ピン・しゃん・生活!!』

「みつめよう！自身の体力」

健康運動指導士 石部 豪

「やってみよう！簡単体操」

健康運動指導士 内田 郁弥

（患者の皆様67名参加）



5月1日～31日

医師臨床研修・初期研修

井上 夏実医師（川崎医科大学附属病院）

5月2日

院内研修（予防接種センター）

「麻疹対策の必要性－今回の沖縄で麻疹83名発症から見えること－」

小児科・予防接種センター 寺田 喜平医師
（職員127名参加）

5月10日

永年勤続表彰

（20年表彰6名・10年表彰7名・5年表彰17名）



5月12日

健やかライフ メンバース 健康教室

『痛みについて知ろう、語ろう！ペインクリニック』

「こんなに変わった！慢性痛対策」

ペインクリニック内科 森田 善仁医師

グループワーク「みんなで語ろう！痛みへのケア」

（患者の皆様86名参加）

第40回ロビーコンサート

『土と樹が織りなす音色』

ユニット妖

原野 学（和楽器）・渡辺 史子（オカリーナ）

ミミハムココロ

太田 晴美・藤原 公子・渡辺 史子（オカリーナ）

（患者の皆様100名参加）

ふれあい看護体験

（高校生10名参加）

5月16日

院内研修（予防接種センター）

「水痘ワクチンの帯状疱疹に対する有用性」

小児科・予防接種センター 寺田 喜平医師
（職員70名参加）

5月17日・24日・25日

院内研修（医療安全管理委員会）

「医療安全の動向と最近の動き・多職種連携」
（職員280名参加）

5月30日

院内研修（サービス向上委員会 接遇部会）

「見直そう 職員同士の接遇を！思いやりの気持ちを大切に…気持ち良く助け合い協力できる環境づくり」
（職員189名参加）



6月6日～8日

いきいきチャレンジ体験

（中学生2名参加）

6月7日・22日・25日

院内研修（個人情報保護委員会）

「個人情報と情報セキュリティ研修」
株式会社サンネット情報セキュリティ研究所
所長 小田部 昭氏
（職員268名参加）

6月8日

大豆由来「エクオール」のお話－女性の健康サポート－

「大豆にまつわるエトセトラ」
管理栄養士 安原 幹成
「中年女性に多い手の疾患とエクオール」
橋詰 博行医師
「大豆由来『エクオール』のお話－女性の健康サポート－」
大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 女性の健康推進プロジェクト
係長 小野田 敦子氏
（院内・院外52名参加）

6月13日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

「痛いのは嫌じゃ！－带状疱疹を予防・軽症化する方法－」

小児科 寺田 喜平医師
（患者の皆様113名参加）



6月19日

ボーリング大会（若葉会）

（職員61名参加）

7月4日

院内研修（予防接種センター）

「海外渡航ワクチンについて－県内初の未承認渡航ワクチンの接種－」
小児科・予防接種センター 寺田 喜平医師
（職員46名参加）

7月5日

院内研修（栄養管理委員会・NST委員会）

「摂食嚥下障害とそのサポート方法を学ぼう」
ネスレ日本株式会社 尾崎 淳一氏
（職員48名参加）

7月11日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

『今日から即実践！家庭でできる床ずれ予防』
「まるわかり 床ずれ予防とスキンケア」
皮膚・排泄ケア認定看護師 山崎 恵
「毎日の食事で床ずれ予防」
管理栄養士 面地 みどり
「知って安心♪介護保険」
医療ソーシャルワーカー 古中 喜久江
（患者の皆様99名参加）

意見交流会

（健やかライフ メンバーズ53名参加）

7月13日

第12回井笠地区画像診断・治療勉強会

「さあ、大腸CT検査をはじめよう」
放射線科 笹井 信也医師
（院内・院外63名参加）

7月19日・27日

院内研修（倫理委員会・労働安全衛生委員会）

「医療従事者にも抱いてほしい倫理観について」
渡辺 明良医師
「禁煙啓蒙研修」
（職員221名参加）



7月21日

業務推進発表大会（職員264名参加）（p.130参照）
慰労会・新人歓迎会・輝いている人表彰
（笠岡グランドホテル・職員220名参加）



「輝いている人」は模範になる優れた人を職員同志で推薦しあう制度です。2018年度は32名がノミネートされ、グランプリ1名と輝いている人6名が選出されました。

グランプリ 長安倫芳（法人事務局）
輝いている人 小野江莉奈（法人事務局）・本岡紀子（地域医療連携室）・古中喜久江（地域医療連携室）・森元裕貴（医局）・畑中真一（法人事務局）・小林史昌（法人事務局）

7月25日・26日

インターンシップ
（高校生5名参加）

7月26日

職場体験プロジェクト

「わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊!!」
（小学生46名・中学生10名参加）

8月4日

第14回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka

「新鮮肘関節靭帯損傷の治療を再考する」
香川大学 整形外科・リハビリテーション科
講師 加地 良雄先生
「腕神経叢手術のピットフォール」
近畿大学医学部 整形外科
教授 柿木 良介先生
（院内・院外56名参加）



8月21日・22日

病院機能評価更新受審

8月29日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

「上手に年を重ねるために」
脳神経外科 渡辺 明良医師
（患者の皆様110名参加）

9月19日

健やかライフ メンバーズ こども健康教室

『こどもの事故と応急処置：こんなときどうする？』
「近年の事故の現状と誤飲・窒息などについて」
小児科 湯本 悠子医師
「当院アンケート調査の結果より」
「子どもの応急処置の実践」
（患者の皆様58名参加）

9月25日

第21回笠岡症例検討会

（院内・院外82名参加）



10月5日

高齢者心不全を考える会

「心不全の体液管理～臓器うっ血・右心不全の治療～」
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
准教授 中村 一文先生
（院内・院外86名参加）

10月16日・31日

院内研修（感染防止委員会）

「発疹性感染症について」
小児科・予防接種センター 寺田 喜平医師
（職員290名参加）

10月24日・11月9日

院内研修（薬事・輸血療法委員会）

「安全な輸血を目指して」
岡山県赤十字血液センター 学術・品質情報課
学術係長 薬剤師 内藤 一憲氏
「高齢入院患者の不眠・せん妄にどのようにアプローチするか？－具体的な薬物療法やケアを含めて－」
岡山大学病院 精神科神経科
助教 井上 真一郎先生
（職員210名参加）

10月24日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

『転倒予防教室～自分の歩行能力を知ろう～』
「歩行能力を検査しよう」
「自分の歩行能力を把握して転倒予防に繋げよう」

理学療法士 高橋 正弘
(患者の皆様79名参加)

11月1日

第12回予防講演会 血管から健康を考える会

「血管内治療時代の下肢閉塞性動脈硬化症と下肢静脈瘤」

血管外科 松前 大医師
(院内・院外86名参加)

11月7日・16日・19日

院内研修 (医療安全管理委員会)

「危険予知トレーニング (KYT) でリスク感性を深めよう」

(職員283名参加)

11月10日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

『糖尿病 予防も治療も先手必勝!』

「糖尿病の最近の治療について」

内科 原田 和博医師
体験コーナー (簡易血糖測定, 体脂肪・筋肉量測定, 糖尿病に関する展示や相談など)

(患者の皆様116名参加)

第41回ロビーコンサート

『名曲コンサート』

能登 泰輝 (ピアノ)
藤原 香織 (ソプラノ)
田中 郁也 (ヴァイオリン)
田中 真澄 (箏)

(患者の皆様80名参加)



11月11日

第3回透析について学ぼう会 (人工透析センター)

(透析患者の皆様とご家族・職員126名参加)

11月13日~16日

いきいきチャレンジ体験

(中学生1名参加)

11月15日

防災訓練



11月19日

院内研修 (褥瘡対策委員会)

「褥瘡における栄養管理」

倉敷老健 看護部長 小山 恵美子氏
倉敷平成病院 管理栄養士 小野 詠子氏
(職員96名参加)

11月24日

大忘年会 (p.131参照)

(福山ニューキャッスルホテル・職員294名参加)

12月7日~1月19日

イルミネーション点灯



12月1日~31日

医師臨床研修・初期研修

田吹 紀雄医師 (倉敷中央病院)

12月24日

クリスマス



1月1日~3月31日

医師臨床研修・後期研修 (総合診療科)

田中 裕之医師 (倉敷中央病院)

2月1日~28日

医師臨床研修・初期研修

坪井 恵亮医師 (倉敷中央病院)

2月13日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

『大腸CT検査 大腸がんを楽にみつかることができます』

放射線科 笹井 信也医師
(患者の皆様99名参加)

2月19日・27日

院内研修 (病院感染防止委員会)

「インフルエンザ・麻疹・風疹について」

呼吸器内科 中村 淳一医師
(職員188名参加)

3月7日

骨粗鬆症勉強会

「骨粗鬆症の診断から治療まで」

明舞中央病院

副院長・整形外科部長 田中 日出樹先生

(院内・院外79名参加)

3月11日

第22回笠岡症例検討会

(院内・院外51名参加)



3月14日・19日

院内研修（防災防水対策委員会）

「平成30年西日本豪雨から学ぶ」

笠岡市役所 危機管理部 危機管理課

主事 酒井 大喜氏

(職員166名参加)

3月16日

健やかライフ メンバーズ 健康教室

『骨折してからでは遅い「転倒予防」』

整形外科 小坂 義樹医師

(患者の皆様122名参加)

3月18日・26日

高齢者総合機能評価勉強会

「骨折してからでは遅い『転倒予防』」

整形外科 小坂 義樹医師

(職員134名参加)

3月26日・27日

新人研修会

(中途採用含む46名参加)



3月29日

防災訓練（瀬戸ライフサポートセンター）

12 業務推進発表大会

能登 壮夫

2018年7月21日(土)午後2時より笠岡第一病院5階多目的ホールに於いて、理事長・副理事長・院長をはじめ職員264名参加の下、2018年度業務推進発表大会が開催されました。

この発表大会は今年度で12回目を迎えます。毎年、医療法人社団清和会の運営方針・各委員会・プロジェクト活動等が活発に発表され、同時に法人及び親交会（若葉会）の決算報告を行う場でもあります。日頃は各職員が各々の部署で業務に邁進しておりますが、この時は全職種・職員の大半が一同に会し職種・部署に関係無く法人全体の活動等を傾聴出来る重要な機会です。

開催にあたり宮島理事長より『笠岡市の救急医療体制』という演題で発表がありました。冒頭、「笠岡市の救急医療体制が危うくなっています」で始まった演題であります。当病院の現状は当然であります。笠岡市を中心とした井笠地区の救急体制について行政、近隣他病院の現状及び今後の有り様を考察し、笠岡第一病院が受けるであろう影響などが危機感をもって示されました。日頃は現場の業務に追われている参加職員も真摯に傾聴しました。

続いて、橋詰院長より『2023年に向けて』という演題で発表がありました。2018年度は診療報酬と介護報酬の同時改定に加え、第7次医療計画がスタートした年度でありました。それをもって今後の医療機関、特に地域医療の中核病院の課題、方向性が語られました。・「専門診療と地域医療貢献の両立」・「中小一般病院における専門診療の必要性」と言った医療機関の在り方から、患者さんの生活を守る為の具体的な方策まで分かり易く丁寧に示されました。

さらに、宮島副理事長より、『自分育て・職場育てをめぐって』という演題で発表がなされました。現在約380名の職員がいる医療法人社団清和会では本来の業務だけでなく、日常の業務にプラスして「地域に発信したい。健康を支援したい」「この事業をやってみたい」「改善したい、問題解決に取組みたい」など

の思いを実現する活動、部署を超えた連携により自分を育て職場を育てる活動として「プロジェクト活動」「業務推進QC活動」があります。こういった活動の目的あるいは主旨等があらためて語られました。この演題発表を職員全員熱心に傾聴し、今後の清和会全体の益々の活性化が期待できるものです。

【プロジェクト活動発表】

- ① 糖尿病サポートチーム
- ② 高齢者対策プロジェクト

【院内QC活動表彰・発表】

- ① 無駄なし！紙なし！グループウェアで医事課の大改革！
医事課
- ② お気に入り登録によるペーパーレス化の実現に
タカヤクリニック
- ③ ーらくらく血液回路内排液ーして省力化と経費削減に貢献。
タカヤクリニック

【一般演題発表】

- ① DiNQL（ディンクル）から見えてくるもの
看護部
- ② 笠岡第一病院における患者相談窓口業務
医事課
- ③ 酸素流入計の点検
人工透析センター
- ④ 2017年度決算概況
法人事務局
- ⑤ 若葉会活動・決算報告
若葉会

以上の発表が順次行われ参加者全員真剣に傾聴しました。

その後、2017年8月以降の1年間で新たに医療法人清和会の職員になられた方49名の新人紹介がありました。

最後に古川副院長より「終わりのことば」があり無事閉会となりました。

13 大忘年会

若葉会会長 石部 豪

2018年11月24日に医療法人社団清和会 大忘年会を福山ニューキャッスルホテルにて開催いたしました。職員総勢294名の参加があり、一年を締めくくる会となりました。新入職員40名が4チームに分かれ、毎年恒例の出し物を披露しました。どのチームも業務の傍ら同期の仲間と協力し洗練されたパフォーマンスや隠

れた才能、特技を活かしたものばかりで会に華を添えました。また、大福引大会では、高級掃除機や旅行券の当選を祈ってハラハラドキドキ。短い時間ではありましたが、清和会職員が一堂に会し美味しい料理と楽しい余興で大変盛り上がり、親睦を深めるとともに一年の労をねぎらう会となりました。



14 若葉会

若葉会会長 石部 豪

若葉会は会員相互の親睦，文化の向上，体育の振興を計ることを目的として活動しています。医療法人社団清和会職員全員が会員であり，委員会は各部署より立候補および推薦で選出された委員，計20名により企画・運営されています。2018年度の活動内容ですが，6月19日に福山パークレーンにてボーリング大会を開催しました。参加者61名が各レーンで楽しくプレーし，他部署との職員間の交流が行えました。11月24日には毎年恒例の大忘年会を福山ニューキャスルホテルにて開催しました（p.131参照）。

また，部活動に対して協力金を補助し会員の積極的な活動を支援しています。現在，活動中の部活動は右記の通りです。

来年度も会員本位の会となるよう，委員で協力して参ります。

2018年度 若葉会部活動（体育部・文化部）

部活	部員数（人）
マラソン部	8
山岳部	30
パンフラー部	6
ゴルフ部	16
バレー部	20
テニス部	33
軽音楽部	11



15 設備（アメニティ）・施設改善

能登 壮夫

1) 塩素濃度調整機

病院で供給される飲料水のほとんどは受水槽から高架水槽を経て、蛇口などから供給されていますが、昨今の地球温暖化の影響で水道水に含まれる塩素濃度が低くなっていることが懸念としてありました。塩素濃度が低くなりすぎると水道水の中で雑菌が繁殖しやすくなるため今回高架水槽に塩素濃度調整機を設置しました。医療はもちろんですが、患者の皆様へ提供するものは安全・安心なものを提供できるよう今後も定期的に検査を行い、水準を満たさなくなる前に対策を行っていかうと考えています。

2) 生理機能検査室電動診察台

生理機能検査室ではエコー検査や心電図検査を行う際に診察台に横になって検査を行っています。今まで木製の診察台で特に高齢の方などには踏み台を使って診察台に上がっていただくなどご不便をお掛けしていましたが、今回全ての検査用の診察台を電動のものに更新しました。これにより高さも低い位置まで下がるので検査時の負担の軽減が図れるのではないかと期待しています。

3) テニスコート

職員の福利厚生の一環として旧瀬戸内荘屋上にテニスコートを設置しました。業務終了後に利用できるようナイター設備も整えました。本件の設置を契機として新たにテニス部も発足となりました。



4) 1階待合イス

1階待合イスの一部（16台）を更新しました。今回は院内に展示させていただいております神島出身の画家、池田清明先生の絵画のタッチに合わせたデザインを採用しました。また、従来の待合イスに比べて座面が少し高く、高齢の方にも座りやすく、立ち上がりやすい設計になっています。外来診察では患者の皆様をお待たせすることも少なからずありますが、待つストレスを軽減できるよう配慮していきたいと考えています。



5) 入浴装置

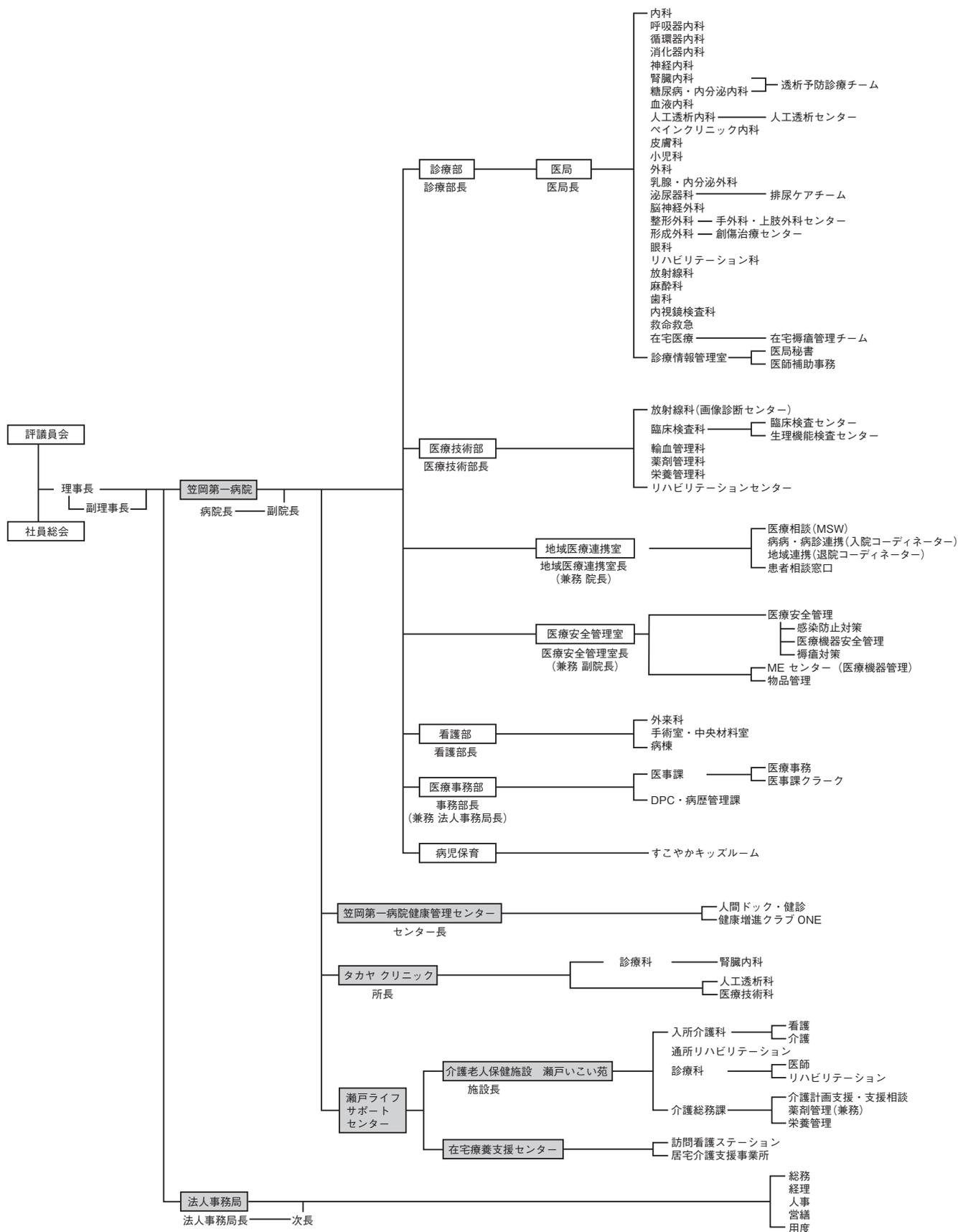
寝たきりの患者さんや利用者さんが利用される病院，瀬戸いこい苑の入浴装置を更新しました。湯冷めしにくいミスト浴を採用しており，既に導入している瀬戸いこい苑では利用者さんから高い評価をいただいています。単調になりがちな入院生活や入所生活では入浴を楽しみにされている方も少なくなく，こうした機器の更新で入院生活や入所生活にちょっとした楽しみをご提供できれば幸いです。

資料

組織図

医療法人社団 清和会 組織図

2019年3月31日現在



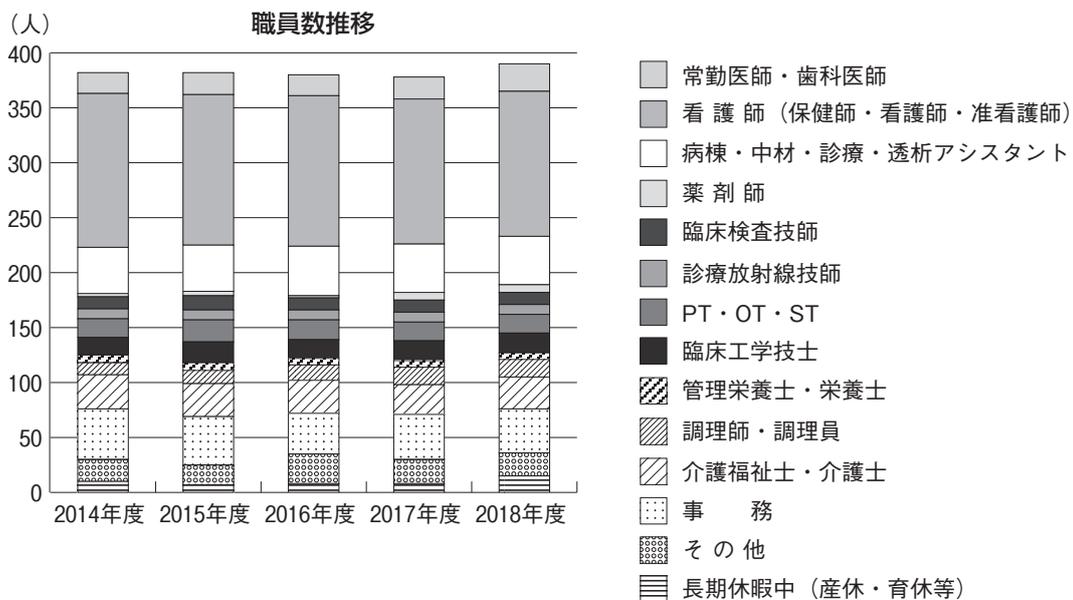
職員数変遷

★職種別職員構成の推移と現況（2019年3月31日現在）

職員数は昨年と比較し、15名の増員となりました。職種別で見ると医師5名、薬剤師4名の増員となりました。また、長期欠勤中の職員も15名となっています。

	2015年3月31日	2016年3月31日	2017年3月31日	2018年3月31日	2019年3月31日	
	職員数	職員数	職員数	職員数	職員数	割合
常勤医師・歯科医師	19	20	19	20	25	6.4%
非常勤医師 実人数	44	45	46	49	52	-
非常勤医師 常勤換算数	6.4	6.9	6.7	8.1	7.6	-
看護師 (保健師・看護師・准看護師)	140	137	137	134	132	33.9%
病棟・中材・診療・透析アシスタント	42	42	45	43	44	11.3%
薬剤師	3	4	2	3	7	1.8%
臨床検査技師	11	13	11	9	11	2.8%
診療放射線技師	9	9	9	9	9	2.3%
PT・OT・ST	17	20	18	20	17	4.4%
臨床工学技士	16	19	17	19	18	4.6%
管理栄養士・栄養士	7	7	6	7	6	1.5%
調理師・調理員	11	12	14	13	16	4.1%
介護福祉士・介護士	31	30	30	27	29	7.4%
事務	46	44	37	41	40	10.3%
その他	20	18	27	22	21	5.4%
長期休暇中（産休・育休等）	10	7	8	8	15	3.8%
合計	382	382	380	375	390	100.0%

※非常勤医師は合計に含まれていません。



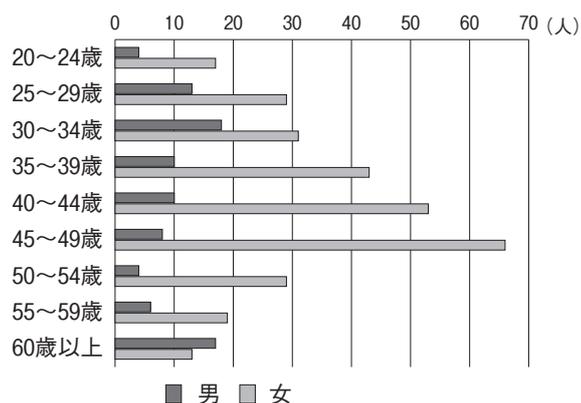
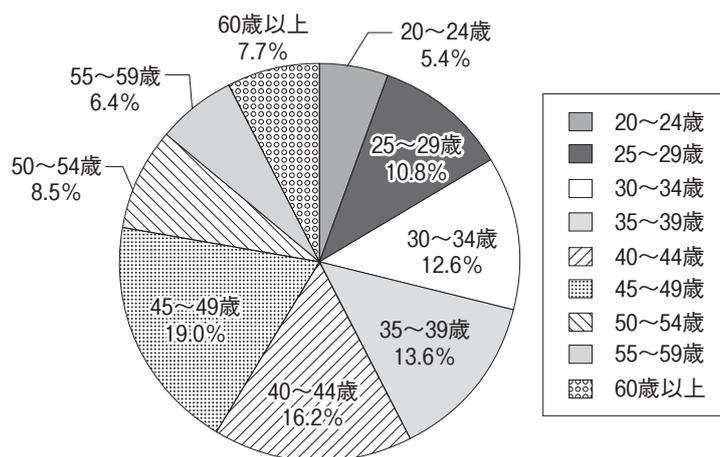
★部署別職員構成の現況（2019年3月31日現在）

部署コード	人数	平均年齢	平均勤務年数
笠岡第一病院	302	41.2	9.3
医局	25	55.1	10.5
診療情報管理室	2	42.5	19.5
地域医療連携室	5	47.0	10.0
医事課（医事課クラークを含む）	22	37.1	10.0
薬剤管理科	8	35.8	9.3
臨床検査科	10	37.7	3.2
放射線科	9	41.3	11.6
栄養管理科	22	41.4	9.4
リハビリテーション科・歯科	23	34.7	6.9
血液透析部	28	39.0	8.2
看護管理室（看護部 長期欠勤者を含む）	8	35.8	6.5
外来	50	41.8	11.3
3階	21	40.2	10.0
4階	30	40.9	8.3
5階	29	42.6	9.5
手術室	10	39.9	7.1
笠岡第一病院 健康管理センター	9	39.3	11.0
タカヤ クリニック	13	43.3	7.0
介護老人保健施設 瀬戸いこい苑	42	43.6	13.6
通所リハビリ	7	42.7	12.4
入所	35	43.8	13.8
在宅療養支援センター	10	48.6	12.0
法人事務局	11	42.5	8.5
院内レストラン「海萌」	3	60.0	2.0
合計	390	41.8	9.7

★年齢構成（2019年3月31日現在）

年齢	男(人)	女(人)	合計(人)	割合(%)
20～24歳	4	17	21	5.4
25～29歳	13	29	42	10.8
30～34歳	18	31	49	12.6
35～39歳	10	43	53	13.6
40～44歳	10	53	63	16.2
45～49歳	8	66	74	19.0
50～54歳	4	29	33	8.5
55～59歳	6	19	25	6.4
60歳以上	17	13	30	7.7
合計	90	300	390	100.0

職員年齢構成グラフ



施設統計

笠岡第一病院では2018年5月に整形外科、小児科の常勤医師1名と7月に血管外科の常勤医師1名の入職がありました。

入院においては、入院患者数・入院数共に8%を超える患者増となり、診療科別で見ると、特に肝臓内科・小児科での増加が大きくなりました。

外来においては、内科系の診療科、皮膚科、整形外科で患者数増となりました。

瀬戸いこい苑では1日平均入所者数67.2名と2017年と比較し1.5名の増、通所リハビリでも1日平均利用者数25.5名と2.4名の増となりました。

患者数推移

1-1 入院延患者数（月別）

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)	平均在院日数	
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)			2017年度	2018年度
4月	2,812	7.7	3,451	8.7	639	22.7	13.4	14.9
5月	2,748	7.6	3,107	7.9	359	13.1	12.9	16.2
6月	2,951	8.1	2,854	7.2	△ 97	△ 3.3	14.1	13.8
7月	3,157	8.7	3,550	9.0	393	12.4	13.8	14.3
8月	3,004	8.3	3,550	9.0	546	18.2	14.2	13.1
9月	2,893	8.0	3,244	8.2	351	12.1	13.7	12.9
10月	2,645	7.3	3,091	7.8	446	16.9	12.8	12.5
11月	2,846	7.8	3,211	8.1	365	12.8	13.2	14.7
12月	3,125	8.6	3,503	8.9	378	12.1	14.3	13.6
1月	3,471	9.6	3,368	8.5	△ 103	△ 3.0	15.8	14.6
2月	3,070	8.5	3,324	8.4	254	8.3	16.0	15.2
3月	3,563	9.8	3,315	8.4	△ 248	△ 7.0	14.8	14.5
合計	36,285	100.0	39,568	100.0	3,283	9.0	14.1	14.1
月平均	3,024		3,297					
一日平均患者数	99.4		108.4					

1-2 入院患者数（科別）

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)	平均在院日数	
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)			2017年度	2018年度
内 科	3,915	10.8	5,037	12.7	1,122	28.7	15.8	20.8
呼吸器内科	6,676	18.4	7,799	19.7	1,123	16.8	25.1	27.5
循環器内科	4,215	11.6	4,366	11.0	151	3.6	15.4	14.7
消化器内科	1,907	5.3	1,780	4.5	△ 127	△ 6.7	13.1	12.6
肝臓内科	682	1.9	819	2.1	137	20.1	27.3	22.8
ペインクリニック内科	939	2.6	880	2.2	△ 59	△ 6.3	23.2	23.8
小 児 科	593	1.6	1,063	2.7	470	79.3	2.2	2.7
外 科	1,383	3.8	1,544	3.9	161	11.6	15.1	14.2
血管外科	-	-	310	0.8	-	-	-	2.7
泌尿器科	2,055	5.7	2,342	5.9	287	14.0	10.1	11.2
脳神経外科	1,681	4.6	2,164	5.5	483	28.7	19.5	22.4
整形外科	12,005	33.1	11,302	28.6	△ 703	△ 5.9	16.4	16.4
形成外科	14	0.0	-	-	△ 14	△ 100.0	2.0	-
眼 科	220	0.6	162	0.4	△ 58	△ 26.4	1.2	1.1
合計	36,285	100.0	39,568	100.0	3,283	9.0	14.1	14.1

* 血管外科：2018年7月新設

1-3 入院患者数（月別）

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)		
4月	201	7.8	227	8.1	26	12.9
5月	214	8.3	184	6.6	△ 30	△ 14.0
6月	225	8.7	205	7.3	△ 20	△ 8.9
7月	222	8.6	268	9.6	46	20.7
8月	211	8.2	267	9.5	56	26.5
9月	207	8.0	242	8.6	35	16.9
10月	206	8.0	250	8.9	44	21.4
11月	219	8.5	226	8.1	7	3.2
12月	214	8.3	241	8.6	27	12.6
1月	233	9.0	255	9.1	22	9.4
2月	189	7.3	207	7.4	18	9.5
3月	242	9.4	227	8.1	△ 15	△ 6.2
合計	2,583	100.0	2,799	100.0	216	8.4
月平均	215		233			

1-4 入院患者数（科別）

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)		
内科	278	10.8	275	9.8	△ 3	△ 1.1
呼吸器内科	239	9.3	243	8.7	4	1.7
循環器内科	280	10.8	329	11.8	49	17.5
消化器内科	143	5.5	137	4.9	△ 6	△ 4.2
肝臓内科	20	0.8	38	1.4	18	90.0
ペインクリニック内科	41	1.6	34	1.2	△ 7	△ 17.1
小児科	267	10.3	394	14.1	127	47.6
外科	100	3.9	116	4.1	16	16.0
血管外科	-	-	114	4.1	-	-
泌尿器科	211	8.2	201	7.2	△ 10	△ 4.7
脳神経外科	84	3.3	93	3.3	9	10.7
整形外科	720	27.9	673	24.0	△ 47	△ 6.5
形成外科	12	0.5	-	-	△ 12	△ 100.0
眼科	188	7.3	152	5.4	△ 36	△ 19.1
合計	2,583	100.0	2,799	100.0	216	8.4

* 血管外科：2018年7月新設

2-1 外来患者数（月別）

< 笠岡第一病院 >

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
4月	11,528	7.6	12,886	8.0	1,358	11.8
5月	11,918	7.8	13,116	8.1	1,198	10.1
6月	12,069	7.9	13,599	8.4	1,530	12.7
7月	12,040	7.9	13,654	8.4	1,614	13.4
8月	12,227	8.0	14,418	8.9	2,191	17.9
9月	11,838	7.8	12,866	7.9	1,028	8.7
10月	13,663	9.0	14,359	8.9	696	5.1
11月	13,282	8.7	13,211	8.2	△ 71	△ 0.5
12月	14,123	9.3	13,512	8.3	△ 611	△ 4.3
1月	13,628	8.9	13,776	8.5	148	1.1
2月	12,698	8.3	12,994	8.0	296	2.3
3月	13,408	8.8	13,662	8.4	254	1.9
合計	152,422	100.0	162,053	100.0	9,631	6.3

<タカヤ クリニック>

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
4月	926	8.4	856	7.6	△ 70	△ 7.6
5月	992	9.0	908	8.1	△ 84	△ 8.5
6月	945	8.6	897	8.0	△ 48	△ 5.1
7月	930	8.4	927	8.3	△ 3	△ 0.3
8月	929	8.4	1,006	9.0	77	8.3
9月	907	8.2	921	8.2	14	1.5
10月	935	8.5	1,008	9.0	73	7.8
11月	933	8.4	943	8.4	10	1.1
12月	935	8.5	964	8.6	29	3.1
1月	939	8.5	967	8.6	28	3.0
2月	787	7.1	868	7.7	81	10.3
3月	885	8.0	946	8.4	61	6.9
合計	11,043	100.0	11,211	100.0	168	1.5

2-2 外来患者数(科別)

<笠岡第一病院>

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
内科	13,099	8.6	13,175	8.1	76	0.6
呼吸器内科	7,227	4.7	8,535	5.3	1,308	18.1
循環器内科	12,305	8.1	13,998	8.6	1,693	13.8
消化器内科	7,520	4.9	8,712	5.4	1,192	15.9
肝臓内科	1,477	1.0	1,611	1.0	134	9.1
腎臓内科	593	0.4	820	0.5	227	38.3
神経内科	602	0.4	831	0.5	229	38.0
糖尿病内分泌内科	2,662	1.7	3,072	1.9	410	15.4
透析	25,760	16.9	25,779	15.9	19	0.1
ペインクリニック内科	3,121	2.0	3,306	2.0	185	5.9
リウマチ内科	1,153	0.8	1,413	0.9	260	22.5
皮膚科	6,577	4.3	7,785	4.8	1,208	18.4
小児科	19,149	12.6	18,744	11.6	△ 405	△ 2.1
外科	929	0.6	1,224	0.8	295	31.8
血管外科	-	-	651	0.4	-	-
心臓血管外科	168	0.1	134	0.1	△ 34	△ 20.2
消化器外科	94	0.1	-	-	△ 94	△ 100.0
乳腺甲状腺外科	1,256	0.8	1,280	0.8	24	1.9
泌尿器科	7,584	5.0	8,104	5.0	520	6.9
脳外科	4,844	3.2	5,253	3.2	409	8.4
整形外科	14,826	9.7	17,618	10.9	2,792	18.8
形成外科	2,741	1.8	1,961	1.2	△ 780	△ 28.5
眼科	5,695	3.7	5,747	3.5	52	0.9
リハビリ	5,563	3.6	5,130	3.2	△ 433	△ 7.8
歯科	7,477	4.9	7,170	4.4	△ 307	△ 4.1
合計	152,422	100.0	162,053	100.0	9,631	6.3

* 血管外科：2018年7月新設

2-3 外来初診患者数（科別）

< 笠岡第一病院 >

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
内 科	1,167	7.0	1,128	6.9	△ 39	△ 3.3
呼吸器内科	688	4.1	657	4.0	△ 31	△ 4.5
循環器内科	983	5.9	871	5.3	△ 112	△ 11.4
消化器内科	1,537	9.2	1,639	10.0	102	6.6
肝 臓 内 科	259	1.5	216	1.3	△ 43	△ 16.6
腎 臓 内 科	14	0.1	16	0.1	2	14.3
神 経 内 科	16	0.1	30	0.2	14	87.5
糖尿病内分泌内科	41	0.2	45	0.3	4	9.8
透 析	4	0.0	7	0.0	3	75.0
ペインクリニック内科	166	1.0	176	1.1	10	6.0
リウマチ内科	19	0.1	9	0.1	△ 10	△ 52.6
皮 膚 科	1,300	7.7	1,372	8.3	72	5.5
小 児 科	4,671	27.8	4,269	26.0	△ 402	△ 8.6
外 科	224	1.3	284	1.7	60	26.8
血 管 外 科	-	-	84	0.5	-	-
心臓血管外科	7	0.0	7	0.0	0	0.0
消化器外科	23	0.1	-	-	△ 23	△ 100.0
乳腺甲状腺外科	210	1.3	183	1.1	△ 27	△ 12.9
泌 尿 器 科	655	3.9	625	3.8	△ 30	△ 4.6
脳 外 科	410	2.4	376	2.3	△ 34	△ 8.3
整 形 外 科	2,087	12.4	2,355	14.3	268	12.8
形 成 外 科	333	2.0	200	1.2	△ 133	△ 39.9
眼 科	336	2.0	308	1.9	△ 28	△ 8.3
リ ハ ビ リ	2	0.0	1	0.0	△ 1	△ 50.0
歯 科	1,627	9.7	1,581	9.6	△ 46	△ 2.8
合 計	16,779	100.0	16,439	100.0	△ 340	△ 2.0

* 血管外科：2018年7月新設

瀬戸いこい苑

< 入所利用者数 >

	2017年度		2018年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
4月	2,018	8.4	2,036	8.3	18	0.9
5月	2,038	8.5	2,065	8.4	27	1.3
6月	2,008	8.4	1,936	7.9	△ 72	△ 3.6
7月	2,017	8.4	2,005	8.2	△ 12	△ 0.6
8月	1,959	8.2	2,126	8.7	167	8.5
9月	1,993	8.3	2,063	8.4	70	3.5
10月	1,946	8.1	2,063	8.4	117	6.0
11月	1,905	7.9	1,962	8.0	57	3.0
12月	2,039	8.5	2,095	8.5	56	2.7
1月	2,113	8.8	2,108	8.6	△ 5	△ 0.2
2月	1,874	7.8	1,938	7.9	64	3.4
3月	2,067	8.6	2,127	8.7	60	2.9
合 計	23,977	100.0	24,524	100.0	547	2.3
一日平均入所者数	65.7		67.2			

<通所リハビリ利用者数>

	2017年度		2018年度		増減数	増減率 (%)
	延べ患者数	構成比 (%)	延べ患者数	構成比 (%)		
4月	437	8.1	462	7.4	25	5.7
5月	408	7.5	506	8.1	98	24.0
6月	480	8.9	539	8.7	59	12.3
7月	431	8.0	541	8.7	110	25.5
8月	485	9.0	573	9.2	88	18.1
9月	471	8.7	490	7.9	19	4.0
10月	471	8.7	586	9.4	115	24.4
11月	449	8.3	585	9.4	136	30.3
12月	456	8.4	493	7.9	37	8.1
1月	410	7.6	472	7.6	62	15.1
2月	426	7.9	459	7.4	33	7.7
3月	485	9.0	507	8.2	22	4.5
合計	5,409	100.0	6,213	100.0	804	14.9
一日平均利用者数	22.1		25.5			

<訪問看護利用者数>

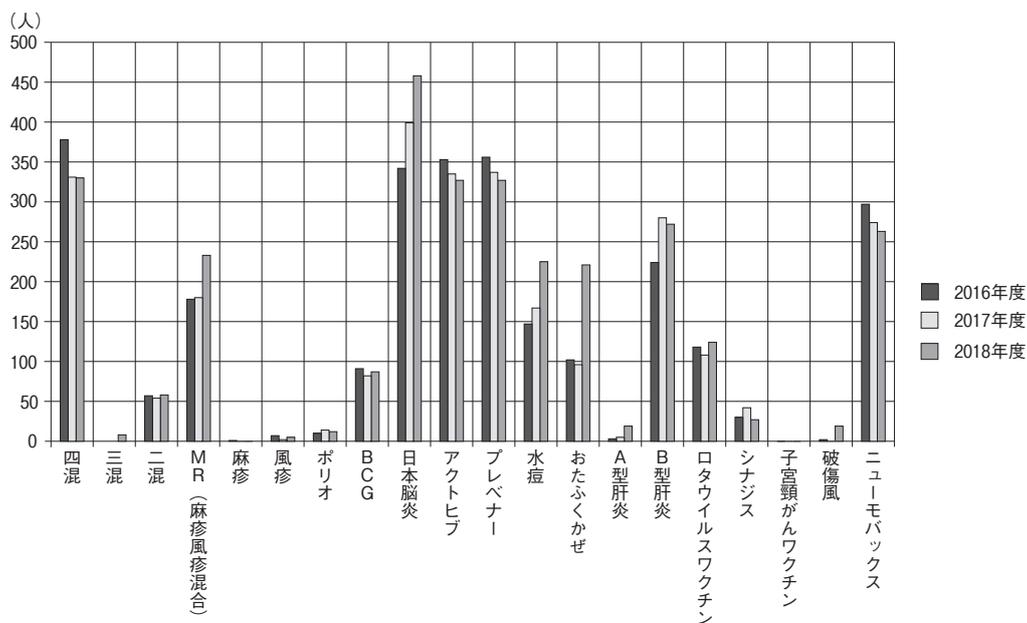
	2017年度		2018年度		増減数	増減率 (%)
	延べ患者数	構成比 (%)	延べ患者数	構成比 (%)		
4月	219	8.0	198	7.3	△ 21	△ 9.6
5月	226	8.2	231	8.5	5	2.2
6月	238	8.7	228	8.4	△ 10	△ 4.2
7月	217	7.9	247	9.1	30	13.8
8月	265	9.6	256	9.5	△ 9	△ 3.4
9月	263	9.6	207	7.7	△ 56	△ 21.3
10月	251	9.1	251	9.3	0	0.0
11月	229	8.3	234	8.7	5	2.2
12月	239	8.7	225	8.3	△ 14	△ 5.9
1月	205	7.5	198	7.3	△ 7	△ 3.4
2月	200	7.3	206	7.6	6	3.0
3月	197	7.2	223	8.2	26	13.2
合計	2,749	100.0	2,704	100.0	△ 45	△ 1.6

予防接種者数統計

(人)

	2016年度		2017年度		2018年度	
四混	378	(375)	331	(329)	330	(328)
三混	/		/		8	(2)
二混	57	(57)	54	(53)	58	(55)
MR (麻疹風疹混合)	179	(168)	180	(173)	233	(202)
麻疹	1	0	0	0	0	0
風疹	7	0	2	0	5	0
ポリオ	10	(10)	14	(14)	12	(8)
BCG	91	(91)	82	(82)	87	(87)
日本脳炎	342	(334)	399	(370)	458	(415)
アクトヒブ	353	(353)	335	(335)	327	(325)
プレベナー	356	(355)	337	(337)	327	(325)
水痘	147	(144)	167	(167)	225	(191)
おたふくかぜ	102	(95)	96	(89)	221	(211)
A型肝炎	3	0	5	(3)	19	0
B型肝炎	224	(214)	280	(278)	272	(254)
ロタウイルスワクチン	118	(118)	108	(108)	124	(124)
シナジス	30	(30)	42	(42)	27	(27)
子宮頸がんワクチン	0	0	0	0	0	0
破傷風	2	0	0	0	19	0
ニューモバックス	297	/	274	/	263	/
インフルエンザ	2,722	(577)	3,045	(692)	3,251	(761)
出張予防接種事業 (インフルエンザ)	901	/	1,013	/	928	/
合計	6,320	(2,921)	6,764	(3,072)	7,194	(3,315)

()は小児科



2018年4月～6月

海外… (6月) 米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長がシンガポールで史上初の米朝首脳会談を行いました。焦点の非核化については具体策などの言及はありませんでした。また2019年2月にもベトナム・ハノイにて2回目の米朝首脳会談が行われましたが、双方の主張の隔たりは大きく物別れに終わりました。

国内… (6月) 大阪府北部で最大震度6弱の地震発生。また9月には北海道胆振地方で最大震度7の地震が発生しました。この北海道胆振東部地震では道内全域で停電し、酪農にも大きな被害が出ました。

(6月) 成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる改正民法が成立しました。2022年4月1日から施行されます。

県内… (4月) 瀬戸大橋開通30周年を迎えました。また3月には岡山空港も開港30周年を迎えており、「岡山桃太郎空港」の愛称で呼ばれるようになりました。

(5月) 文化庁「日本遺産」に「『桃太郎伝説』の生まれたまち」(岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市)が認定されました。

2018年7月～9月

海外… (7月) タイ北部の洞窟に17日間閉じ込められていた少年ら13人が、タイ海軍特殊部隊により無事救出されました。

(9月) プロテニスの大坂なおみ選手が全米オープン女子シングルスで日本人として初めて優勝しました。続く全豪オープン(2019年1月)でも優勝し、世界ランキング1位となりました。

(9月) インドネシア・スラウェシ島にてマグニチュード7.5の地震が発生。大規模な液状化現象などにより、死者行方不明者は約3,500人以上となりました。

国内… (7月) 西日本広域各地で記録的豪雨により堤防の決壊や河川の氾濫、土砂崩れなど甚大な被害が発生しました。政府は激甚災害に指定し、復旧に向けた国の支援も始動しました。また9月には台風21号が非常に強い勢力で近畿地方を縦断し、関西国際空港が浸水被害や連絡橋損傷により閉鎖されました。

(7月) 有効求人倍率は1.63倍まで上昇し、1974年1月(1.64倍)以来、44年ぶりの高水準となりました。労働需給のタイト化により人手不足

感が強まっており、賃金コストの上昇圧力につながっています。

県内… (7月) 前述の西日本記録的豪雨により岡山県内各地でも甚大な被害をもたらしました。岡山県の死者数は66人(うち大規模な浸水被害があった倉敷市真備町では51人)で、住家被害は全壊被害だけでも4,822棟となりました。

2018年10月～12月

海外… (10月) 本年のノーベル生理学・医学賞は京都大の本庶佑特別教授が受賞しました。免疫細胞の表面に免疫の働きを抑制する物質「PD-1」を発見し、この「PD-1」の働きを妨げることで免疫細胞にがん細胞を攻撃させる治療薬「オプジーボ」の開発につながったことが評価されました。

(12月) 環太平洋パートナーシップ(TPP)協定が12月30日に発効しました。参加11カ国のうち日本を含む7カ国が国内手続を終了したため、世界のGDPの13%を占める人口5億人の巨大な経済圏が誕生しました。

国内… (10月) 基準地価の全国平均が9年連続で改善、前年比0.1%上昇しバブル期の1991年以来27年ぶりにプラスに転じました。

(10月) シカゴマラソンで大迫傑選手が2時間5分50秒の日本最高記録を出しました。2月に東京マラソンで設楽悠太選手が出した2時間6分11秒を更新し、日本人として初めて2時間6分の壁を破りました。

(11月) 日産自動車のカルロス・ゴーン元会長が11月19日、金融商品取引法違反容疑で東京地検特捜部によって事情聴取を受け逮捕されました。ゴーン氏は長年にわたり報酬額を実際よりも過少に有価証券報告書に記載していた疑いもたれています。拘留延長も含め3月の保釈まで計3回逮捕されました。

県内… (12月) 本年12月1日現在で、岡山県人口は190万人を割り込みました(189万9千人)。2005年時の195万人超をピークに減少に転じています。

(12月) 第69回全国高等学校男子駅伝大会で岡山県代表の倉敷高が2年ぶり2回目の優勝を飾りました。

2019年1月～3月

海外… (3月) イギリスのメイ首相はこの3月29日を期限としてEUと離脱交渉をしていましたが、

「協定案」可決を条件としてとまらずまたイギリス議会側も「協定案」を3回否決し先行きへの懸念がますます大きくなっています。

(3月) ニュージーランド・クライストチャーチで銃乱射事件が発生しました。50人が死亡、50人が負傷し、ニュージーランド史上最悪の犯罪事件となりました。

(3月) 日米通算4,367安打のメジャーリーガー、マリナーズのイチロー外野手(45歳)が日本での開幕第2戦後に現役引退を表明し日米通算28年の現役生活に終止符をうちました。将来は日本人初の米国野球殿堂入りが確実視されています。

国内…(1月) 厚生労働省が15年にわたり「毎月勤労統計調査」を不適切な方法で行っていた問題が

表面化しました。それによって雇用保険などの支払不足が総額570億円にのぼることが判明しました。

(2月) 探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」への着陸に成功しました。JAXAによると、「はやぶさ2」は一旦上空2万メートルまで戻り、岩石の採取などを目的に数回着陸を試み、また衝突装置により人工的クレーター形成も試みる予定です。

県内…(2月) 京都大学附属岡山天文台(浅口市鴨方町)の口径3.8メートル光学赤外線反射望遠鏡「せいめい」の完成記念式典が現地で行われました。今後突発的な天体爆発現象の解明や太陽系外惑星の観測などで成果が期待されています。

福利厚生

- ①永年勤続表彰の実施
毎年5月12日の「病院の日・看護の日」に合わせ、永年勤続表彰を実施しています。2018年度は20年表彰6名、10年表彰7名、5年表彰17名の職員を表彰しました。
- ②予防接種
職員の健康管理を考え、希望者全員にインフルエンザの予防接種を無料で行いました。感染リスクの高い職員を中心にB型肝炎ワクチン定期接種も無料で行いました。また職員の18歳以下の子女に対して予防接種（インフルエンザ・水痘・ムンプス）の半額を免除しました。
- ③医療費減免
職員及び職員家族（一親等まで）に対して笠岡第一病院にて受診した際の医療費を減免補助しています。（職員一人当たり50,000円／年を限度）
- ④家族手当の支給
15歳以下の子女を扶養する常勤職員に対し子供各人6,000円／月を支給しました。（2018年度家族手当支給職員56名）
- ⑤子育て支援手当の支給
5歳以下の子女を持つ女性職員に保育料（認可保育園に限る）の半額を支給しました。（常勤職員20,000円／月、パートタイマー職員10,000円を限度、2018年度子育て支援手当支給職員28名）
- ⑥育児休業制度
原則として子女が1歳に達するまでを限度として、育児休業制度を設けています。2018年度対象者は17名で取得率は100%です。
- ⑦病児保育の実施
当院の病児保育を利用し勤務する職員に対して保育利用率一人1,000円／回（一般2,000円／回）を補助しました。2018年度職員病児保育延べ利用者数309名。
- ⑧職員食
2017年6月より職員向け昼食として職員食を開始しています。職員食実費分に加えて毎回サラダ、汁物など一品を提供しています。
- ⑨テニスコートの利用
2018年11月より清和会、かぶと会職員用としていつでも利用できる人工芝テニスコートを整備しました。旧瀬戸内荘屋上より望む素晴らしい景色とともに、爽快なテニスで健康増進が図れます。
- ⑩優待施設の案内
全国に点在するダイワロイヤルホテルメンバーズチケットを希望者に交付しました。

病院概要

2019年3月31日現在

名 称	医療法人社団清和会 <small>カサオカダイイチビョウイン</small> 笠岡第一病院 Kasaoka Daiichi Hospital
所 在 地	〒714-0043 岡山県笠岡市横島1945番地 1945 Yokoshima, Kasaoka, Okayama, 714-0043, Japan
電 話 番 号	0865-67-0211 (代表)
F A X 番 号	0865-67-3131
理 事 長	<small>ミヤシマ</small> 宮島 <small>コウスケ</small> 厚介
院 長	<small>ハシヅメ</small> 橋詰 <small>ヒロユキ</small> 博行
事 務 局 長	<small>ノト</small> 能登 <small>タケオ</small> 壮夫
看 護 部 長	<small>モリオカ</small> 森岡 <small>カオル</small> 薫
開 設	1952 (昭和27) 年 9 月
病 床 数	148床 (一般病床 94床, 地域包括ケア病床 54床) 一般病棟入院基本料 10対1
診 療 科	内科, 呼吸器内科, 循環器内科, 消化器内科, 肝臓内科, 腎臓内科, 神経内科, 糖尿病・内分泌内科, 血液内科, 人工透析内科, ペインクリニック内科, リウマチ科, 皮膚科, 小児科, 外科, 血管外科, 心臓血管外科, 消化器外科, 乳腺・内分泌外科, 泌尿器科, 脳神経外科, 整形外科, 形成外科, 眼科, リハビリテーション科, 放射線科, 麻酔科, 歯科
関 連 施 設	笠岡第一病院健康管理センター タカヤ クリニック 介護老人保健施設 瀬戸いこい苑 訪問看護ステーション 瀬戸いこい苑 笠岡第一病院いこい指定居宅介護支援事業所

施設基準・施設認定

2019年3月31日現在の施設基準届出状況

＜笠岡第一病院＞

基本診療料	機能強化加算	
	歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	
	歯科外来診療環境体制加算1	
	一般病棟入院基本料5	
	診療録管理体制加算1	
	医師事務作業補助体制加算2(20:1)	
	急性期看護補助体制加算(25:1)	
	重症者等療養環境特別加算	
	医療安全対策加算1	
	感染防止対策加算2	
	患者サポート体制充実加算	
	総合評価加算	
	後発医薬品使用体制加算3	
	病棟薬剤実務実施加算1	
	データ提出加算2	
	入退院支援加算2	
	認知症ケア加算2	
	精神疾患診療体制加算	
	地域包括ケア病棟入院料1	
	特掲診療料	糖尿病合併症管理料
		がん性疼痛緩和指導管理料
		院内トリアージ実施料
		救急搬送看護体制加算
ニコチン依存症管理料		
がん治療連携指導料		
排尿自立指導料		
薬剤管理指導料		
地域連携診療計画加算		
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料		
医療機器安全管理料1		
総合医療管理加算		
別添1の「14の2」の1の(2)に規定する在宅療養支援病院		
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料		
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料		
検体検査管理加算(Ⅱ)		
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト		
ヘッドアップティルト試験		
小児食物アレルギー負荷検査		
有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査		
画像診断管理加算2		
CT撮影及びMRI撮影		
冠動脈CT撮影加算		
心臓MRI撮影加算		
外来化学療法加算2		
無菌製剤処理料		
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)		
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)		
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)		

特掲診療料	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
	歯科口腔リハビリテーション料2
	透析液水質確保加算
	慢性維持透析濾過加算
	人工腎臓1
	導入器加算1
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
	CAD/CAM冠
	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術, 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
	膀胱水圧拡張術
	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術, 腹腔鏡下胃瘻増設術を含む。)(手術の医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
	輸血管理料Ⅱ
	輸血適正使用加算
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
	歯周組織再生誘導手術
	麻酔管理料1
	クラウン・ブリッジ維持管理料

＜タカヤクリニック＞

特掲診療料	CT撮影及びMRI撮影
	透析液水質確保加算
	慢性維持透析濾過加算
	人工腎臓1
	導入器加算1

施設認定状況(2019年3月31日現在)

	日本医療機能評価機構認定病院	
	臨床研修病院指定施設	
	日本整形外科学会専門医研修施設	
	日本手外科学会専門医研修施設	
	日本リハビリテーション医学会研修施設	
	日本リウマチ学会教育施設	
	日本泌尿器科学会専門医教育施設	
	日本臨床薬理学会専門医研修施設	
	日本ペインクリニック学会指定研修施設	
	マンモグラフィ検診画像認定施設	
	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設	
	病児保育関係	病児・病後児保育事業実施病院
		特別保育事業実施病院
健康診断関係	特定健康審査機関・特定保健指導機関	
	有限責任法人健康評価施設査定機構認定施設	
	有限責任中間法人 日本人間ドック学会指定優良二日ドック施設	
	全国健康保険協会管掌 生活習慣病予防健診実施施設	

編集後記

2018年度は、新たに血管外科、放射線科の常勤医師が着任し、各部門、活気づいた1年となりました。病院機能評価の更新も無事終わりましたが、通常業務の振り返りとなる良い機会となったと思います。年度報も14年目となりました。常日頃の業務報告に加えて、新たな取り組みをご報告できるよう、職員一同、引き続き励んでいきたいと思ひます。

年度報編集委員 渡邊 昌江

<2018年度 年度報編集委員会 メンバー>

(医局) 橋詰博行・森田善仁, (人工透析センター) 亀鷹孝行, (栄養管理科) 矢吹有梨, (臨床検査科) 三宅祐江, (リハビリテーションセンター) 池田裕貴, (看護部) 高橋幸子, 妹尾幸恵, (医事課) 廣江美香, (法人事務局) 畑中真一, (健康管理センター) 山本さゆり, (瀬戸いこい苑) 守時貴子, (診療情報管理室) 渡邊昌江



医療法人社団 清和会
笠岡第一病院 年度報

笠岡第一病院

健康管理センター タカヤ クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑

2018年度

2019年5月25日発行

編集 医療法人社団 清和会
笠岡第一病院

笠岡市横島1945
TEL 0865-67-0211
URL <http://www.kasaoka-d-hp.or.jp>

